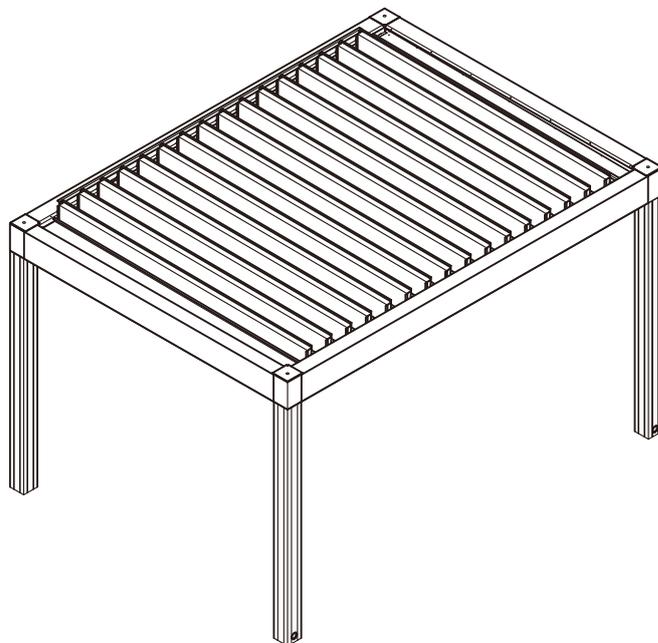




GARDEN ANNEX Model B

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。



■施工動画

本書内の各ページ右上にQRコードが記載されている場合は、動画で施工方法を視聴できます。QRコードはスマートフォンやタブレットなどで読み込みが可能です。

施工動画へ▶



■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

安全に関する記号と説明

-  **警告** ・取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。
-  **注意** ・取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれのある内容を示します。

情報に関する記号と説明

-  **お願い** ・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
-  **補足** ・説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

ネジ等の締結部品の記号

ネジやナット等の締結部品を記号で示しています。(例：1a、1b、2c等)
締結部品の種類は「 **梱包明細表** 」を参照してください。

□ 施工の前に

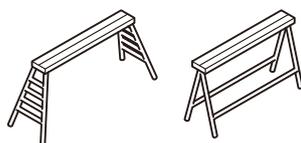
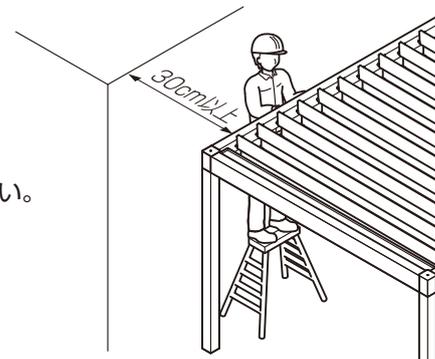
⚠ 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
 - 給湯器や暖房機などの熱排気が製品内にももるような場所には施工しないでください。排気による中毒や塗装劣化・剥離(はくり)のおそれがあります。
 - 傾斜地に設置する場合は、低い場所の埋込み深さを確保してください。
 - 設置場所の確認をしてください。
- ※施工場所の気象条件(風、雪など)に合った製品かどうか確認してください。
※建物の屋根からの雪の落下を直接受けない位置かどうか確認してください。
※強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上などの施工は避けてください。
 - 崖縁などの高低差がある場所には設置しないでください。
 - 本製品の部材、部品はGARDEN ANNEX専用品です。他の商品には使用できません。



💡 お願い

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 製品の施工は2人以上での施工を推奨しています。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- ルーフルーバーの施工時は、本体外側から作業を行うことになります。
- 壁などの障害物と本体の間は、作業をするために約30cm以上のスペースを空けてください。
- キャンパス生地は汚れ・キズ・シワが付きやすいので特に取扱いに気を付けてください。
- 施工現場での加工や部品の取付けを行う際に作業台(うま)があると便利です。



- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

🔧 補足

- 準備品に関しては、**4 現場手配品と特殊工具** をご参照ください。

□ 基礎工事についてのご注意

⚠ 警告

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

⚠ 注意

- 基礎部の各寸法は製品の条件ごとに決めています。現場によって(軟弱な地盤等)基礎部のコンクリートの量(体積)を十分配慮してください。
- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など)は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

💡 お願い

- モルタルやコンクリート等が、製品に付着しないように注意してください。シミやムラなどの外観不良の原因になります。

施工上のご注意

注意

- ボルト、ネジは当社指定品を指定本数使用し、下記締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
 - <推奨トルク> φ4ネジ : 2.5N・m±0.5N・m(25±5kgf・cm)
 - φ5ネジ : 3.0N・m±0.5N・m(30±5kgf・cm)
 - M6ボルト : 5.2N・m±0.5N・m(52±5kgf・cm)
 - M8ボルト : 12.5N・m±0.5N・m(125±5kgf・cm)
 - M10ボルト : 24.5N・m±0.5N・m(245±5kgf・cm)
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造や、指定箇所以外の穴加工はしないでください。
- 水濡れのおそれがありますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- シリコンシーリング材を使用する場合は、当社指定の脱アルコール系シーリング材およびプライマーを使用してください。

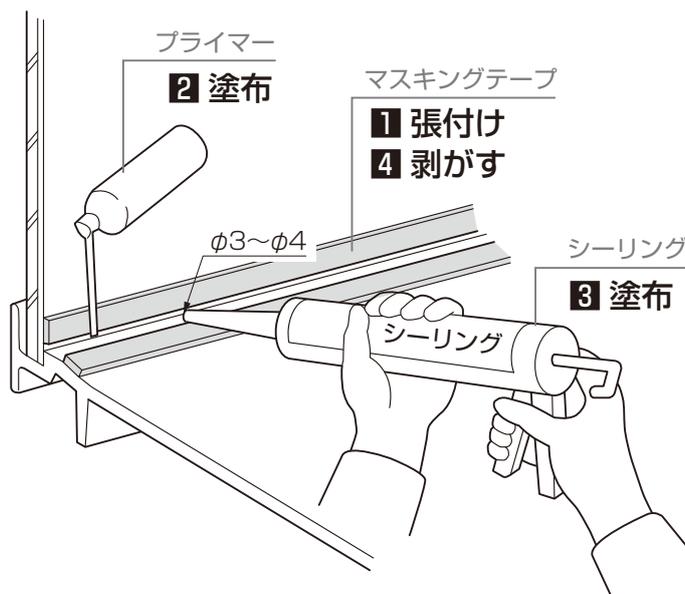
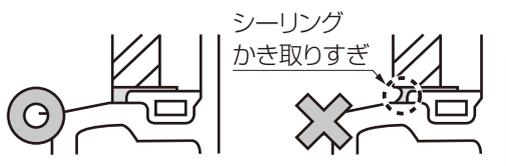
シーリング材メーカー	品名および品番	プライマー品名
信越化学工業	シーラント72	プライマーD
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ	トスシール380	トスプライムD
ダウ・東レ（株）	SE960	プライマーC、プライマーD3

▼ シーリング時の手順 ▼

- 1: ホコリなどを除去してからマスキングテープを張付け
※テープが付きにくい箇所には緑のマスキングテープを使用する
- 2: プライマーを塗布
- 3: シーリングを塗布
- 4: シーリングをヘラまたは指で押さえて仕上げ、速やかにマスキングテープを剥がす

●重要ポイント

シーリングを塗布した後、シーリングをかき取りすぎないように注意して仕上げてください。
※シーリングの塗布が不十分な場合、漏水の恐れがあります。



お願い

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全带、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
 - ・特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。
 - ・免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行ってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は付属の補修塗料で補修してください。

電気配線工事について

注意

- AC100Vおよび200V電線の埋設工事、配線工事に関しては電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 電気工事は電気設備技術基準、内線規程等関連する法令・規程にしたがって、必ず「電気工事士」が行なってください。
※無資格者の工事や、電気工事士による不適切な工事は、火災や漏電を引き起こすおそれがあるほか、関連法令により処罰されることがあります。
- 電気工事には、別途過電流保護付漏電ブレーカーおよび埋設用PF管、電源ケーブル、アース棒、防水ブラボックス、分電盤などが必要になりますので、用意してください。
- 電源ケーブルは、必ず過電流保護付漏電ブレーカーに接続してください。
- 配電盤には必ずアース(D種接地工事)をとってください。

注意

- 設置する前に使用電圧、電力を必ずご確認ください。

<ルーフルーバー>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 100W
<フレームLED>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 210W
<柱LED>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 150W
<ルーフルーバー LED>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 240W
<ロールスクリーン>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 270W
<ヒーター(サウンド&ヒーター)>	使用電圧 : AC200V 使用電力 : 2400W
<サウンド(サウンド&ヒーター)>	使用電圧 : AC100V 使用電力 : 120W

目次

1 施工前の重要確認事項	6	9 オプションの施工	77
1-1 柱の垂直、フレームの直角の確認	6	9-1 柱LED、フレームLED、ルーフルーパーLEDの取付け	77
1-2 呼称寸法「W」、「L」と勾配(左右)の向き	6	9-2 LEDの初期設定	81
1-3 柱の固定・設置制限	7	9-3 サウンド&ヒーターの取付け	86
1-4 本体の切詰め	7	9-4 サウンド&ヒーターの取付け(2台以上の連結)	94
1-5 オプションの取付け位置制限とポイント	8	9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ	97
1-6 オプションの取付け位置制限とポイント	9	9-6 ロールスクリーンの取付け	102
1-7 ガラスパネルの取付け位置制限とポイント	10	9-7 ロールスクリーンの調整	110
1-8 土間工事	12	9-8 ロールスクリーンの仕上げ	112
1-9 配線接続図	16	9-9 ガラスパネル取付けの事前準備	115
1-10 実体配線図	17	10 仕上げ	116
1-11 配管工事	18	10-1 フレームサイドカバーの取付け	116
2 各部名称	20	10-2 トップカバーの取付け	117
2-1 本体の各部名称	20	10-3 柱サイドカバーと柱キャップの取付け	120
2-2 ガラスパネルの各部名称	22	10-4 柱カバーの取付け	121
3 施工フロー	24	11 ガラスパネルの施工	122
3-1 本体の施工	24	11-1 下レールの取付け	122
3-2 オプションの施工	25	11-2 上レールの取付け	129
4 現場手配品と特殊工具	26	11-3 縦枠の取付け	132
5 基本寸法	27	11-4 戸先錠の取付け	134
5-1 単体	27	11-5 ガラスコーナークッション材の取付け	136
5-2 連棟	28	11-6 ガラスパネルの取付け	137
6 納まり図	32	11-7 ガラスパネルの仕上げ	139
6-1 基本納まり図	32	梱包明細表	144
6-2 柱脚納まり図	33		
6-3 サウンド&ヒーター納まり図	34		
6-4 ロールスクリーン納まり図	35		
6-5 ガラスパネル納まり図	36		
7 施工前の準備	39		
7-1 フレームカバーの取り外し	39		
7-2 柱の加工(水上側柱の場合)	40		
7-3 柱の加工(水下側柱の場合)	42		
7-4 連棟用フレームの加工(W連棟、Lの字連棟、田の字連棟の場合)	44		
8 本体の施工	45		
8-1 柱の位置出し	45		
8-2 柱の建込み	48		
8-3 対角の確認	52		
8-4 排水キャップ、排水誘導キャップの取付け(単体の場合)	53		
8-4 排水キャップ、排水誘導キャップの取付け(連棟の場合)	54		
8-5 フレームの取付け	55		
8-6 電気ケーブルの接続	63		
8-7 屋根の取付け	64		
8-8 ルーフルーパーの初期設定	74		

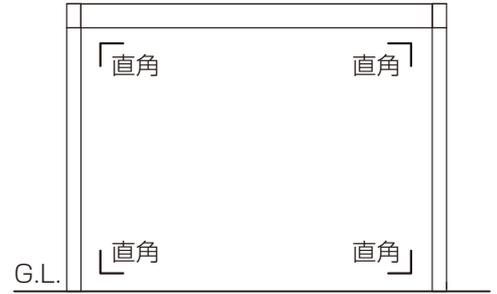
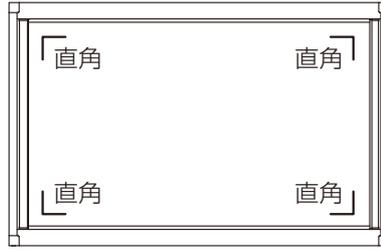
1 施工前の重要確認事項

1 施工前の重要確認事項

1-1 柱の垂直、フレームの直角の確認

お願い

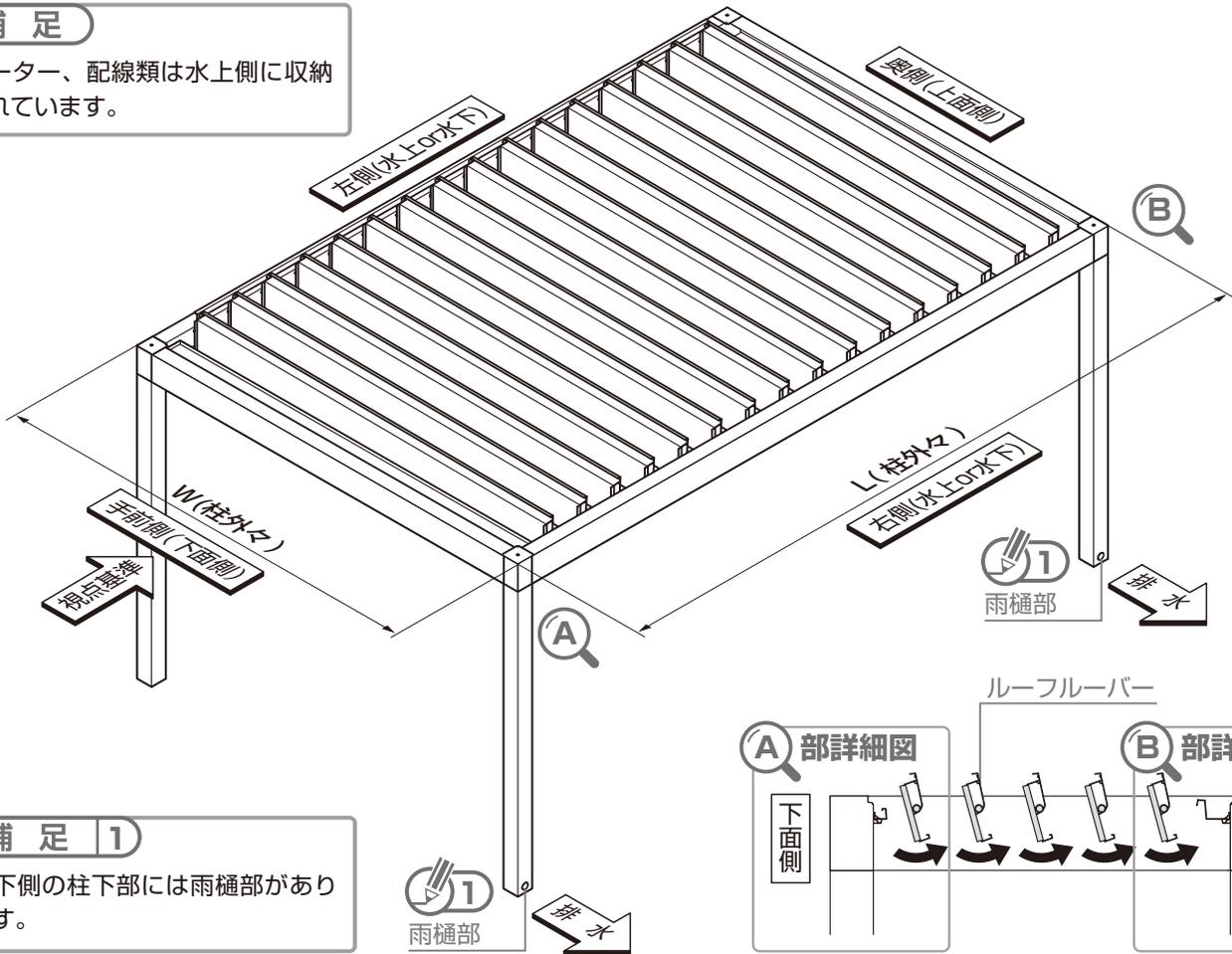
- 柱およびフレームの垂直、フレームの直角は必ず確認してください。



1-2 呼称寸法「W」、「L」と勾配(左右)の向き

補足

- モーター、配線類は水上側に収納されています。



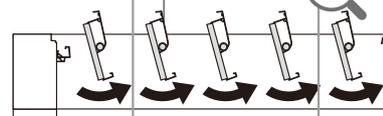
補足 ①

- 水下側の柱下部には雨樋部があります。



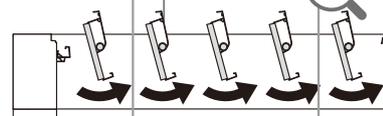
A 部詳細図

下面側



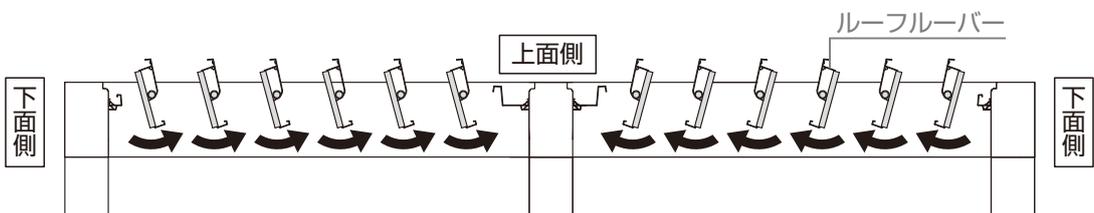
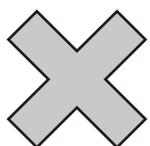
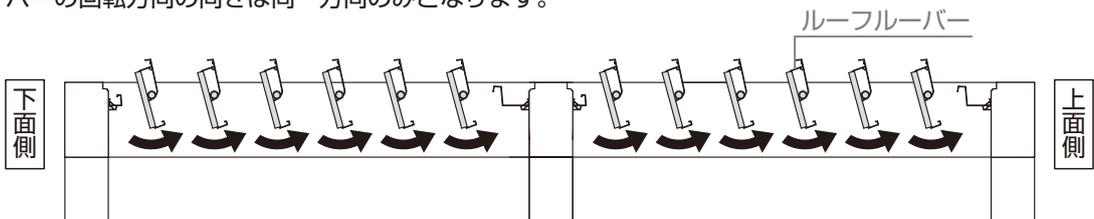
B 部詳細図

上面側



補足

- 連棟時のルーフルーバーの回転方向の向きは同一方向のみとなります。



1 施工前の重要確認事項

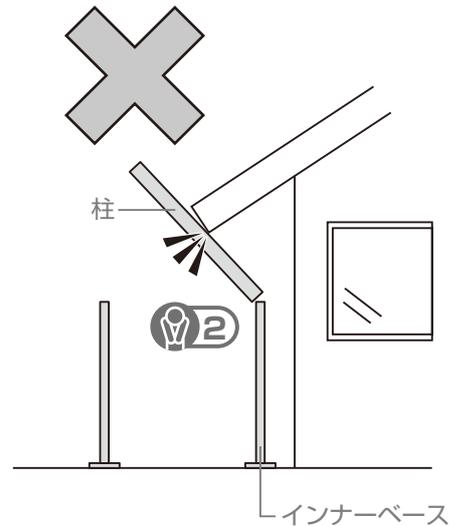
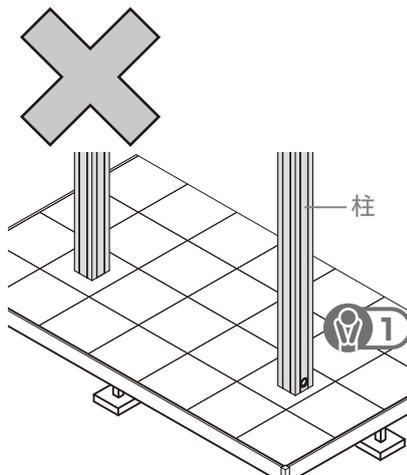
1-3 柱の固定・設置制限

お願い 1

- ベース仕様の場合、人工木、タイル等への固定はできません。土間、コンクリートへ固定してください。

お願い 2

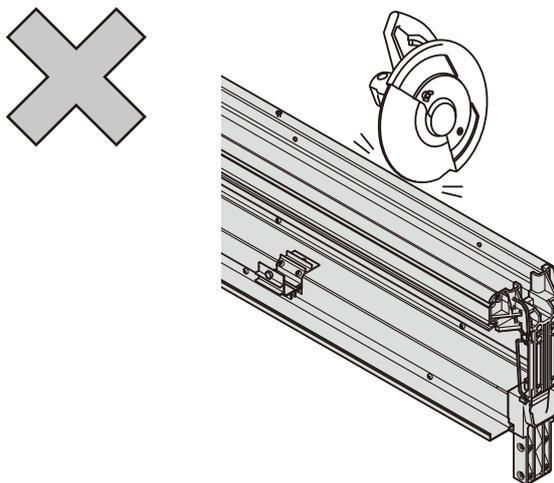
- インナーベースの場合は、ベース固定後に柱を上から挿入します。そのため、柱の上に障害物があると施工できません。



1-4 本体の切詰め

お願い

- フレームおよびオプションは切詰めをすることができません。
- 柱の建込みの際に、レベル調整で柱を切り詰めることはできます。



1 施工前の重要確認事項

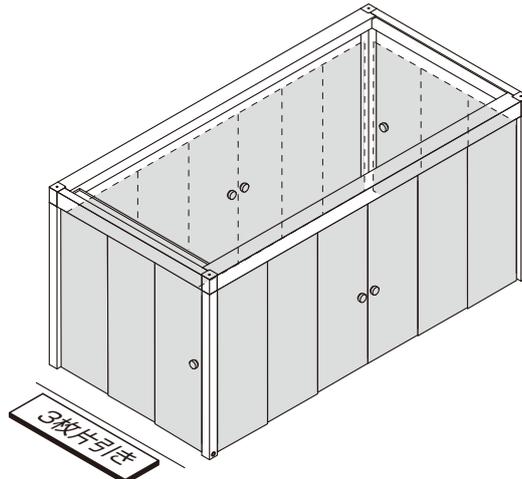
1 施工前の重要確認事項

1-5 オプションの取付け位置制限とポイント

▼ 柱LED▼

補足

- ガラスパネルを使用する場合、3枚引きの戸先側には柱LEDを取付けることができません。

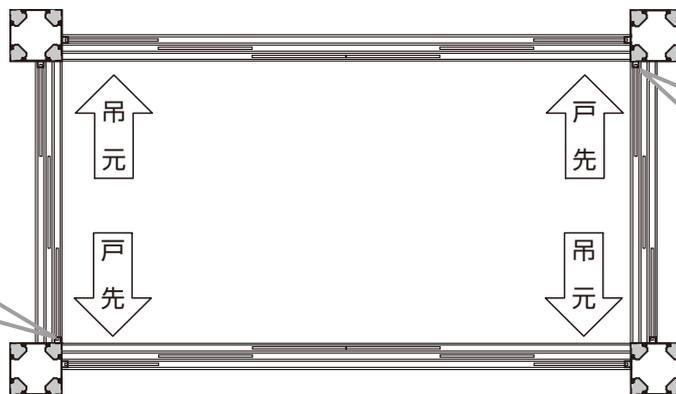
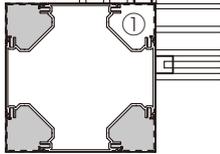


補足

- ①のコーナーには柱LEDを設置できません。

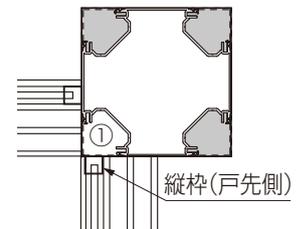
縦枠(戸先側)

レール



補足

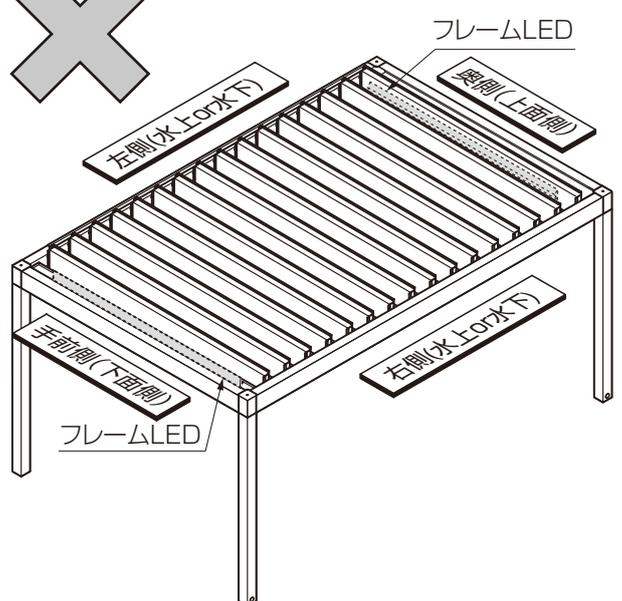
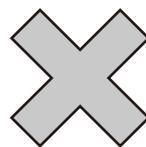
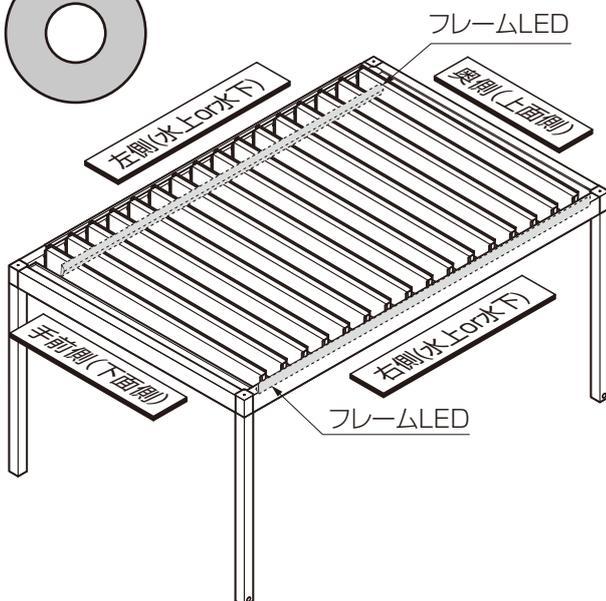
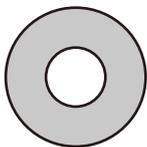
- ①のコーナーには柱LEDを設置できません。



▼ フレームLED▼

補足

- フレームLEDは水上または水下側のフレームにのみ取付けができます。
- フレームLEDはフレームに組み込まれた状態で入荷されます。後付けすることはできません。



1-6 オプションの取付け位置制限とポイント

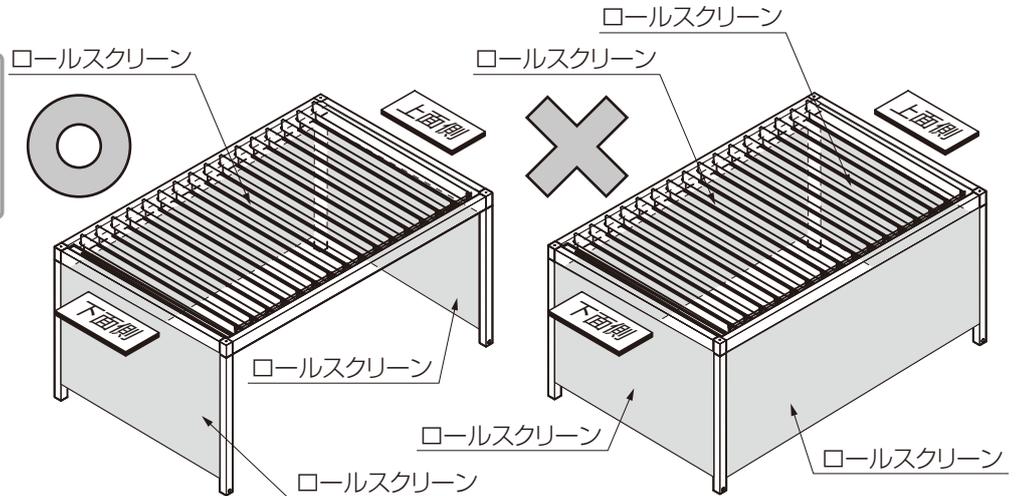
お願い

- 下面側または上面側にロールスクリーンとサウンド&ヒーターを併用する場合は、必ず先にサウンド&ヒーターを取付けて配線を完了させてください。
- サウンド&ヒーターの配線作業より先にロールスクリーンの取付けを行なうことはできません。

▼ ロールスクリーン ▼

補足

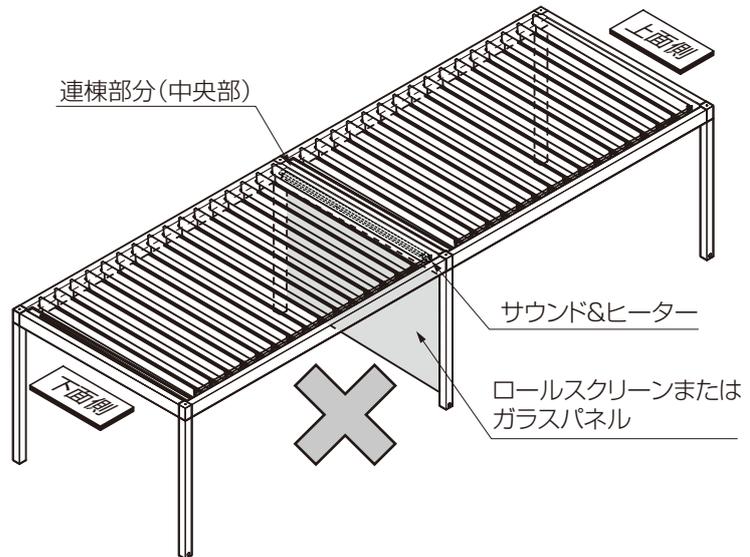
- どの面でも3面まで取付けることができます。全面(4面)には取付けることができません。



お願い

▼ 連棟の場合 ▼

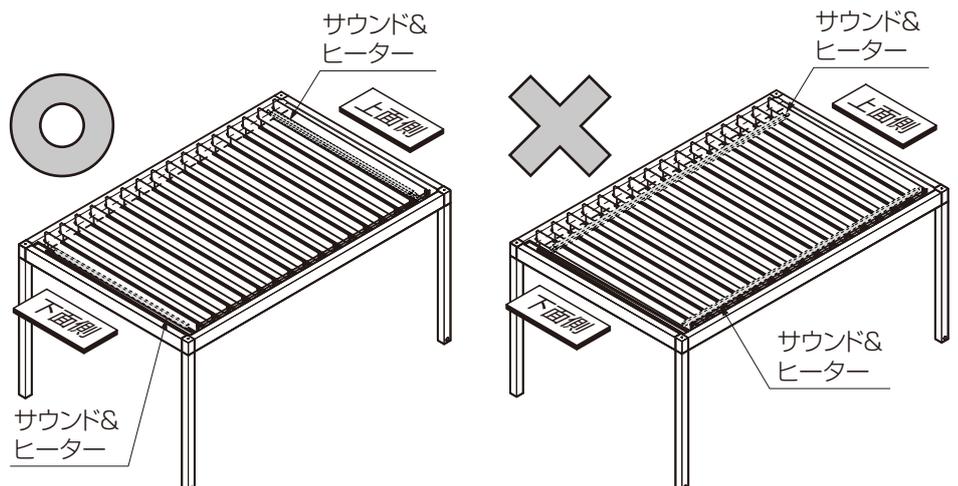
- ロールスクリーン、ガラスパネル、サウンド&ヒーターは連棟部分(中央部)に設置できません。



▼ サウンド&ヒーター ▼

補足

- フレームの上面側または下面側のみ取付けることができます。
- ヒーターを使用するには200V電源が必要です。



1 施工前の重要確認事項

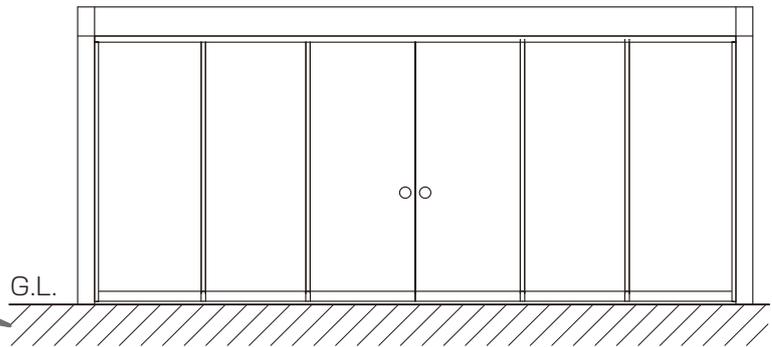
1 施工前の重要確認事項

1-7 ガラスパネルの取付け位置制限とポイント

1-7-1 | ガラスパネル設置地面の確認

注意

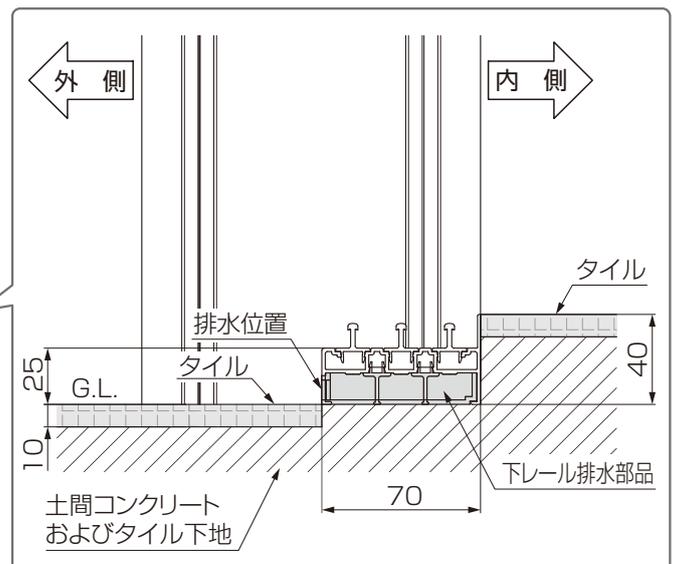
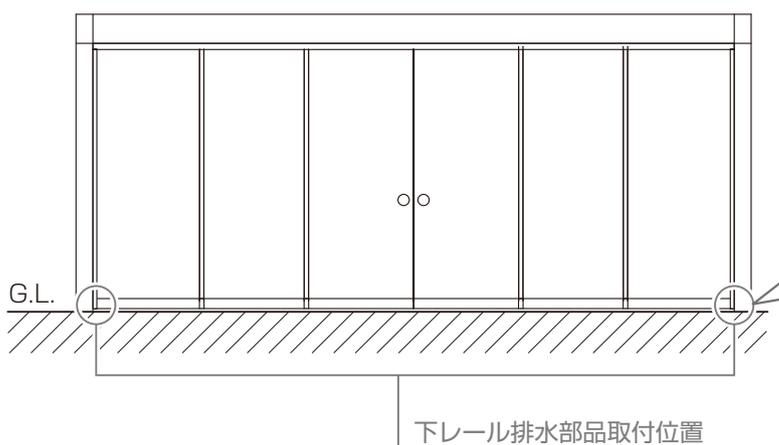
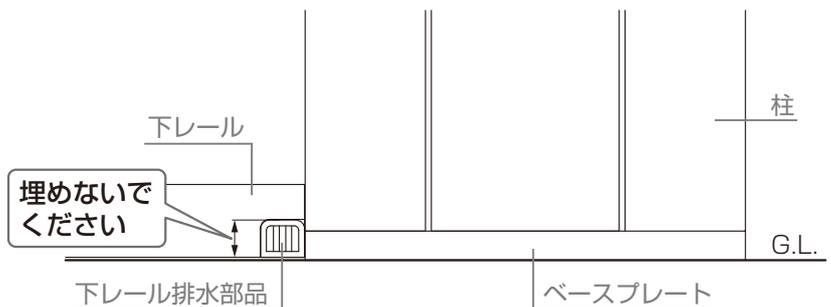
- ガラスパネルはコンクリートの地面のみ設置可能です。設置面が土などの場合、必ずコンクリート仕上げを行なった後設置してください。



1-7-2 | ガラスパネル仕上げ面の確認

お願い

- 下レールの端部に下レール排水部品が取付けられます。ガラスパネルの施工が完了後、床を土間やタイル等で仕上げる場合、下レール排水部品を埋めないように仕上げを行なってください。



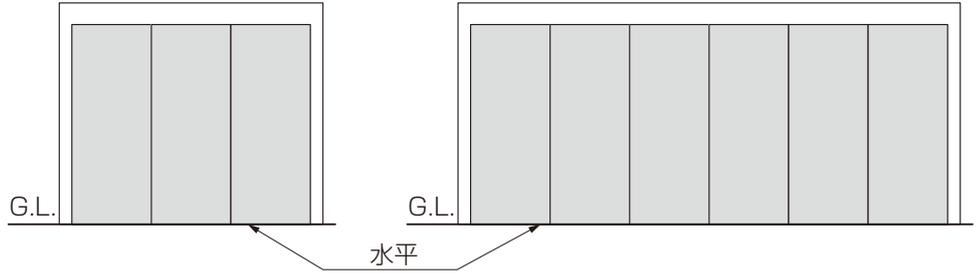
1-7 ガラスパネルの取付け位置制限とポイント

つづき

1-7-3 | ガラスパネルを複数面設置する際の確認事項

📌 お願い

- ガラスパネルを複数面設置する場合、必ずすべての設置地面のレベルを合わせ、水平になっていることを確認してください。

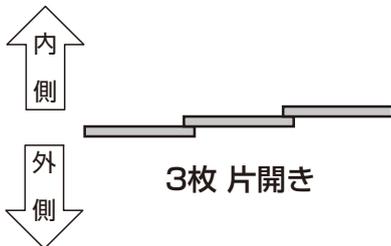
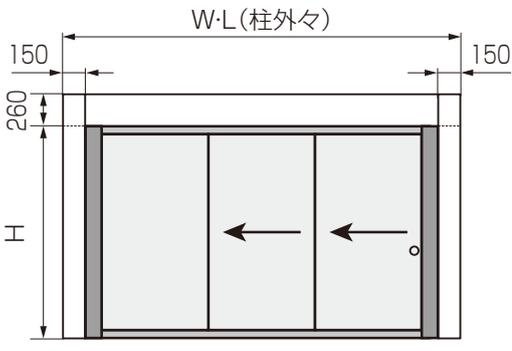


1-7-4 | サイズ制限と開き方

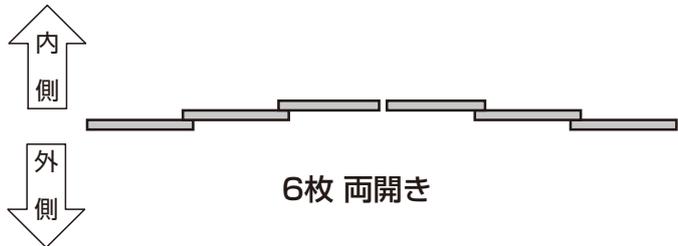
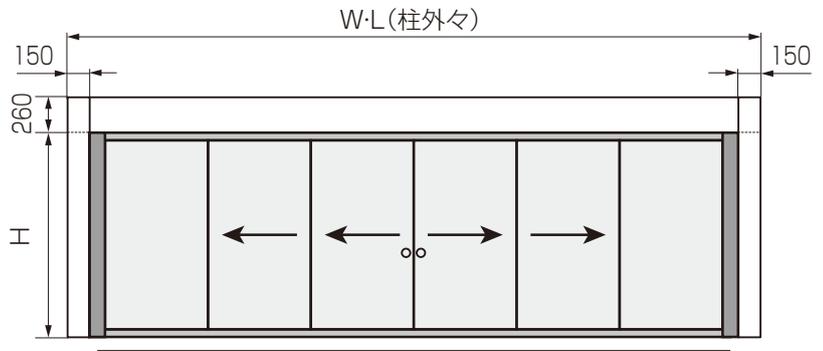
📝 補足

- ガラスパネルの高さHは、最少2000～最大2400mmになります。
- 取付け面のサイズLによって、パネルの枚数と開き方が異なります。

▼ W・L寸法が2000～3200の場合▼



▼ W・L寸法が3201～5990の場合▼



1 施工前の重要確認事項

1-8 土間工事

💡 お願い

- 土間を形成する場合、埋設するPF管の位置がズレないように推奨する土間工事のパターンがあります。パターン①、パターン②を参考にして土間工事をしてください。
- 本体およびガラスパネルの施工後に床を土間やタイルで仕上げる場合は、必ず以下の手順に従って土間工事を行なってください。

1-8-1 | 推奨パターン① (埋め込み仕様)

1: 型枠を設置

2: 捨てコンクリートを流し込み

💡 お願い

- 捨てコンクリートは50mm以上の厚みで流し込んでください。
- 捨てコンクリートの表面を仕上げてください。

3: 柱を建込み

4: ベースプレートを実アンカー(現場手配)で固定

🔧 補足

- 捨てコンクリートでレベルがズレても、柱とベース用スリーブでレベル調整ができます。

💡 お願い 1

- アンカーは現場手配してください。
- アンカーの長さは捨てコンクリートの厚みを考慮して検証してください。

5: PF管、電源線の立上げ

🔧 補足

- PF管、電源線の立上げは左側(水上)からしかできません。右側(水下)の柱には雨樋があるためPF管、電源線は通りません。

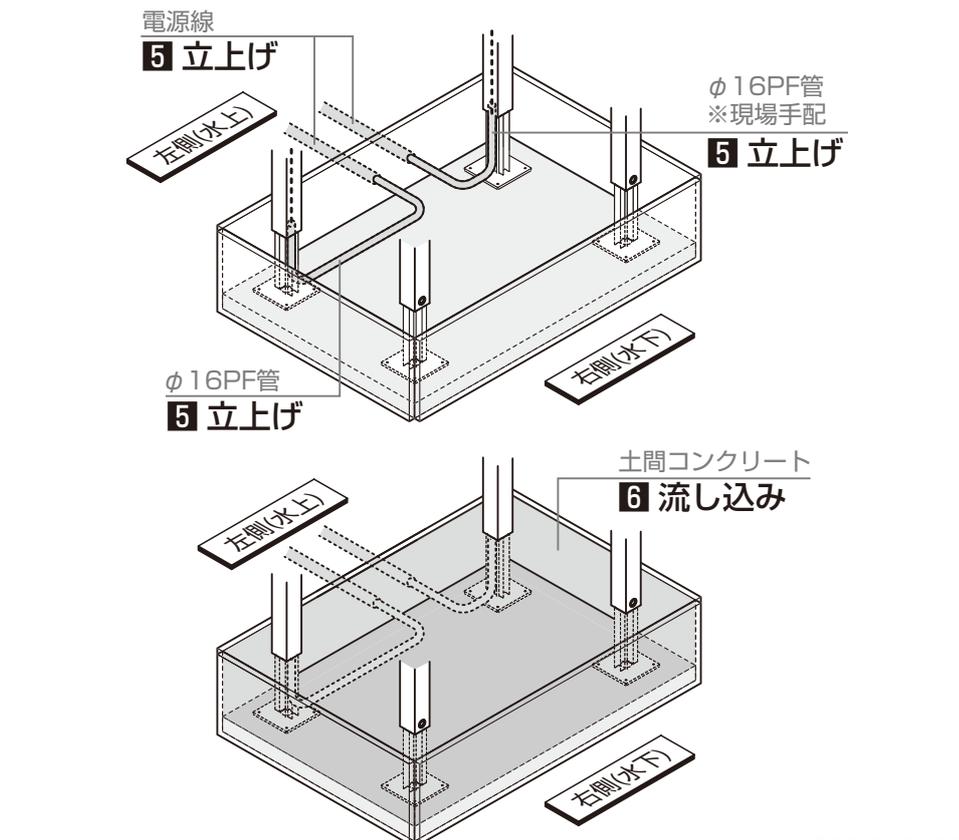
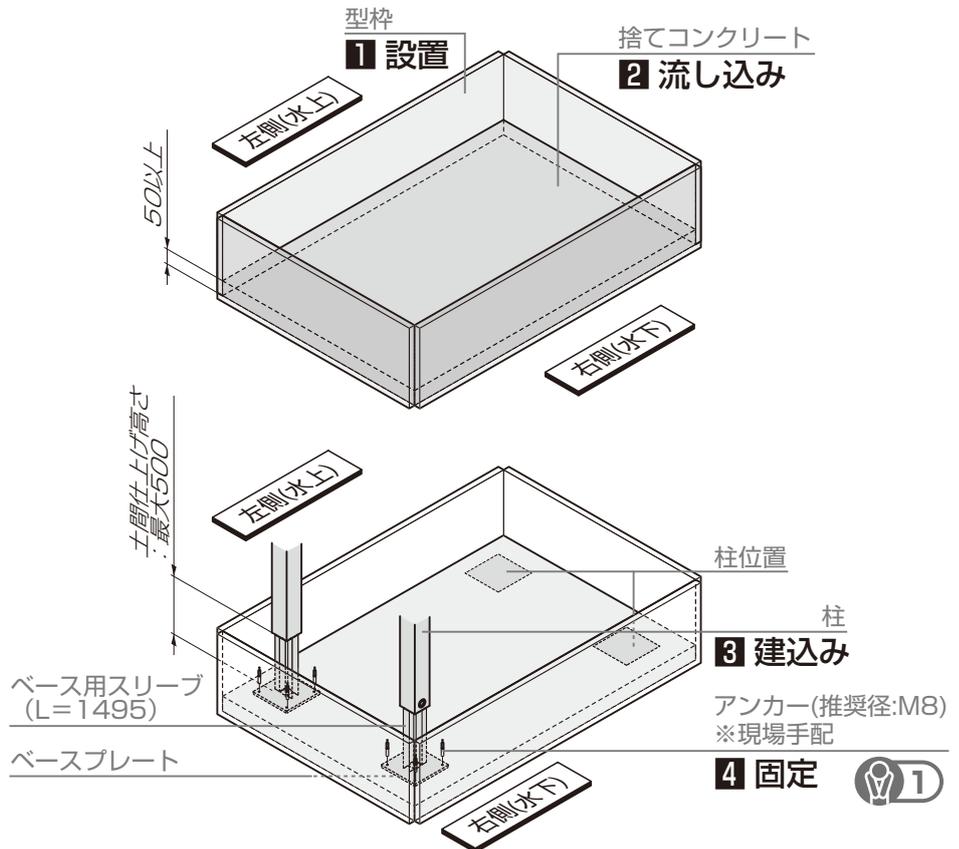
6: 土間コンクリートを流し込み

💡 お願い

- 土間コンクリートの表面を仕上げてください。

🔧 補足

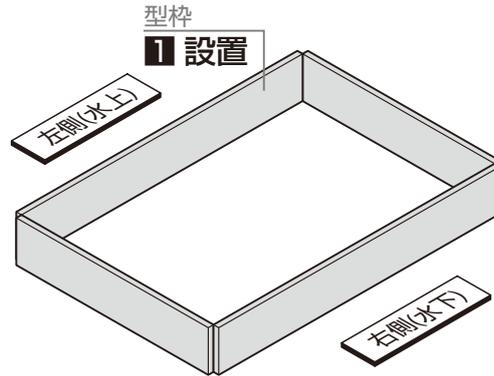
- ガラスパネルを取付ける場合、土間コンクリートの仕上げ高さや柱の高さを事前に確認してください。
- 仕上げ高さを間違えるとガラスパネルが取付けられなくなります。



1-8 土間工事

1-8-2 推奨パターン② (インナーベースプレート/ベースプレート仕様)

1: 型枠を設置



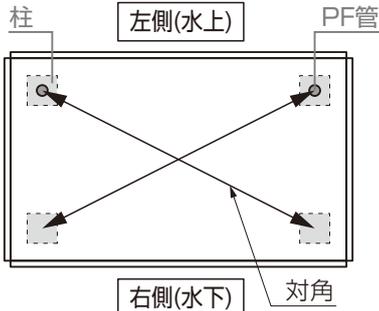
2: PF管、電源線の立上げ

補足

- PF管、電源線の立上げは左側(水上)からしかできません。右側(水下)の柱には雨樋があるためPF管、電源線は通りません。

お願い

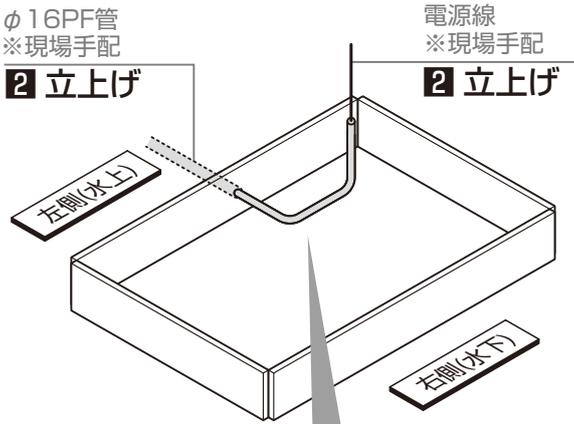
- PF管を立ち上げる位置は、必ず柱を立てる位置の中心になるようにしてください。また、対角の確認も行ってください。



3: 土間コンクリートを流し込み

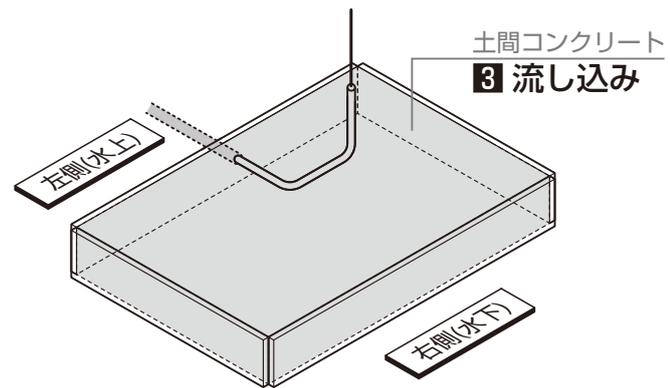
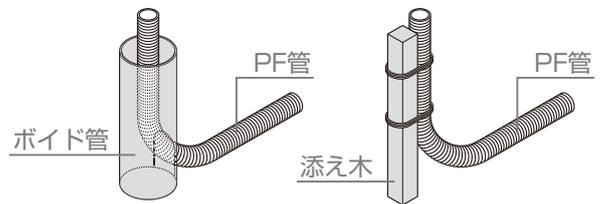
お願い

- 土間コンクリートの表面を仕上げてください。



お願い

- ボイド管や添え木を使用して、PF管が倒れたり位置がズレないようにしてください。

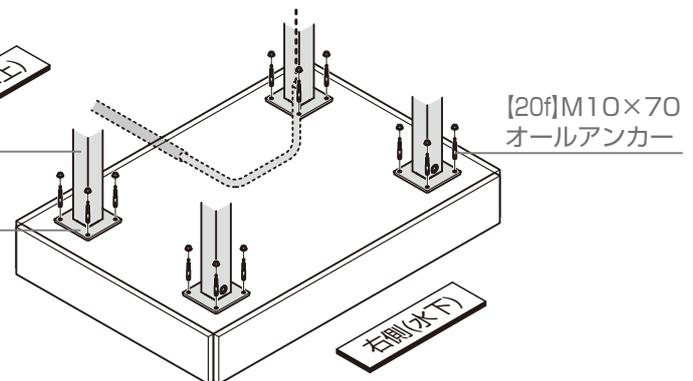


4: 柱を建込み

お願い

- 柱の中にPF管および電源線を通してください。

柱
4 建込み
ベースプレート



1-8 土間工事

1-8-3 ガラスパネルを設置後、土間・タイル仕上げを行う場合

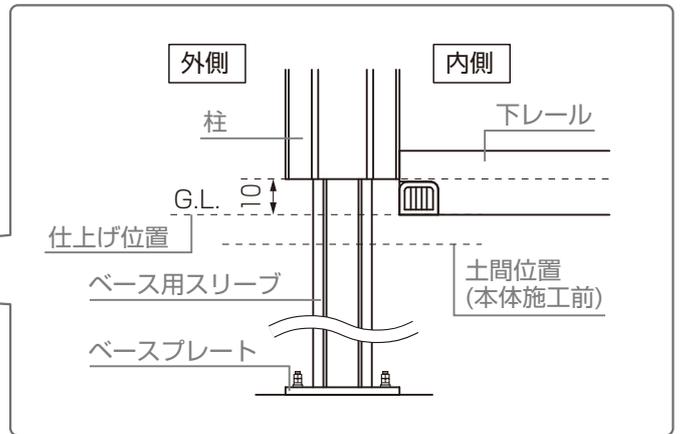
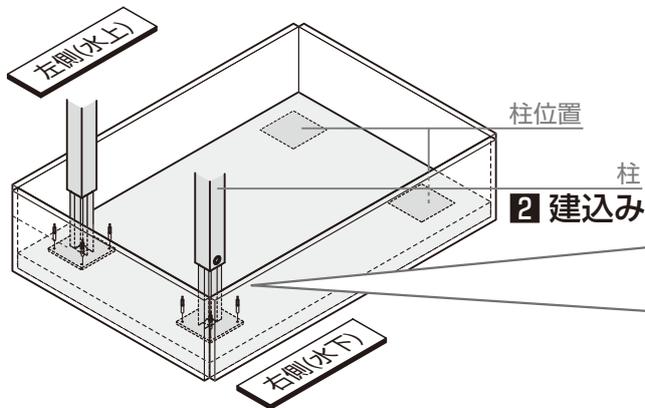
1: 推奨パターン①または②の「柱の建込み」直前まで土間工事を行う

2: 柱を建て込み

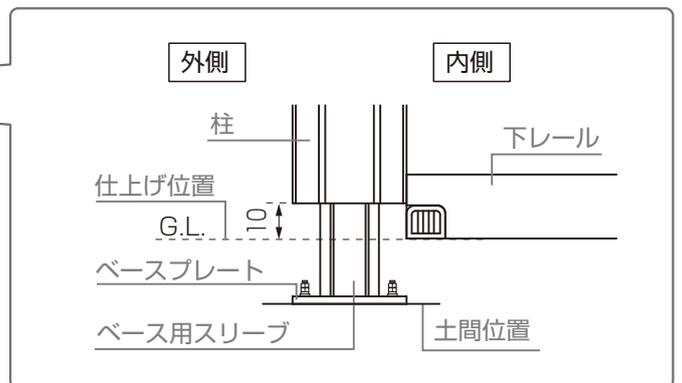
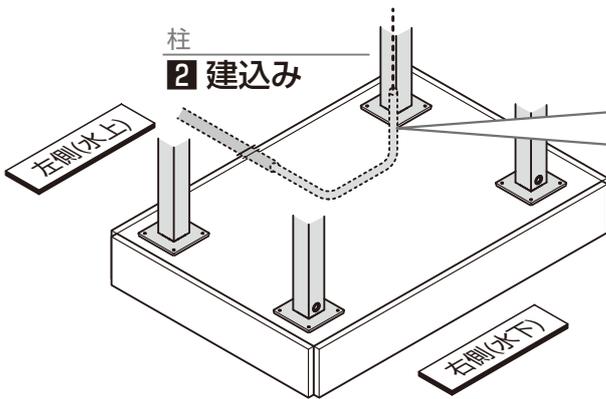
お願い

●最終的な外側の仕上げ面がG.L.となるように柱の高さを調整して固定してください。

▼ 推奨パターン①の場合 ▼



▼ 推奨パターン②の場合 ▼



3: 推奨パターン①または②の土間工事を完了させる

1-8 土間工事

つづき

1-8-3 ガラスパネルを設置後、土間・タイル仕上げを行う場合

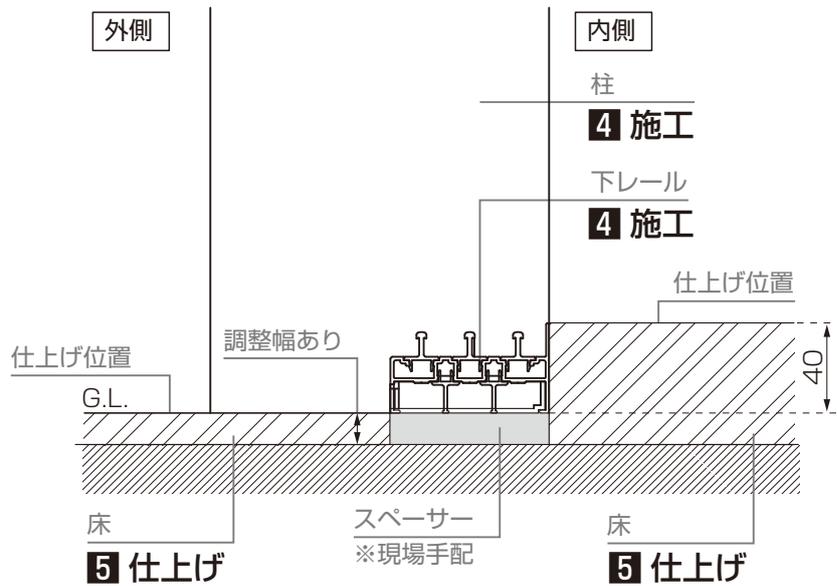
つづき

4: 本体およびガラスパネルを施工

5: 床を仕上げ

補足

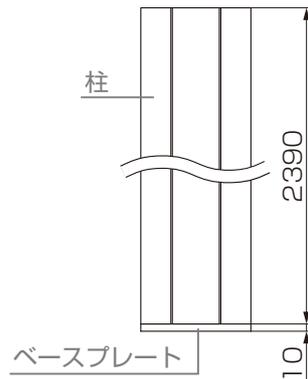
●内面立ち上げをする場合、下レール内側のフィンの位置 (G.L.~40mm) に、内側の仕上げ面をあわせてください。



お願い

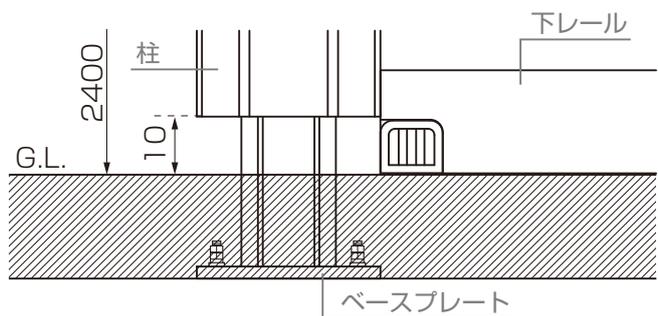
●柱のオーダー寸法はベースプレートを含む寸法です。

▼ H2400をオーダーの場合 ▼

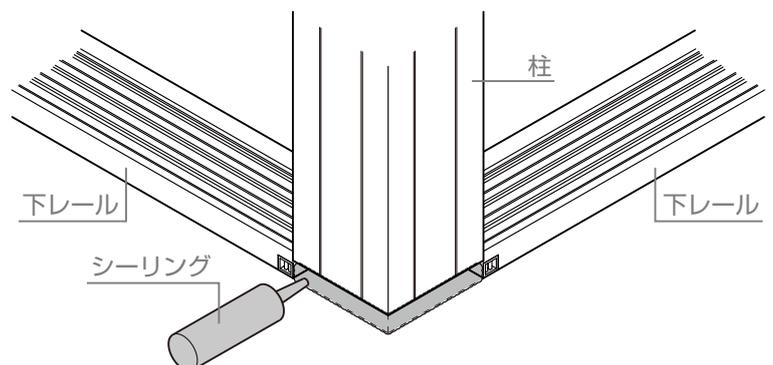


▼ ベースプレートを埋める場合 ▼

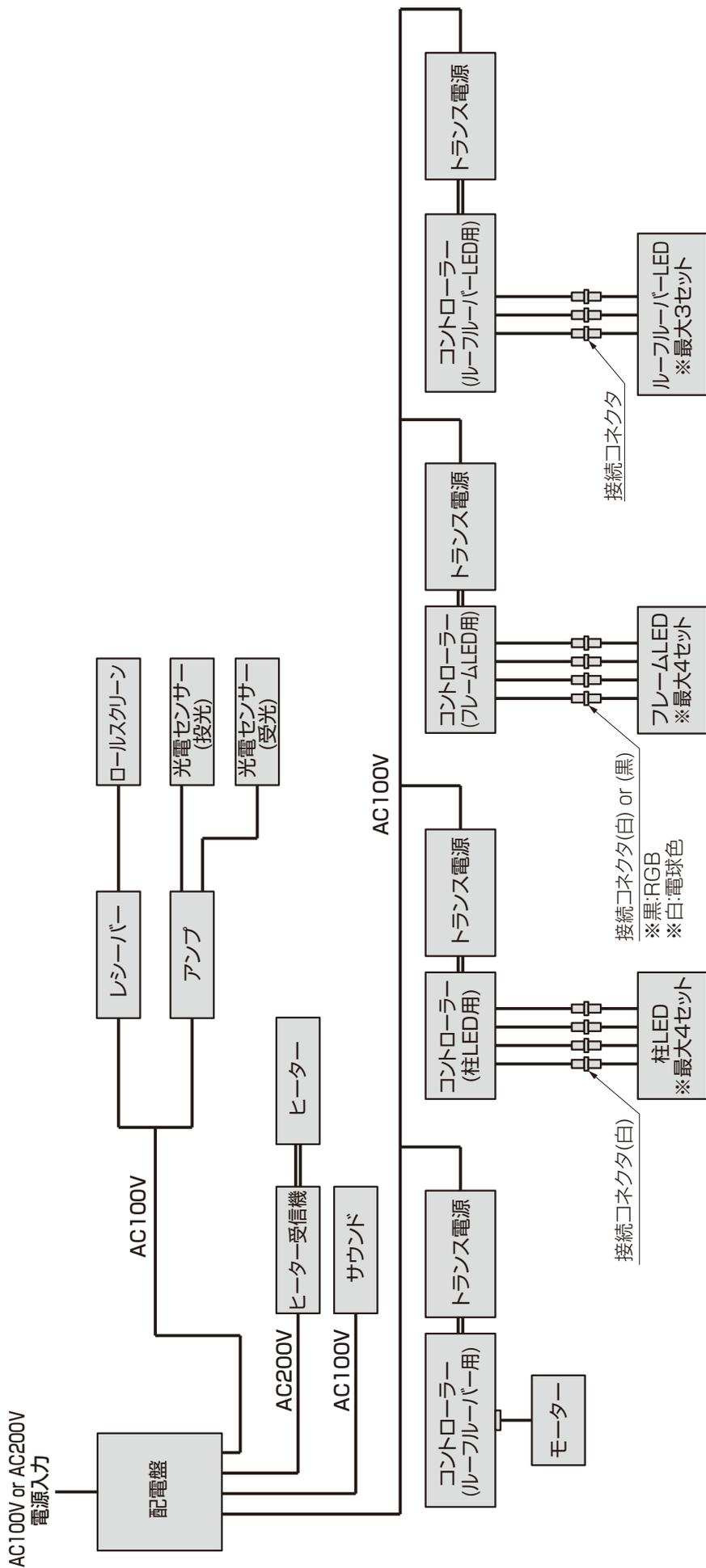
●ガラスパネルを設置する高さを確保するため、10mm柱を上げてください。



●空いたすき間はシーリング(本体同色)または土間を流し込み、埋めてください。



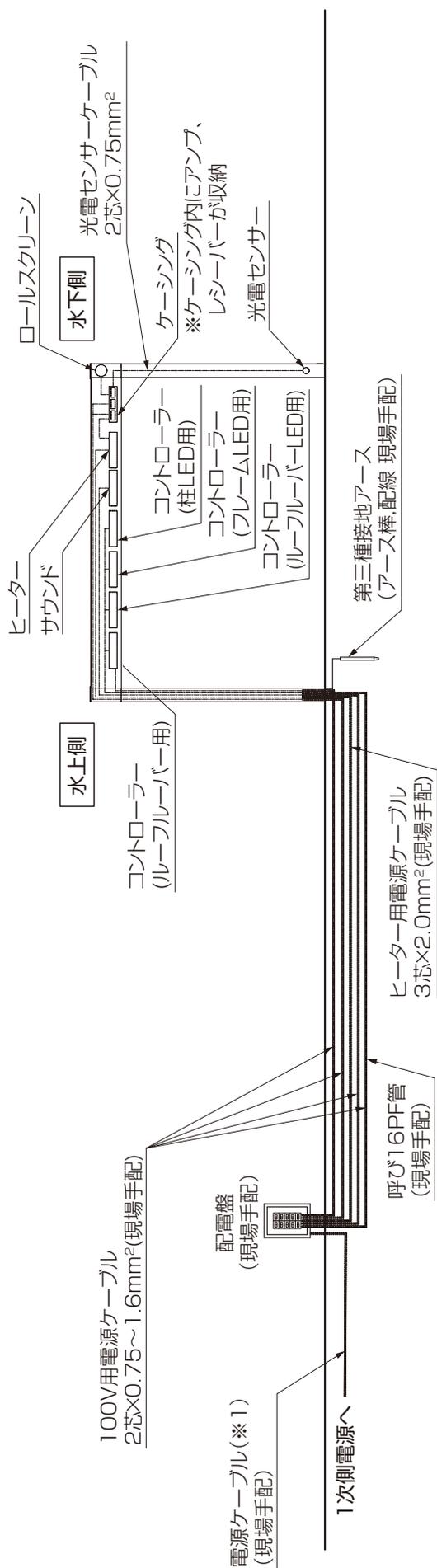
1-9 配線接続図



●電気仕様

呼称	使用電圧	仕様電力
ルーラーバー	AC100V	100W
柱LED	AC100V	150W
フレームLED	AC100V	210W
ルーラーバーLED	AC100V	240W
ロールスクリーン	AC100V	270W
サウンド	AC100V	120W
ヒーター	AC200V	2400W

1-10 実体配線図



🔍 お願

- 配線接続図、及び実体配線図は単体仕様での全オプションを取付けた場合の推奨配線を図示しています。現場状況に応じて検証してください。
- 製品への配管、配線の立上げは水上側の柱からのみ立上げ可能です。
- 1次電源ケーブルは設置する全体構成から必要許容量を検証してください。（※1）

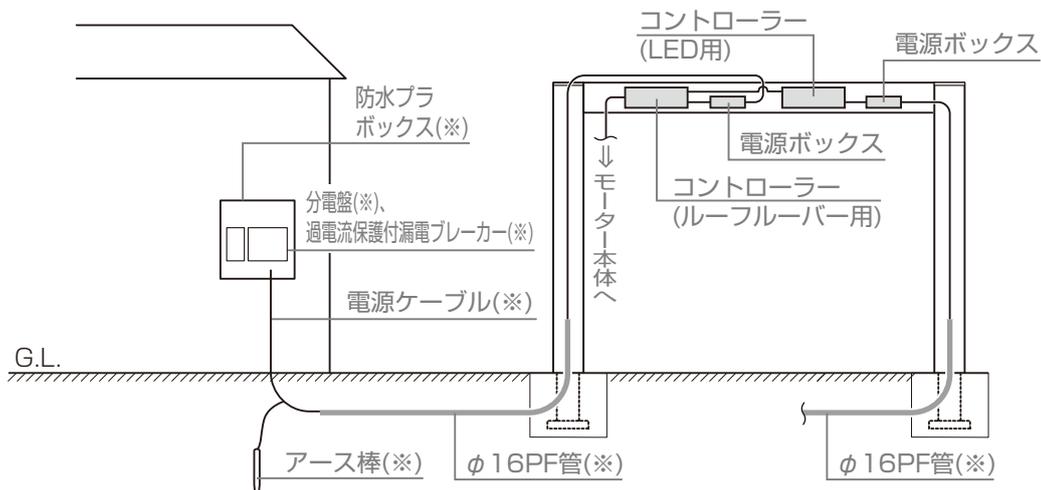
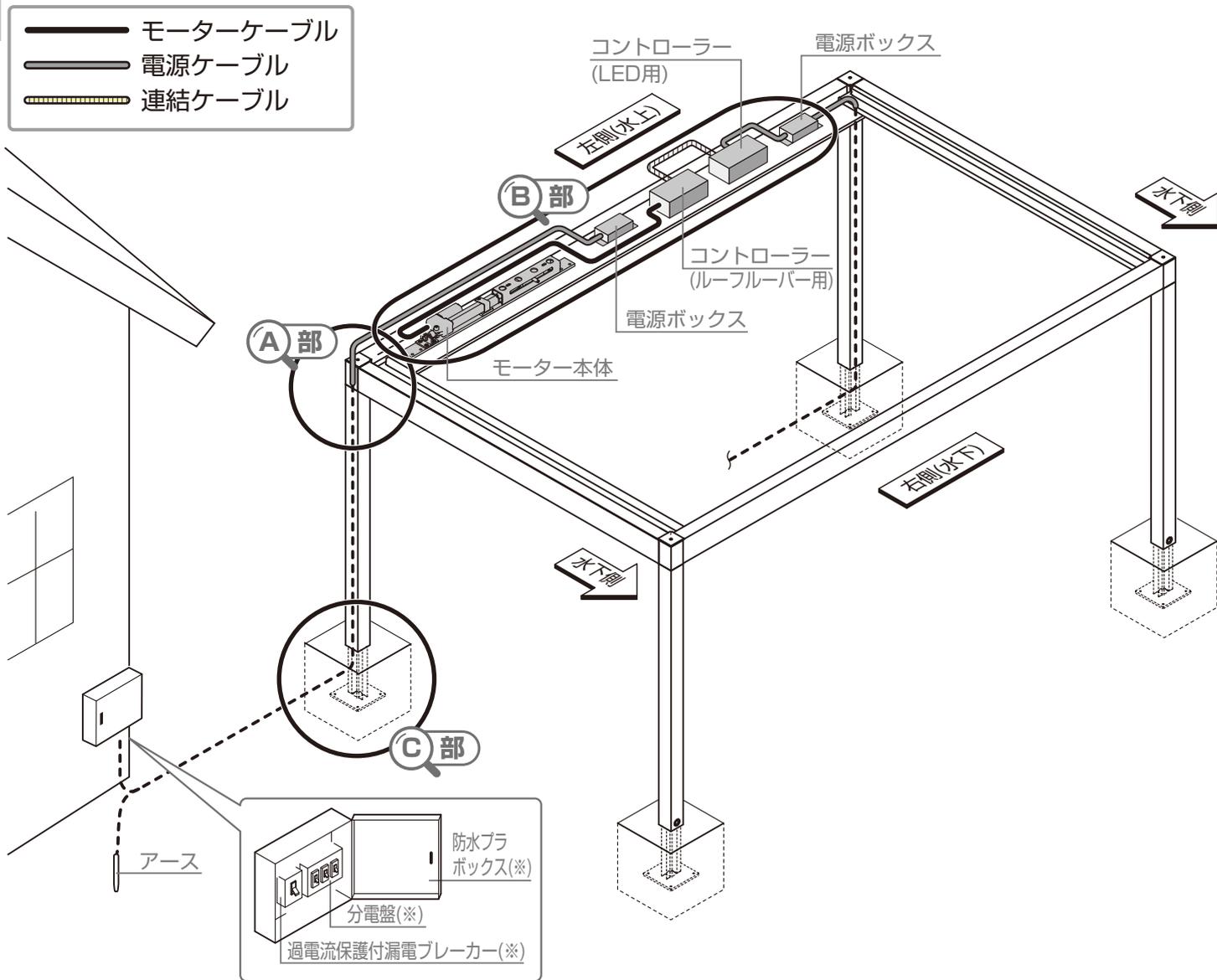
1 施工前の重要確認事項

1 施工前の重要確認事項

1-11 配管工事

🔦 お願い

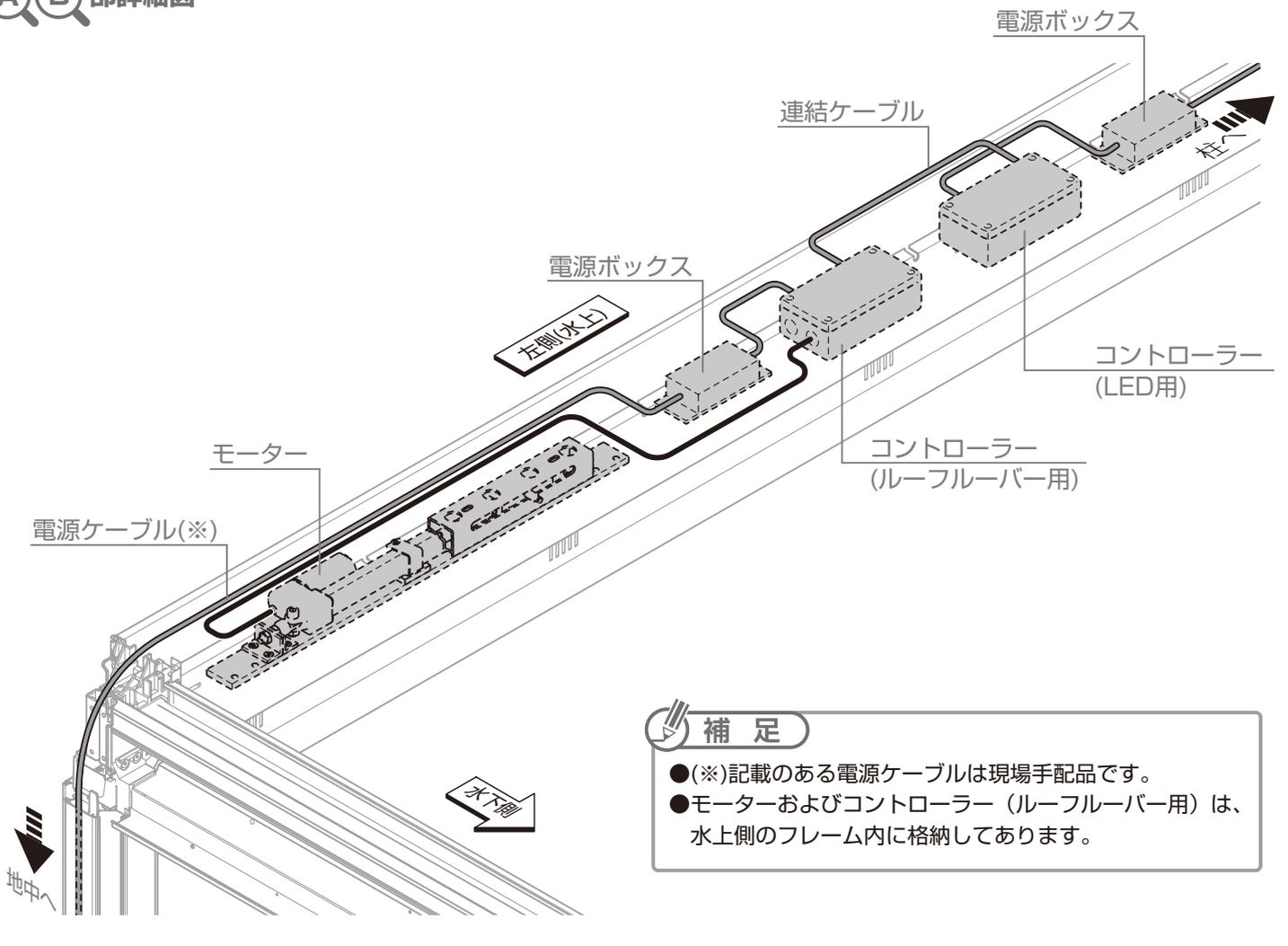
● 防水ボックス、分電盤、アース棒、電源ケーブル、過電流保護付漏電ブレーカー、φ16PF管は現場手配をしてください。



1-11 配管工事

つづき

A B 部詳細図



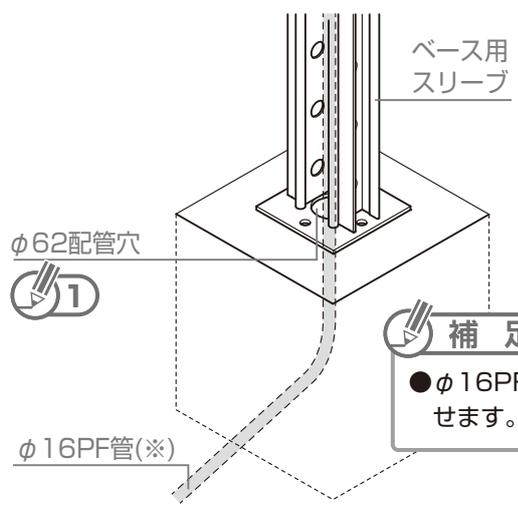
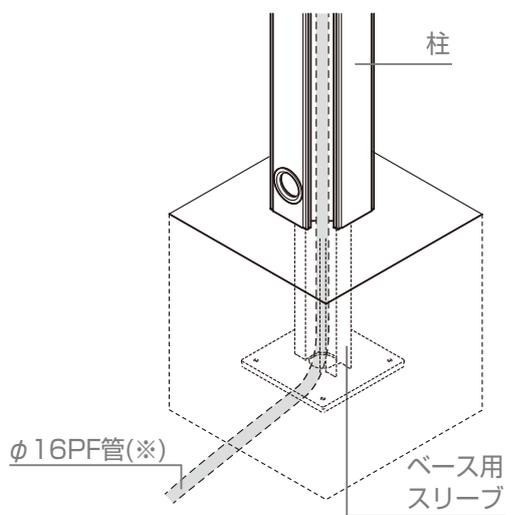
補足

- (*)記載のある電源ケーブルは現場手配品です。
- モーターおよびコントローラー (ルーフレバー用) は、水上側のフレーム内に格納してあります。

C 部詳細図

▼ 埋め込み仕様の場合▼

▼ インナーベースプレート
ベースプレート仕様の場合▼



補足

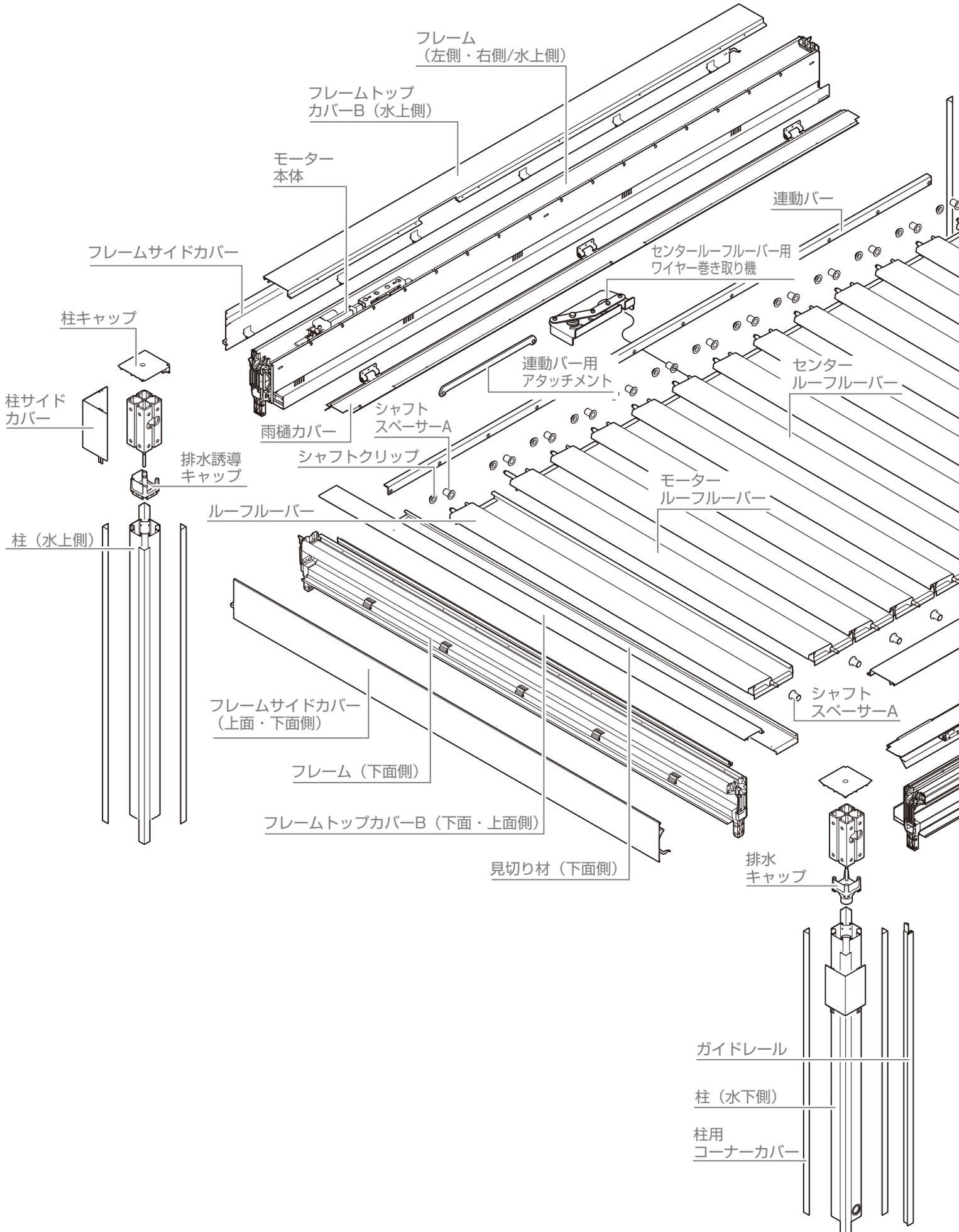
- (*)記載のあるものは現場手配品です。
- 埋め込み仕様の場合は、コの字型のベース用スリーブの溝に配管を取り回します。
- ベースプレート、インナーベースプレートの場合は、スリーブ下部のφ62配管穴から配管を取り回します。

補足 1

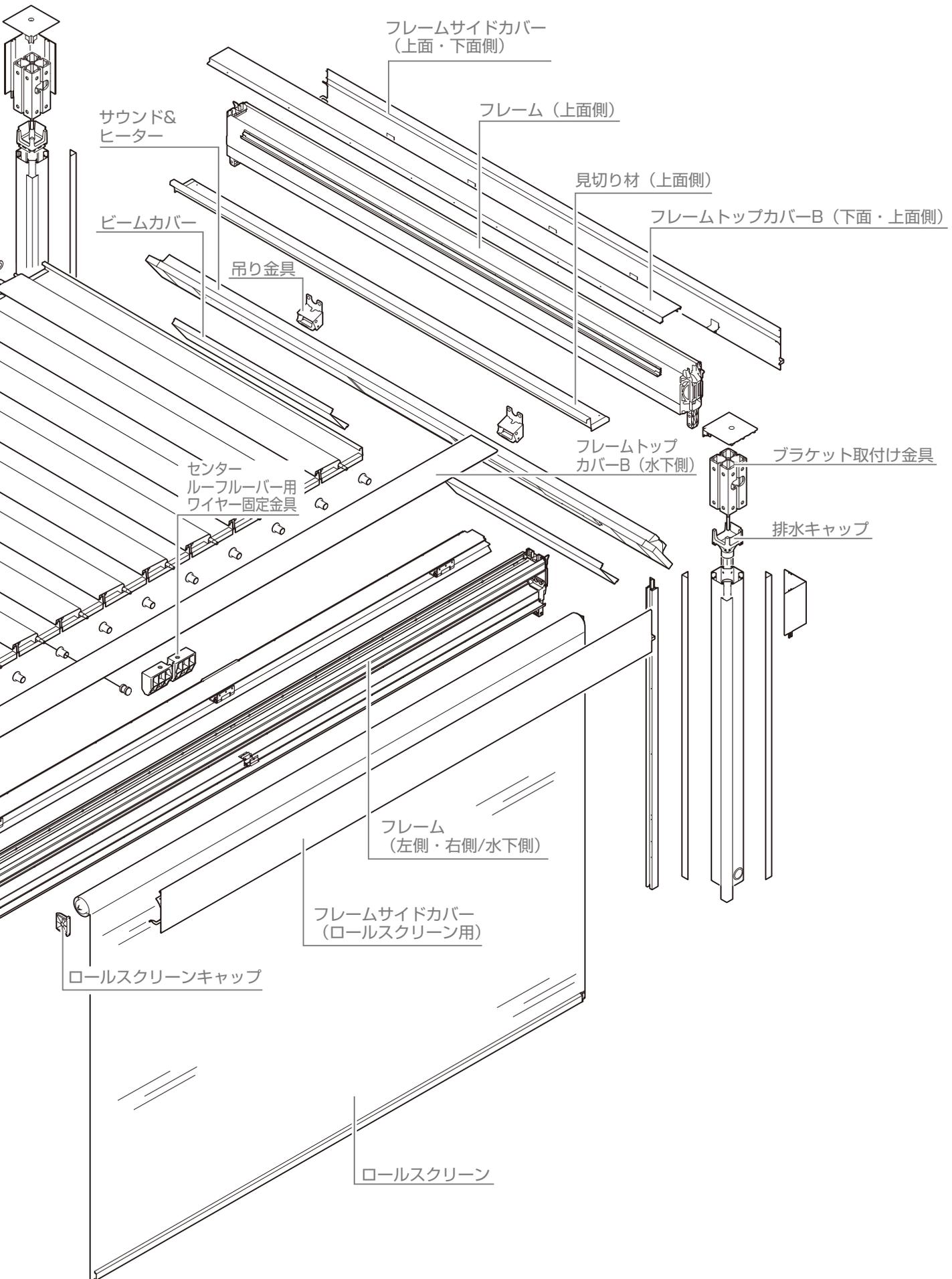
- φ16PF管を最大3本通せます。

2 各部名称

2-1 本体の各部名称



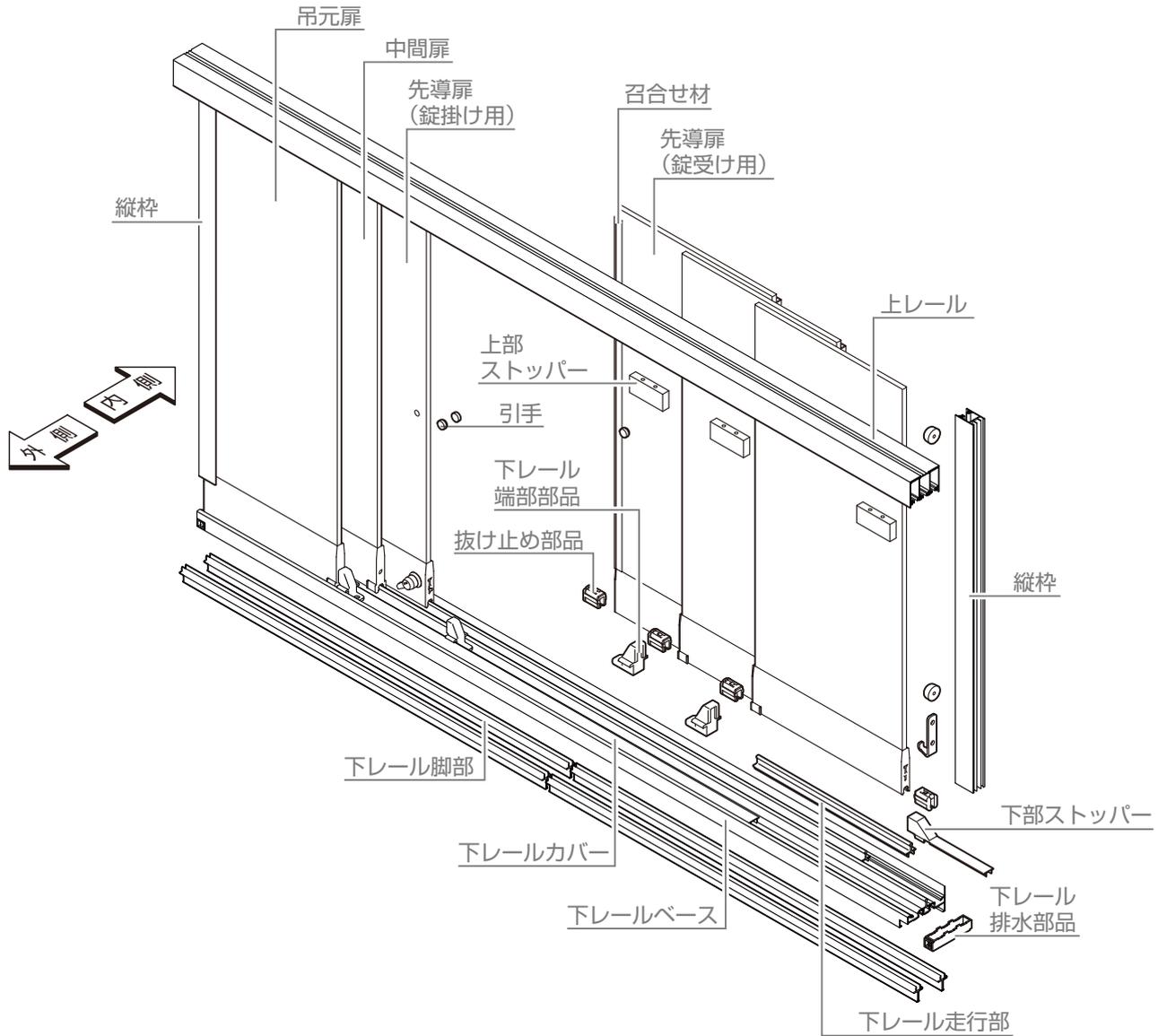
2 各部名称



2 各部名称

2-2 ガラスパネルの各部名称

2-2-1 両開き仕様（ガラス6枚）

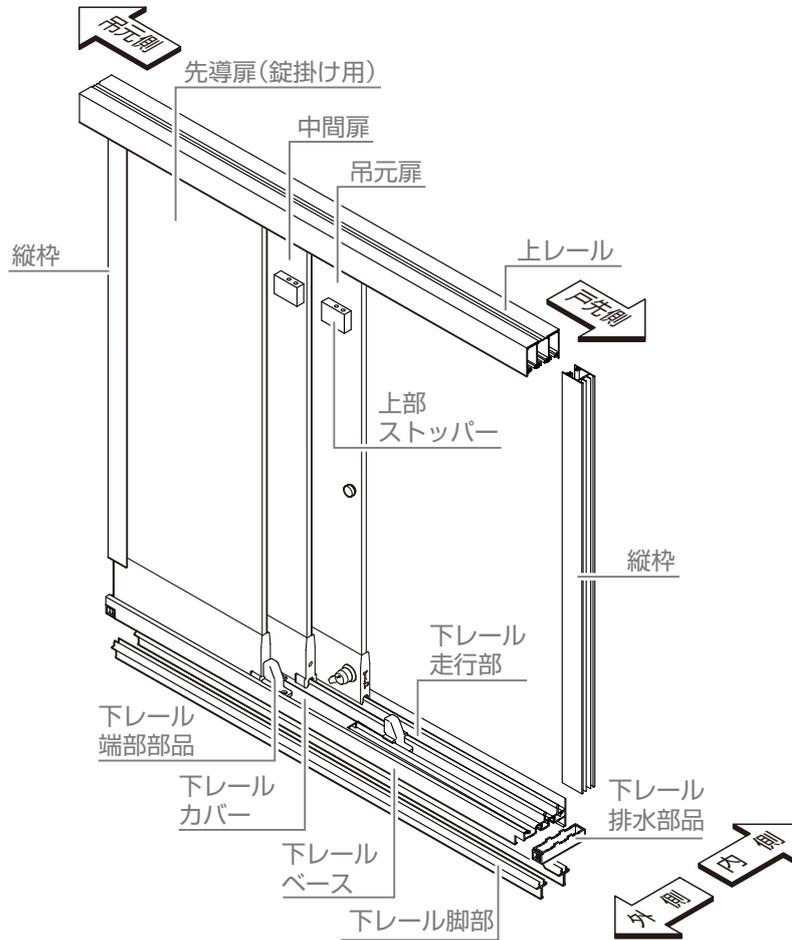


2

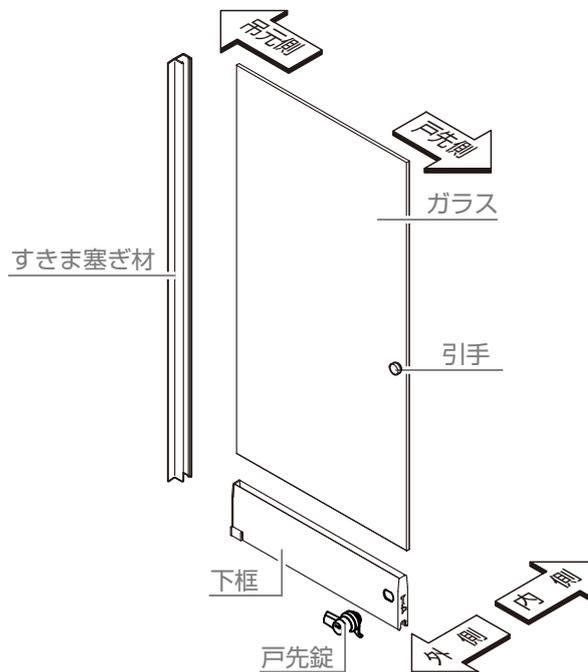
各部名称

2-2 ガラスパネルの各部名称

2-2-2 片開き仕様（ガラス3枚）



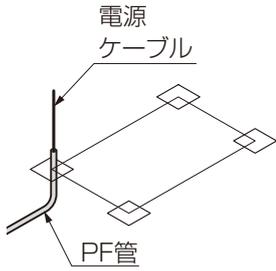
2-2-3 先導扉・中間扉 ※戸先錠は先導扉(錠掛け用)のみ



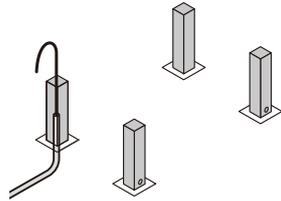
3 施工フロー

3-1 本体の施工

8-1 柱の位置出し

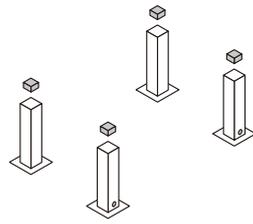


8-2 柱の建込み

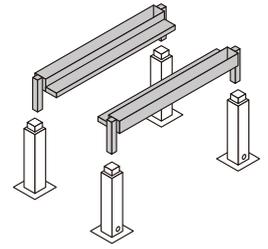


※ロールスクリーンを取付ける場合は、**7-2-4 | 光電センサーの取付け** を先に行なってください。

8-4 排水キャップ、排水誘導キャップの取付け



8-5 フレームの取付け



8-5-1 | フレームの取付け (水上、水下側)

8-5 フレームの取付け

8-5 フレームの取付け

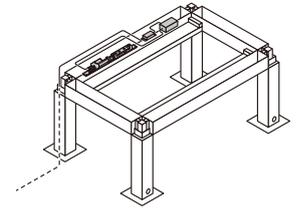
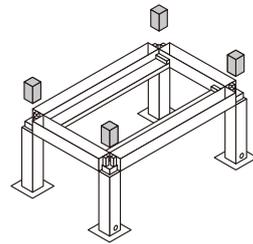
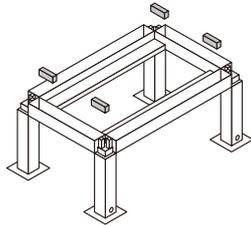
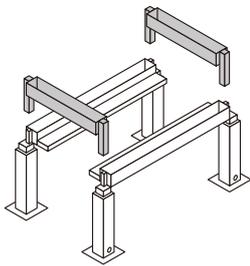
8-5 フレームの取付け

8-6 電源ケーブルの接続

8-5-3 | フレームの取付け (下面側、上面側)

8-5-6 | シーリング部品のシーリング

8-5-7 | ブラケット取付け金具の取付け



8-7 屋根の取付け

8-7 屋根の取付け

8-7 屋根の取付け

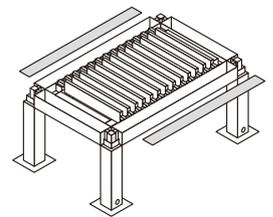
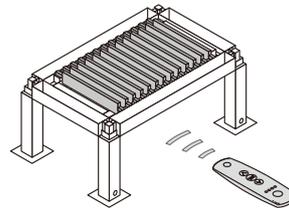
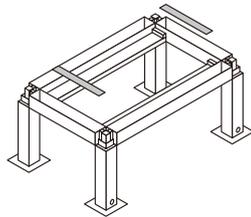
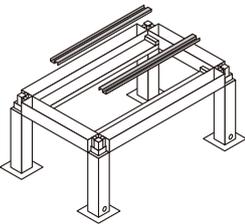
8-7 屋根の取付け

8-7-1 | 金網ネットの取付け

8-7-2 | 見切り材の取付け

8-7-6 | ルーフルーバーの取付け

8-7-13 | 雨樋カバーの取付け

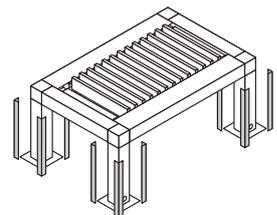
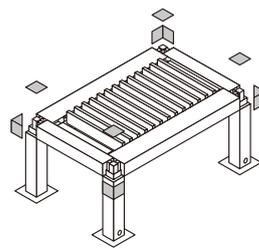
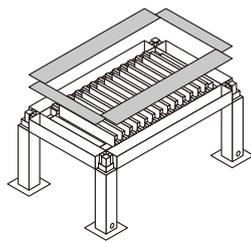
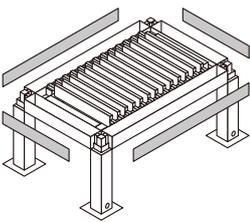


10-1 フレームサイドカバーの取付け

10-2 トップカバーの取付け

10-3 柱サイドカバーと柱キャップの取付け

10-4 柱カバーの取付け



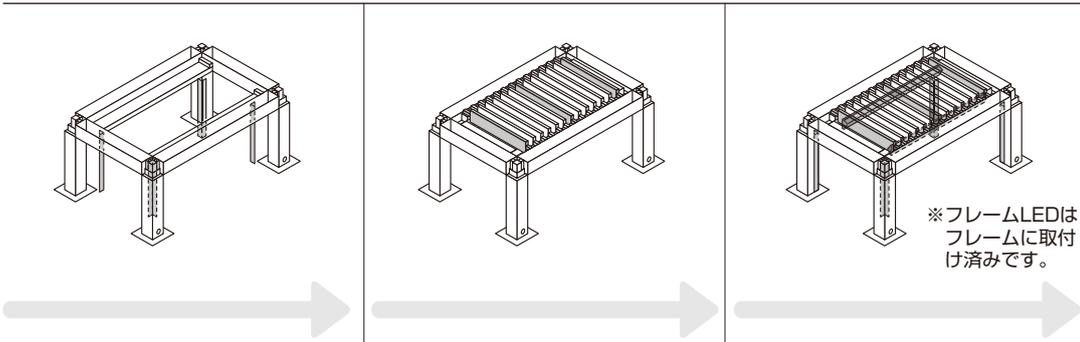
お願い

●電源ケーブルの本数は、オプションの数、種数によって異なります。P4を参照し、事前に必要電力量やケーブル本数を確認しておいてください。

3 施工フロー

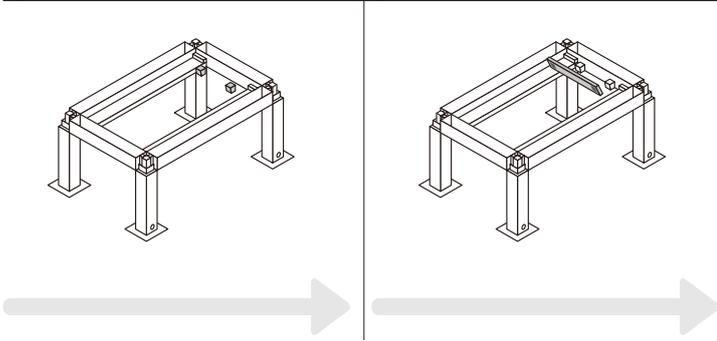
3-2 オプションの施工

9-1 柱LED、フレームLED、ルーラーバーLEDの取付け 9-1 柱LED、フレームLED、ルーラーバーLEDの取付け 9-2 LEDの初期設定



9-3 サウンド&ヒーターの取付け 9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-3 吊り金具の取付け 9-3-4 ビームの取付け

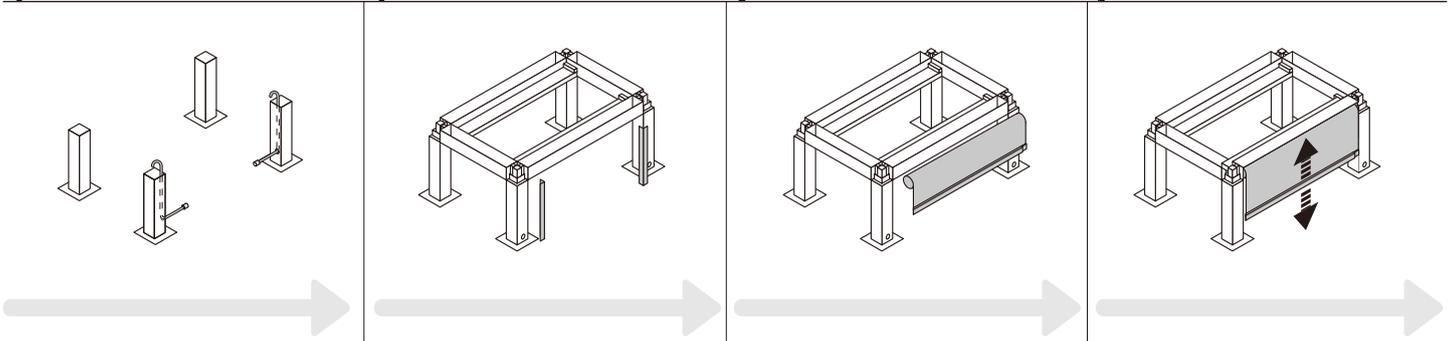


お願い

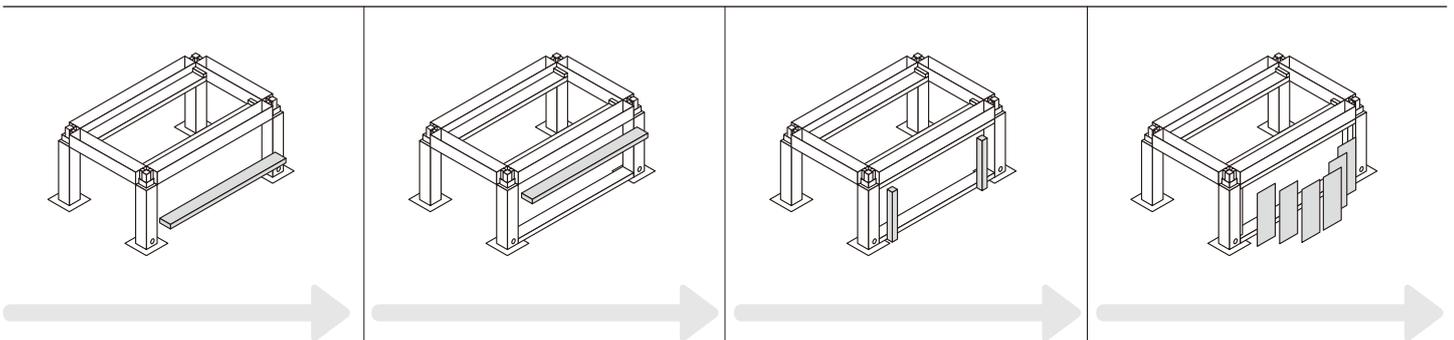
- ロールスクリーンと併用する場合は、先にサウンド&ヒーターを取付けてください。

7-2 柱の加工（水上側柱の場合） 9-6 ロールスクリーンの取付け 9-6 ロールスクリーンの取付け 9-7 ロールスクリーンの調整

7-2-4 光電センサーの取付け 9-6-2 ガイドレールの取付け 9-6-4 ロールスクリーンの設置 9-7-3 開閉リミット（限界）の調整



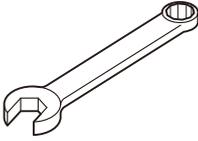
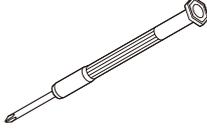
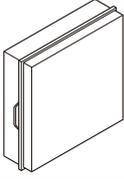
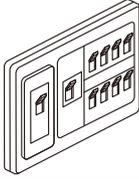
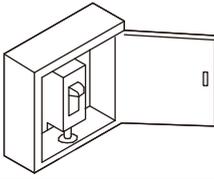
11-1 下レールの取付け 11-2 上レールの取付け 11-3 縦枠の取付け 11-6 ガラスパネルの取付け



4 現場手配品と特殊工具

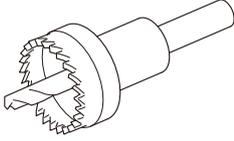
🔧 お願い

●本製品を施工する際は下記を準備しておいてください。

六角レンチ	スパナ (13mm)	精密ドライバー (+)	結束バンド (約10本)
 <p>Amm A=3,4,5 (3:M5用、4:M6用、5:M8用)</p>			
防水プラボックス	分電盤	過電流保護付漏電ブレーカー	
			

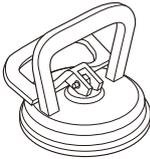
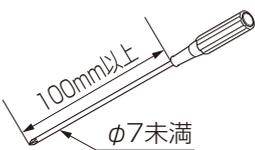
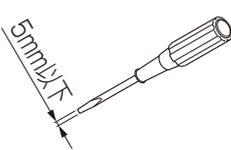
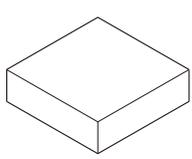
▼ ロールスクリーン(オプション)を取付ける場合 ▼

●25φホルソーは光電センサー取付け時に必要になります。

25φホルソー	通線ワイヤー
	

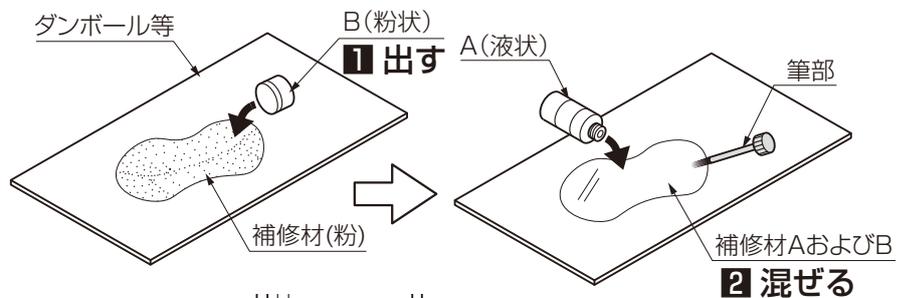
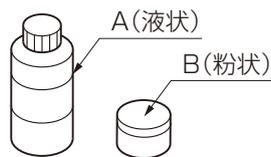
▼ ガラスパネル(オプション)を取付ける場合 ▼

- ガラスパネル(オプション)は最大サイズのもので1枚当たり約50kgの重さがあります。吊込みの際は安全のためリフター(吸盤)を使用してください。
- ガラスパネル(オプション)の戸車の高さ調整のために軸長100mm以上で軸径φ7未満のプラスドライバーが必要になります。
- ガラスパネル(オプション)の抜け止め部品を外すために幅5mm以下のマイナスドライバーが必要になります。

リフター (吸盤)	プラスドライバー	マイナスドライバー	スペーサー
	 <p>100mm以上 φ7未満</p>	 <p>5mm以下</p>	

🔧 補足

●製品にキズが付いてしまった場合は、付属の補修液を使用してください。

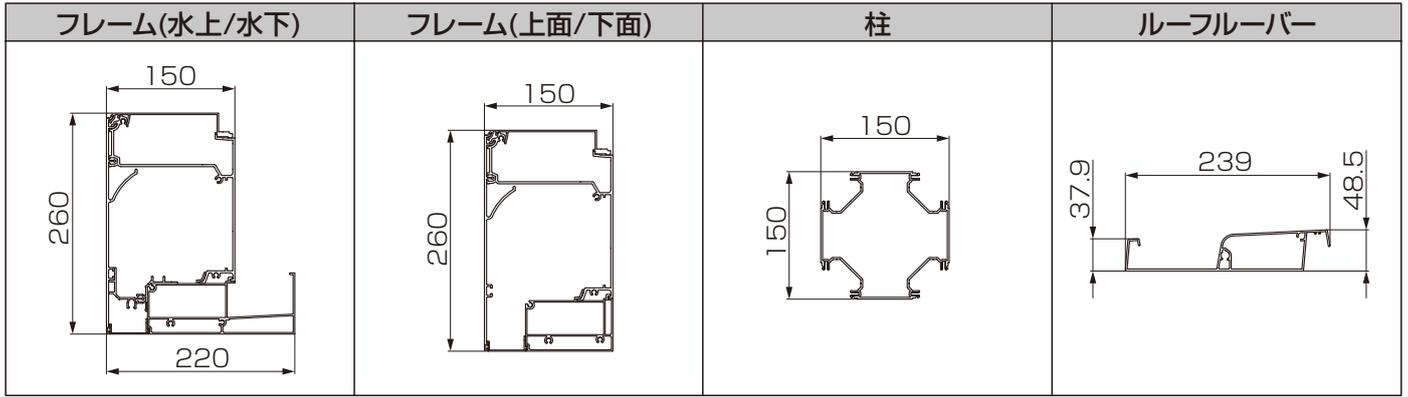


- 1: Bの粉をダンボール等に適量出す
- 2: Aの液体とBの粉を混ぜ合わせる
- 3: よく混ぜ合わせた補修液を、筆でキズなどの補修箇所に塗る

5 基本寸法

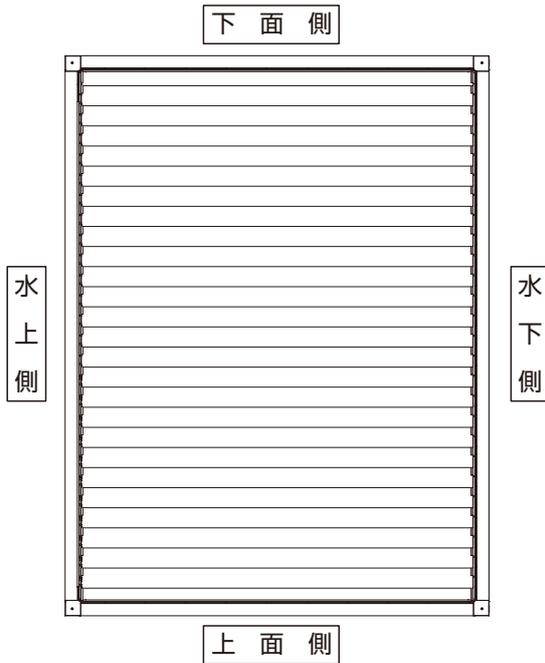
5-1 単体 ※本図は埋込み仕様を示します。 ※基礎寸法は各基礎寸法表を参照ください。

●使用主部材断面一覧



補足

- W、L、H寸法は1mm単位でオーダー可能です。
- 屋根部は約1~3°の勾配が付きます (W寸法によって変動)。
- オプションのガラスパネルがある場合、最大H寸法は2400mmとなります。

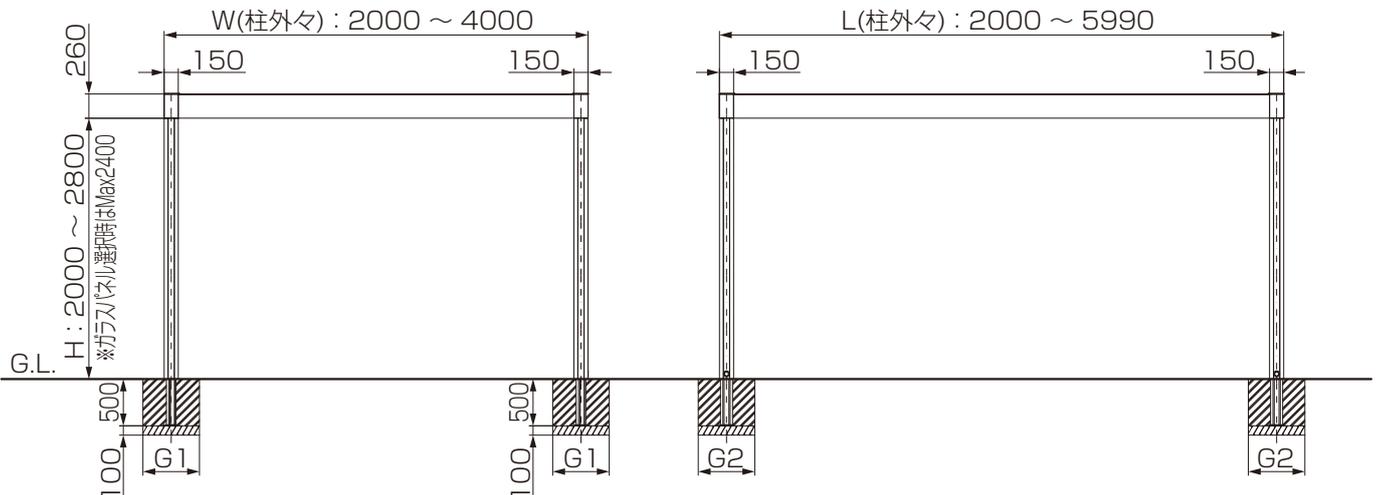


●基礎寸法 ※G1×G2 (寸法単位: mm)

L \ W	2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000
2000~3000	750×750	800×800	850×850	900×900
3001~4000	800×800	850×850	900×900	950×950
4001~5000	850×850	900×900	950×950	1000×1000
5001~5990	900×900	950×950	1000×1000	1050×1050

補足

- 基礎は $V_0=34\text{m/s}$ (収納時)、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力 $50 (\text{kN/m}^2)$ の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件等に合せて検証してください。
- 上記基礎寸法は、オプションが取り付けいても同様のサイズとなります。



5 基本寸法

5-2 連棟

5-2-1 L連棟

補足

- 連棟時の柱脚の納まりは埋込み仕様のみとなります。
- 連棟は最大3連棟まで可能です。
- 連棟時は、水上または水下側を下図のように同一方向に合わせる必要があります。

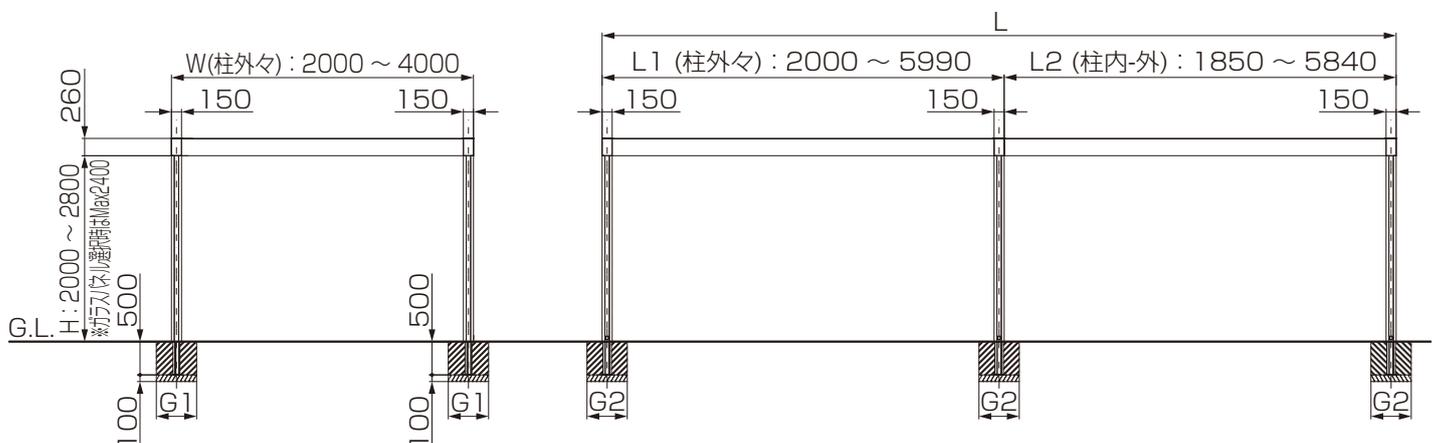
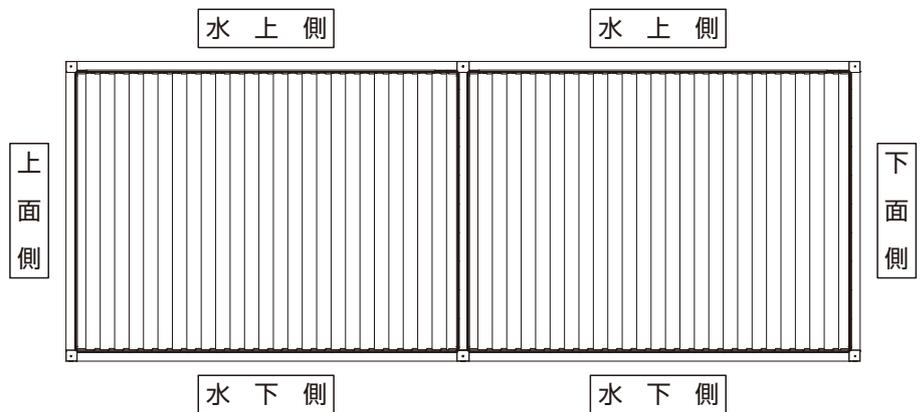
●基礎寸法 ※G1×G2 (寸法単位：mm)

L1	L2	W			
		2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000
2000~3000	1850~3000	900×900	900×900	900×900	950×950
	3001~4000	950×950	950×950	950×950	1000×1000
	4001~5000	1000×1000	1000×1000	1000×1000	1100×1100
	5001~5840	1050×1050	1050×1050	1100×1100	1150×1150
3001~4000	1850~3000	950×950	950×950	950×950	1000×1000
	3001~4000	1000×1000	1000×1000	1000×1000	1050×1050
	4001~5000	1050×1050	1050×1050	1050×1050	1100×1100
	5001~5840	1100×1100	1100×1100	1100×1100	1150×1150

L1	L2	W			
		2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000
4001~5000	1850~3000	1000×1000	1000×1000	1000×1000	1050×1050
	3001~4000	1050×1050	1050×1050	1050×1050	1100×1100
	4001~5000	1100×1100	1100×1100	1100×1100	1150×1150
	5001~5840	1150×1150	1150×1150	1150×1150	1200×1200
5001~5990	1850~3000	1050×1050	1050×1050	1050×1050	1100×1100
	3001~4000	1100×1100	1100×1100	1100×1100	1150×1150
	4001~5000	1150×1150	1150×1150	1150×1150	1200×1200
	5001~5840	1200×1200	1200×1200	1200×1200	1250×1250

補足

- 基礎はVo=34m/s(収納時)、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力50 (kN/m²) の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件等に合わせて検証してください。
- 上記基礎寸法は、オプションが取り付いても同様のサイズとなります。



5-2 連棟

5-2-2 W連棟

補足

- 連棟時の柱脚の納まりは埋込み仕様のみとなります。
- 連棟は最大3連棟まで可能です。
- L寸法は最大で5000mmまでの制限があります。
- 連棟時は、連棟部が水上側となります。

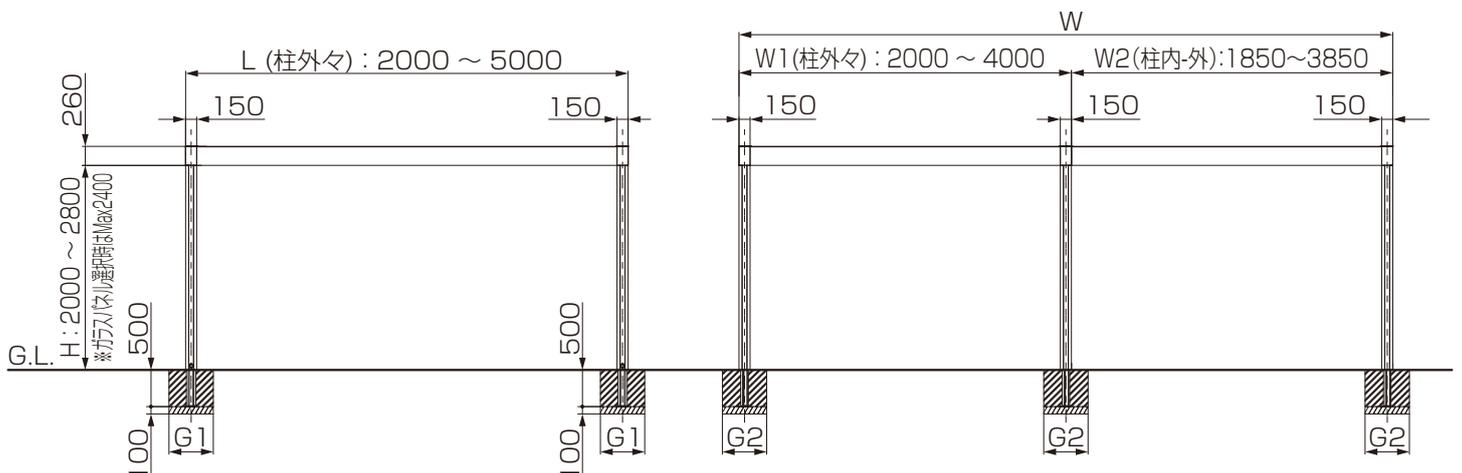
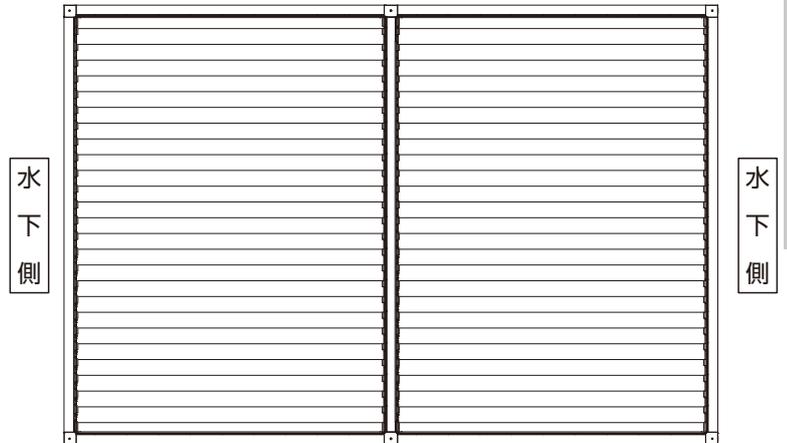
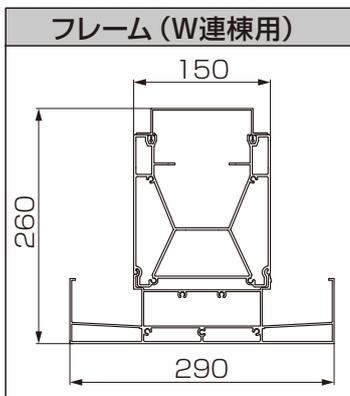
●基礎寸法 ※G1×G2 (寸法単位：mm)

W1	W2	L			W1	W2	L		
		2000~3000	3001~4000	4001~5000			2000~3000	3001~4000	4001~5000
2000~2500	1850~2500	1000×1000	1100×1100	1150×1150	3001~3500	1850~2500	1100×1100	1150×1150	1250×1250
	2501~3000	1050×1050	1100×1100	1200×1200		2501~3000	1150×1150	1200×1200	1300×1300
	3001~3500	1100×1100	1150×1150	1250×1250		3001~3500	1200×1200	1250×1250	1350×1350
	3501~3850	1100×1100	1200×1200	1300×1300		3501~3850	1200×1200	1250×1250	1350×1350
2501~3000	1850~2500	1050×1050	1100×1100	1200×1200	3501~4000	1850~2500	1150×1150	1200×1200	1300×1300
	2501~3000	1100×1100	1150×1150	1250×1250		2501~3000	1200×1200	1250×1250	1350×1350
	3001~3500	1150×1150	1200×1200	1300×1300		3001~3500	1250×1250	1300×1300	1350×1350
	3501~3850	1150×1150	1250×1250	1300×1300		3501~3850	1250×1250	1300×1300	1400×1400

補足

- 基礎はVo=34m/s (収納時)、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力50 (kN/m²) の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件等に合わせて検証してください。
- 上記基礎寸法は、オプションが取り付けいても同様のサイズとなります。

●使用主部材断面一覧 (W連棟専用部材)



5 基本寸法

5-2 連棟

つづき

5-2-3 Lの字連棟

補足

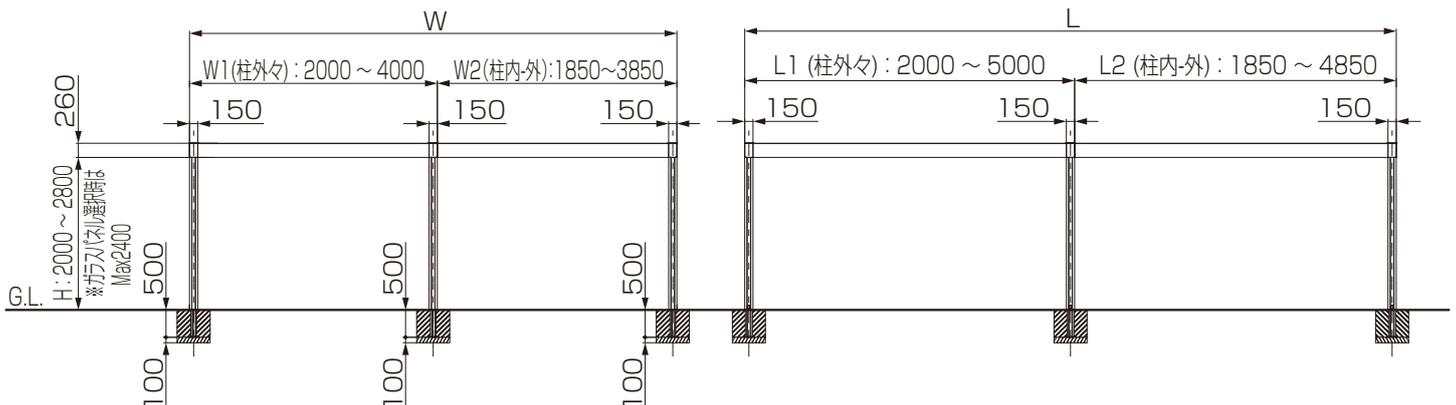
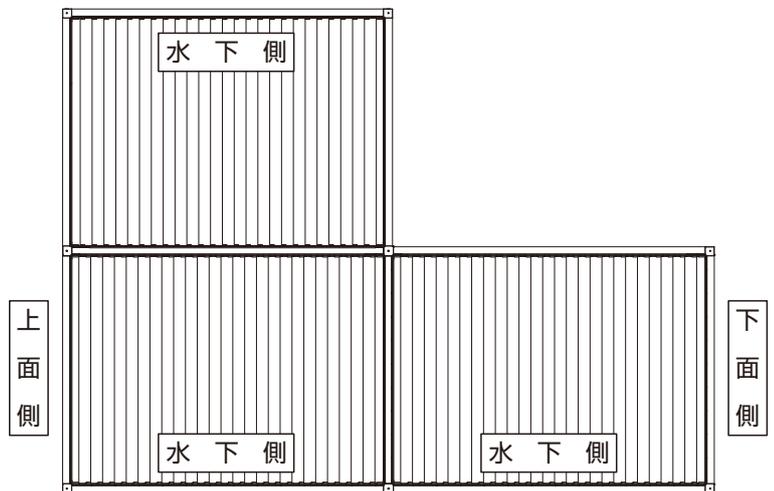
- 連棟時の柱脚の納まりは埋込み仕様のみとなります。
- 連棟はW、L共に最大3連棟まで可能です。
- 連棟時は、連棟部が水上側となります。

●基礎寸法 ※G1×G2 (寸法単位：mm) ※縦、横同寸法の正方形となります。

L1	L2	W1															
		2000~2500				2501~3000				3001~3500				3501~4000			
		W2				W2				W2				W2			
		1850~2500	2501~3000	3001~3500	3501~3850	2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000	2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000	2000~2500	2501~3000	3001~3500	3501~4000
2000~3000	1850~3000	□750	□1000	□1050	□1050	□1050	□1050	□1100	□1100	□1100	□1100	□1100	□1150	□1150	□1150	□1150	□1200
	3001~4000	□800	□1000	□1050	□1050	□1050	□1050	□1100	□1100	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1250	□1250	□1250
	4001~5000	□900	□1050	□1050	□1100	□1100	□1100	□1150	□1150	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1250	□1250	□1250
3001~4000	1850~3000	□900	□1050	□1100	□1150	□1150	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1250	□1250	□1250	□1250	□1250	□1300
	3001~4000	□950	□1050	□1100	□1150	□1150	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1250	□1250	□1250	□1250	□1250	□1300
	4001~5000	□1000	□1100	□1100	□1150	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1200	□1250	□1250	□1250	□1300	□1300	□1300
4001~5000	1850~3000	□1050	□1150	□1200	□1200	□1200	□1200	□1250	□1300	□1300	□1300	□1300	□1350	□1350	□1350	□1350	□1400
	3001~4000	□1100	□1150	□1200	□1200	□1200	□1200	□1250	□1300	□1300	□1300	□1300	□1350	□1350	□1350	□1350	□1400
	4001~4850	□1150	□1150	□1200	□1200	□1200	□1200	□1250	□1300	□1300	□1300	□1300	□1350	□1350	□1350	□1350	□1400

補足

- 基礎はVo=34m/s (収納時)、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力50 (kN/m²) の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件等に合せて検証してください。
- 上記基礎寸法は、オプションが取り付いても同様のサイズとなります。
- 基礎サイズは2連棟迄の表記ですが、3連棟になった場合も同様の基礎サイズとなります。
- L寸法は最大で5000mmまでの制限があります。



5-2 連棟

5-2-4 田の字連棟

補足

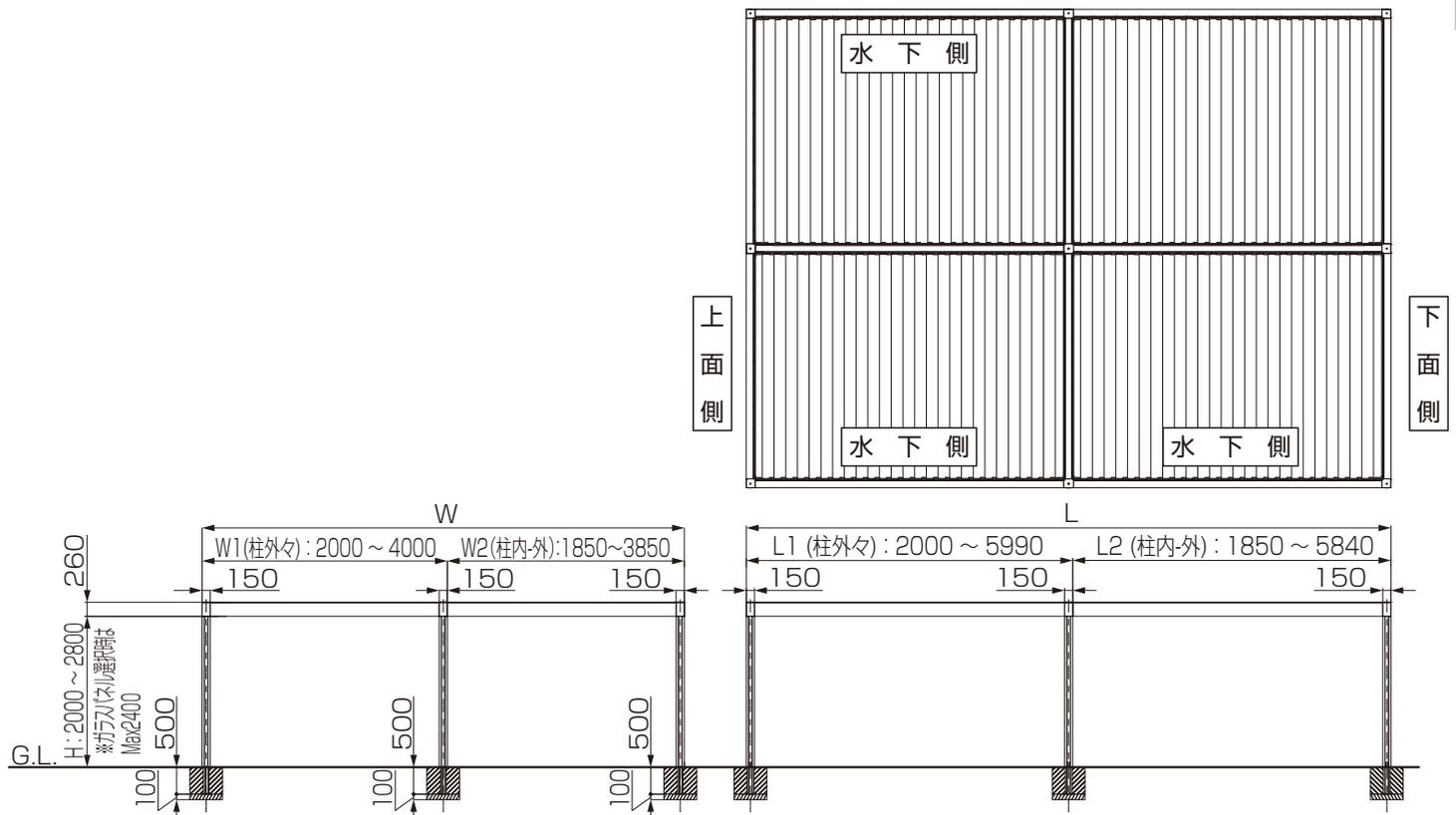
- 連棟時の柱脚の納まりは埋込み仕様のみとなります。
- 連棟はW、L共に最大3連棟まで可能です。
- 棟時は、連棟部が水上側となります。

●基礎寸法 ※G1×G2 (寸法単位：mm) ※縦、横同寸法の正方形となります。

L1	L2	W1															
		2000~2500				2501~3000				3001~3500				3501~4000			
		W2				W2				W2				W2			
		1850~2500	2501~3000	3001~3500	3501~3850	1850~2500	2501~3000	3001~3500	3501~3850	1850~2500	2501~3000	3001~3500	3501~3850	1850~2500	2501~3000	3001~3500	3501~3850
2000~3000	1850~3000	□1100	□1100	□1150	□1200	□1100	□1150	□1200	□1250	□1150	□1200	□1250	□1300	□1200	□1250	□1300	□1350
	3001~4000	□1150	□1200	□1250	□1300	□1200	□1250	□1300	□1350	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1400
	4001~5840	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1500
	5001~5840	□1300	□1400	□1450	□1500	□1350	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600	□1500	□1550	□1600	□1650
3001~4000	1850~3000	□1150	□1200	□1250	□1300	□1200	□1250	□1300	□1350	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1400
	3001~4000	□1200	□1250	□1300	□1350	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500
	4001~5000	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550
	5001~5840	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600	□1500	□1550	□1600	□1650
4001~5000	1850~3000	□1150	□1250	□1300	□1350	□1250	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500
	3001~4000	□1200	□1300	□1350	□1400	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550
	4001~5000	□1250	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600
	5001~5840	□1350	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600	□1500	□1550	□1600	□1650	□1550	□1600	□1650	□1700
5001~5990	1850~3000	□1250	□1300	□1400	□1450	□1300	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600
	3001~4000	□1300	□1350	□1400	□1450	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600
	4001~5000	□1350	□1400	□1450	□1500	□1400	□1450	□1500	□1550	□1450	□1500	□1550	□1600	□1500	□1550	□1600	□1650
	5001~5840	□1400	□1450	□1500	□1600	□1450	□1500	□1600	□1650	□1500	□1600	□1650	□1700	□1600	□1650	□1700	□1750

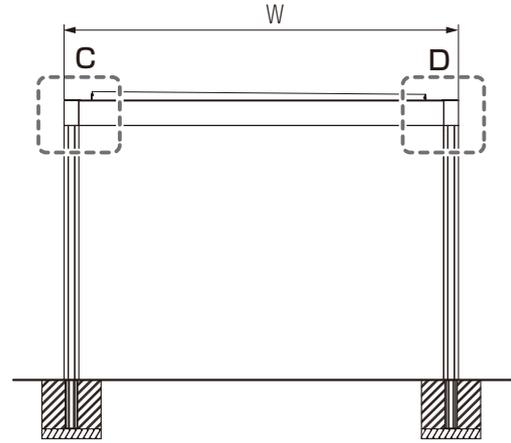
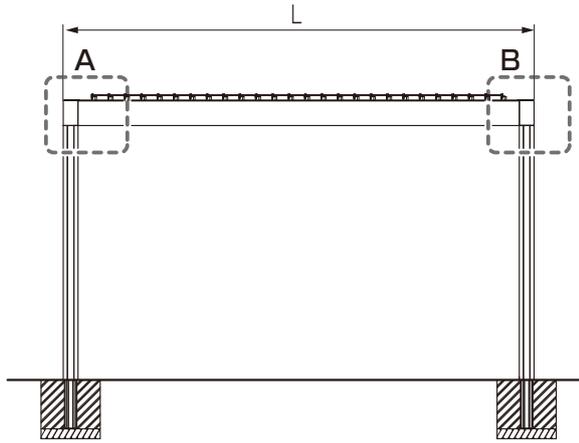
補足

- 基礎はVo=34m/s(収納時)、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力50(kN/m²)の時の参考寸法です。設置する地域、地盤条件等に合わせて検証してください。
- 上記基礎寸法は、オプションが取り付けいても同様のサイズとなります。
- 基礎サイズは2連棟迄の表記ですが、3連棟になった場合も同様の基礎サイズとなります。



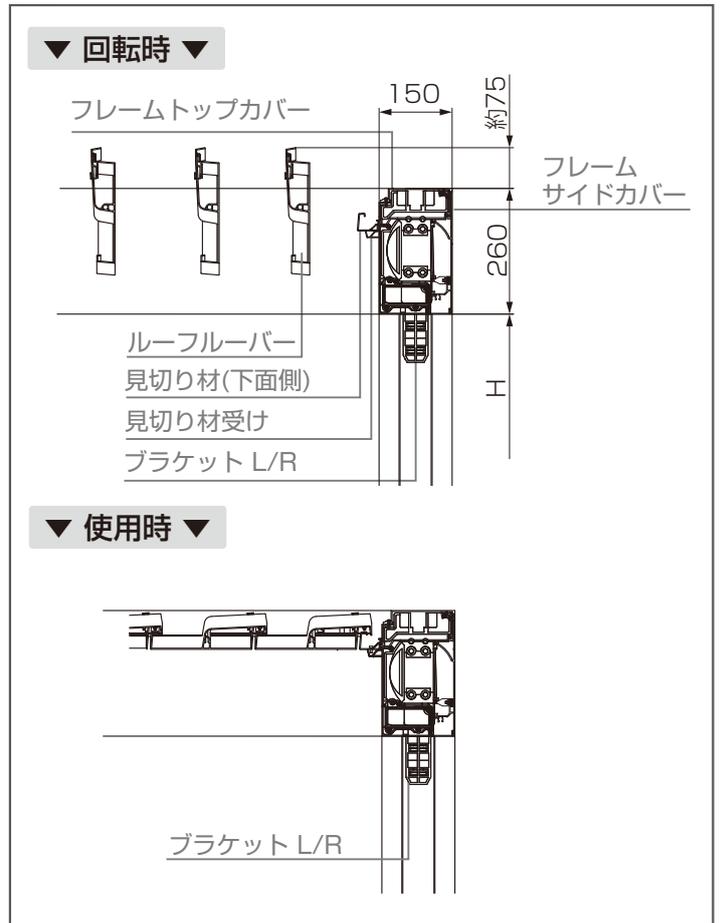
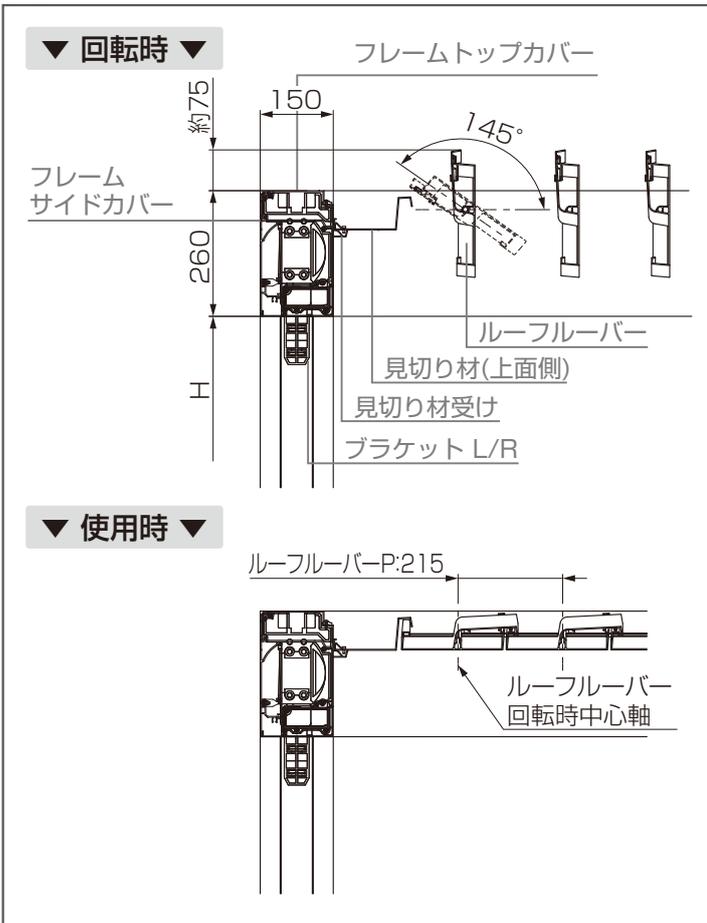
6 納まり図

6-1 基本納まり図



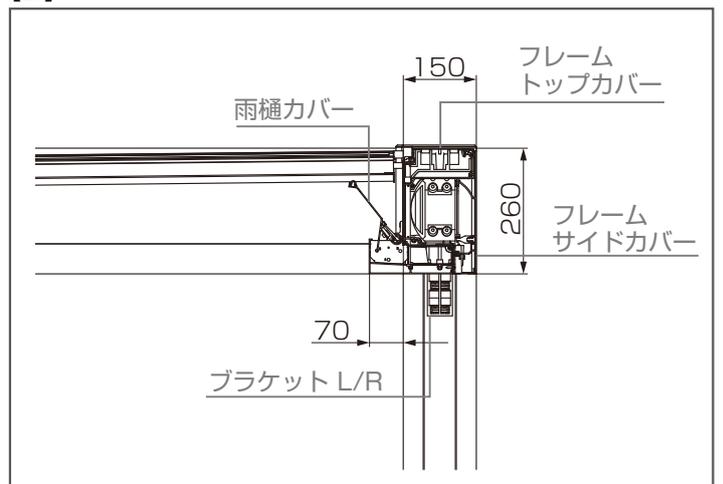
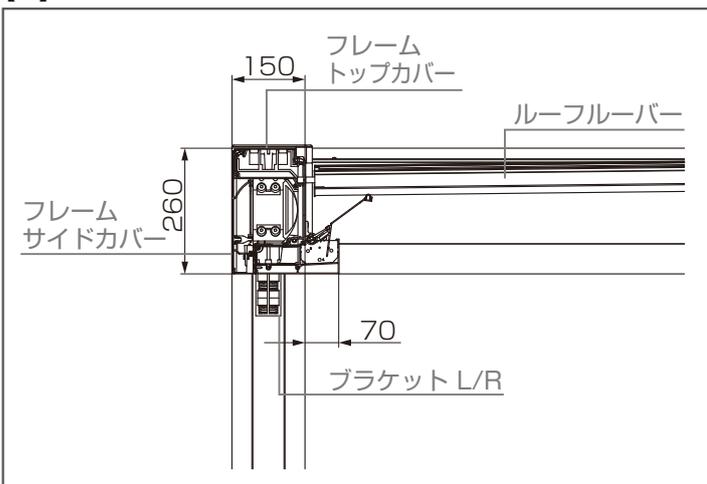
[A]

[B]



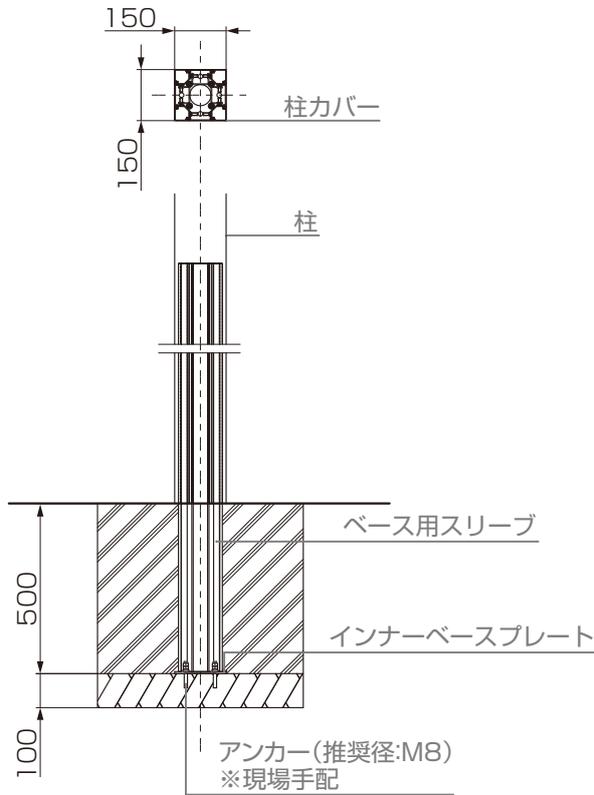
[C]

[D]

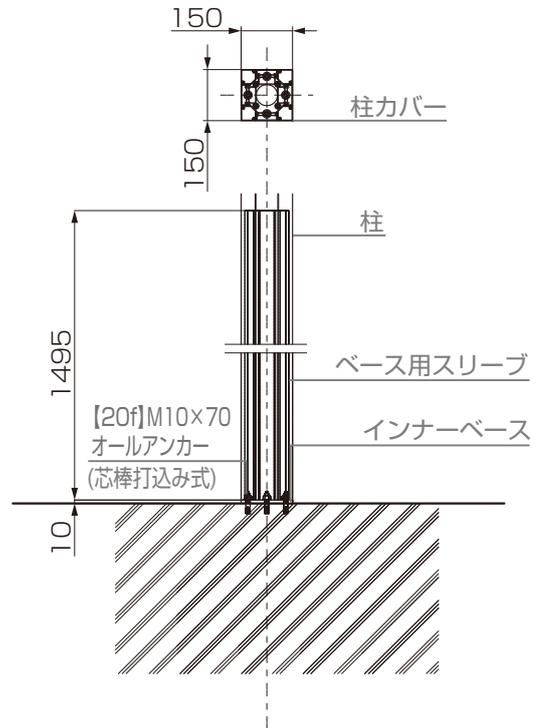


6-2 柱脚納まり図

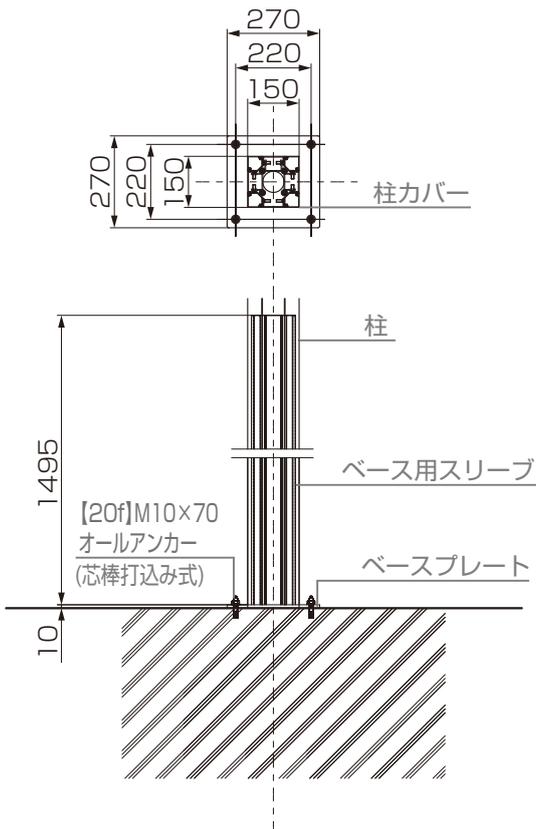
▼ 埋込み仕様 ▼



▼ インナーベースプレート仕様 ▼



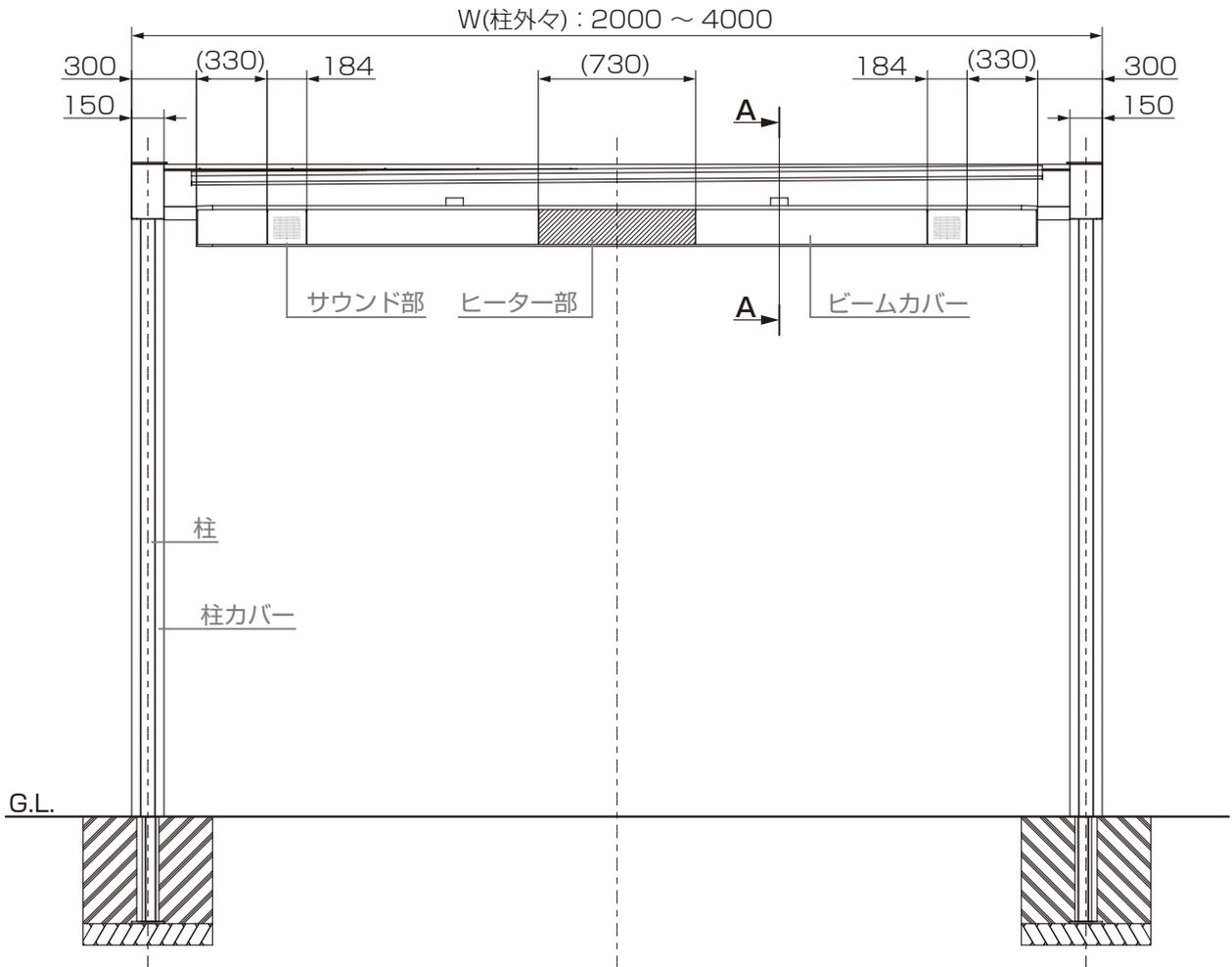
▼ ベースプレート仕様 ▼



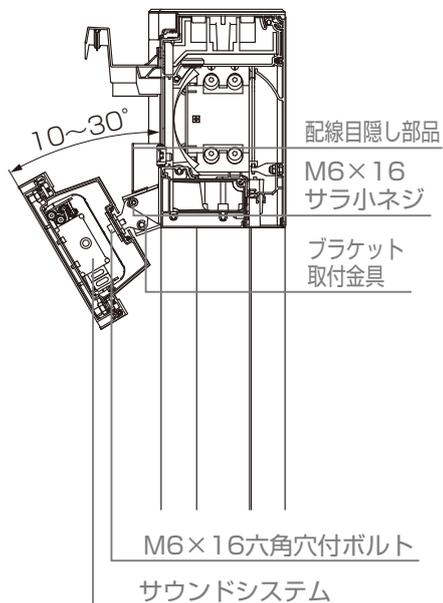
6-3 サウンド&ヒーター納まり図

お願い

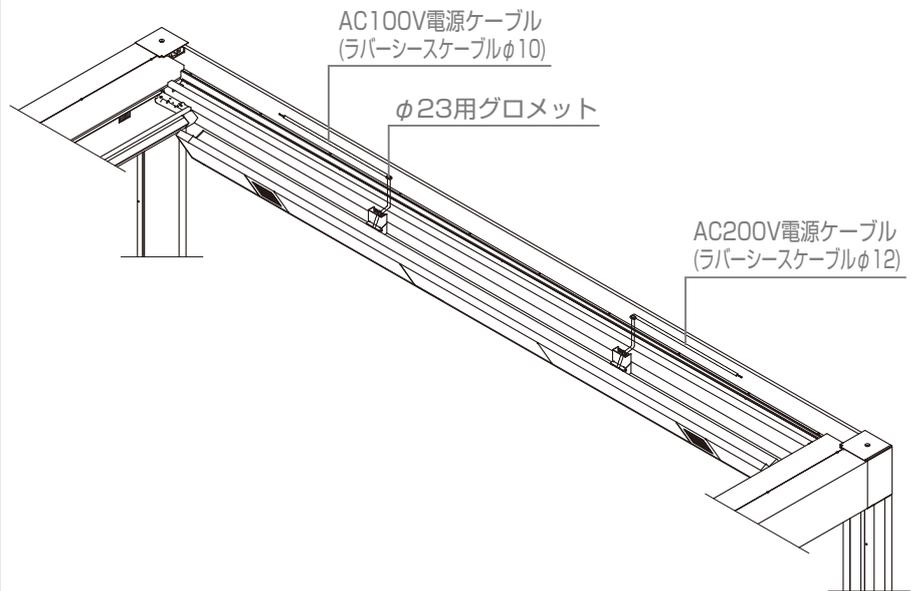
- サウンド&ヒーターはW側のフレームにのみ取付可能です。
- サウンド及びヒーターの組み合わせによる最小寸法での製作制限は以下の通りです。
サウンドのみ：2170mm～、ヒーターのみ：2170mm～、サウンド&ヒーター：2722mm～



●A-A断面図



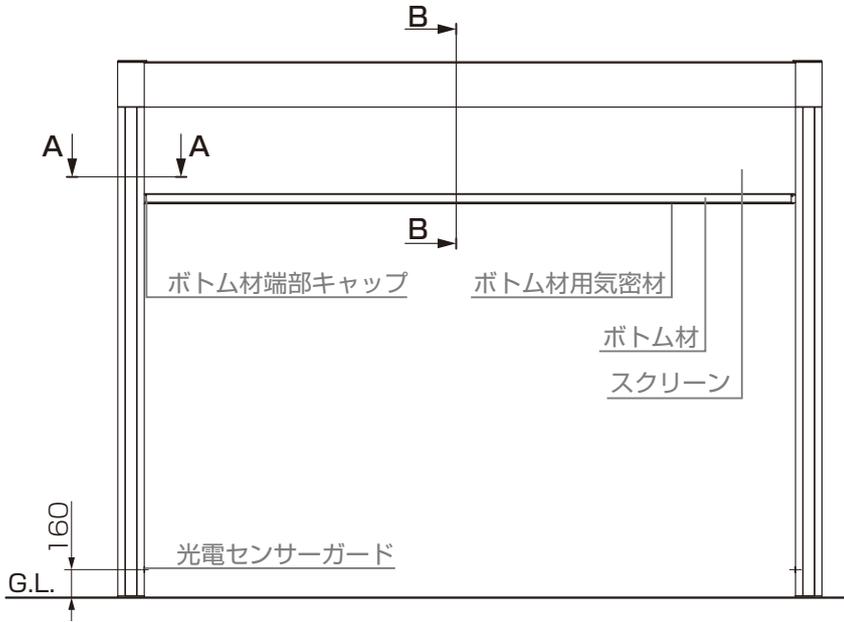
●配線取り回し図



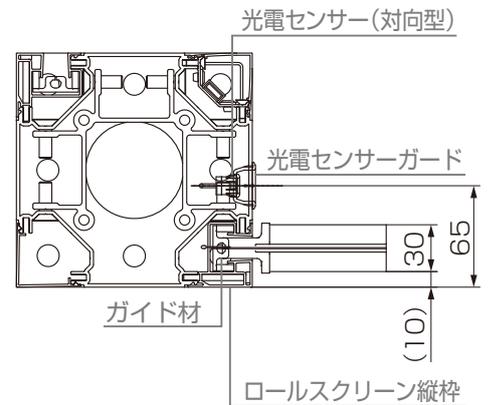
6-4 ロールスクリーン納まり図

💡 お願い

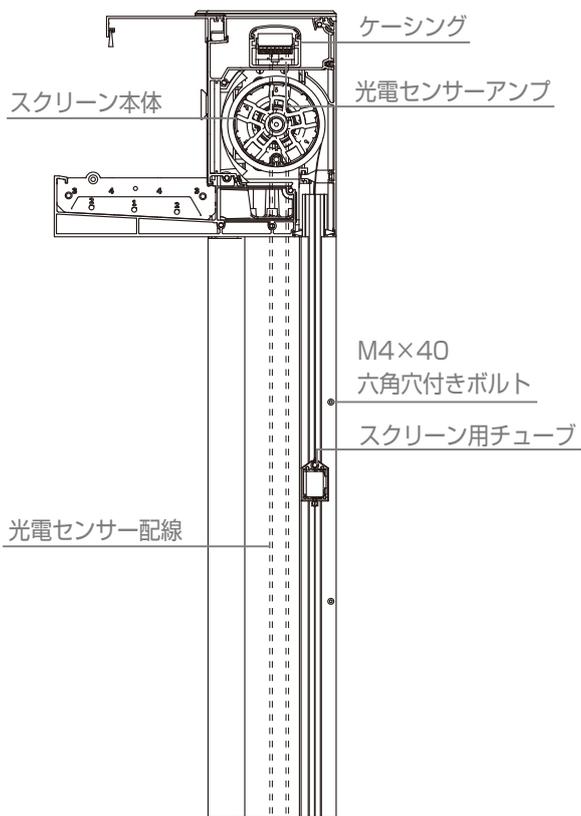
- ロールスクリーンは連棟部以外の面に取付可能で、停電時の閉じ込め防止の為1面は空けてください。
- ロールスクリーンは柱へ光電センサー(対向型)が標準装備されています。
- 本図はModel Aのフレームで図示していますが、Model Bも同様の納まりとなります。
- モーターの電気仕様は使用電圧AC100V、使用電力270Wです。



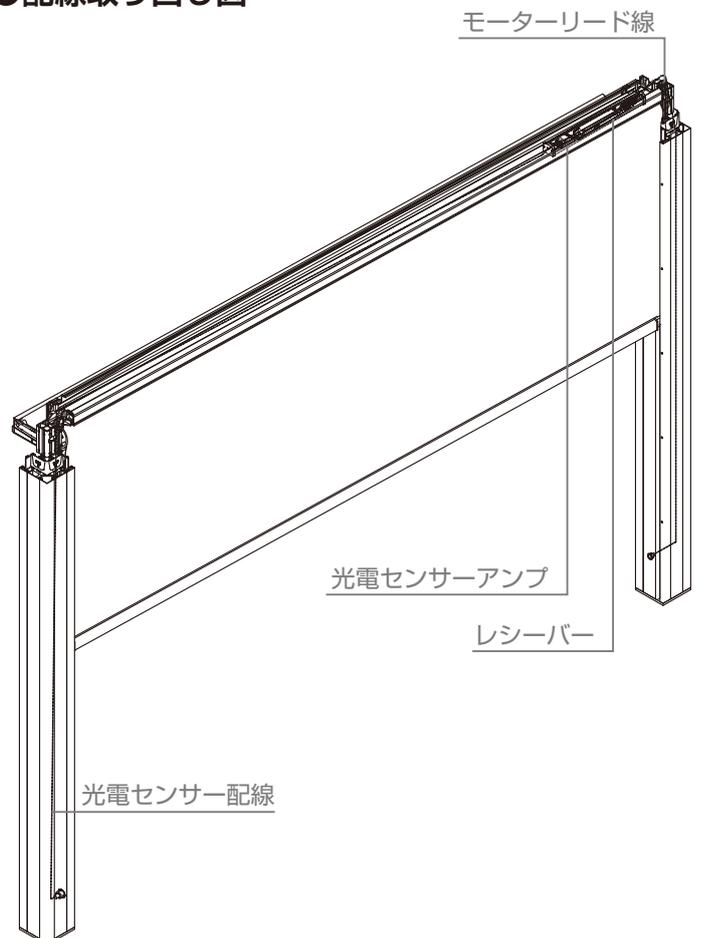
● A-A断面図



● B-B断面図



● 配線取り回し図



6-5 ガラスパネル納まり図

お願い

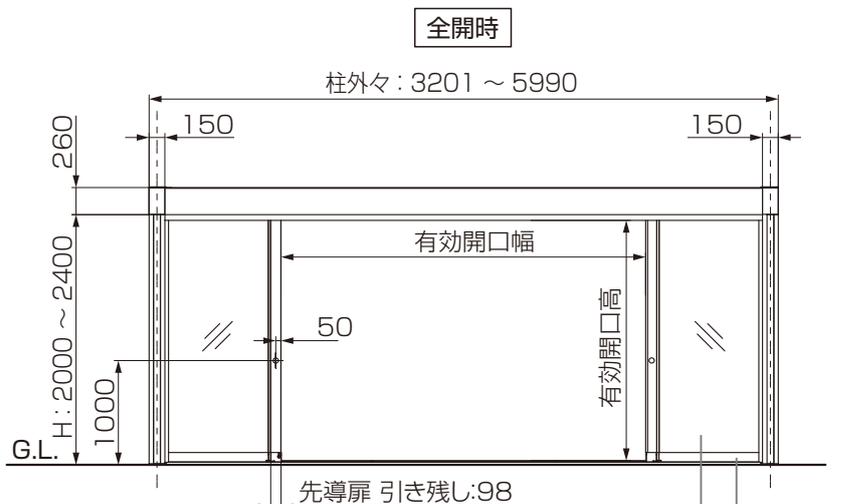
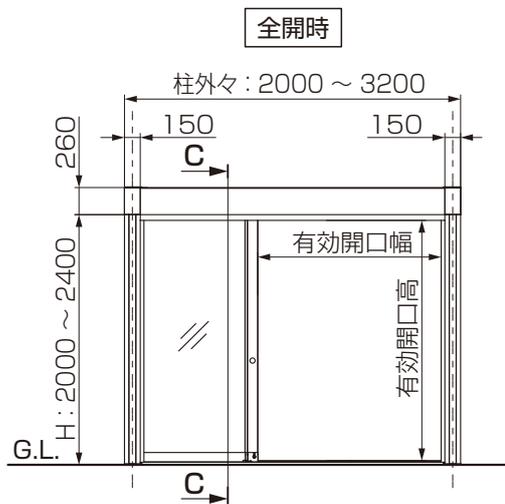
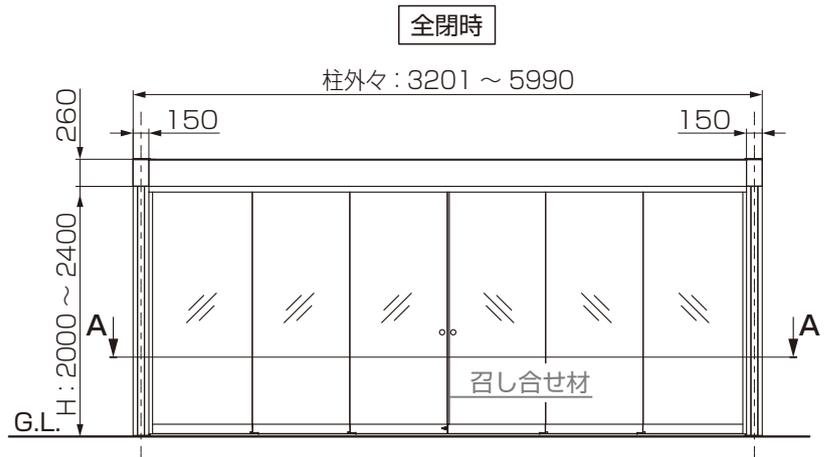
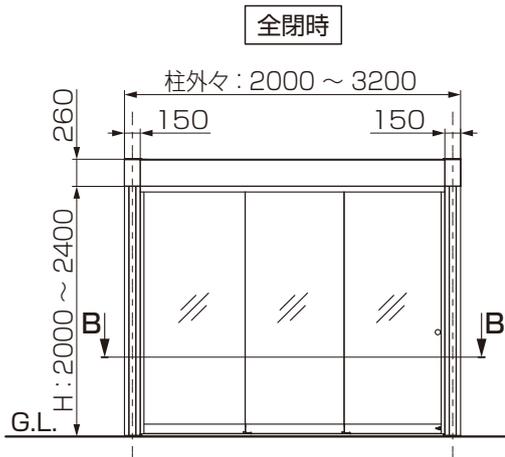
- ガラスパネルは下レールを固定するため土間コンクリートへの固定が必要になります。
- ベースプレート仕様ではオプションのガラスパネルは使用できません。
- 柱LEDと併用する場合、片引き仕様の戸先側には取付けできません。
- 各断面図(A - A ~ C - C断面)はロールスクリーンとの併用状態を図示しています。

●使用主部材断面一覧

上レール	下レール	下框	縦枠

▼ 片引き仕様(パネル3枚) ▼

▼ 両引き仕様(パネル6枚) ▼



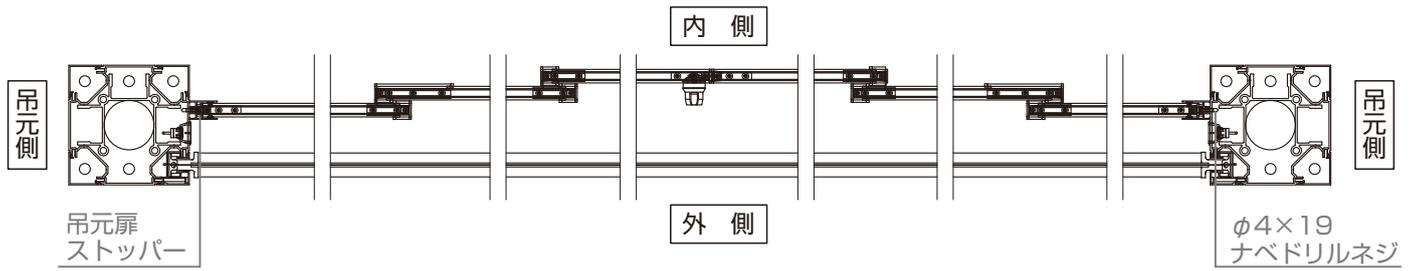
有効開口高:H寸法 - 95mm
有効開口幅:(L寸法×2 - 1160.5)/3mm

有効開口高:H寸法 - 95mm
有効開口幅:(L寸法×2 - 1537)/3mm

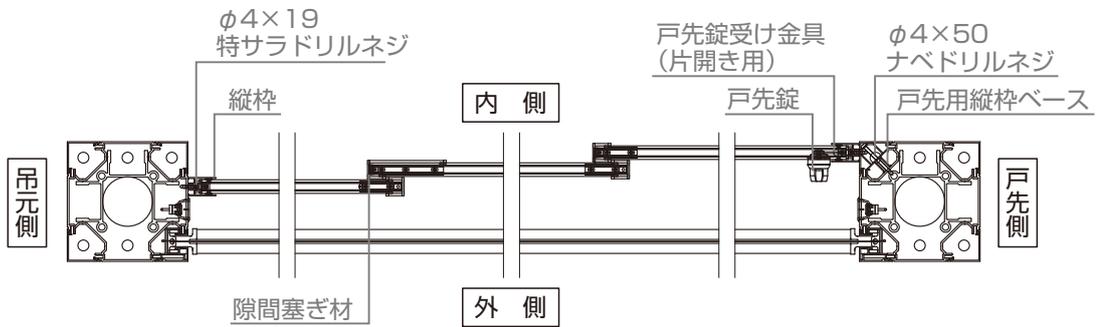
下框
強化ガラス

6-5 ガラスパネル納まり図

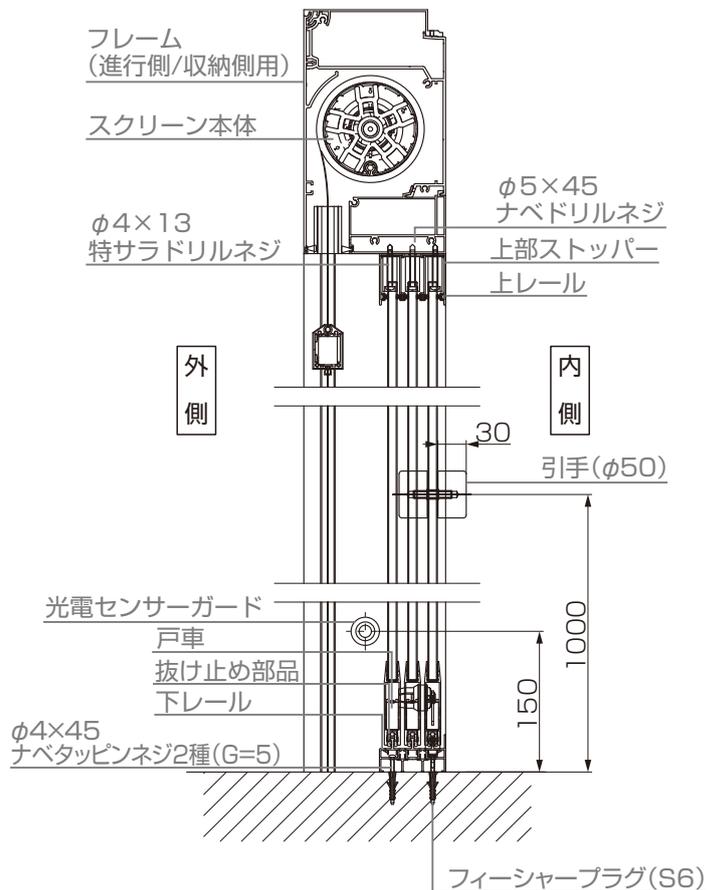
●A-A断面図



●B-B断面図



●C-C断面図





7-1 フレームカバーの取り外し

1: フレームトップカバーBをフレームから取り外し

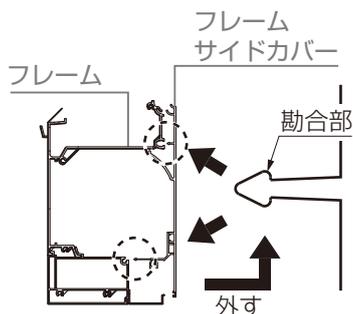
フレームトップカバーB
(上面側、下面側)

2: フレームサイドカバーをフレームから取り外し

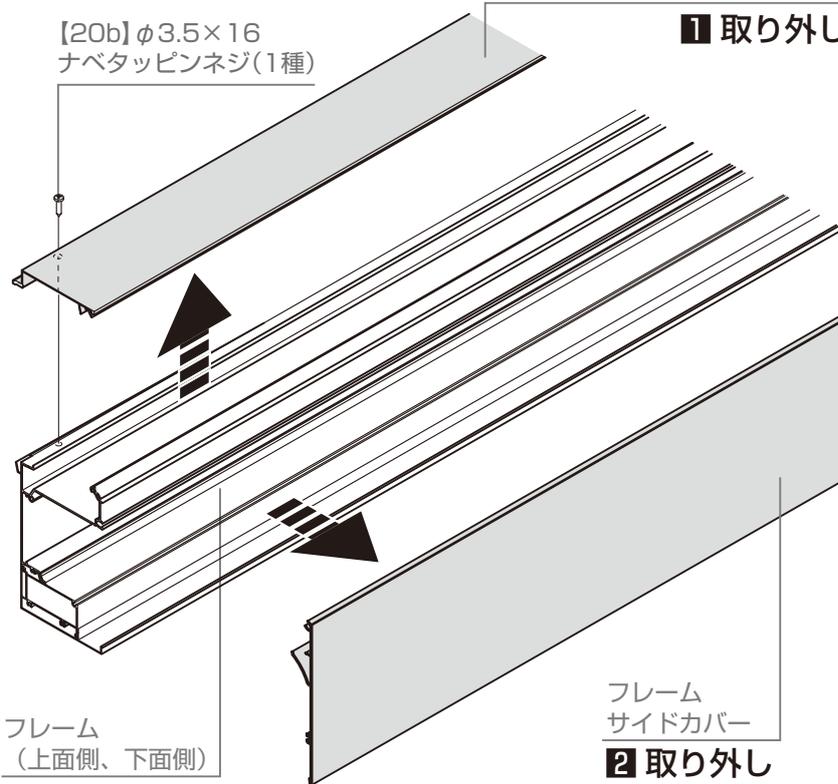
1 取り外し

お願い 1

- フレームサイドカバーは勘合で固定されて納品されます。
- 勘合部を端から1つずつ外してください。



[20b] φ3.5×16
ナベタッピンネジ(1種)



フレーム
(上面側、下面側)

フレーム
サイドカバー

2 取り外し



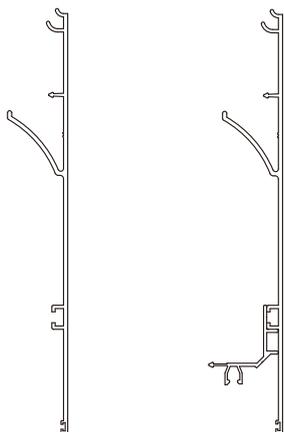
フレームトップカバーB
(水上側、水下側)

お願い

- フレームサイドカバーは、(上面側、下面側)、(水上側、水下側)すべてのフレームから取り外してください。
- フレームサイドカバーは2種類あります。

▼ ロールスクリーン用 ▼

▼ 通常用 ▼

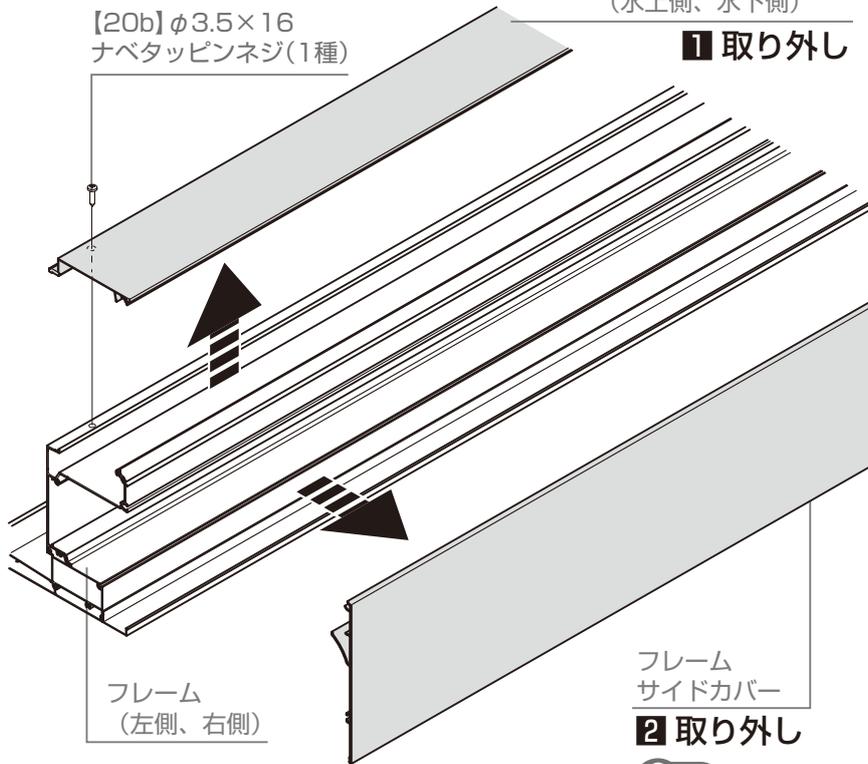


- 取り外したカバーは「10 仕上げ」時までキズが付かないよう緩衝材等に包んで管理してください。

補足

- 連棟用フレームの場合フレームトップカバーBのみ取り外してください。

[20b] φ3.5×16
ナベタッピンネジ(1種)



フレーム
(左側、右側)

フレーム
サイドカバー

2 取り外し





7-2 柱の加工(水上側柱の場合)

7-2-1 取付け位置の確認

補足

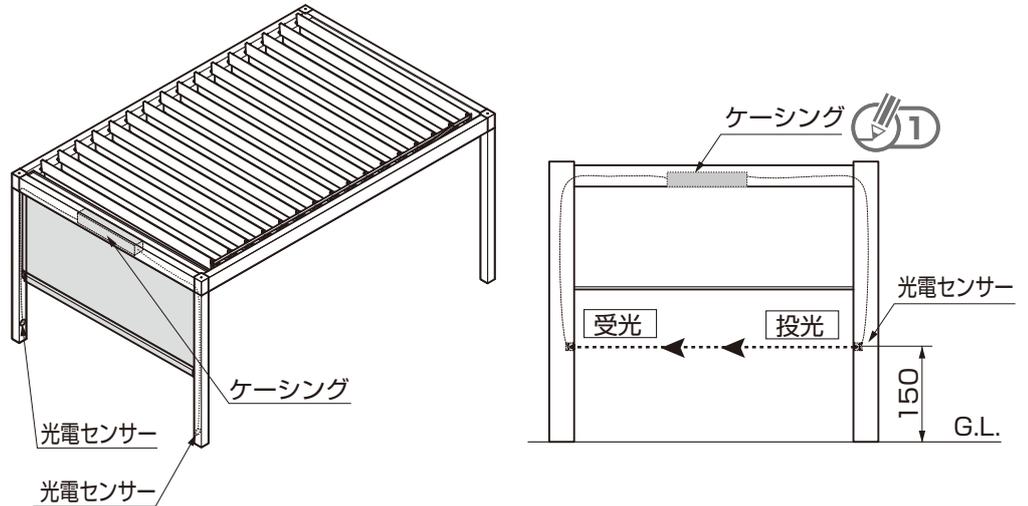
- ロールスクリーンを設置する場合は、各面の柱に光電センサー（対向型）が必要になります。
- 水下側に設置する場合は、雨樋の加工が必要になります。

補足 ①

- ケーシング内部にアンプ、受信機が格納されます。

お願い

- 投光側と受光側のセンサーの高さをそろえてください。

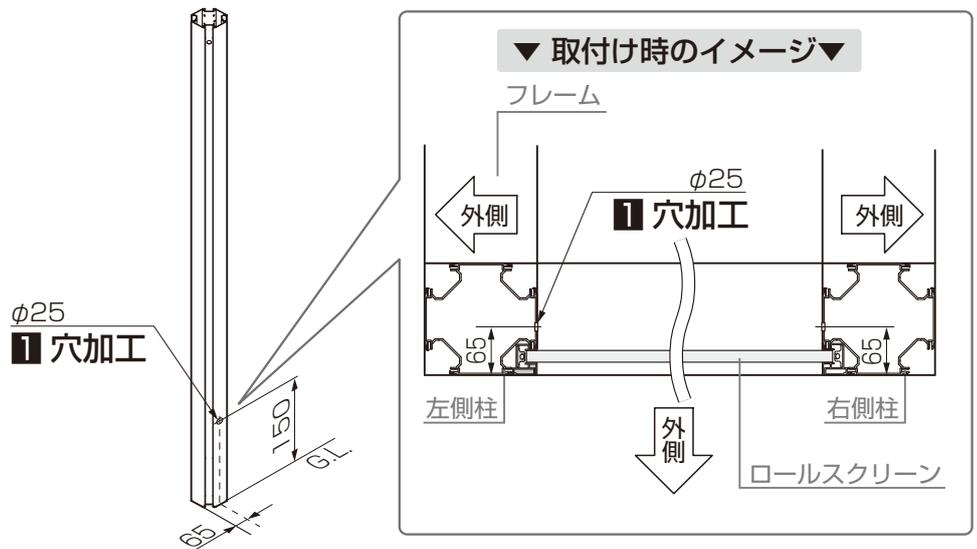


7-2-2 柱の加工

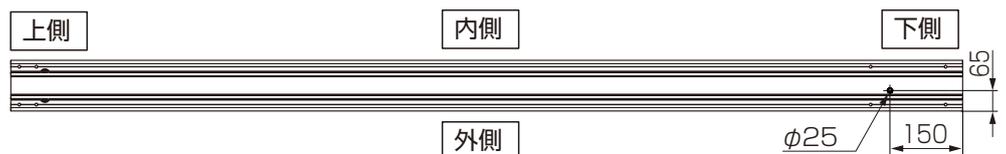
①: 柱の加工寸法位置にφ25穴加工

お願い

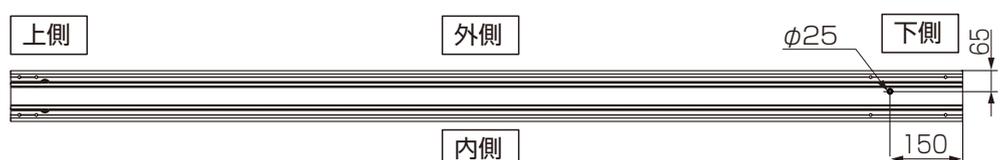
- ベースプレートの厚みは10mmです。
- 柱脚の仕様に応じて、G.L.から150mmの高さに穴加工してください。



▼ 左側柱の場合▼



▼ 右側柱の場合▼



7-2 柱の加工(水上側柱の場合)

つづき

7-2-3 光電センサーケーブルの取回し

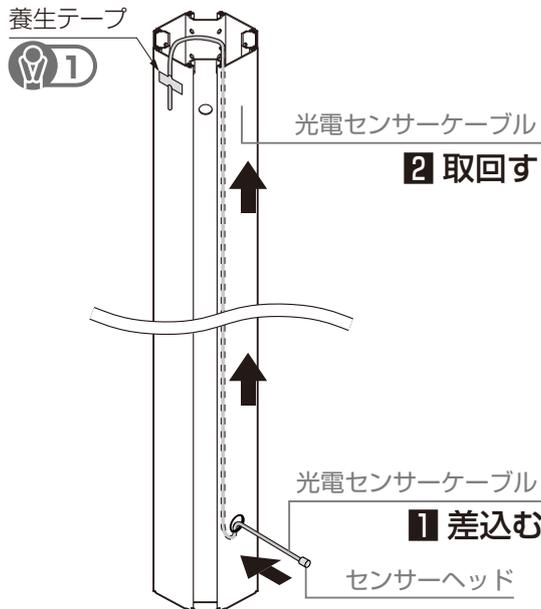
お願い

- 光電センサーには投光器と受光器があります。投光器と受光器が対向かい合うように取付けてください。
- 光電センサーはケーブルの色で確認してください。投光器：灰色／受光器：青色
- 光電センサーケーブルを引き込む際は通線ワイヤーを使用してください。



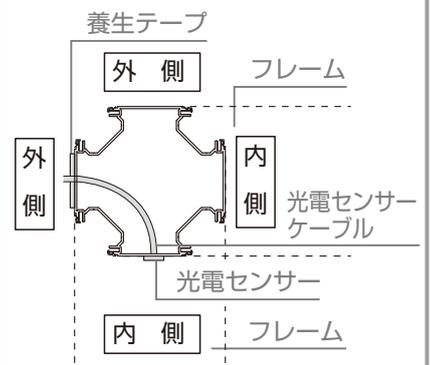
1: 光電センサーケーブルをφ25の穴に差込む

2: 光電センサーケーブルを柱の内部から上部へ取回す



お願い 1

- フレームの取付け時にケーブルを挟み込まないように外側へ溜めてください。



お願い 1

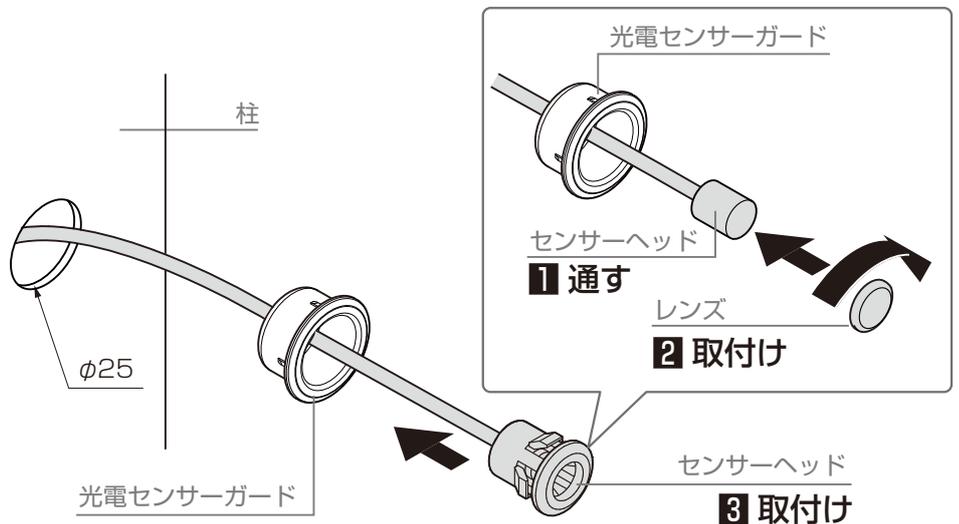
- 柱の中にベース用スリーブが入るため、引っかからないように光電センサーケーブルをたるみなく引っ張り、養生テープで留めておいてください。

7-2-4 光電センサーの取付け

1: センサーヘッドを光電センサーガードに通す

2: レンズをセンサーヘッドにネジ部で取付け

3: 組付けたセンサーヘッドを光電センサーガードに取付け

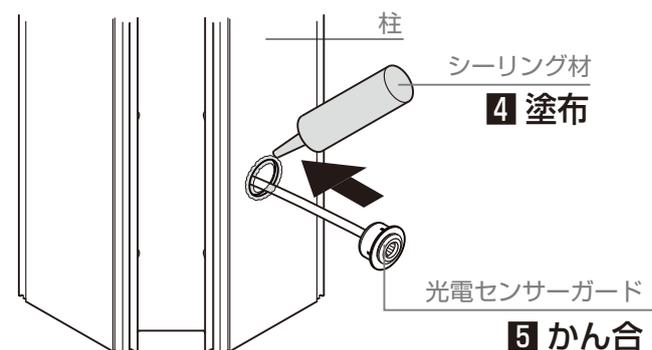


4: φ25穴と光電センサーガードの接触部にシーリングを塗布

5: 組付けたセンサーガードを柱のφ25穴にかん合で取付け

補足

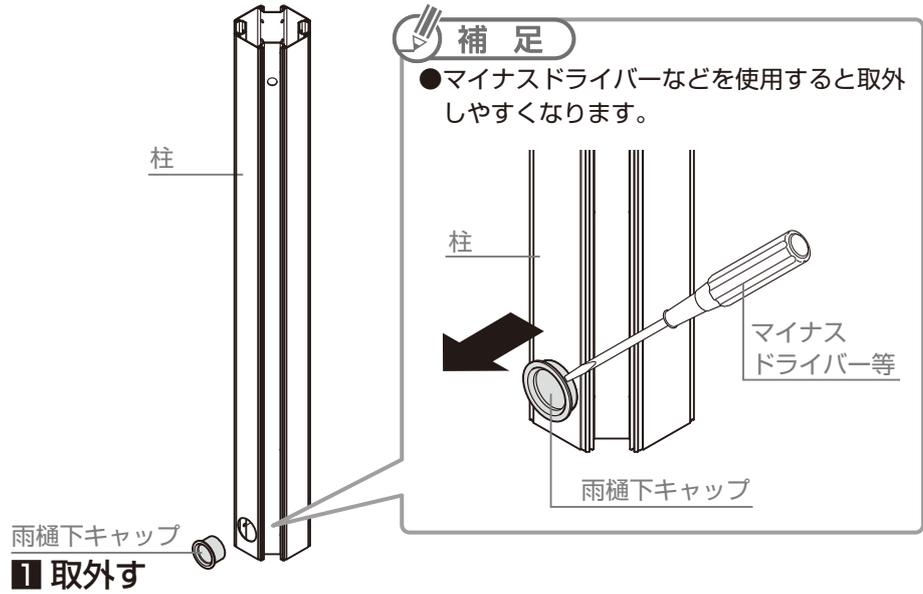
- はみ出たシーリング材は布等で拭き取ってください。



7-3 柱の加工(水下側柱の場合)

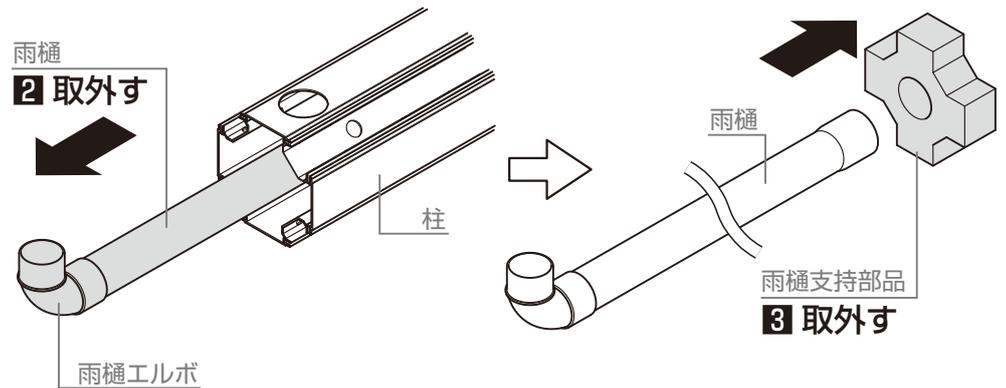
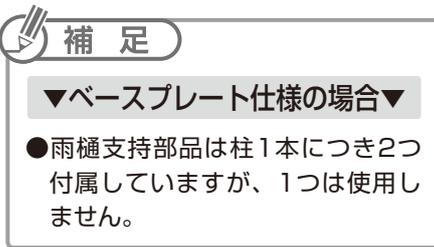
7-3-1 雨樋の取外し

1: 雨樋下キャップを柱から取外す



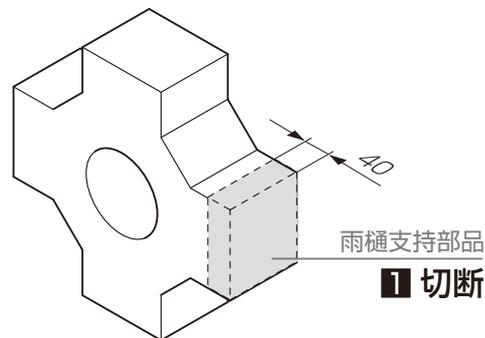
2: 雨樋を柱から取外す

3: 雨樋支持部品を雨樋から取外す



7-3-2 雨樋支持部品の加工

1: 雨樋支持部品を約40mm切断



7-3 柱の加工(水下側柱の場合)

つづき

7-3-3 雨樋の取付け

1: 雨樋支持部品を雨樋に戻す

お願い

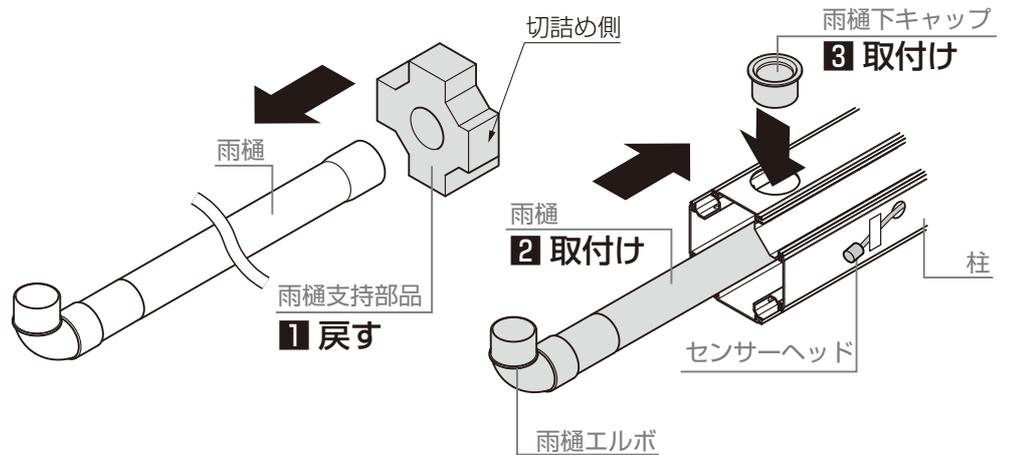
- 雨樋支持部品は、切詰め側がセンサーヘッドと同じ面になるように戻してください。

2: 雨樋を柱に取付け

3: 雨樋下キャップを柱に取付け

お願い

- 雨樋エルボの位置を調整してください。



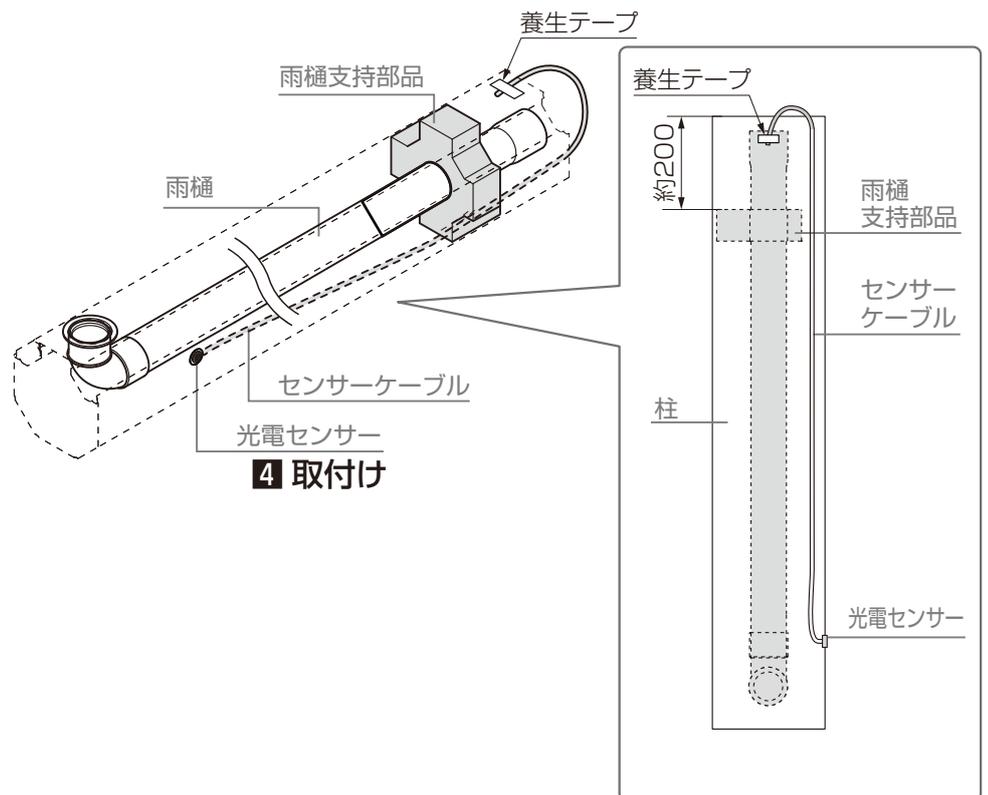
お願い

- センサーケーブルに干渉しないように注意して、雨樋支持部品の位置を調整してください。

4: 光電センサーを取付け

お願い

- P41 「7-2-4|光電センサーの取付け」を参照してください。



7 施工前の準備

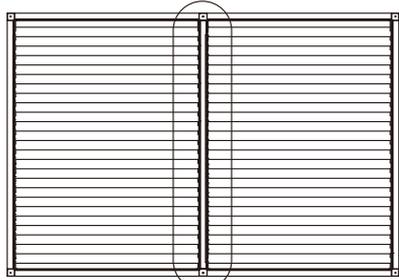
7-4 連棟用フレームの加工(W連棟、Lの字連棟、田の字連棟の場合)

7-4-1 フレームトップカバー、フレームの穴加工

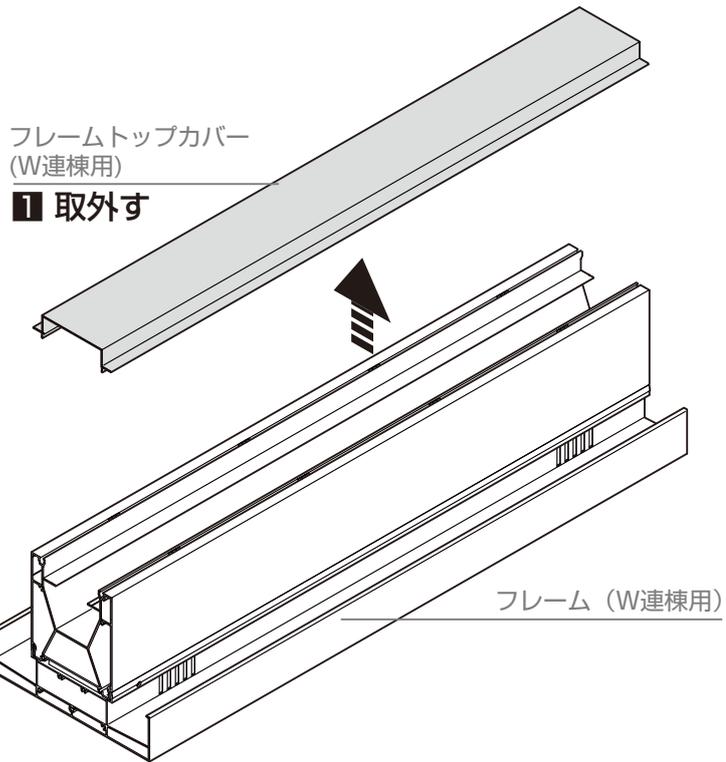
1: フレームトップカバー(W連棟用)を連棟用フレームから取外す

お願い

- フレーム(W連棟用)のみ加工が必要になります。L連棟時の場合は、フレームの加工は必要ありません。



フレーム(W連棟用)



フレームトップカバー(W連棟用)

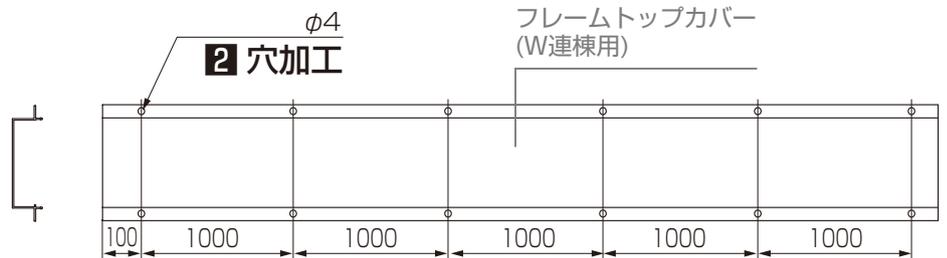
1 取外す

フレーム(W連棟用)

2: フレームトップカバー(W連棟用)に $\phi 4$ の穴加工

お願い

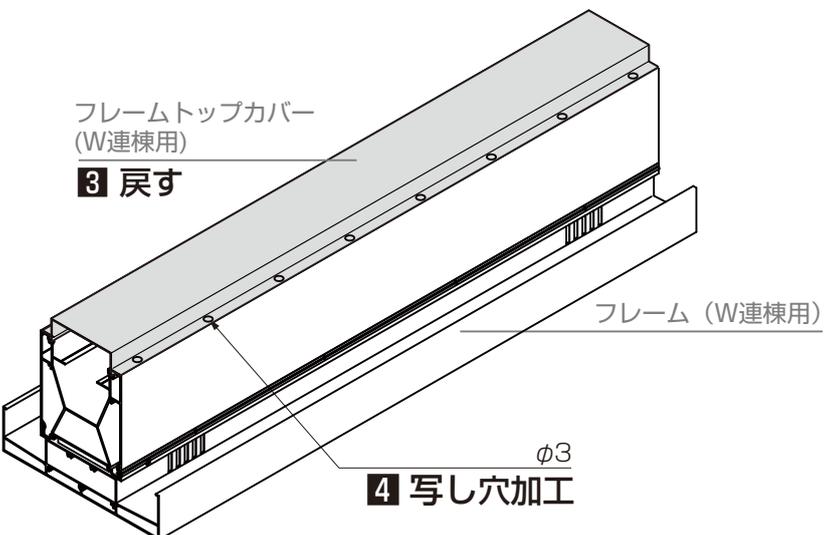
- 下穴は端部から100mm、ピッチ1000mm(片追い)に加工してください。



2 穴加工

フレームトップカバー(W連棟用)

3: フレームトップカバー(W連棟用)をフレーム(W連棟用)に戻す



フレームトップカバー(W連棟用)

3 戻す

フレーム(W連棟用)

4: 2で空けた穴を使ってフレーム(W連棟用)に $\phi 3$ の写し穴加工

お願い

- 穴加工後はフレームトップカバー(W連棟用)は固定し直さずに外してください。

4 写し穴加工

$\phi 3$

8 本体の施工

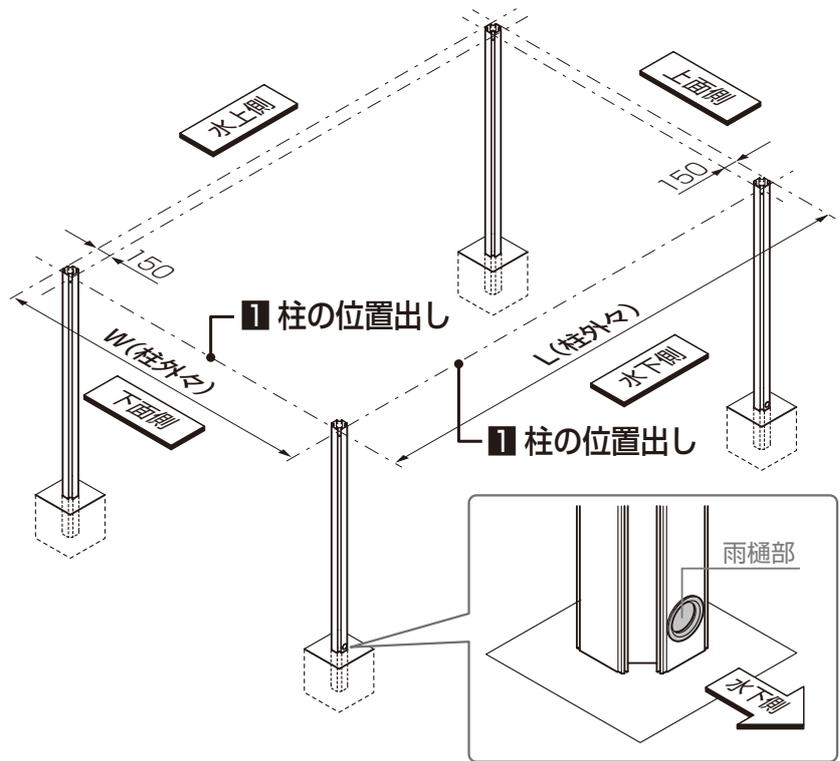
8-1 柱の位置出し

8-1-1 単体の柱位置出し

1: 柱を建てる位置を確認

お願い

- 柱が垂直に建っていない場合は、**8-3 対角の確認** を参照して、柱の垂直を調整してください。
- 位置出しの際は、柱の雨樋部が水
下側に向くように設置してください。

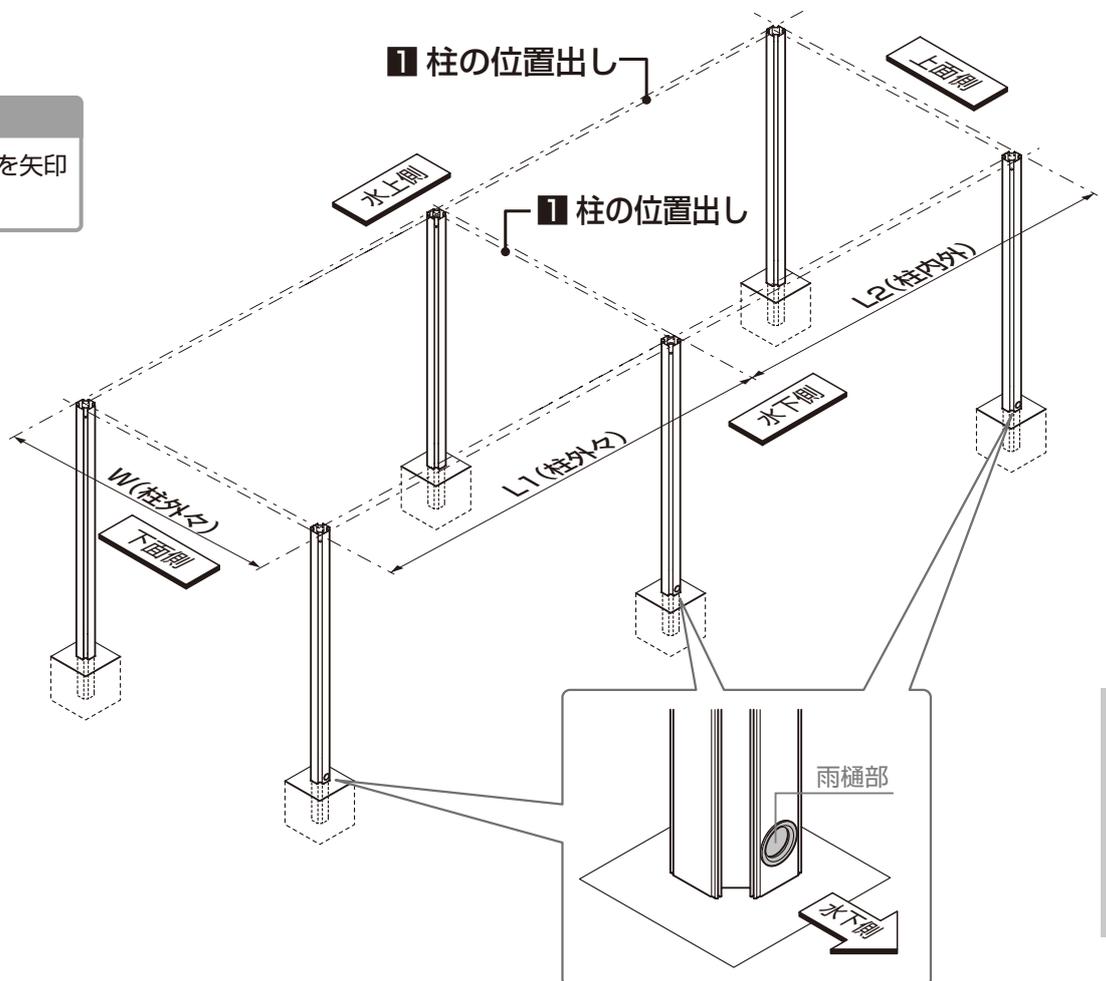


8-1-2 L連棟の柱位置出し

1: 柱を建てる位置を確認

お願い

- 連棟の場合は、柱の排水口を矢印
の方向に向けてください。

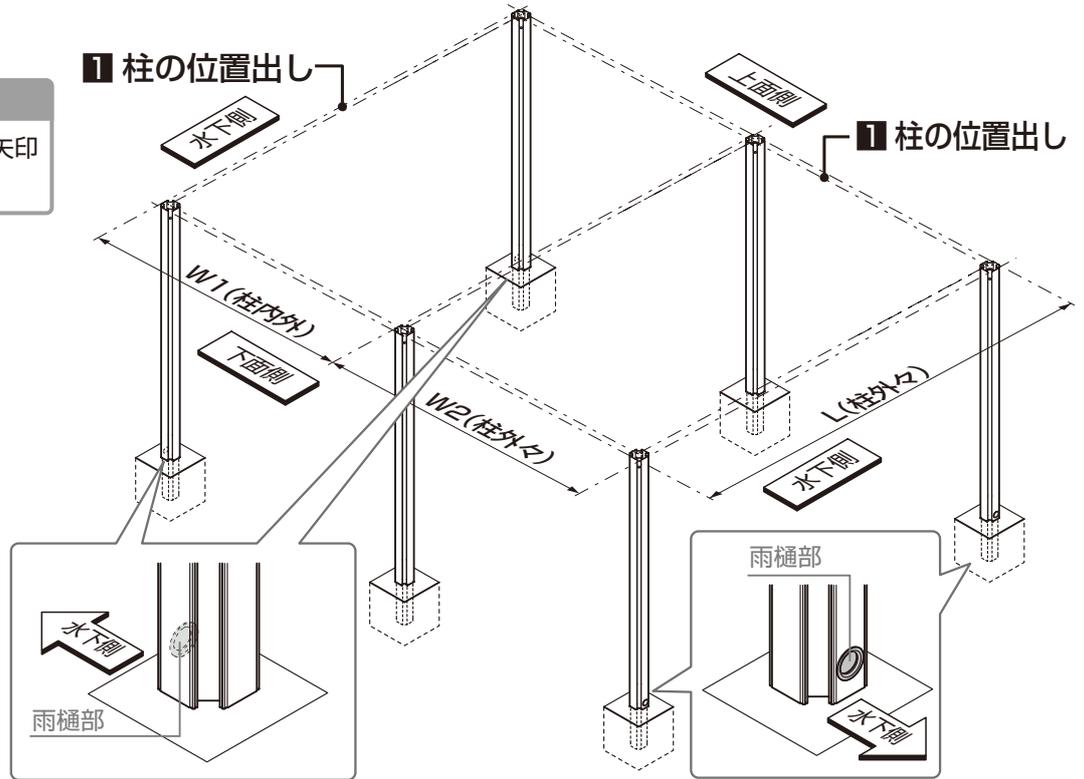


8-1 柱の位置出し

8-1-3 W連棟の柱位置出し

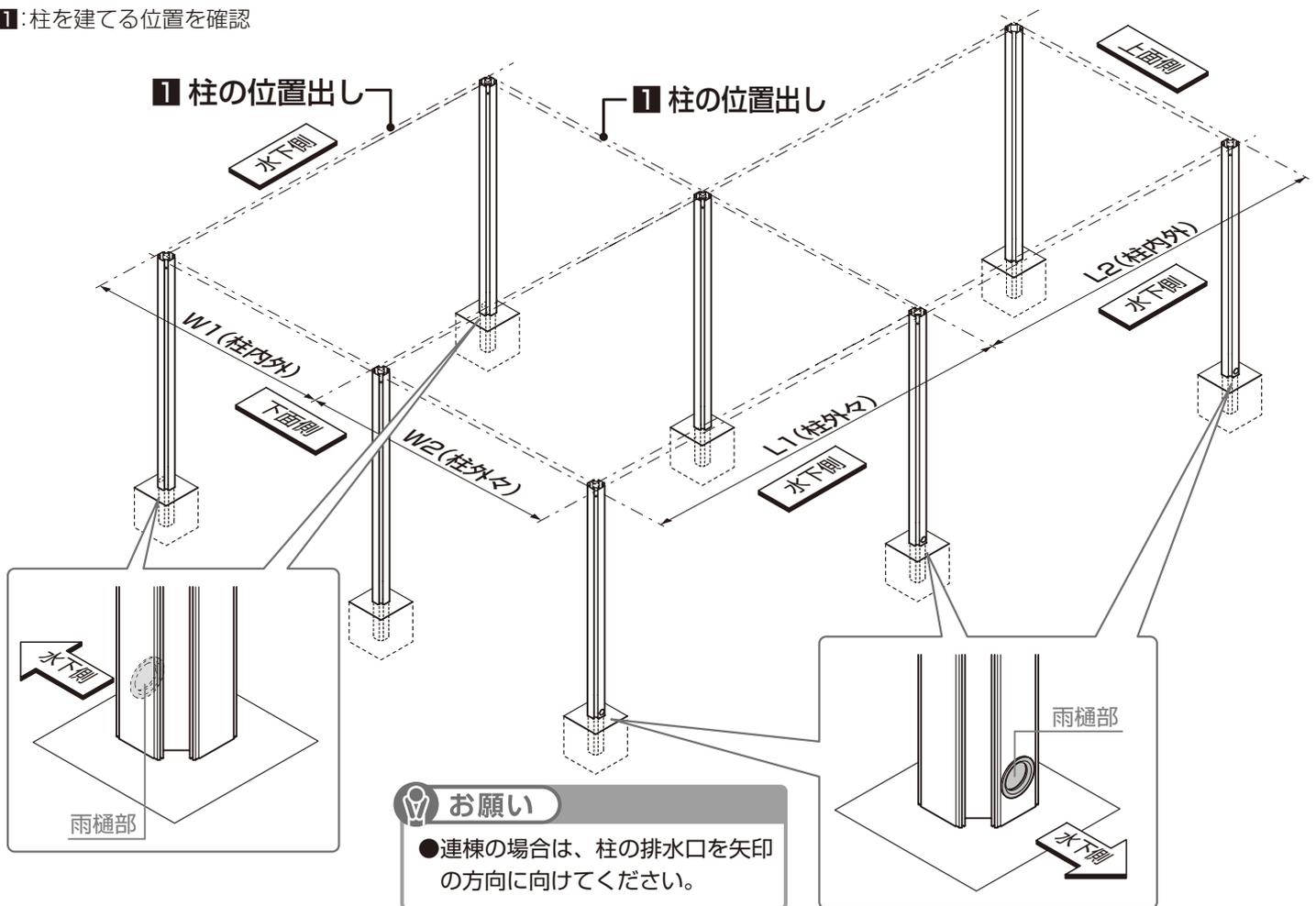
1: 柱を建てる位置を確認

お願い
●連棟の場合は、柱の排水口を矢印の方向に向けてください。



8-1-4 Lの字連棟の柱位置出し

1: 柱を建てる位置を確認



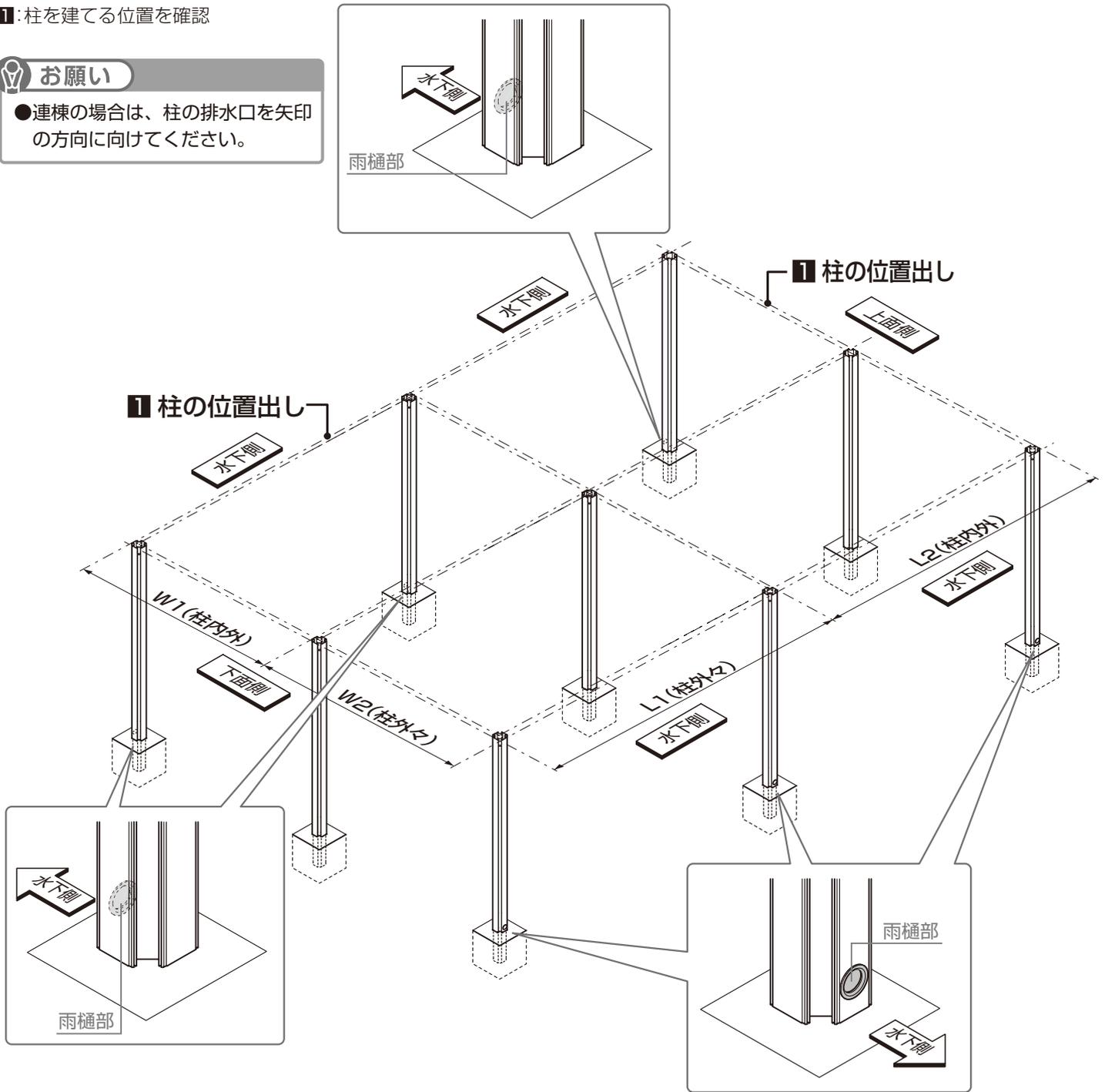
お願い
●連棟の場合は、柱の排水口を矢印の方向に向けてください。

8-1 柱の位置出し

8-1-5 田の字連棟の柱位置出し

1: 柱を建てる位置を確認

お願い
●連棟の場合は、柱の排水口を矢印の方向に向けてください。



8 本体の施工

8-2 柱の建込み

8-2-1 柱の切り詰め ▼ レベル調整のために現場で切り詰める場合 ▼

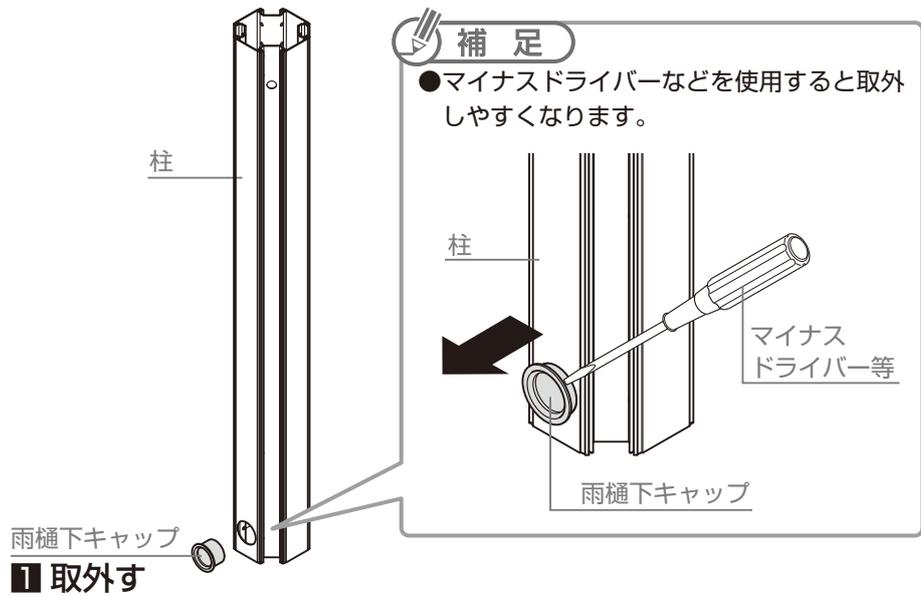
💡 お願い

●オプション「ガラスパネル」を使用する場合は、柱の切詰めはできません。

🔧 補足

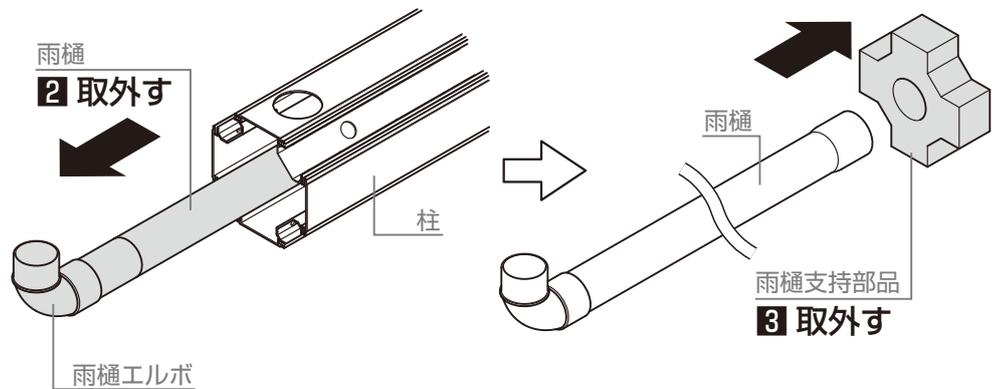
●本手順は「柱（水下側）」の切り詰め手順です。「柱（水上側）」は「**4**柱を切断」と「**5**柱に穴加工」のみ行なってください。

1: 雨樋下キャップを柱から取外す



2: 雨樋を柱から取外す

3: 雨樋支持部品を雨樋から取外す



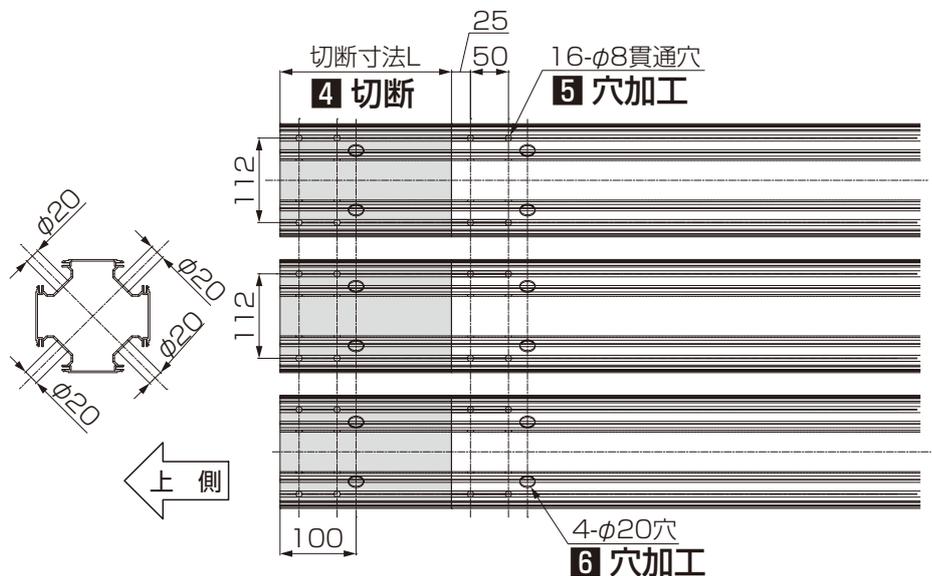
4: 柱を切断

💡 お願い

●必ず柱上部を切断してください。

5: 柱にφ8の貫通穴加工

6: 柱にφ20の穴加工



8-2 柱の建込み

つづき

8-2-1 柱の切り詰め ▼ レベル調整のために現場で切り詰める場合 ▼

つづき

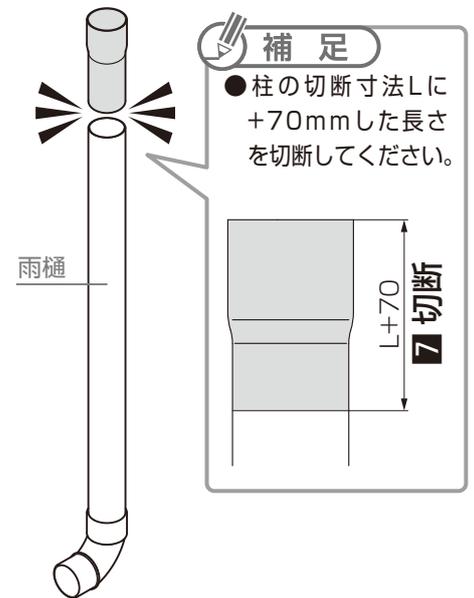
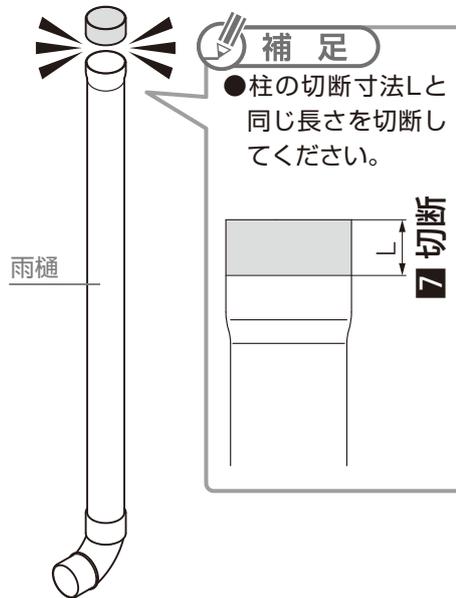
▼ Lが20mm未満の場合 ▼

▼ Lが20mm以上の場合 ▼

7: 雨樋を切断

お願い

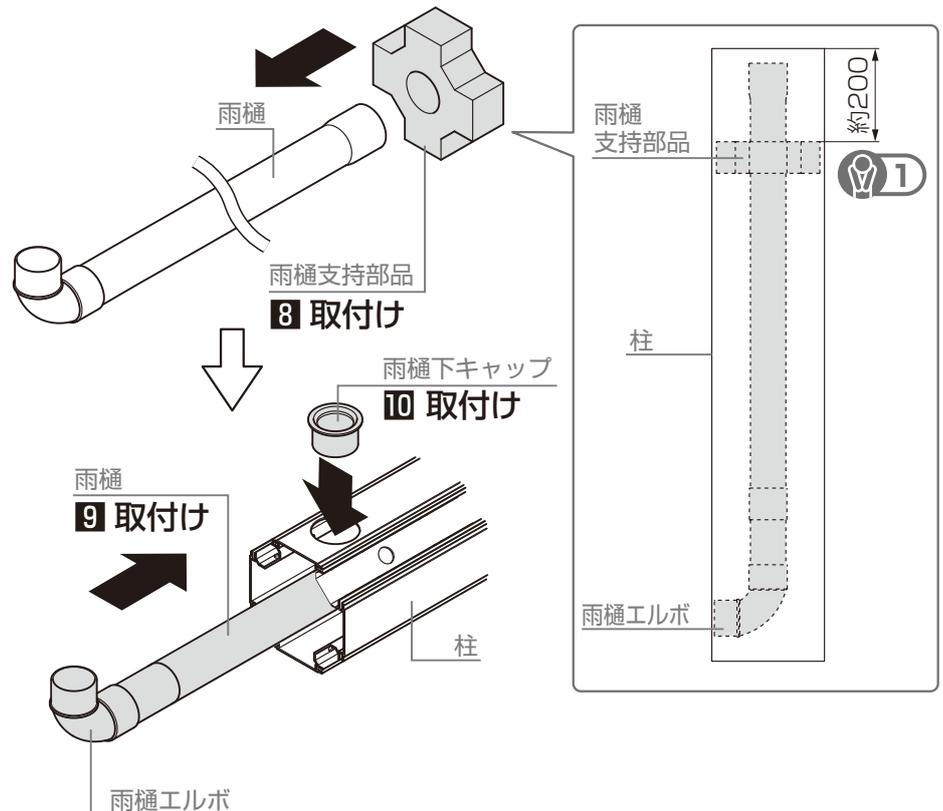
- 柱の切断寸法Lの長さによって切断寸法が異なります。



8: 雨樋支持部品を雨樋に取付け

お願い 1

- 雨樋支持部品の位置を調整してください。



9: 雨樋を柱に取付け

10: 雨樋下キャップを柱に取付け

お願い

- 雨樋エルボの位置を調整してください。

▼ Lが20mm以上の場合 ▼

11: 雨樋ジョイント材を雨樋に取付け

補足

- 雨樋ジョイント材の細い側を雨樋に挿入してください。

雨樋ジョイント材

11 取付け



8 本体の施工

8-2 柱の建込み

●柱を切り詰める場合は |8-2-1| 柱の切り詰め を参照してください。

●ガラスパネルを設置する場合は柱の建込みを行う前に |1-8-3| ガラスパネルを設置後、土間・タイル仕上げを行う場合 を参照してください。

8-2-2 柱の固定

▼ 埋め込み仕様の場合 ▼

▼ インナーベースプレート仕様の場合 ▼

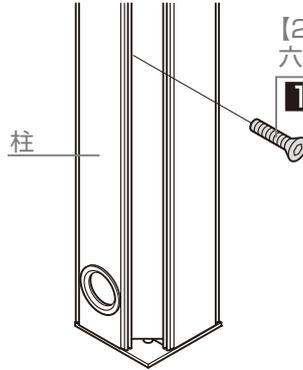
● 仮止めネジの取外し

1: 柱を固定している [20c] を取外す

補足 1

●取外すネジは1本です。

2: 柱をベース用スリーブから引抜く

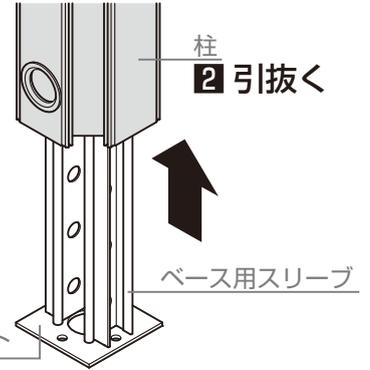


[20c] M8×25
六角穴付きサラボルト

1 取外す



インナー
ベースプレート

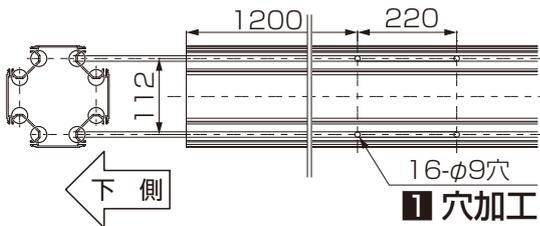


柱
2 引抜く

ベース用スリーブ

● 柱の加工

1: 柱にφ9の穴加工



16-φ9穴
1 穴加工

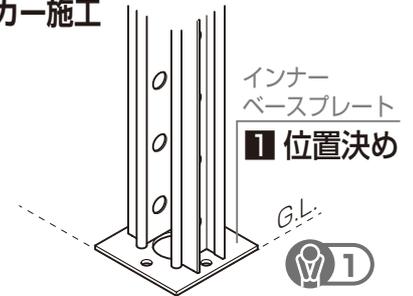
● 柱の位置出しとアンカー施工

1: インナーベースプレートまたはベースプレートを位置決め

2: 基礎にφ10.5の下穴をあける

3: 下穴にアンカーを打込み

4: ナットの取外し



インナー
ベースプレート

1 位置決め



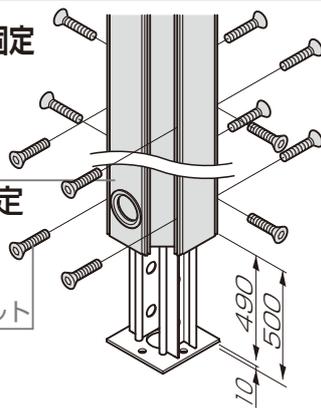
▲ インナーベースプレート仕様の場合 ▲

● 柱とベース用スリーブの固定

1: 柱をベース用スリーブに [20c] で固定

柱
1 固定

[20c] M8×25
六角穴付きサラボルト



490
500
10

● 柱の建込み、固定

1: PF管と電源線をベース用スリーブ内に立上げ

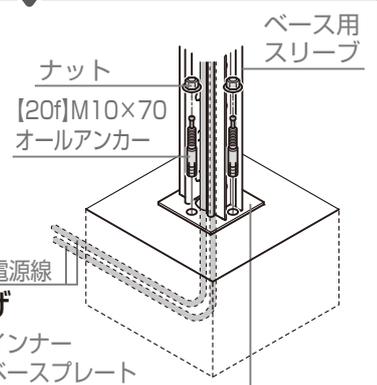
2: インナーベースプレートをアンカーにナットで固定

PF管および電源線

1 立上げ

インナー
ベースプレート

2 固定



ベース用
スリーブ

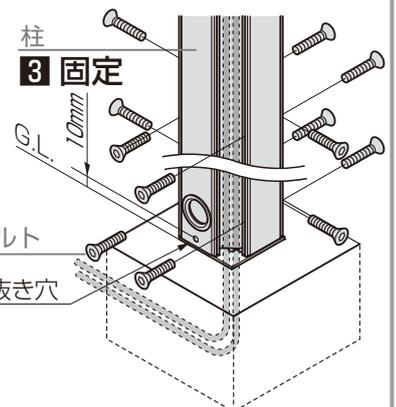
ナット
[20f] M10×70
オールアンカー

3: 柱をベース用スリーブに [20c] で固定

柱
3 固定

[20c] M8×25
六角穴付きサラボルト

φ6水抜き穴



● 柱の建込み

1: PF管と電源線を柱内に立上げ

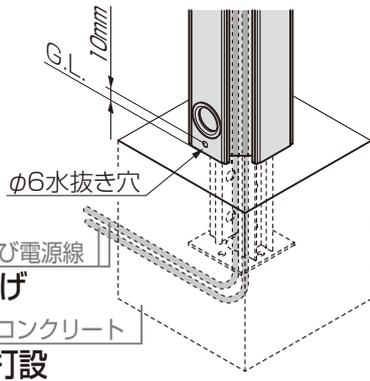
2: 基礎コンクリートを打設

PF管および電源線

1 立上げ

基礎コンクリート

2 打設



φ6水抜き穴

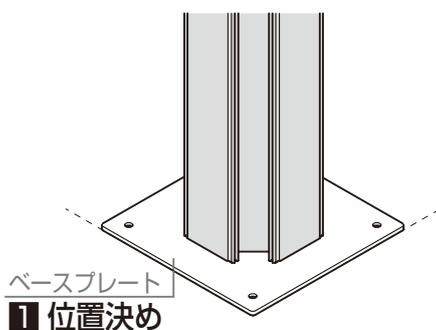
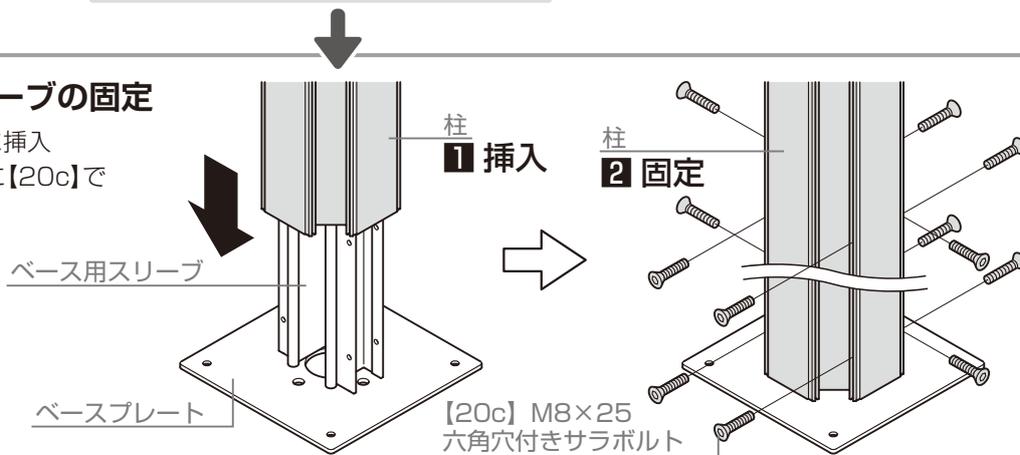
G.L. 10mm



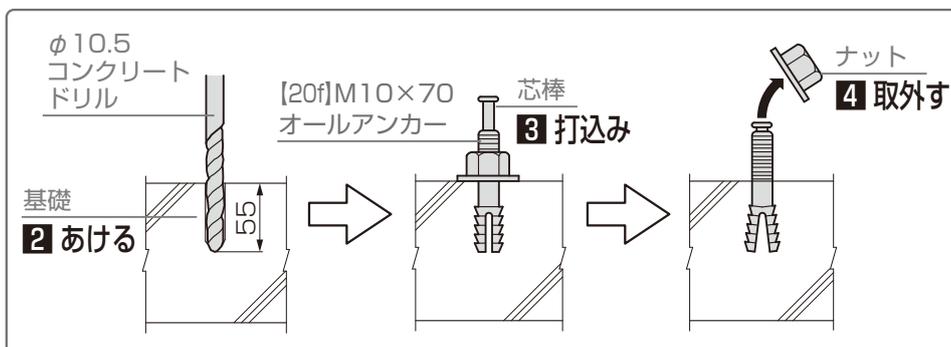
▼ ベースプレート仕様の場合 ▼

●柱とベース用スリーブの固定

- ❶: 柱をベース用スリーブに挿入
- ❷: 柱をベース用スリーブに【20c】で固定

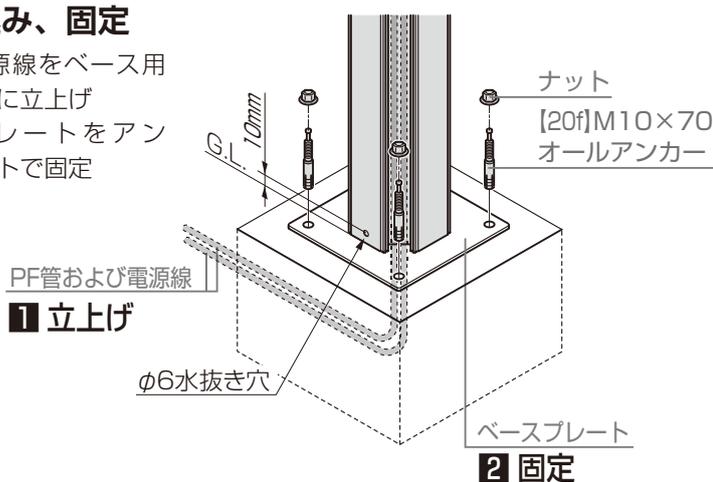


▲ ベースプレート仕様の場合 ▲



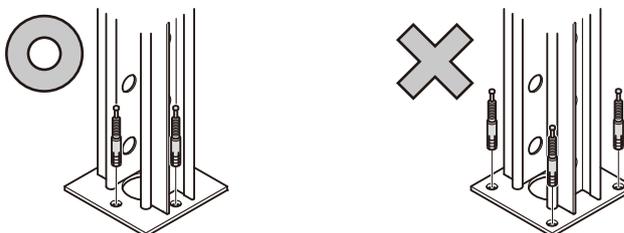
●柱の建込み、固定

- ❶: PF管と電源線をベース用スリーブ内に立上げ
- ❷: ベースプレートをアンカーにナットで固定



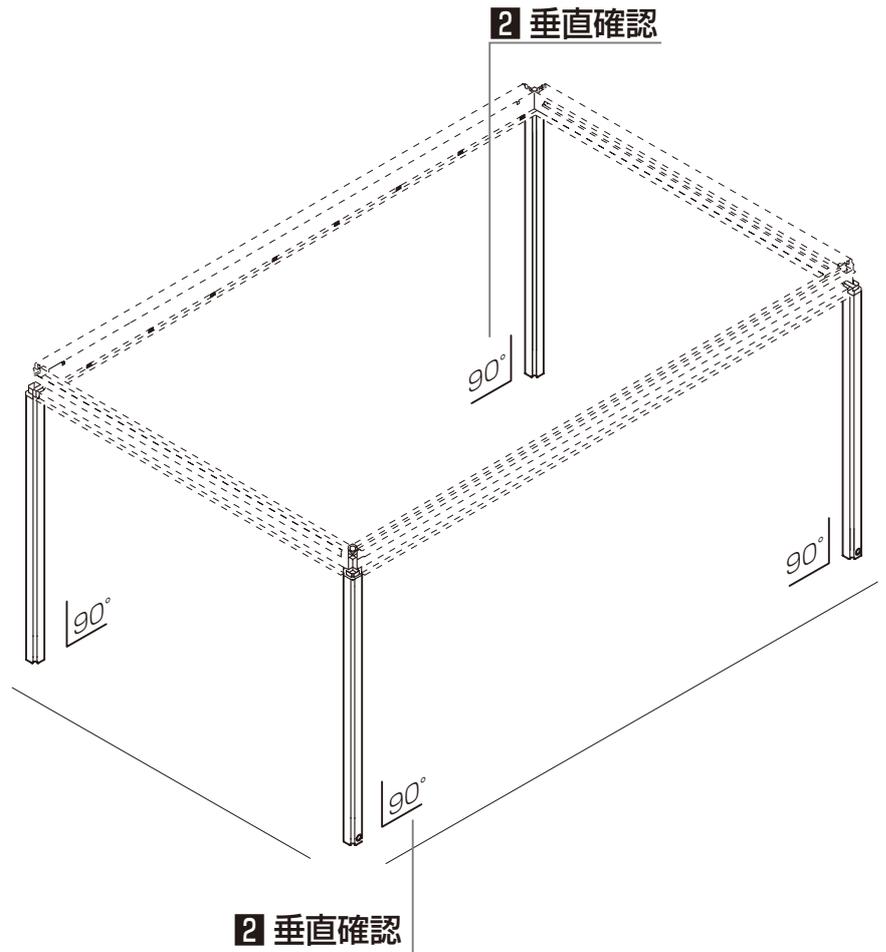
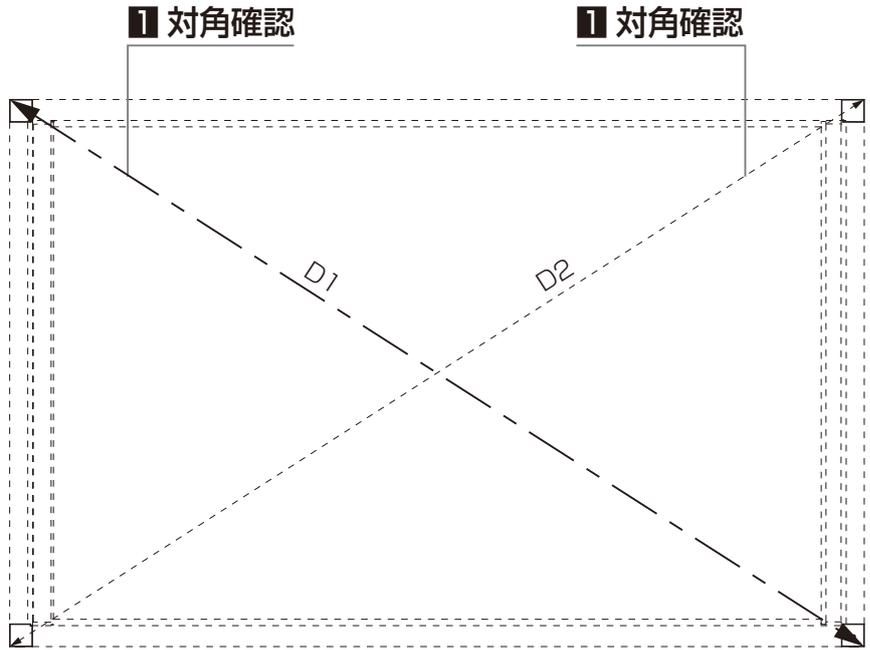
💡 お願い 1

●インナーベースプレート仕様の場合、アンカーをプレートの角に打込まないでください。柱LEDおよびロールスクリーンガイドレールが干渉するおそれがあります。



8-3 対角の確認

- 1: 柱の対角が等しいか確認する
- 2: 柱の垂直を確認する



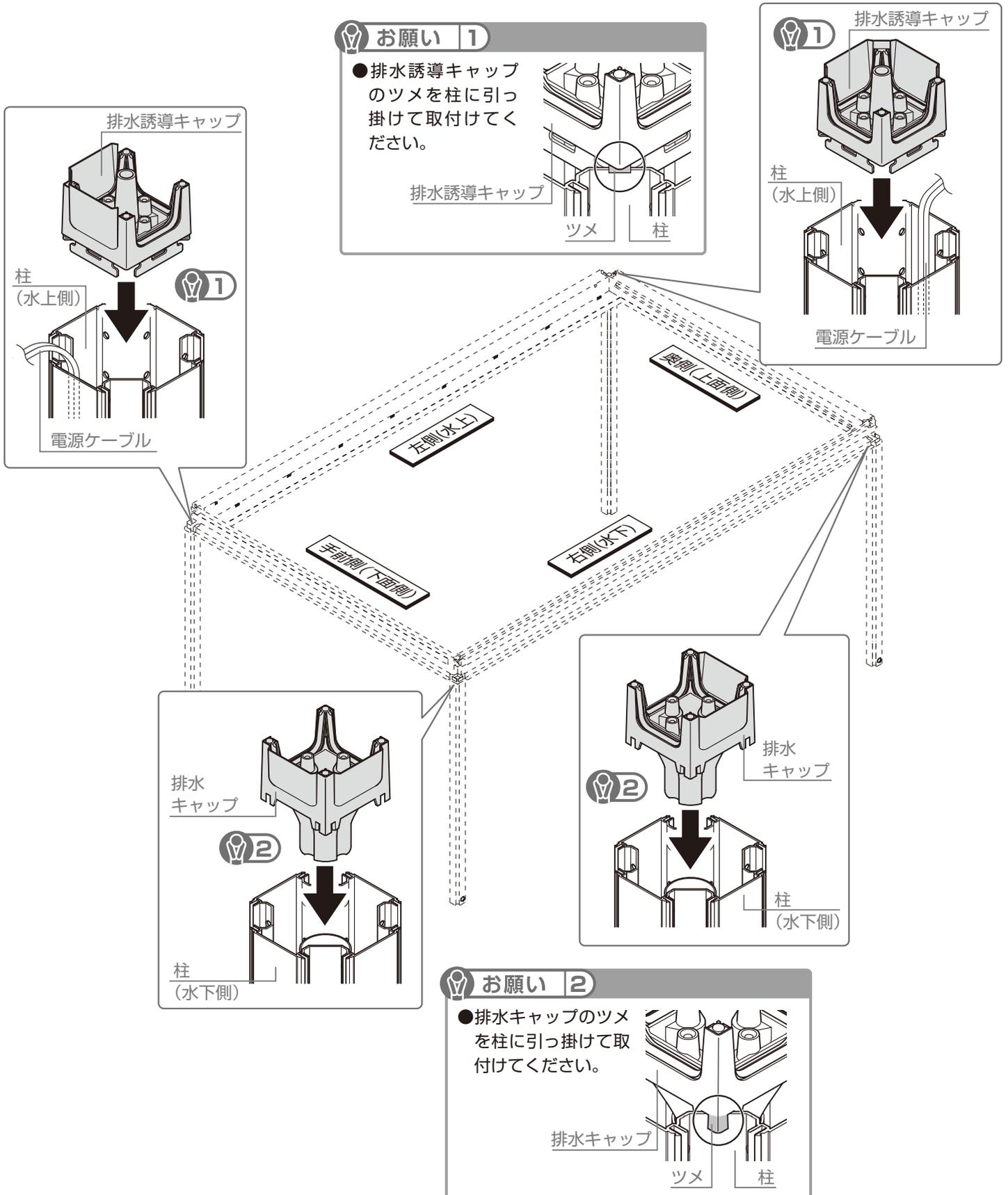


8-4 排水キャップ、排水誘導キャップの取付け(単体の場合)

8-4-1 取付け位置の確認

補足

●水の流れを制御するために、各柱の排水キャップと排水誘導キャップの位置、向きは決まっています。

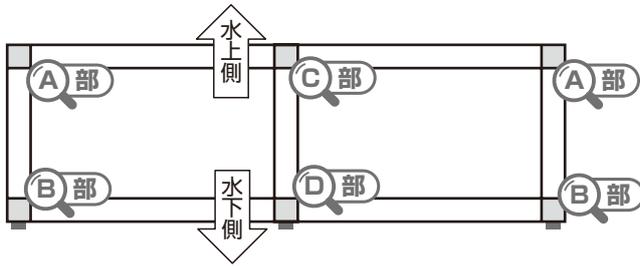


8 本体の施工

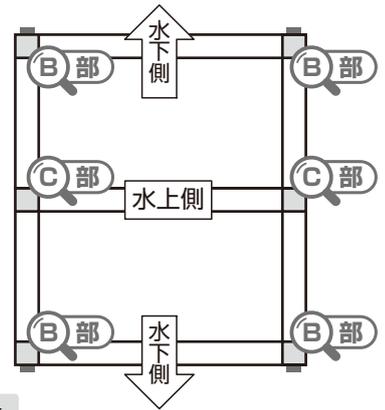
8-4 排水キャップ、排水誘導キャップの取付け(連棟の場合)

8-4-2 取付け位置の確認

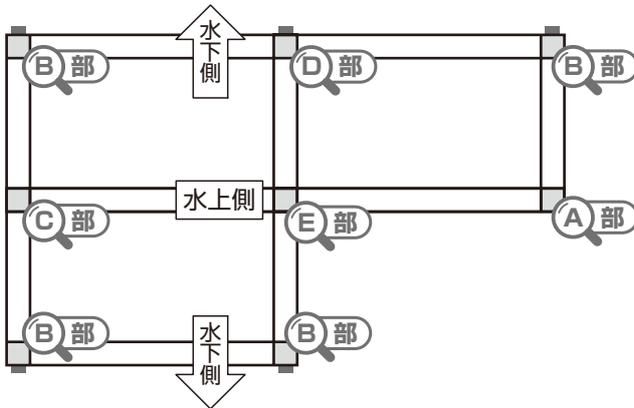
▼ L連棟の場合 ▼



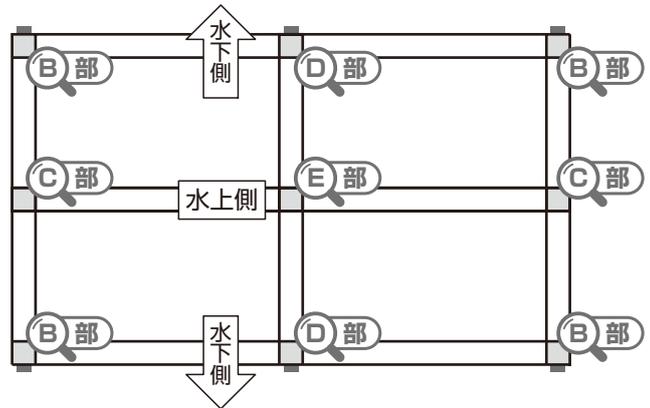
▼ W連棟の場合 ▼



▼ Lの字連棟の場合 ▼



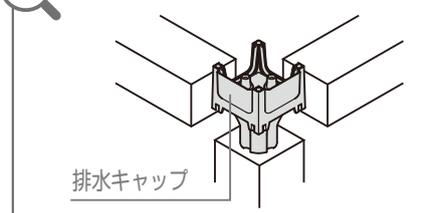
▼ 田の字連棟の場合 ▼



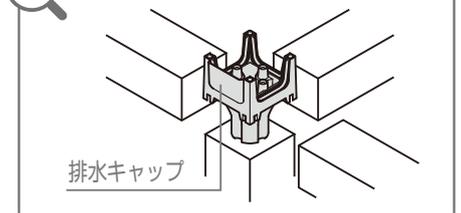
お願い

- 連棟にする際は、排水キャップと排水誘導キャップの取付け位置を確認してください。

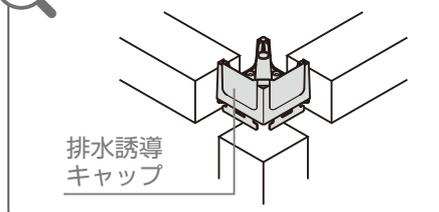
B部詳細図



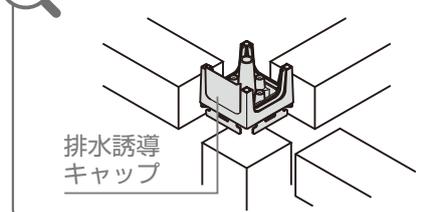
D部詳細図



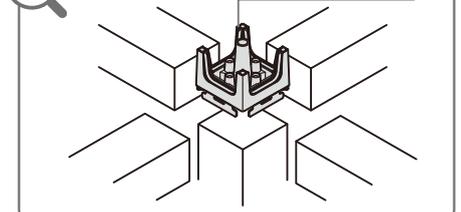
A部詳細図



C部詳細図



E部詳細図



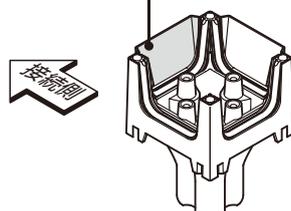
8-4-3 排水キャップと排水誘導キャップの加工

- 1: 排水キャップ、排水誘導キャップの側面を切取る
- 2: 排水誘導キャップを切欠く

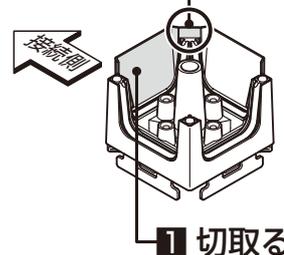
▼ 排水キャップの場合 ▼

▼ 排水誘導キャップの場合 ▼

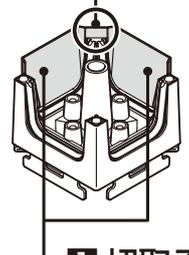
1 切取る



2 切欠く



2 切欠く



1 切取る

1 切取る

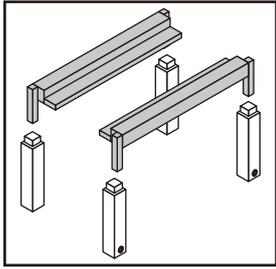
お願い

- 連棟の接合部分となる排水キャップと排水誘導キャップには加工が必要です。



8-5 フレームの取付け(単体の場合)

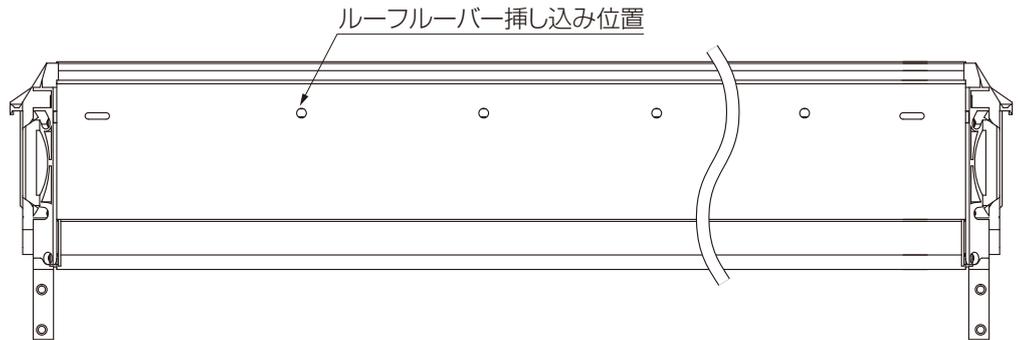
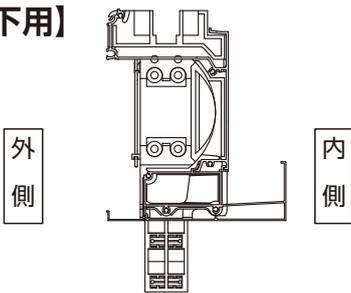
8-5-1 フレームの取付け(水上、水下側)



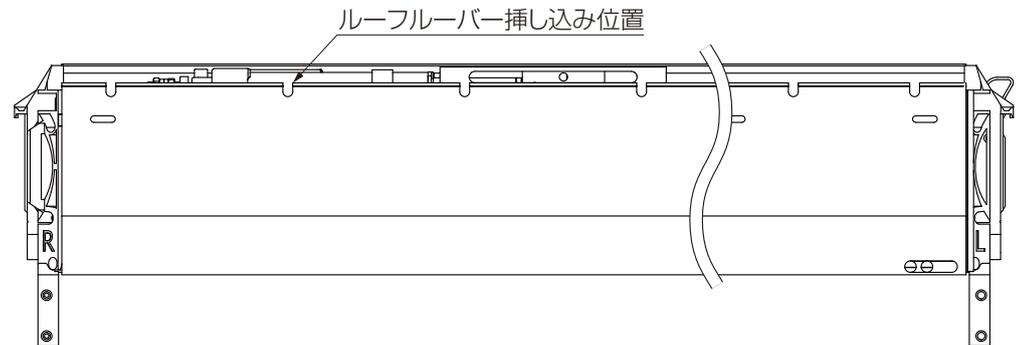
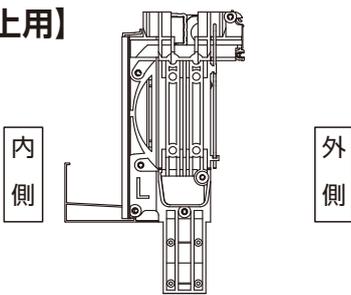
💡 お願い

- 水上用と水下用では、ルーフルーバーの挿込み位置が違います。フレームの穴加工位置を確認して取付けてください。
- フレームは「水上、水下側」から取付けてください。「下面、上面側」を先に取付けると干渉しフレーム（水上、水下側）が取付けられません。

【水下用】



【水上用】

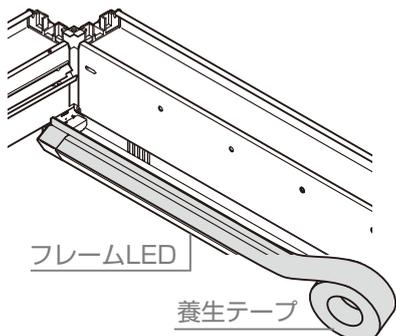


❶: フレーム端部のブラケットを柱のソケットに差し込む

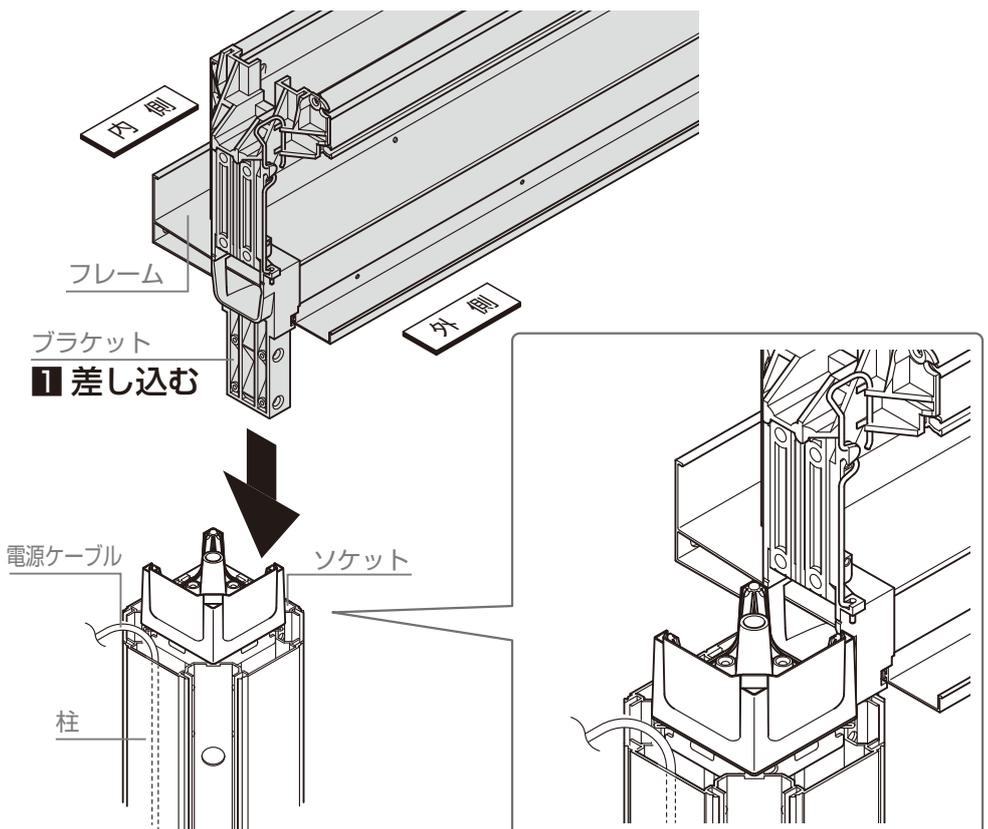
💡 お願い

▼フレームLEDを取付ける場合▼

- 雨水の浸入を防ぐため、LEDの上面とフレームの接続部を養生してください。



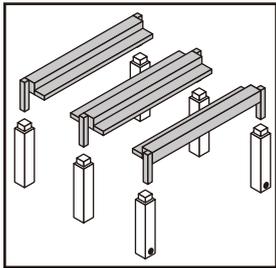
- すべての施工が完了したらはがしてください。



8 本体の施工

8-5 フレームの取付け(連棟の場合)

8-5-2 フレームの取付け(水上、水下側)



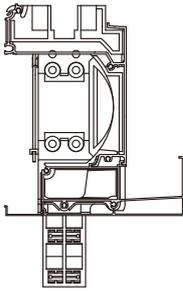
補足

- 連棟の場合は、連結部が水上側になります。

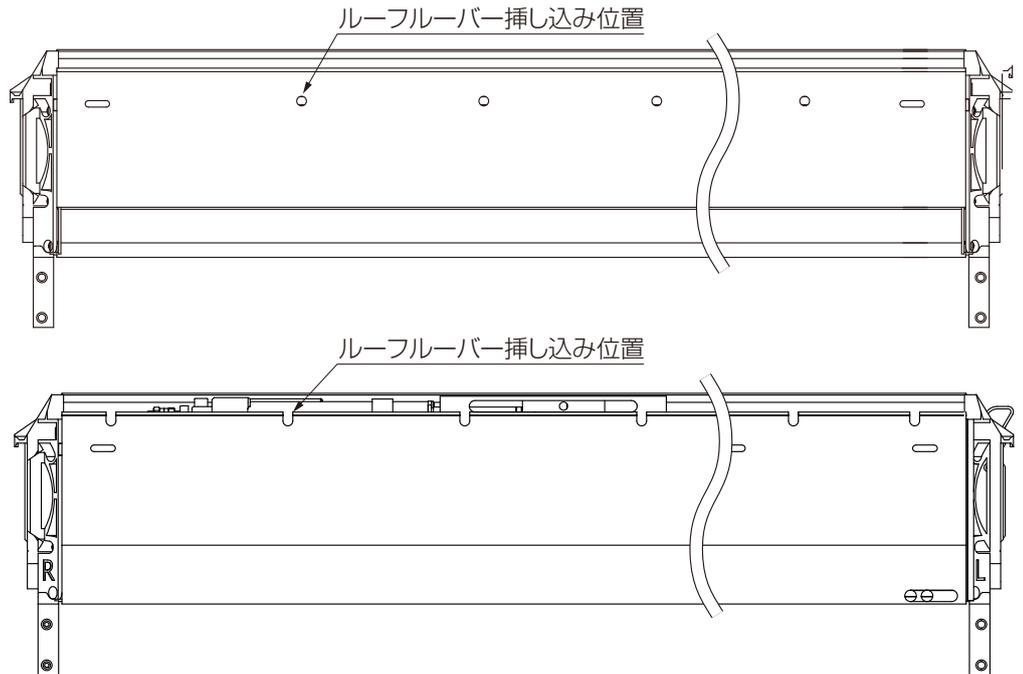
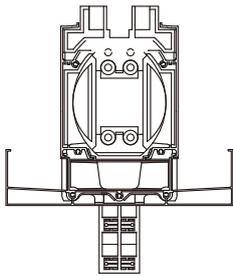
お願い

- フレームは「水上、水下側」から取付けてください。「下面、上面側」を先に取付けると干渉しフレーム(水上、水下側)が取付けられません。

【水下用】



【水上用】(連結部)

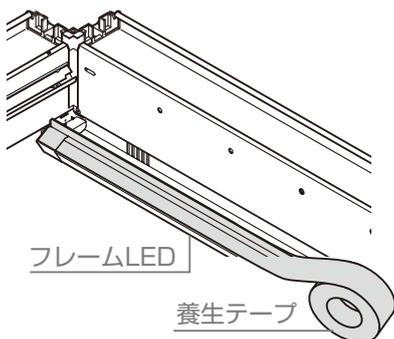


- 1: フレーム端部のブラケットを柱のソケットに差し込む

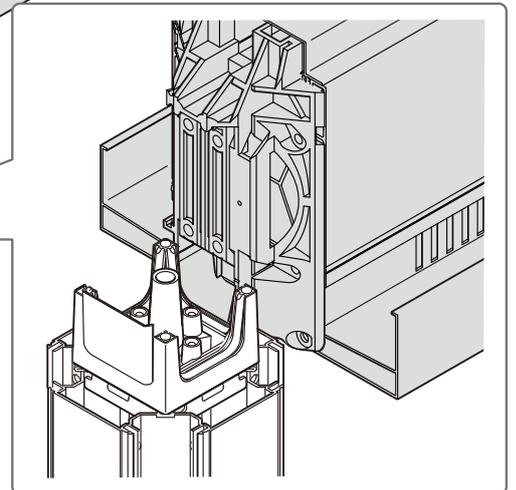
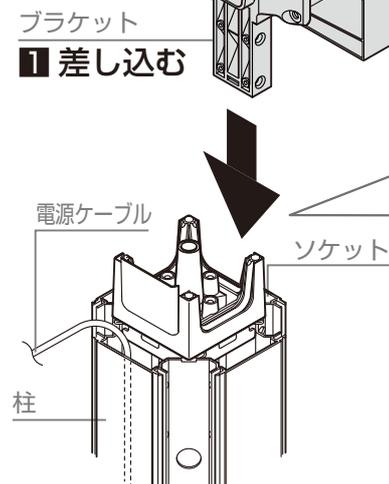
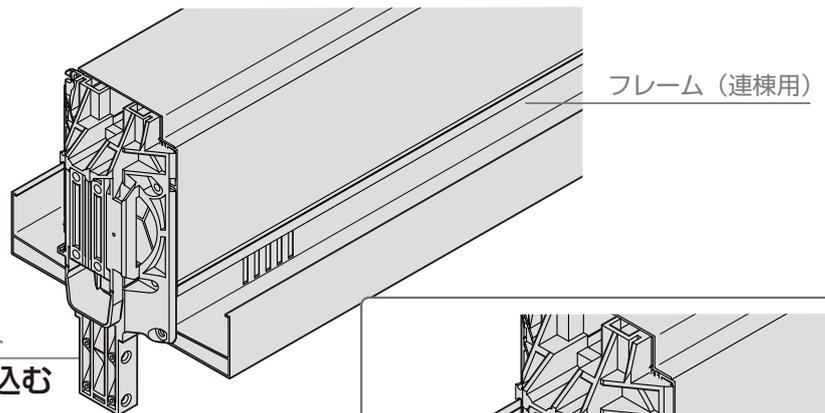
お願い

▼フレームLEDを取付ける場合▼

- 雨水の浸入を防ぐため、LEDの上面とフレームの接続部を養生してください。

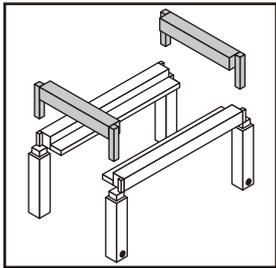


- すべての施工が完了したらはがしてください。



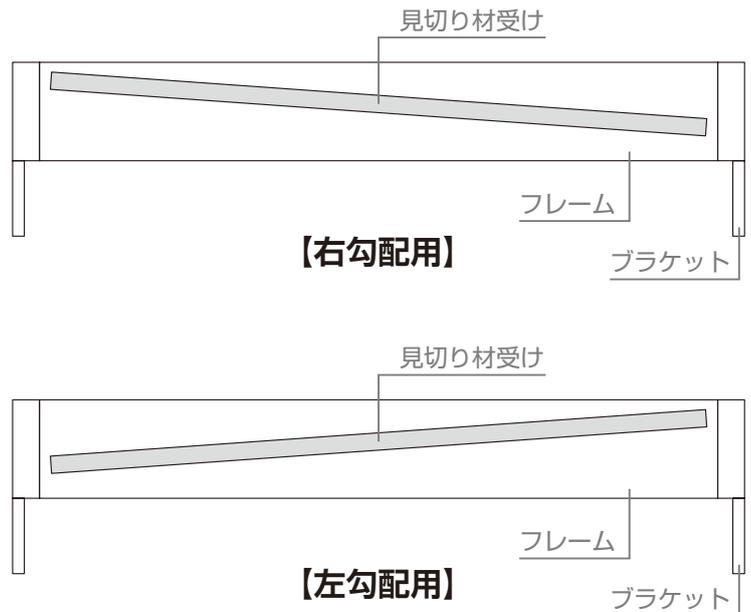
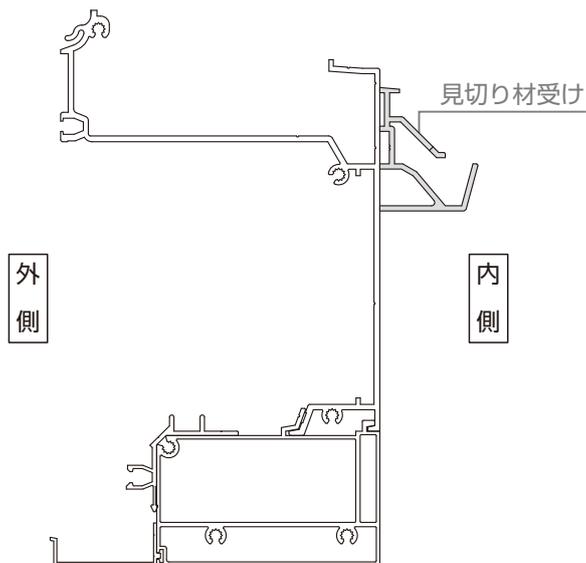
8-5 フレームの取付け(単体の場合)

8-5-3 フレームの取付け(下面側、上面側)



お願い

- 右勾配用と左勾配用では、見切り材受けの向きが違います。フレームに付いている見切り材受けの向きを確認して取付けてください。
- フレームは「水上、水下側」から取付けてください。「下面、上面側」を先に取付けると干渉しフレーム(水上、水下側)が取付けられません。

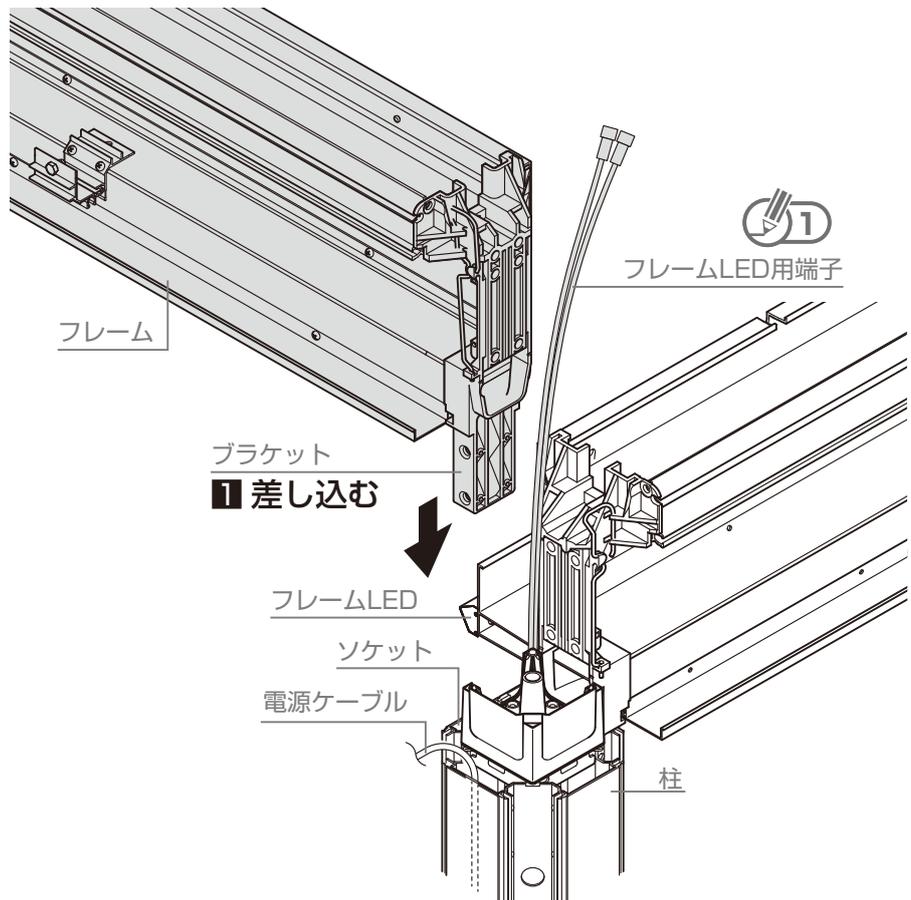


1: フレーム端部のブラケットを柱のソケットに差し込む

補足 1

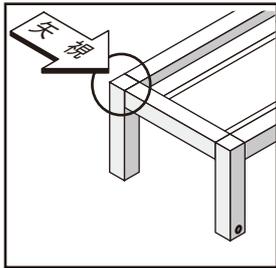
▼ フレームLEDを取付ける場合 ▼

- フレームLED端子をフレーム同士で挟まないようにとり回し、ブラケットをソケットに差し込んでください。



8-5 フレームの取付け

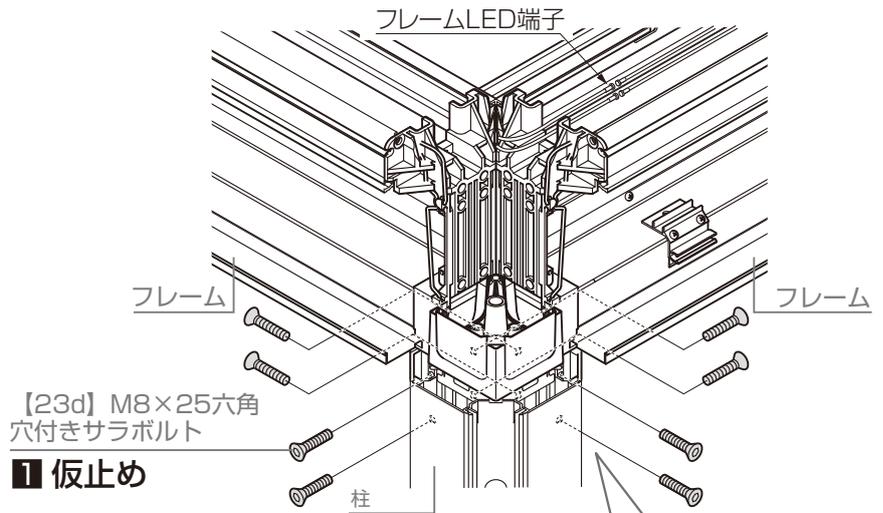
8-5-4 柱とフレームの仮止め



1: 柱とフレームを[23d]で仮止め

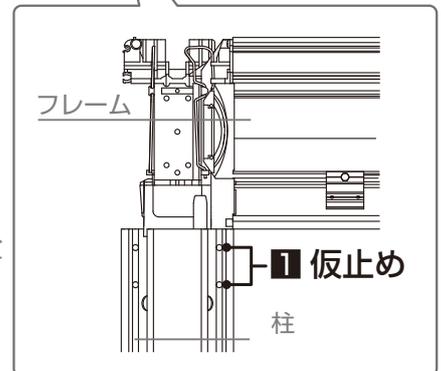
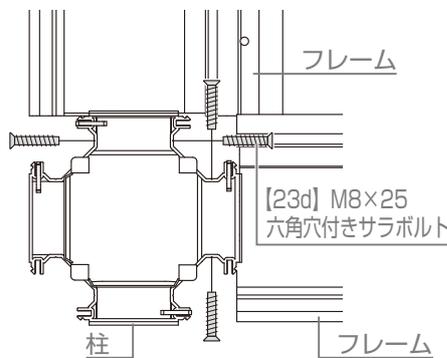
補足

- 1つの柱につき、8本のネジで仮止めします。

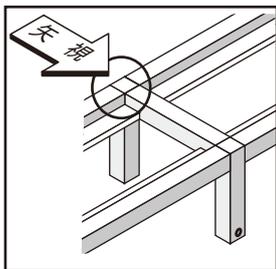


[23d] M8×25六角穴付きサラボルト

1 仮止め



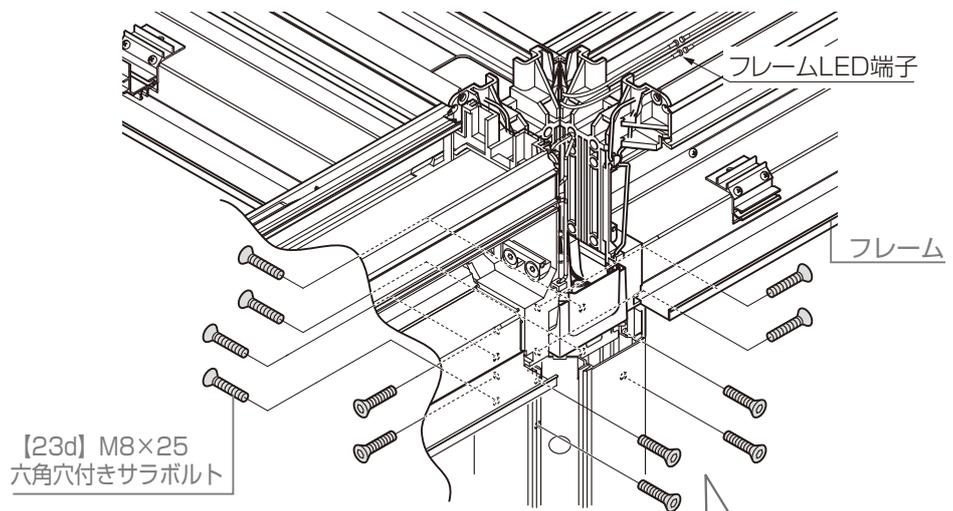
8-5-5 柱とフレームの仮止め ▼ 連棟タイプの場合 ▼



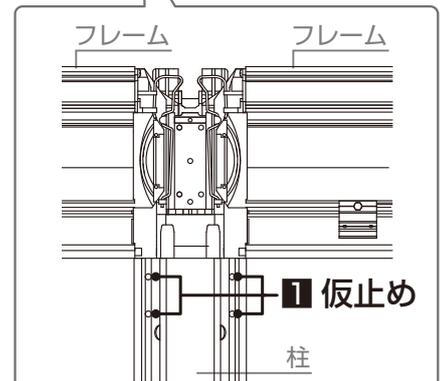
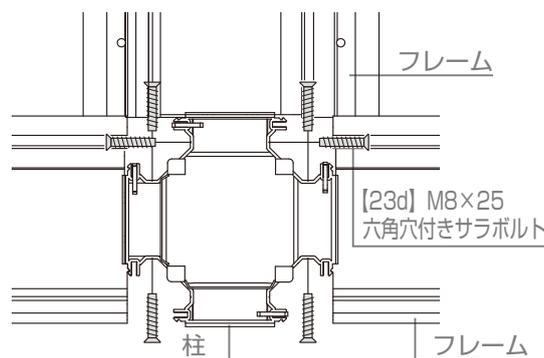
1: 柱とフレームを[23d]で仮止め

補足

- 1つの柱につき、12本のネジで仮止めします。



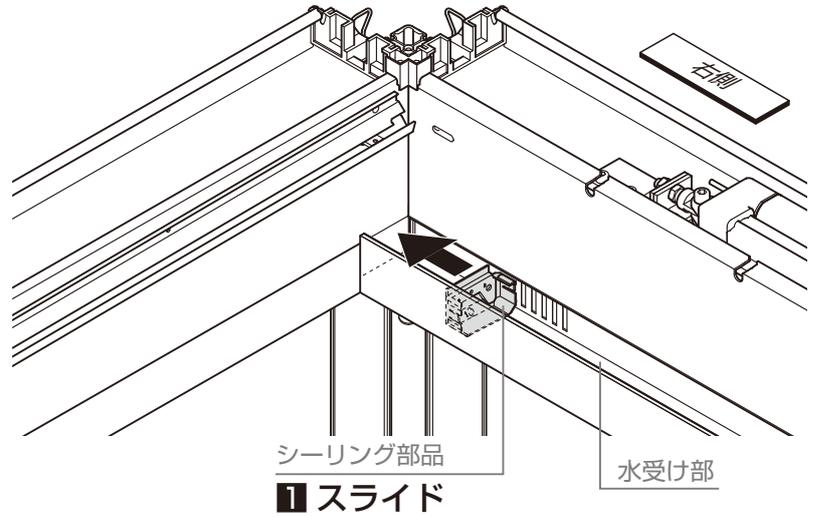
[23d] M8×25六角穴付きサラボルト



8-5 フレームの取付け

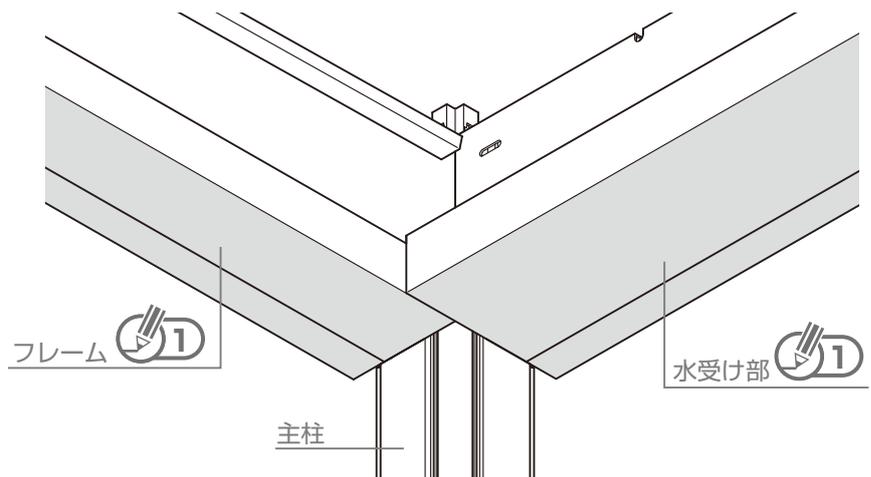
8-5-6 シーリング部品の取付け

①: 水受け部にあるシーリング部品の外側にスライド



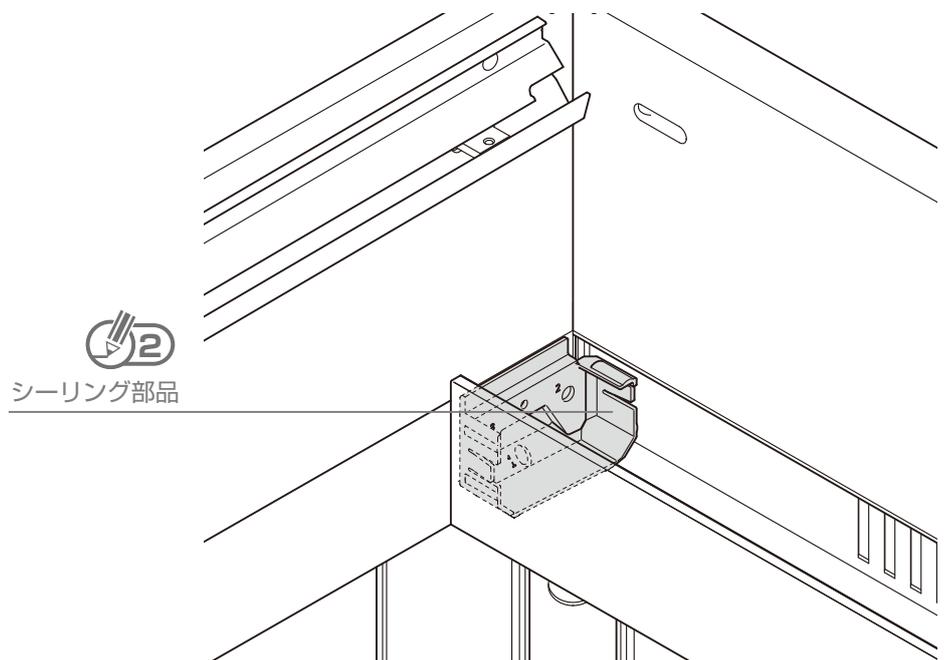
補足 ①

● 水受け部の底と、フレームの底が平らになるようにしてください。



補足 ②

● シーリング部品は各水受け部の両端に取付けます。



8-5 フレームの取付け

8-5-7 シーリング部品のシーリング

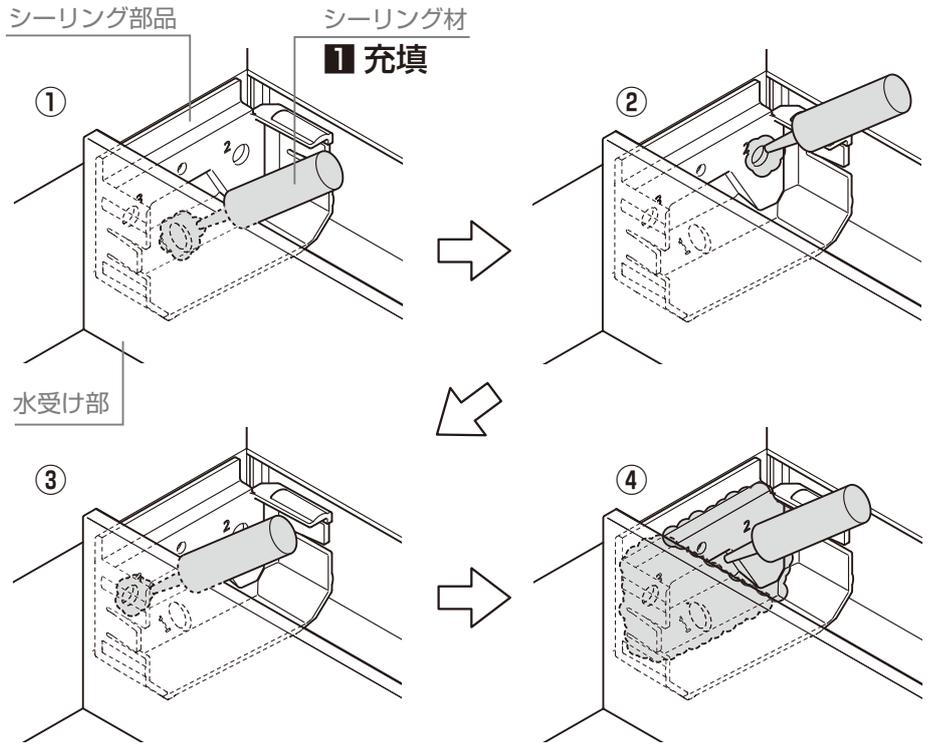
❶:シーリング部品に表示されている数字順に充填

お願い

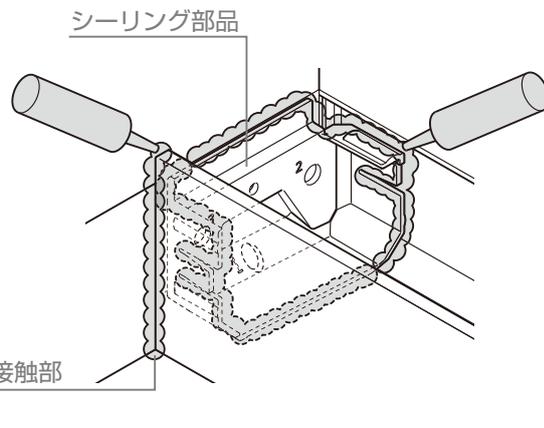
- シーリング部品の数字は、どの順番で埋めるかを示しています。必ず順番どおりに行ってください。
- シーリング部品から余分なシーリング材がはみ出さないようにしてください。

補足

- 指定のシーリング材を使用してください。

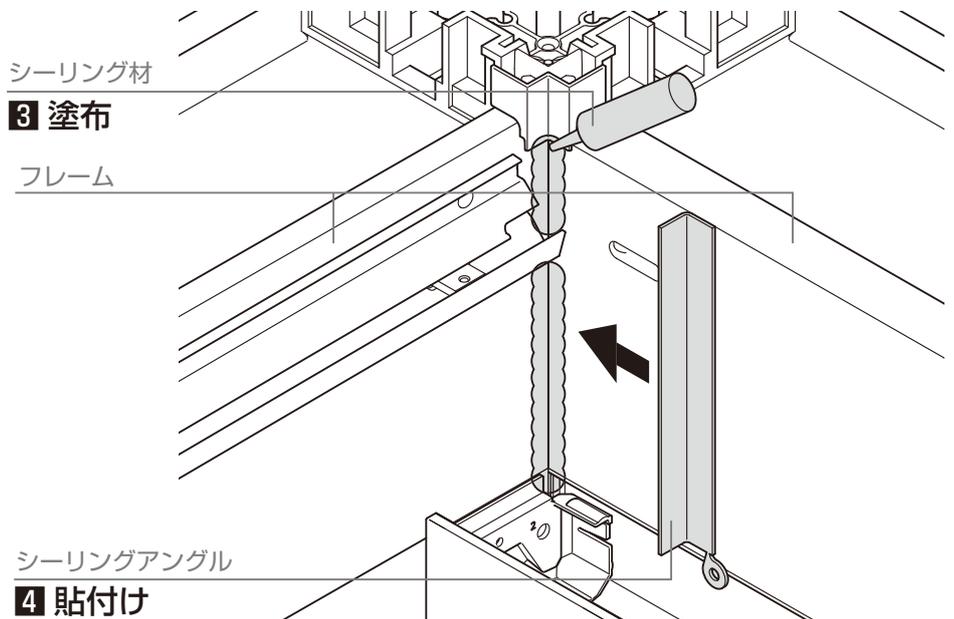


❷:シーリング部品の接触部とフレームの接触部にシーリングを塗布



❸:フレームの角にシーリングを塗布

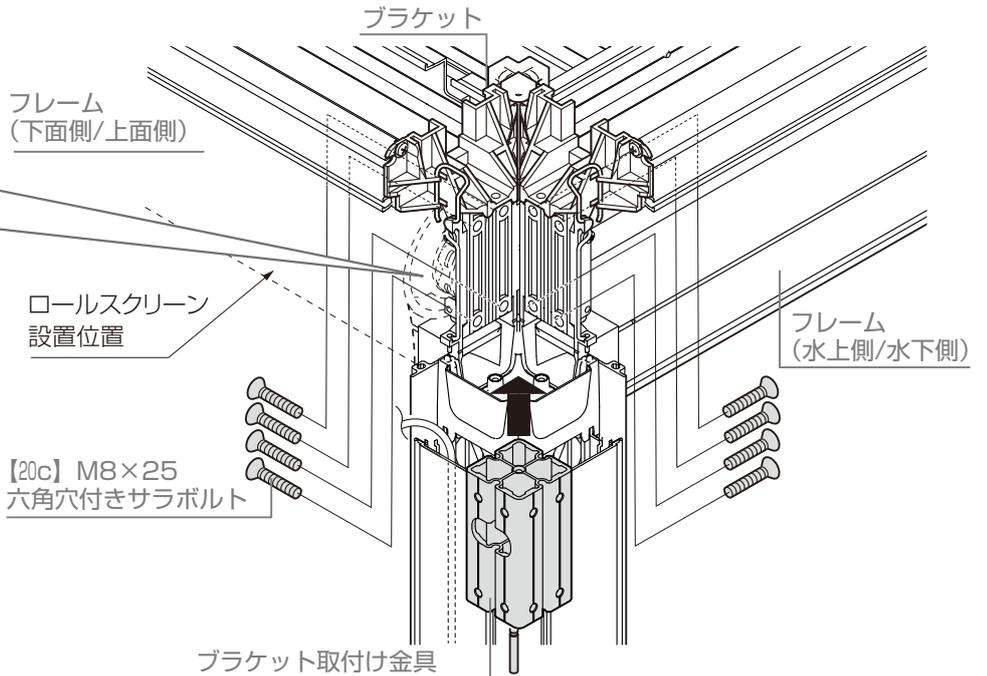
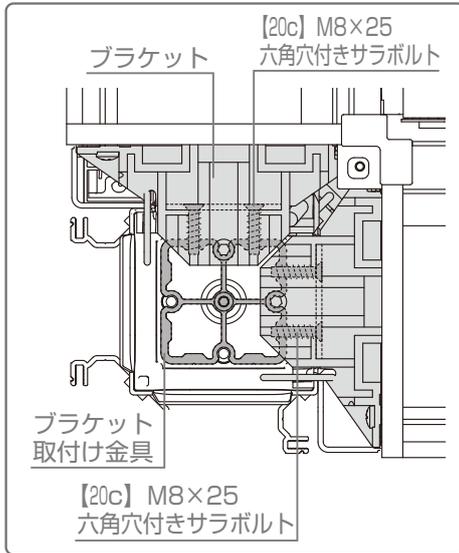
❹:シーリングアングルをフレームの角に貼付け



8-5 フレームの取付け

8-5-8 | ブラケット取付け金具の取付け

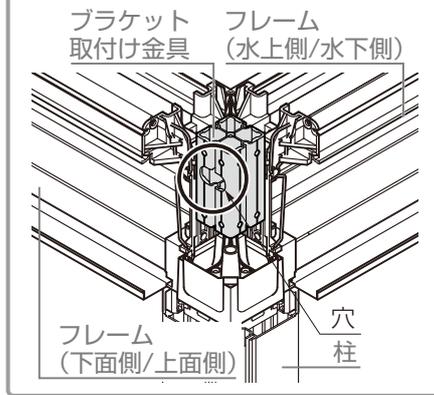
1: ブラケット取付け金具をブラケットに【20c】で取付け



2: 柱とフレームを【8-5-4】柱とフレームの仮止めで仮止めした【20c】を本固定

補足

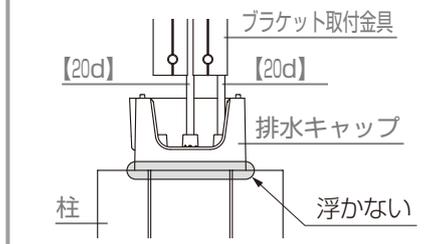
● ブラケット取付け金具の穴とフレーム (水上側/水下側) の向きを揃えてください。



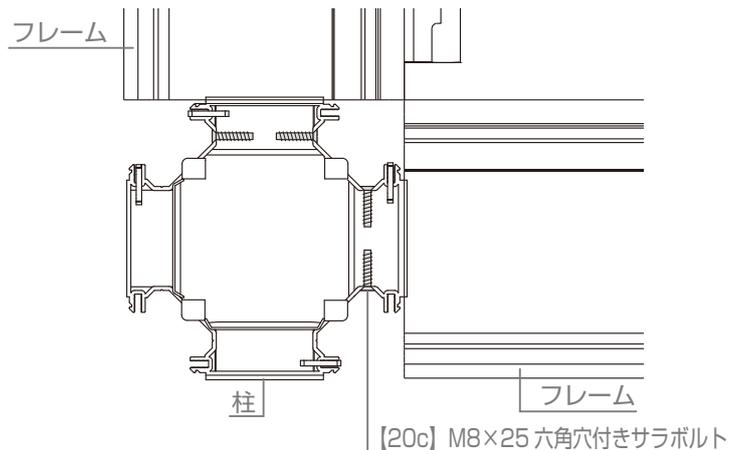
3: ブラケット取付け金具を排水キャップに【20d】で固定

お願い

● 【20d】ネジを締める時は、排水キャップが浮かないようにしてください。柱やフレームとすき間ができ雨漏れの原因となります。



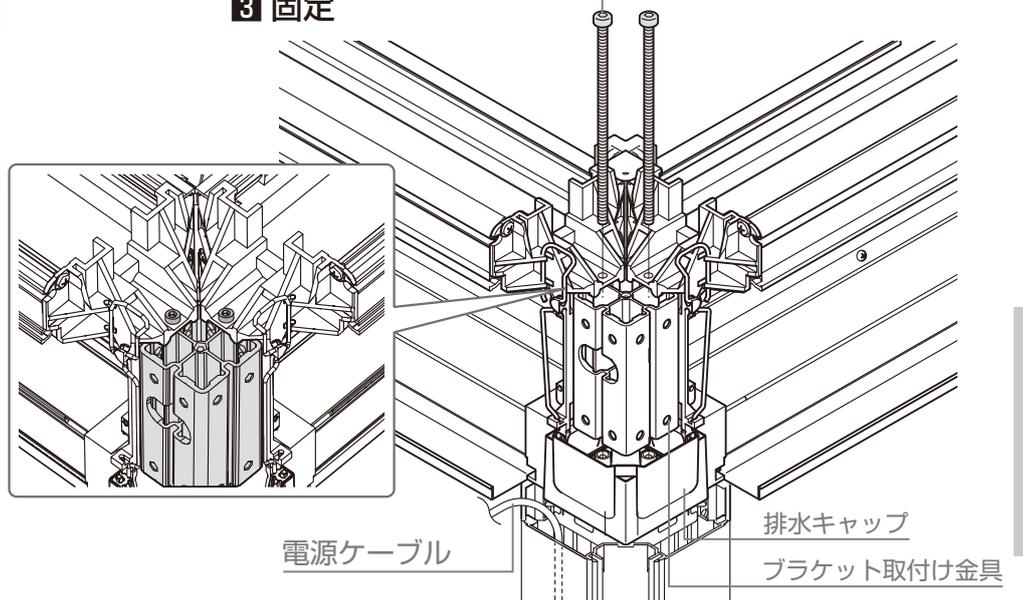
1 取付け



2 本固定

【20d】 M6×180 六角穴付きネジ

3 固定



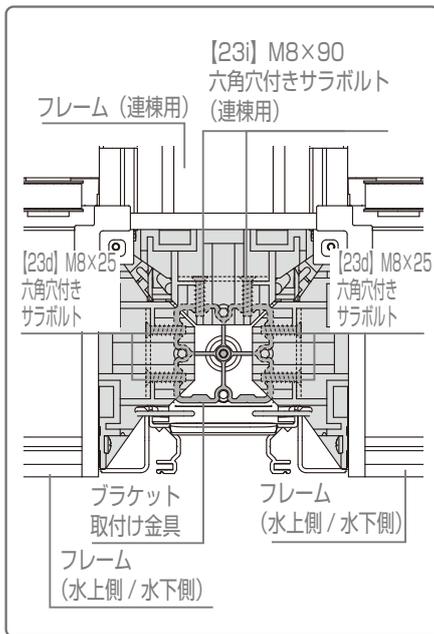
8-5 フレームの取付け

8-5-9 ブラケット取付け金具の取付け ▼ 連棟タイプの場合 ▼

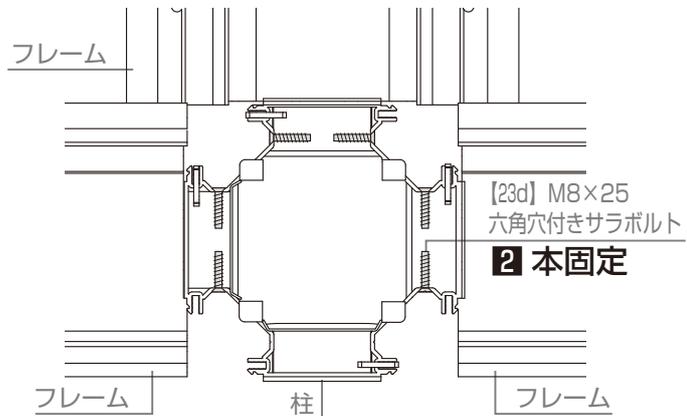
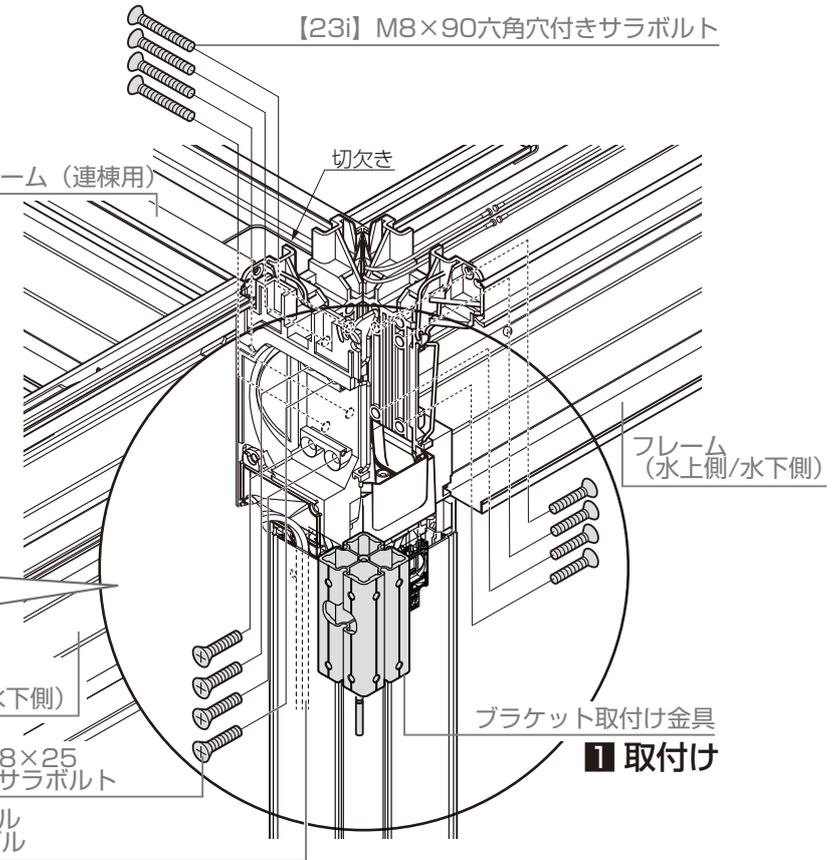
1: ブラケット取付け金具をブラケットに
【23d】と【23i】で取付け

補足

● 【23i】はフレーム（連棟用）の切欠きから手を入れてボルトを固定します。



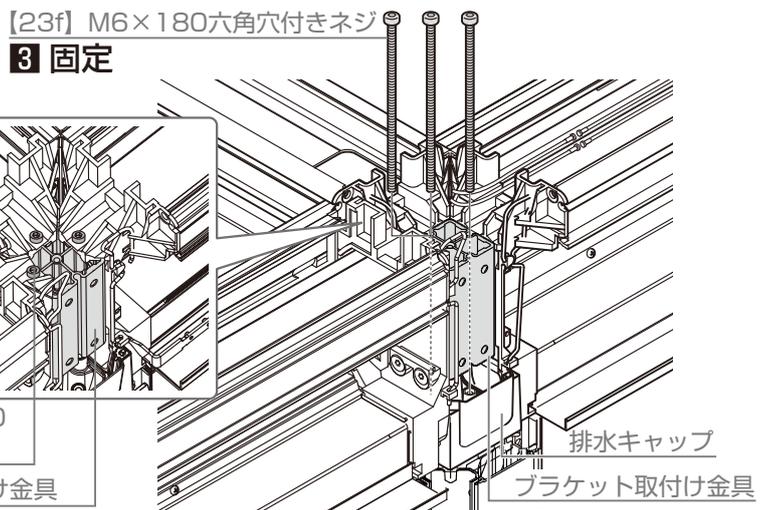
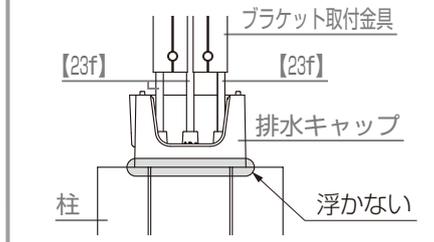
2: 柱とフレームを【8-5-5】柱とフレームの仮止め
で仮止めた【23d】で本固定



3: ブラケット取付け金具を排水キャップに【23f】で固定

お願い

● 【23f】ネジを締める時は、排水キャップが浮かないようにしてください。柱やフレームとすき間ができ雨漏れの原因となります。

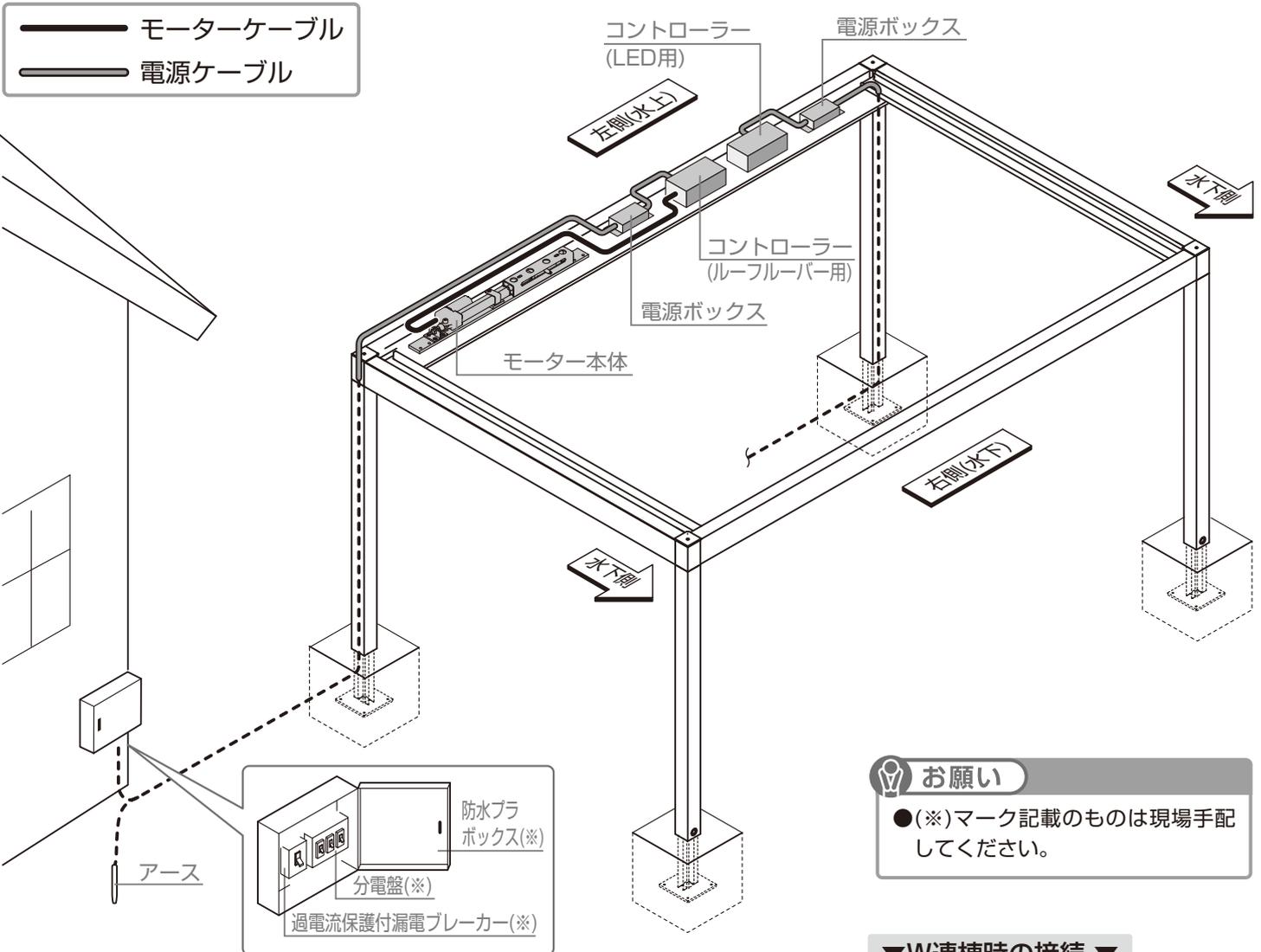


8-6 電気ケーブルの接続

8-6-1 本体とケーブルの取り回し位置の確認

お願い

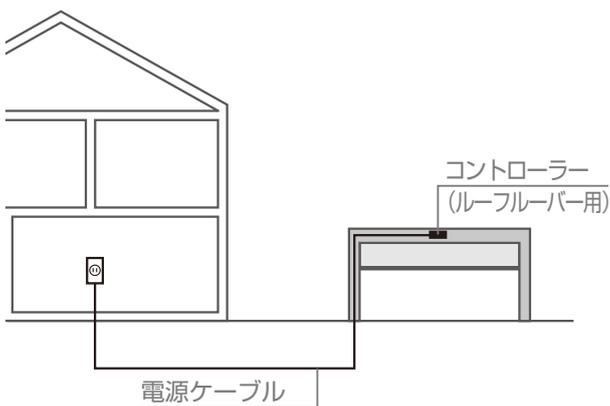
●各コントローラーボックスは、メンテナンスを考慮し、1~2つのフレームにまとめて設置してください。



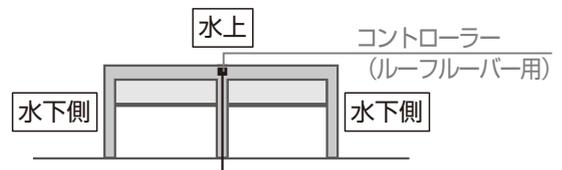
お願い

●(※)マーク記載のものは現場手配してください。

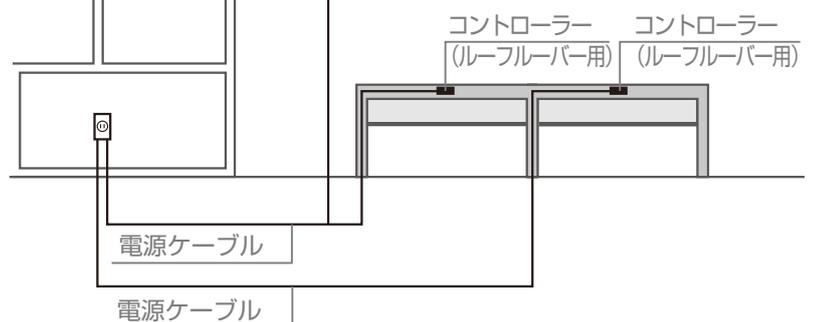
▼ 単体時の接続 ▼



▼ W連棟時の接続 ▼



▼ L連棟時の接続 ▼





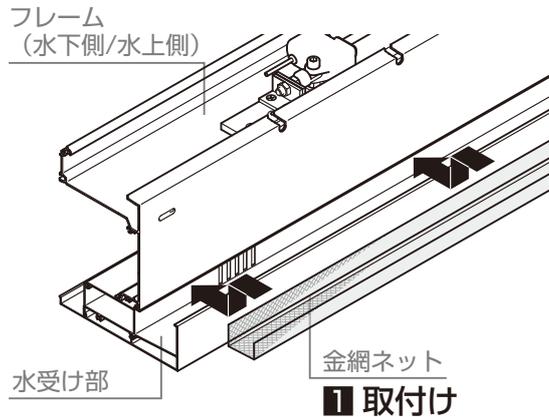
8-7 屋根の取付け

8-7-1 金網ネットの取付け

1: 金網ネットをフレーム(水下側/水上側)の水受け部に取付け

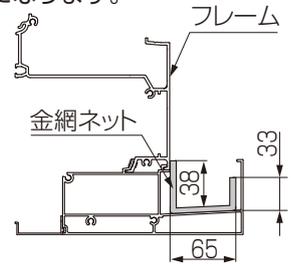
お願い

- 金網ネットは設置の状況に応じてカットまたは重なるように設置してください。



お願い 1

- 金網ネットの向きに注意してください。排水路を塞ぐと詰まりの原因になります。



8-7-2 見切り材の取付け(下面側)

お願い

- 見切り材には、下面側用と上面側用があります。確認して取付けてください。

見切り材(下面側用)	見切り材(上面側用)

補足

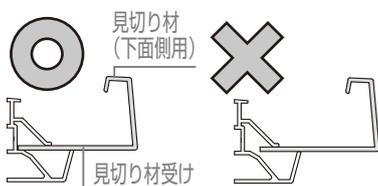
- 見切り材は下面側、上面側のどちらも、製品のL寸法によって長くなったり短くなったりします。
- ご注文いただいた製品のL寸法に合わせてカットした部材が納品されます。



1: 見切り材(下面側用)を見切り材受けに差し込み

お願い

- 見切り材(下面側用)は、見切り材受けの奥に突き当たるまでしっかりと差し込んでください。

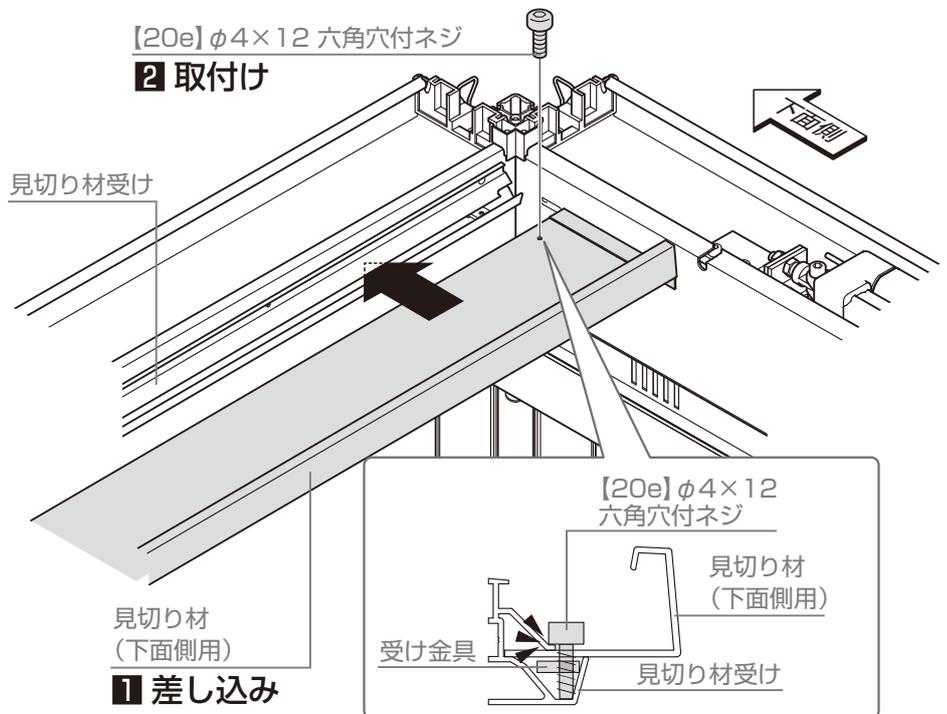


2: 見切り材(下面側用)を見切り材受けに【20e】で取付け

3: 見切り材受けにシーリングを塗布

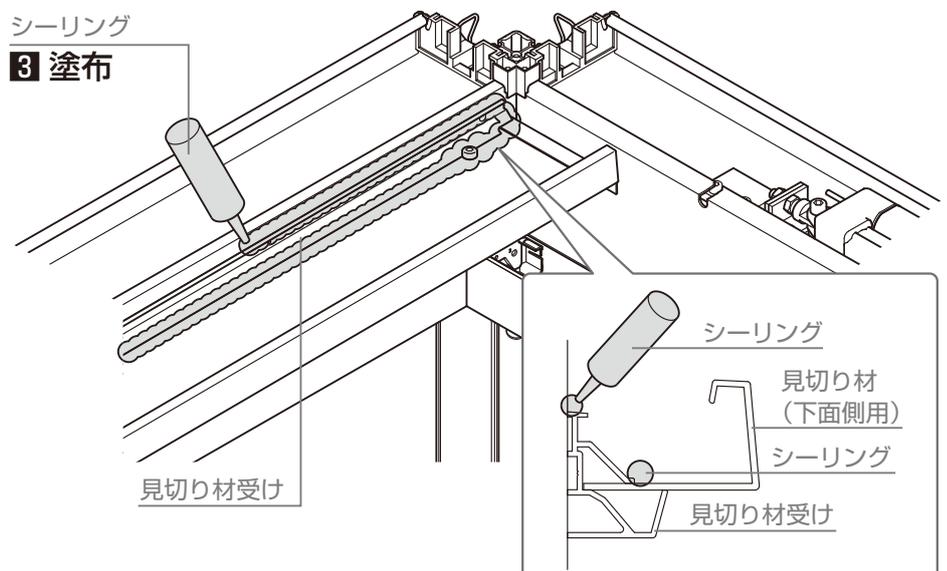
【20e】φ4×12 六角穴付ネジ

2 取付け



シーリング

3 塗布



8-7 屋根の取付け

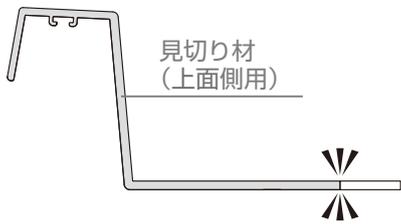
8-7-3 見切り材の取付け(上面側)

お願い

- 見切り材には、下面側用と上面側用があります。確認して取付けてください。

補足

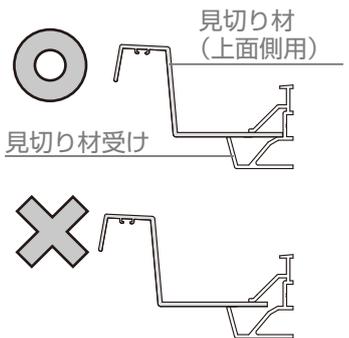
- 見切り材は下面側、上面側のどちらでも、製品のL寸法によって長くなったり短くなったりします。
- ご注文いただいた製品のL寸法に合わせてカットした部材が納品されます。



1: 見切り材(上面側用)を見切り材受けに差し込み

お願い

- 見切り材(上面側用)は、見切り材受けの奥に突き当たるまでしっかりと差し込んでください。

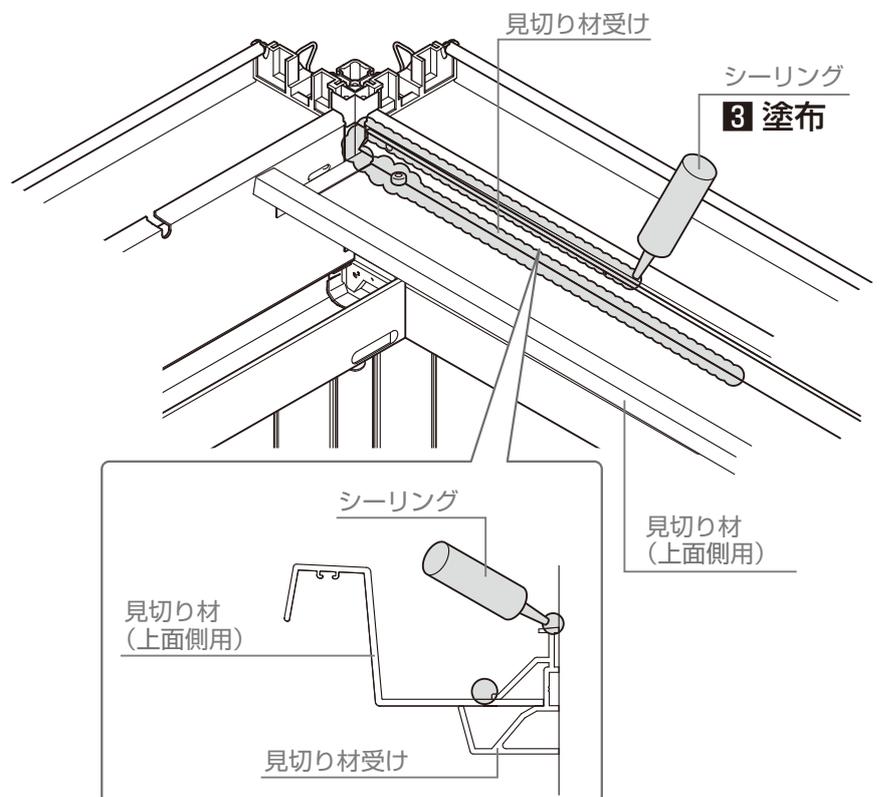
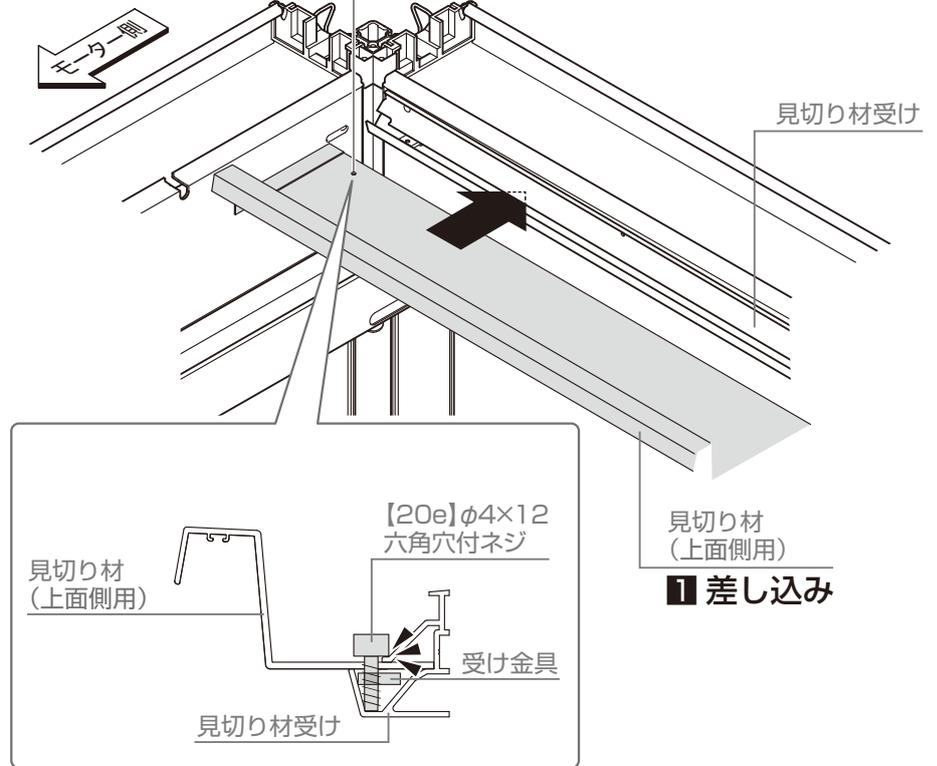


2: 見切り材(上面側用)を見切材受けに【20e】で取付け

3: 見切り材受けにシーリングを塗布

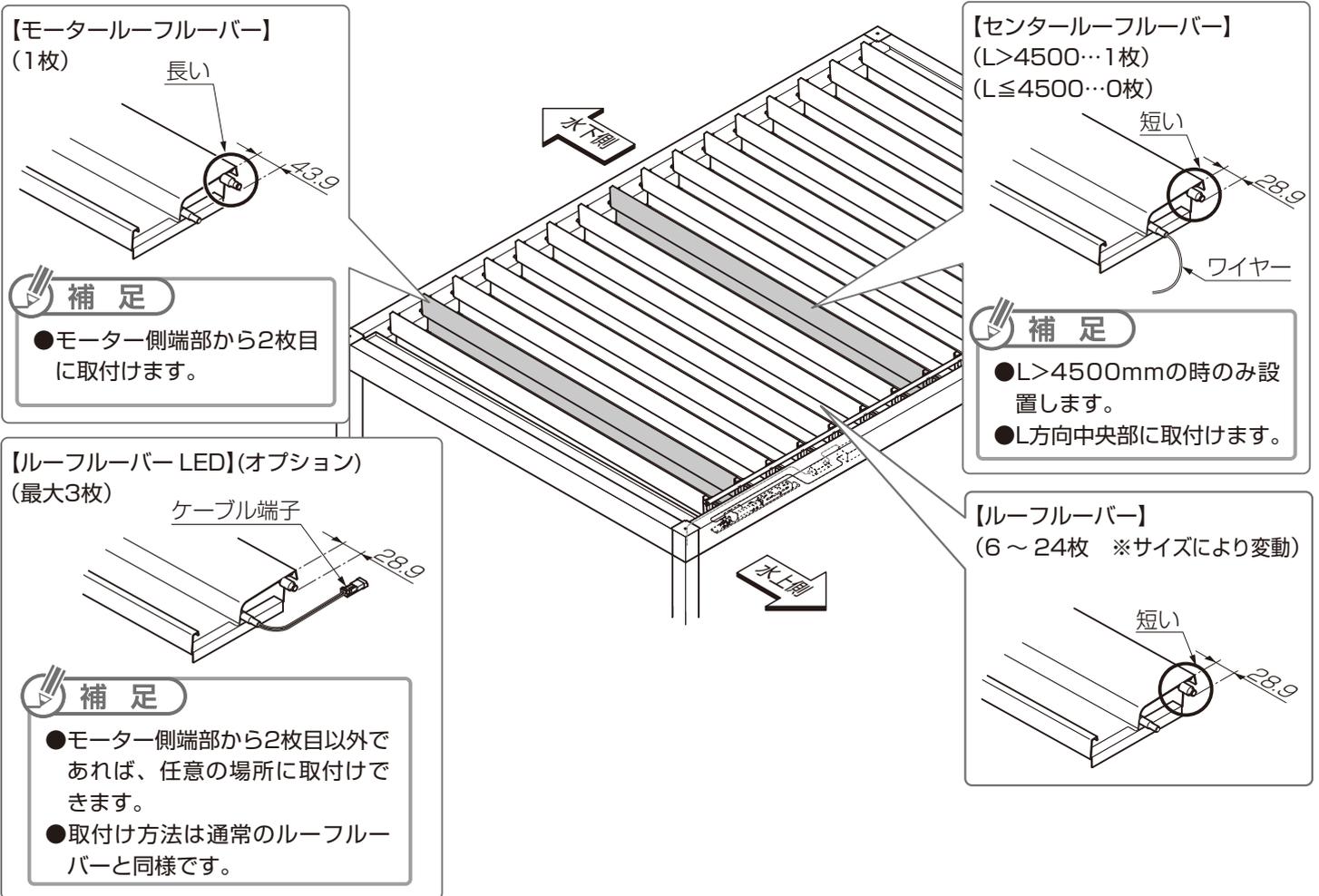
【20e】φ4×12六角穴付ネジ

2 取付け



8-7 屋根の取付け

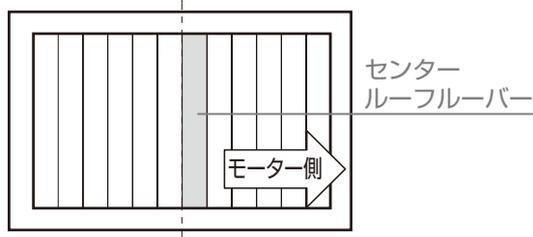
8-7-4 ルーフルーバーの種類の確認



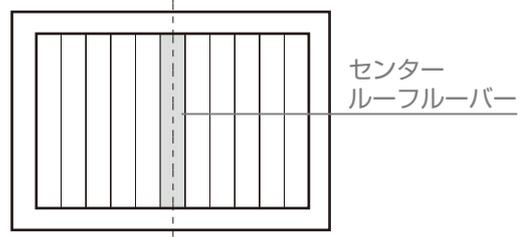
💡 お願い

- センタールーフルーバーの取付け位置は本体のブレード枚数によって異なります。偶数枚の場合は、センターに取付けることができないため、センターからモーター寄りの位置に取付けてください。
- ルーフルーバーLED (オプション) を使用する場合は、センタールーフルーバーの隣に取付けてください。

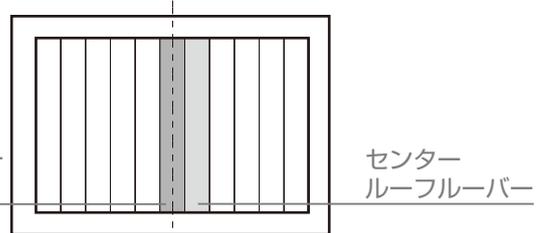
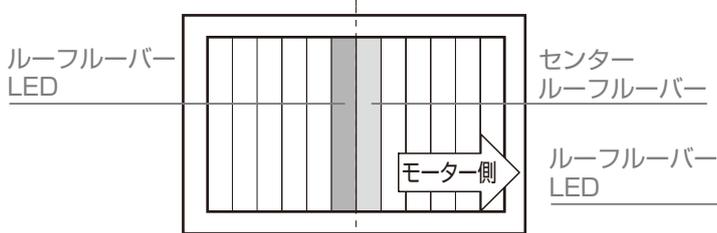
▼ ルーフルーバー偶数の場合▼



▼ ルーフルーバー奇数の場合▼



▼ ルーフルーバーLEDを使用する場合▼

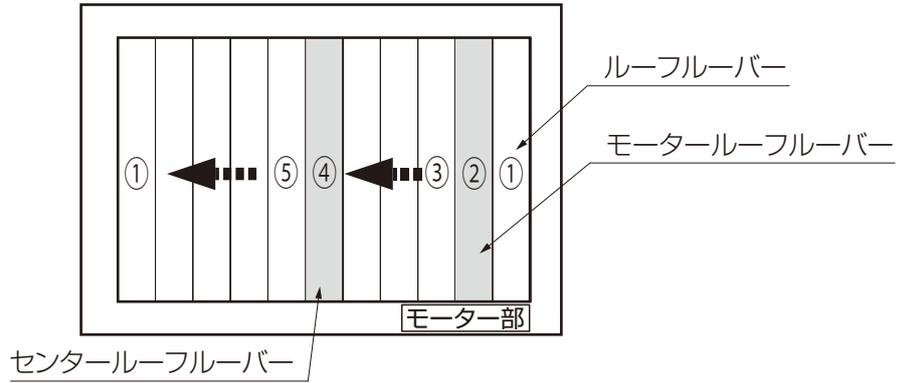


8-7 屋根の取付け

8-7-5 各種ルーフルーバーの取付け順

お願い

- 両側端部のルーフルーバーから取付けてください。
- 両端部にルーフルーバーを取付けたあと、モーター側から順番に取付けていきます。
- 各ルーフルーバーは1枚ずつ連動バーに取付けてください。

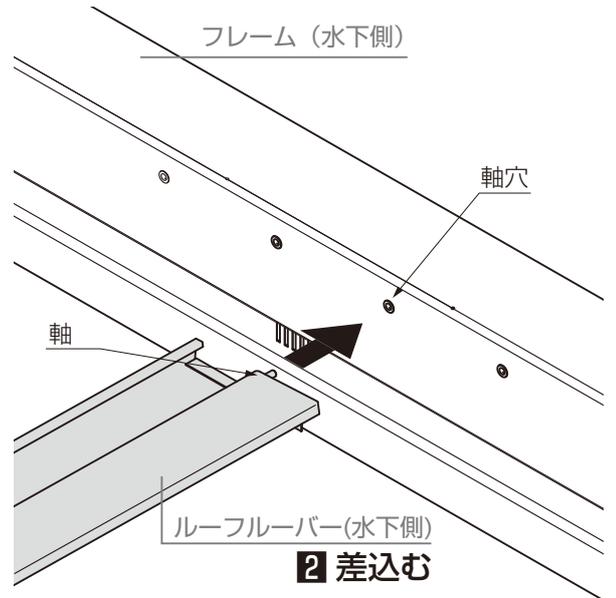


8-7-6 ルーフルーバーの取付け

1:シャフトスペーサーAをルーフルーバー(水上側)の軸へ取付け

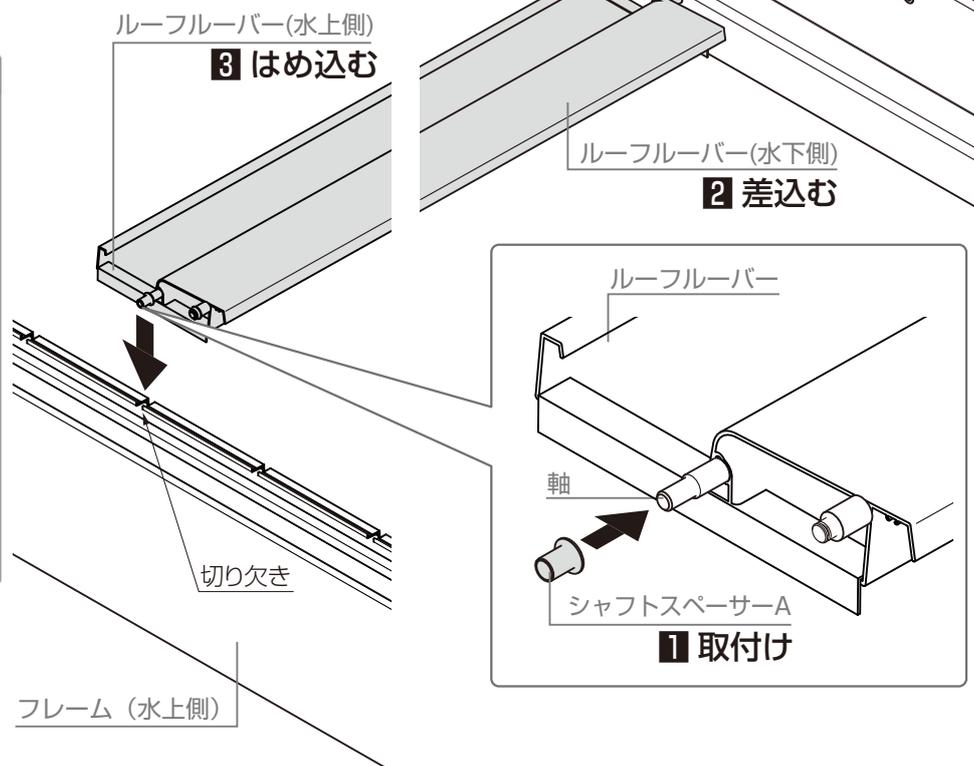
2:ルーフルーバー(水下側)の軸をフレーム(水下側)の軸穴に差込む

3:ルーフルーバー(水上側)の軸をフレーム(水上側)の切り欠き部分にはめ込む



お願い

- ルーフルーバーのシャフトスペーサーAの嵌合は固くなっています。切り欠きの奥までしっかりはめ込んでください。



8-7 屋根の取付け

8-7-7 連動バーの取付け

- 1: ルーフルーバーの連動軸に連動バーの穴を通す
- 2: シャフトクリップで連動軸と連動バーを固定

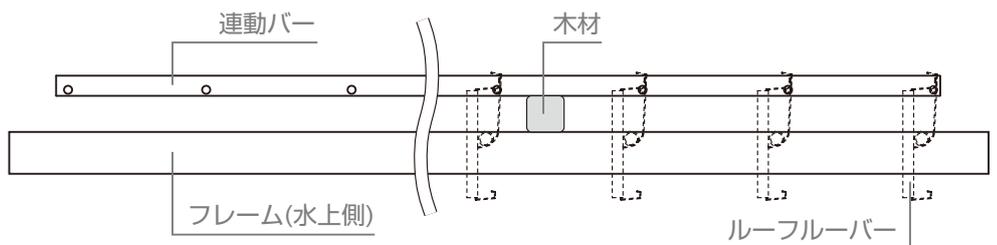
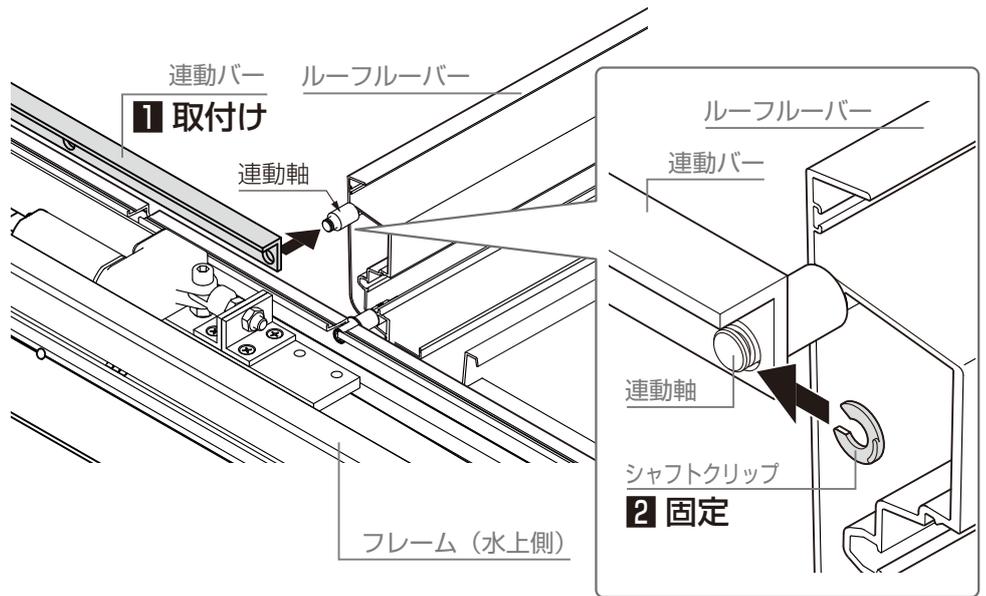
お願い

- シャフトクリップの突起のある面が外側になります。
- すべてのルーバーにシャフトクリップを取付けてください。



お願い

- 両端部のルーフルーバーを連動バーに取付け、連動バーを固定してください。
- 連動バーの取付けは、必ずルーフルーバーを立てながら(45° ~ 90°)行なってください。
- ルーフルーバーの3枚目と4枚目の間あたりに、約10cm程度の木材などを咬ませて連動バーが倒れないように固定してください。



8-7-8 モータールーフルーバーの取付け

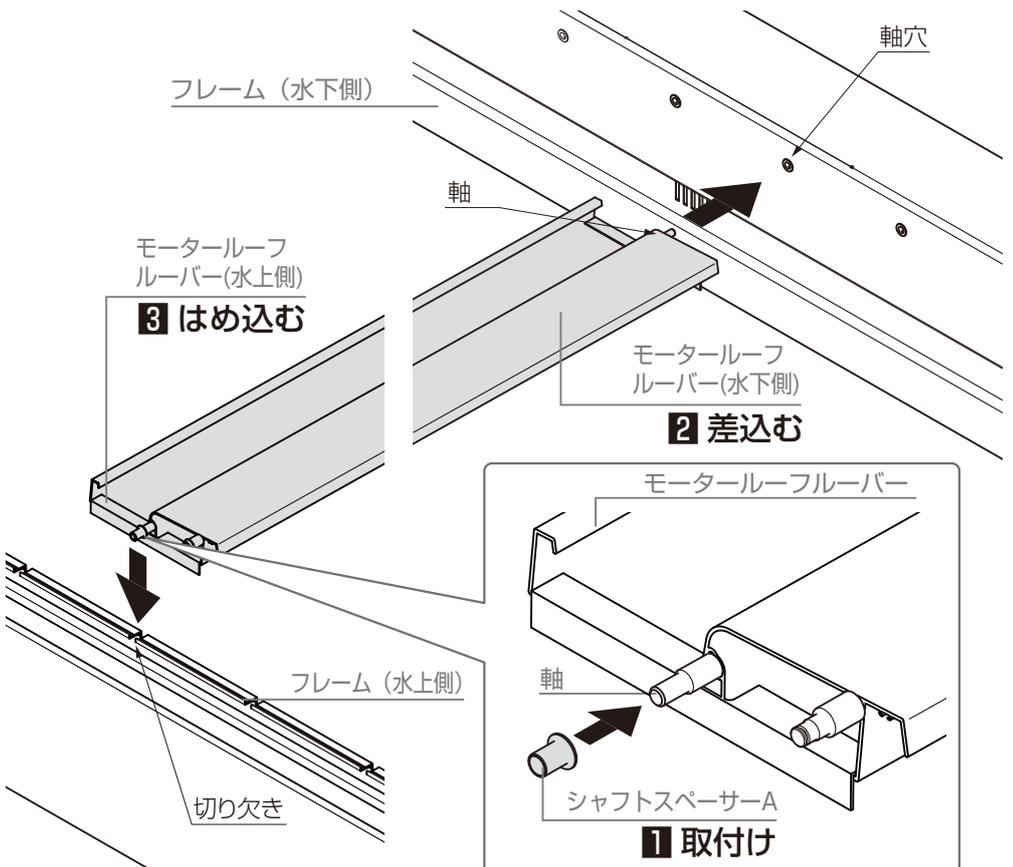
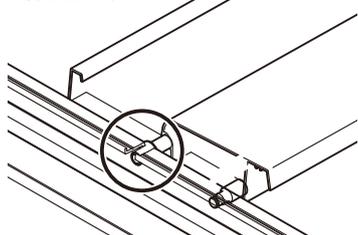
お願い

- 必ずモーター側端部から2番目の位置に取付けてください。

- 1: シャフトスペーサーAをルーフルーバー(水上側)の軸へ取付け
- 2: モータールーフルーバー(水下側)の軸をフレーム(水下側)の軸穴に差込む
- 3: モータールーフルーバー(水上側)の軸をフレーム(水上側)の切り欠き部分にはめ込む

お願い

- シャフトスペーサーAと切り欠きの嵌合は固くなっています。切り欠きの奥までしっかりとめ込んでください。



8-7 屋根の取付け

8-7-9 センタールーフルーバーの取付け

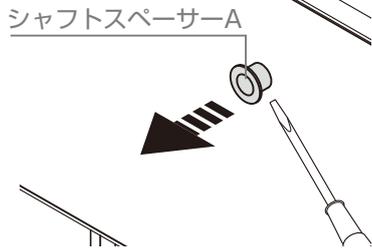
補足

●センタールーフルーバーは、L>4500mmの時のみ設置します。

1: 水下側フレームのシャフトスペーサーAを引き出す

お願い

- マイナスドライバーなどで、シャフトスペーサーAの頭を引き出してください。
- シャフトスペーサーAはフレームから完全に引き抜かないでください。



2: センタールーフルーバーのワイヤーをシャフトスペーサーAに通す

3: センタールーフルーバーの軸をシャフトスペーサーAに差込んで取付け

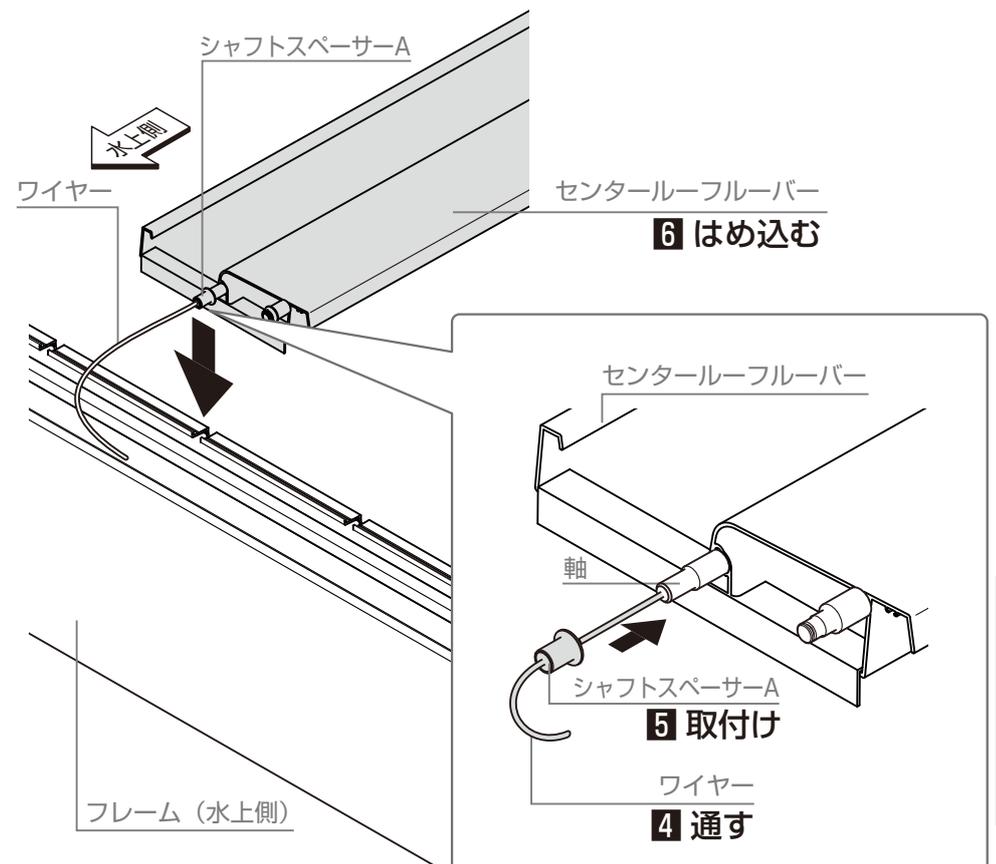
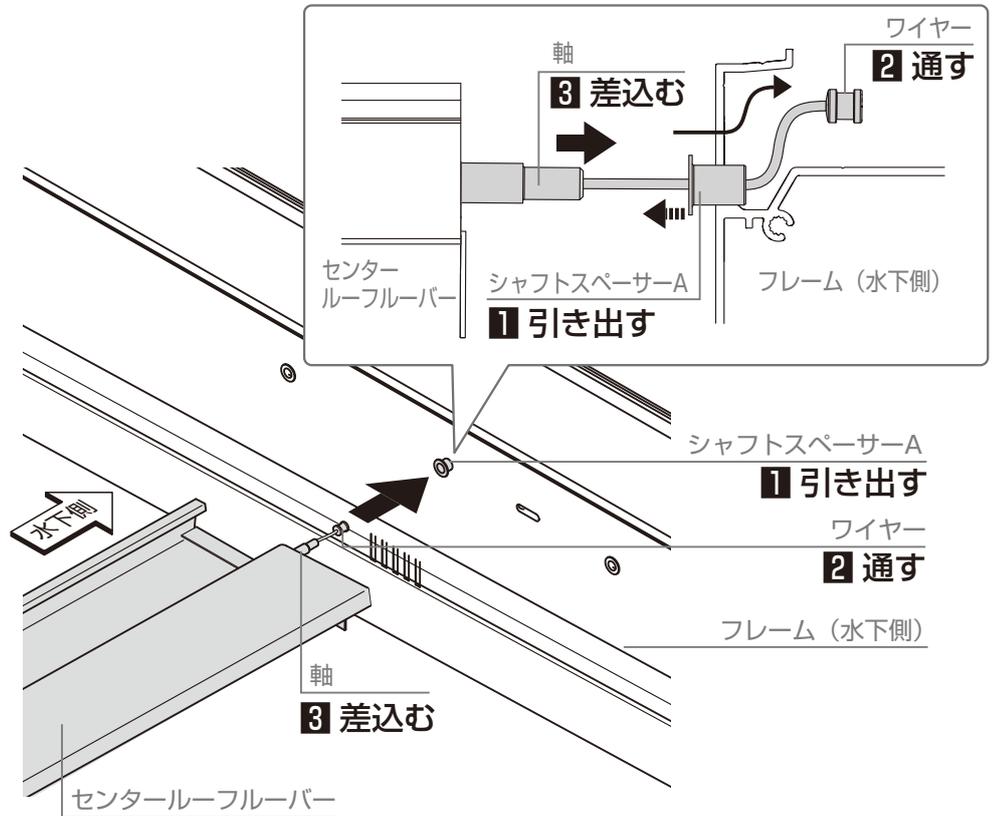
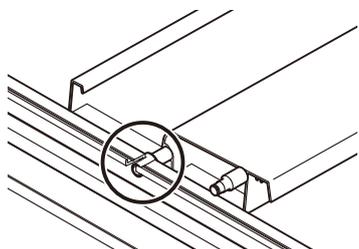
4: ワイヤーをシャフトスペーサーAに通す

5: シャフトスペーサーAをセンタールーフルーバーの軸に取付け

6: センタールーフルーバー(水上側)の軸をフレーム(水上側)の切り欠き部分にはめ込む

お願い

- シャフトスペーサーAと切り欠きの嵌合は固くなっています。切り欠きの奥までしっかりはめ込んでください。



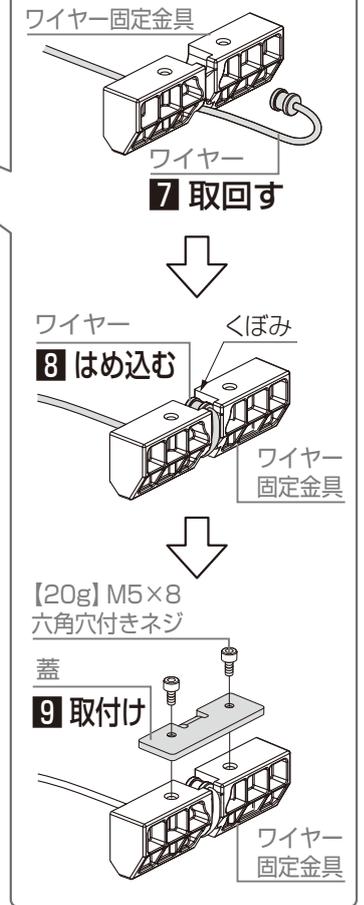
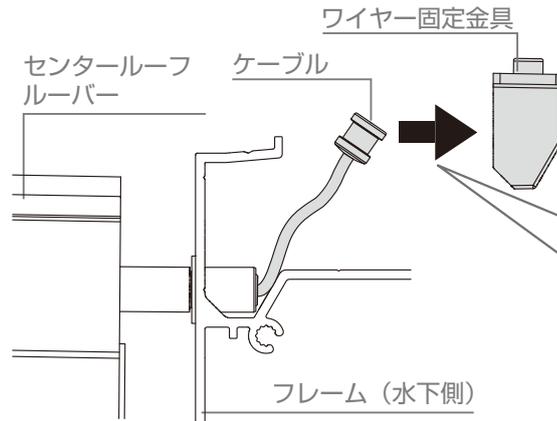
8-7 屋根の取付け

つづき

8-7-9 センタールーフルーバーの取付け

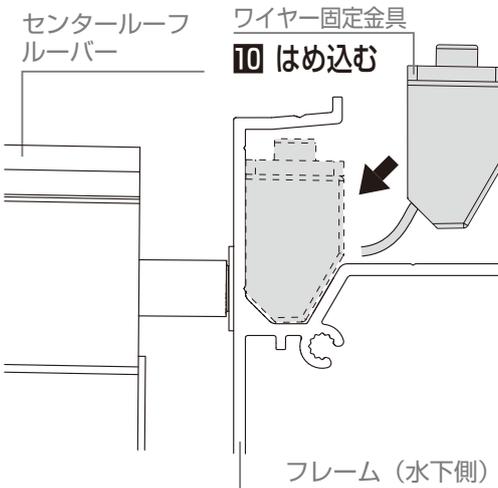
つづき

- 7: ワイヤの先端をワイヤー固定金具の下側から取回す
- 8: ワイヤの先端をワイヤー固定金具上部のくぼみにはめ込む
- 9: 蓋をワイヤー固定金具に【20g】で取付け
- 10: ワイヤー固定金具をフレーム(水下側)の溝にはめ込む



お願い

●ワイヤー固定金具はフレーム(水下側)の奥までしっかりはめ込んでください。

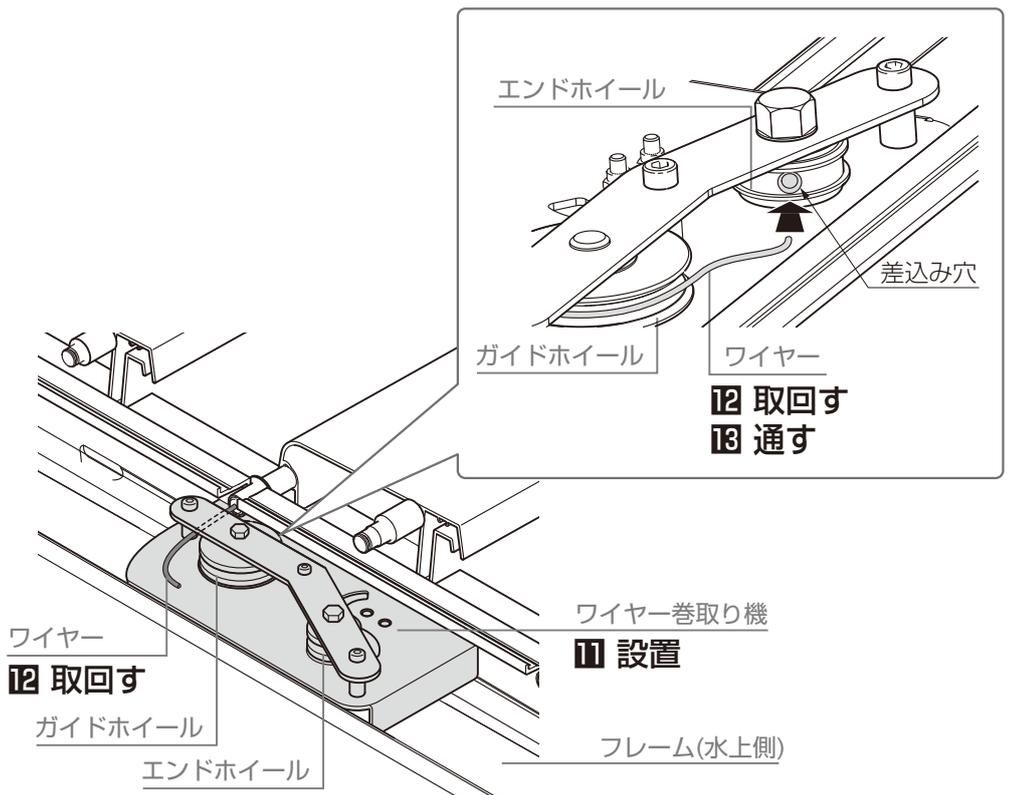


- 11: ワイヤー巻取り機をフレーム(水上側)内部に設置

お願い

●ワイヤー巻取り機の切り欠きと、フレームの切り欠きの位置を合わせて設置してください。

- 12: ワイヤーをガイドホイールに巻いて取回す
- 13: ワイヤーをエンドホイールの差込み穴に通す



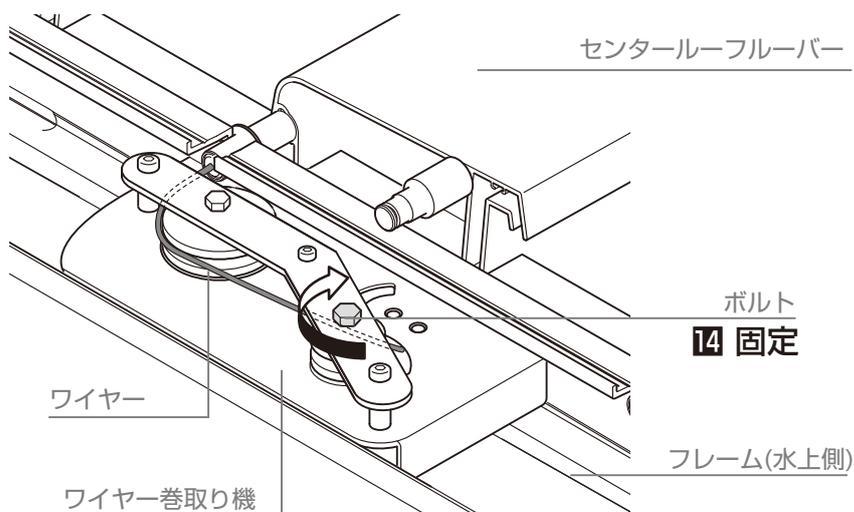
8-7 屋根の取付け

つづき

8-7-9 センタールーフルーバーの取付け

つづき

14: エンドホイールのボルトを時計回りに回してワイヤーを張り、センタールーフルーバーを固定



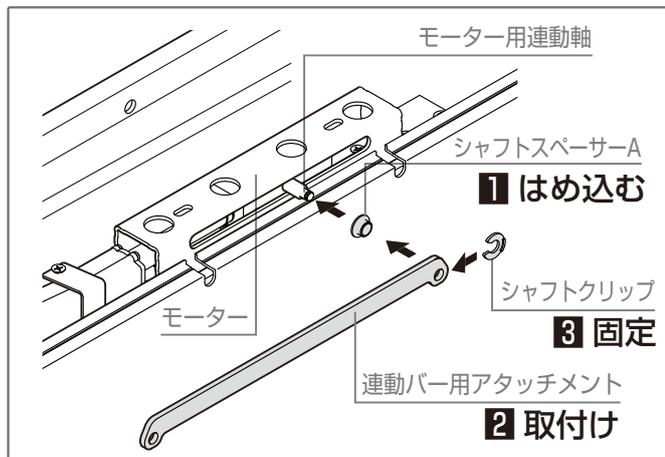
お願い

- ボルトを締める際はレンチを使用して手で締めてください。
- インパクトレンチは使用しないでください。空回りして締めることができません。
- ボルトはワイヤーがピンと張る程度まで締めてください。

8-7-10 連動バー用アタッチメントの取付け

お願い
●連動バー用アタッチメントはすべてのルーフルーバー設置後に取付けてください。

- 1: シャフトスペーサー A をモーター用連動軸にはめ込む
- 2: 連動バー用アタッチメントをシャフトスペーサー A に取付け
- 3: 連動バー用アタッチメント、モーター用連動軸、シャフトスペーサー A をシャフトクリップで固定
- 4: 連動バー用アタッチメントをモータールーフルーバーの連動軸に差込む
- 5: 連動バー用アタッチメントとモータールーフルーバーの連動軸を、シャフトクリップで固定



お願い
●連動バーアタッチメントは、ルーフルーバーを45°~90°程度に立てながらモーター側から取付けてください。

補足

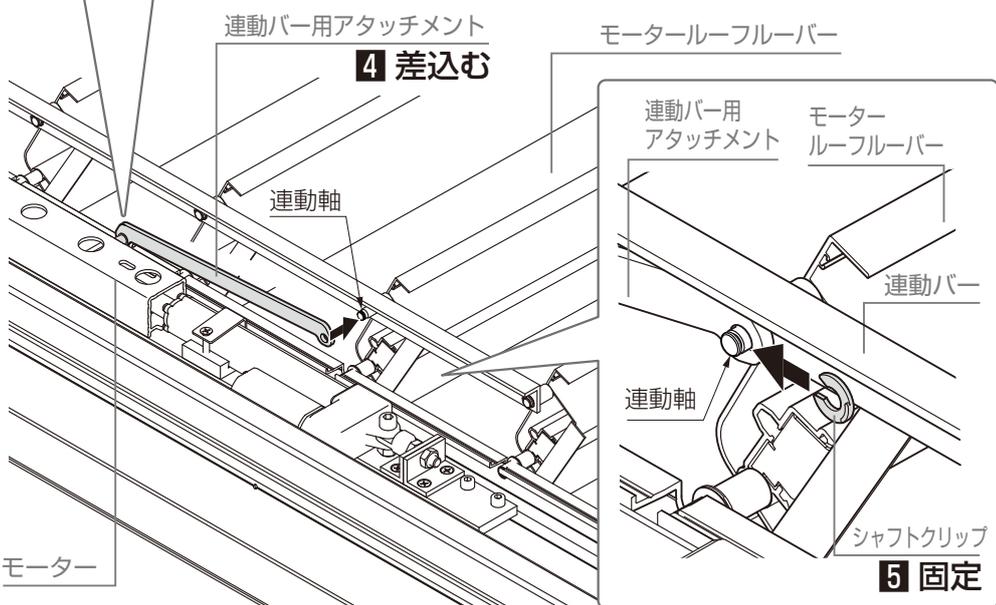
●モーターとモータールーフルーバーは連動バー用アタッチメントで接続します。

モータールーフルーバー

連動バー

モーター

連動バー用アタッチメント



8-7 屋根の取付け

8-7-11 雨樋カバーの加工

注意 1

●固定部品はフレームに取付けるまで外さないでください。指をはさみケガをするおそれがあります。

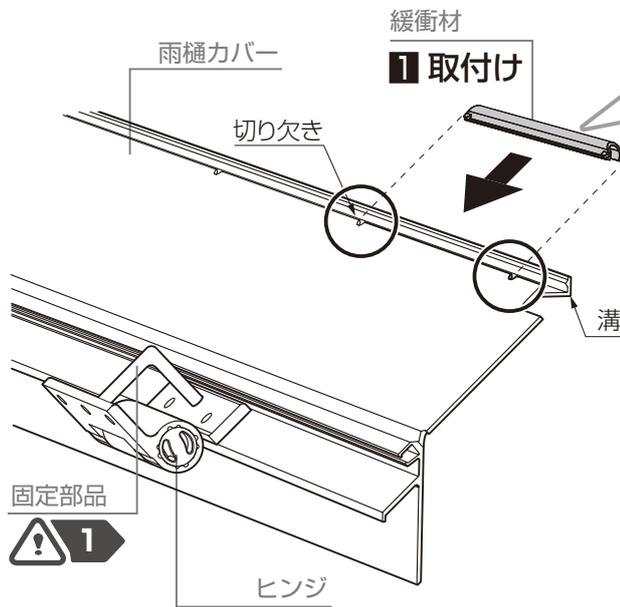
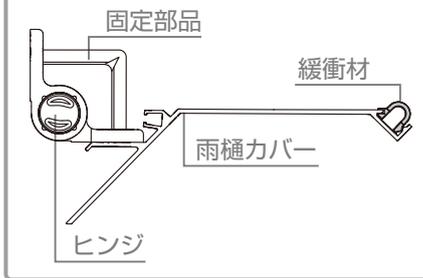
お願い

●すべてのヒンジを90°に開いて仮固定してください。

1: 緩衝材を雨樋カバーの溝に取付け

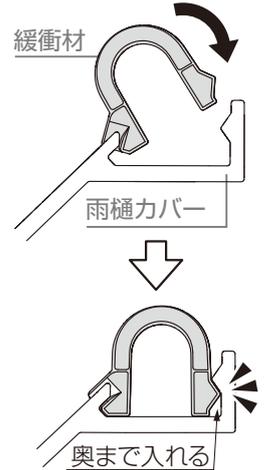
お願い

●緩衝材は、ヒンジの延長線上の切り欠き部に取付けてください。



お願い

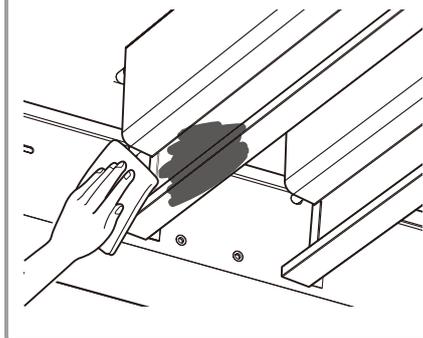
●緩衝材が固定されるまで、雨樋カバーにしっかりとめ込んでください。



8-7-12 ルーフルーバーの加工

お願い

●ルーフルーバーのテープを貼り付ける部分は、あらかじめ汚れや脂を拭き取ってください。



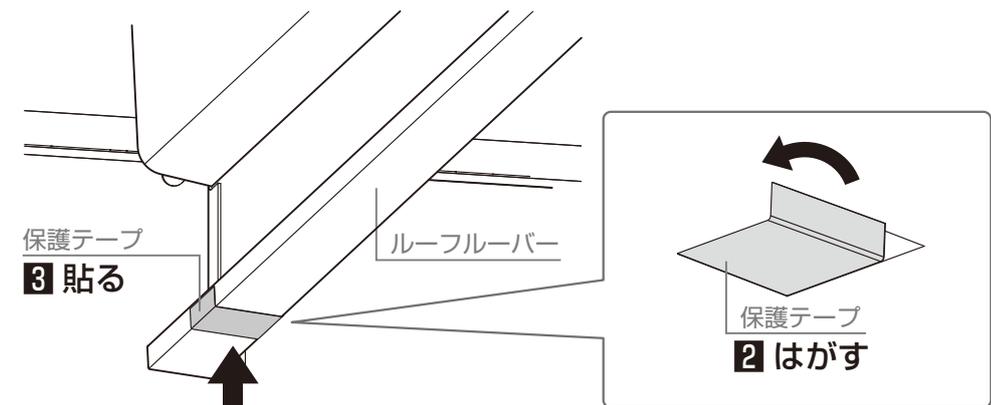
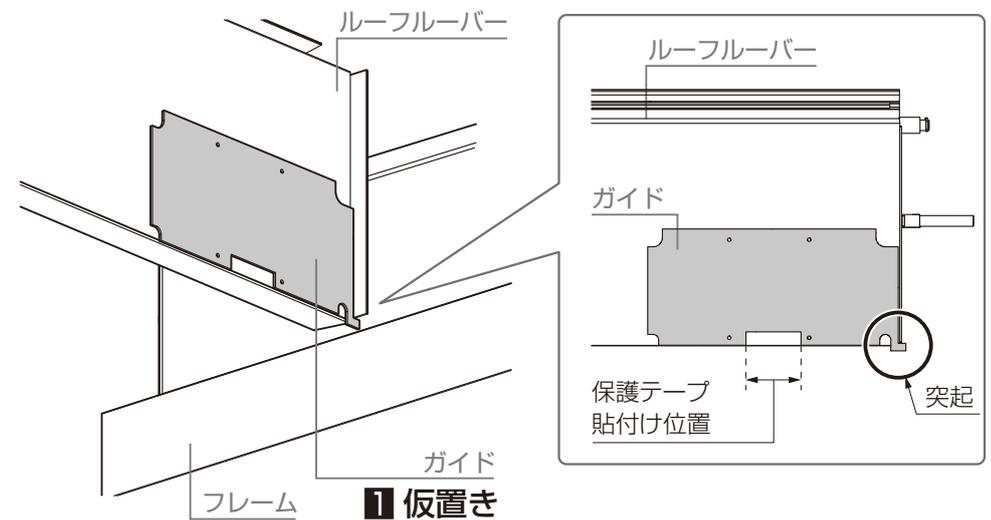
1: 緩衝材と接するルーフルーバー端部にガイドを仮置き

2: 保護テープをはがす

3: 保護テープをルーフルーバーに貼る

お願い

●ガイド下部の切り欠きに合わせて保護テープを貼付けてください。
●ガイドの仮置き、保護テープを貼る際はルーフルーバーを立てて行ってください。



8-7 屋根の取付け

8-7-13 雨樋カバーの取付け

1: 雨樋カバーをフレームに【11a】で取付け

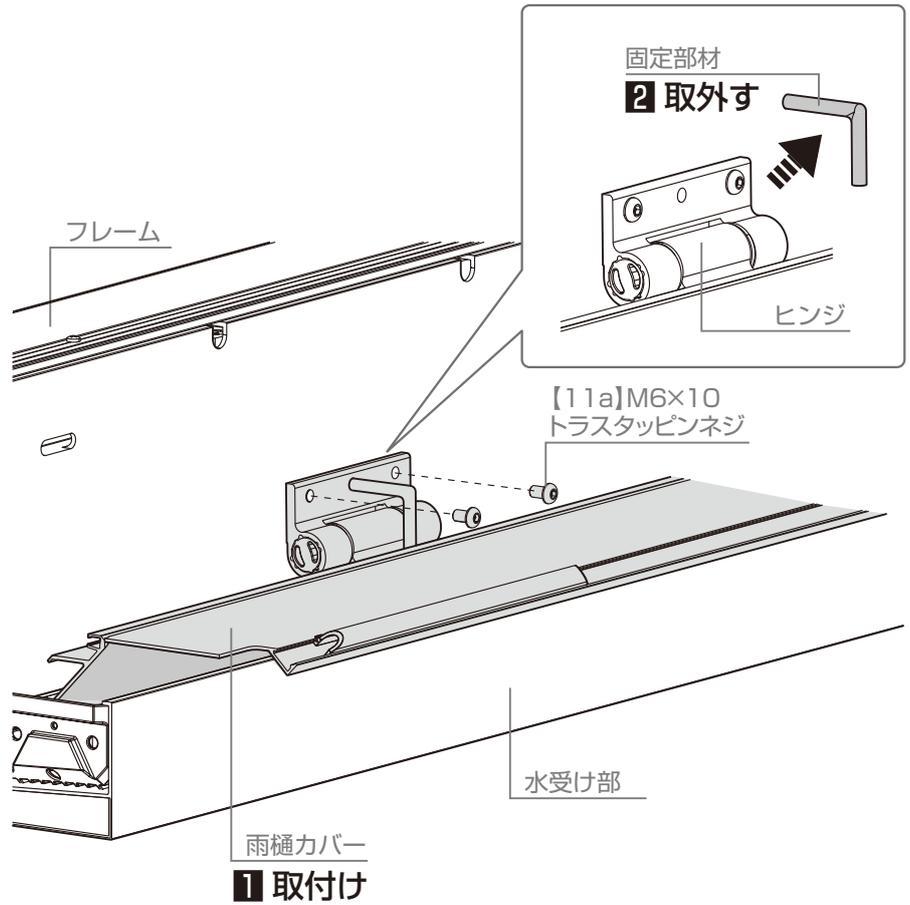
お願い

- すべてのヒンジを90°に開いてから取付けてください。

2: 固定部材をヒンジから取外す

補足

- ヒンジの個数は下記のとおりです。
L < 4000mm : 2個
L ≥ 4000mm : 3個

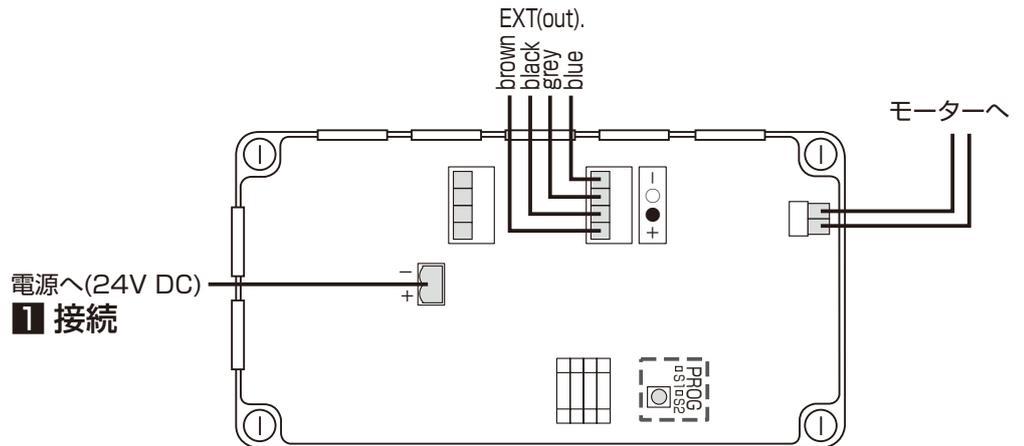




8-8 ルーフルーバーの初期設定

8-8-1 | コントロールボックスの確認

1: 電源ボックスを電源に接続



8-8-2 | ルーフルーバーの設定

1: S1、S2が2～3回点滅するまで、コントロールボックスのPROGボタンを押す(約2秒)

補足

- 確認のためにモーターが上下に小さく動きます。

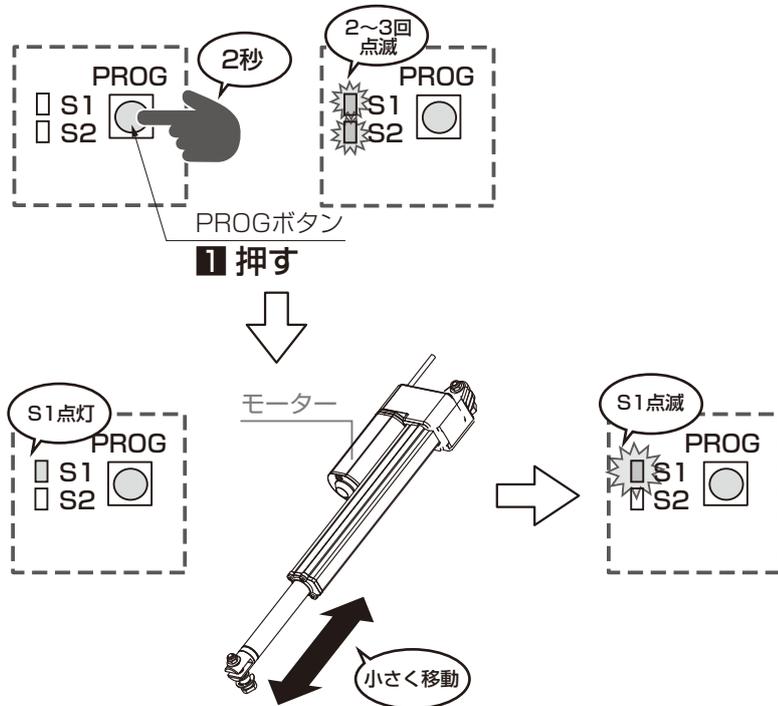
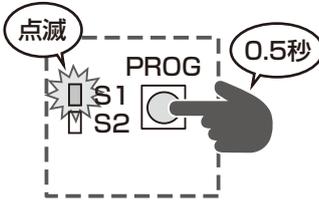
お願い

- 2秒程度押したらボタンを離してください。長く押しすぎると動作せずに初期化が行われます。

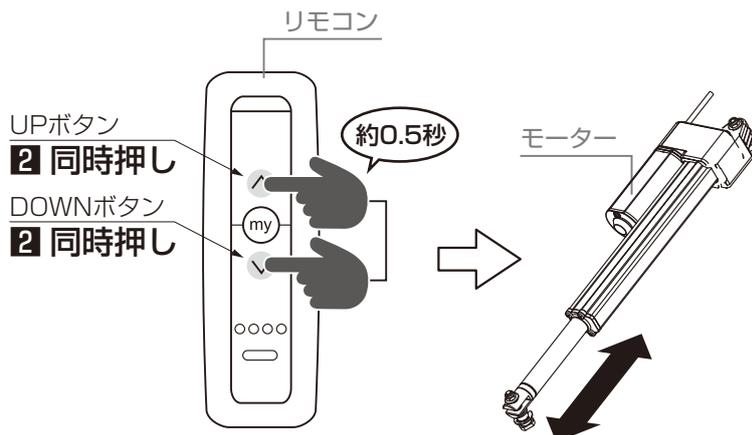
補足

▼ S1ランプが点灯しない場合 ▼

- S1が点滅するようにPROGボタンを短く押します(0.5秒)



2: リモコンのUPボタンとDOWNボタンを同時に押す(約0.5秒)



8-8 ルーフルーバーの初期設定

つづき

8-8-2 ルーフルーバーの設定

つづき

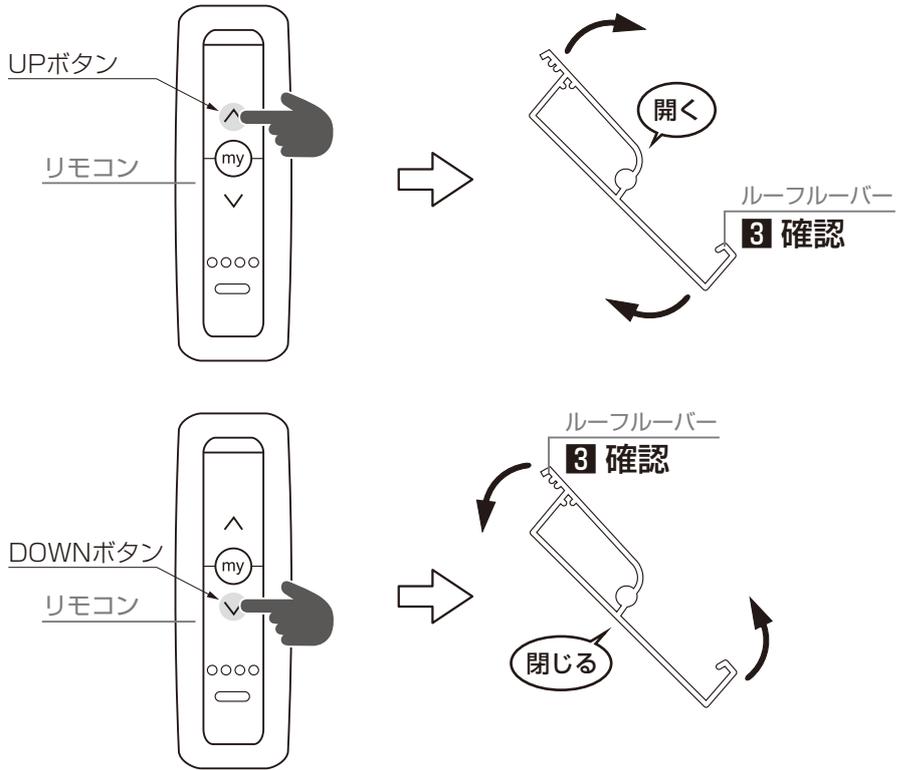
3: リモコンを操作してモーターの向きを確認

補足

- ルーフルーバーの動きが逆になる場合は、モーターの向きが正しくありません。

▼ モーター向きが逆の場合 ▼

- モーターの向きが逆の場合は、MYボタンを5秒以上押し続けて方向を切り替えてください。



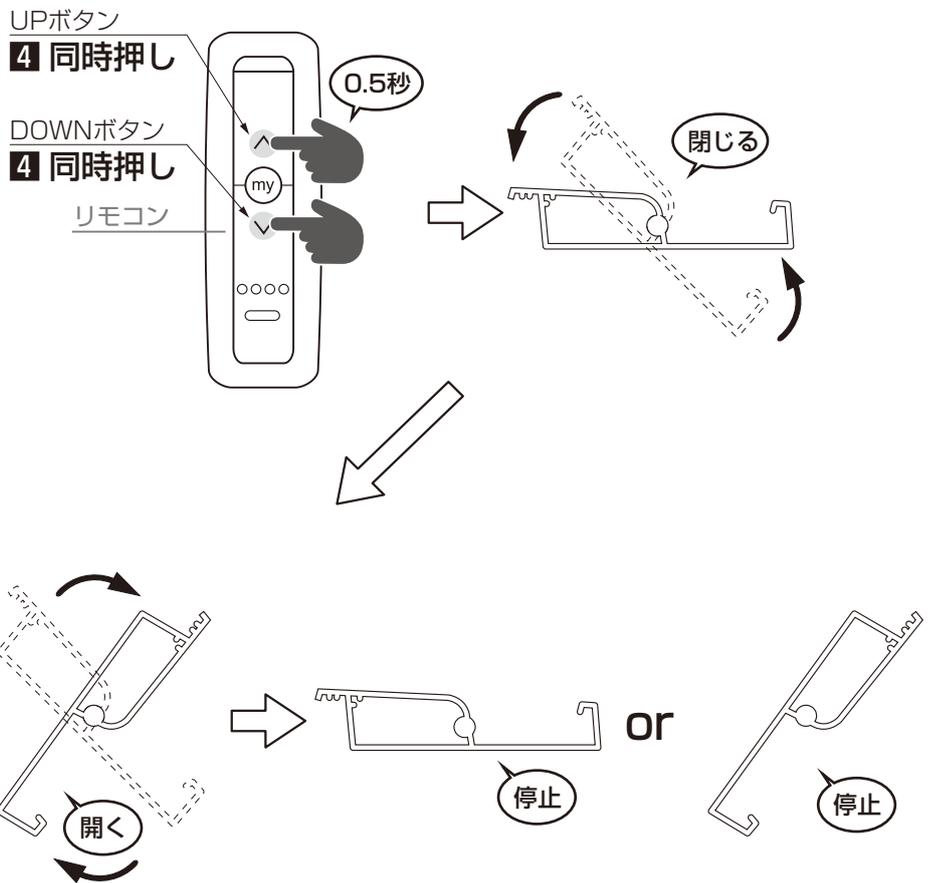
4: リモコンのUPボタンとDOWNボタンを同時に押す(約0.5秒)

補足

- ボタンを押した後、自動的にルーフルーバーが開く方向および閉じる方向へ動き出します。
- 自動的に停止するまで待機してください(約2分)

お願い

- 途中でリモコン操作により、停止させて場合は次の手順に進めません。再度、4の手順を行ってください。



8-8 ルーフルーバーの初期設定

つづき

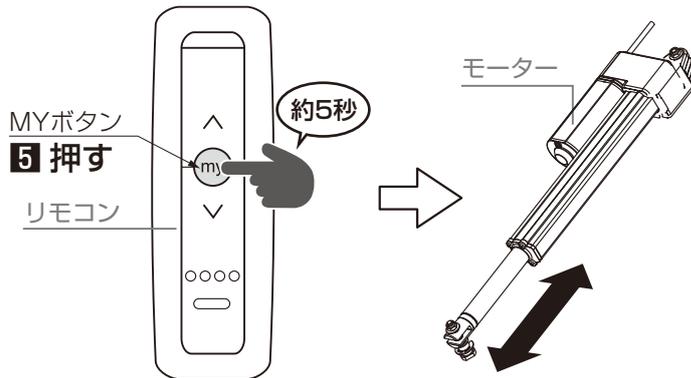
8-8-2 ルーフルーバーの設定

つづき

5: ルーフルーバーが垂直位置になるようにUP/DOWNボタンで調整し、MYボタンを押す(約5秒)

補足

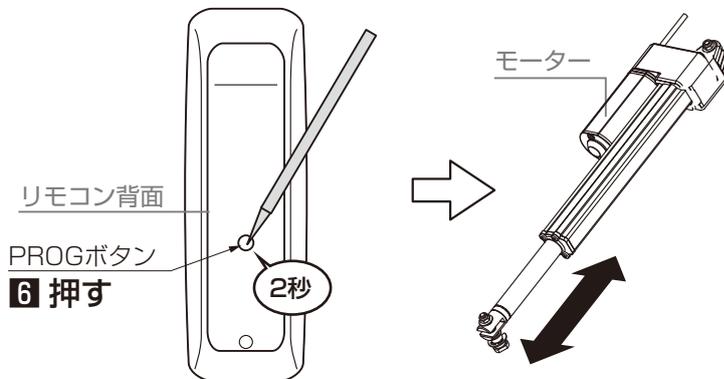
- 確認のためにモーターが上下に小さく動きます。



6: リモコンの背面にあるPROGボタンを押す(2秒)

補足

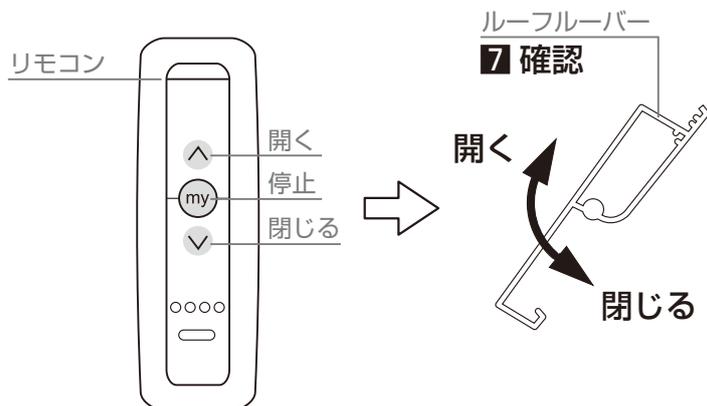
- 確認のためにモーターが上下に小さく動きます。
- 動作確認に問題がなければルーバー設定が完了です。



7: 各ボタンを操作し動作を確認

補足

- 動作確認に問題がなければルーバーの設定が終了です。





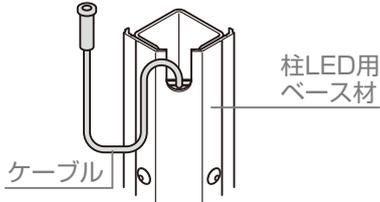
9-1 柱LED、フレームLED、ルーフルーバー LEDの取付け

9-1-1 柱LEDの切り詰め ※レベル調整のために現場で切り詰める場合の作業です。

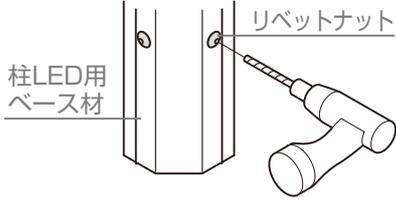
1: リベットナットを柱LED用ベース材から取外し

お願い

●柱LED上部はケーブルがあるため、切り詰めは必ず柱LED下部から行ってください。



●リベットナットの頭をφ3.5のドリルで削って、取り外してください。



2: 柱LED端部キャップ(黒い部品)を柱LED用ベース材から取外し

3: 柱LED下部を柱LED用ベース材から剥がす

お願い

●柱LEDは両面テープで貼りついています。

4: 柱LED用ベース材を切断

お願い

●**【8-2-1】柱の切り詰め**で切り詰めた柱の切断寸法分、切断してください。

5: 柱LEDを切断

お願い

●柱LEDの表面には、50mm毎に横線(黒)があります。必ずこの線の部分ではさみ、カッター等で切断してください。

6: 柱LED端部の切断面にシーリングを塗布

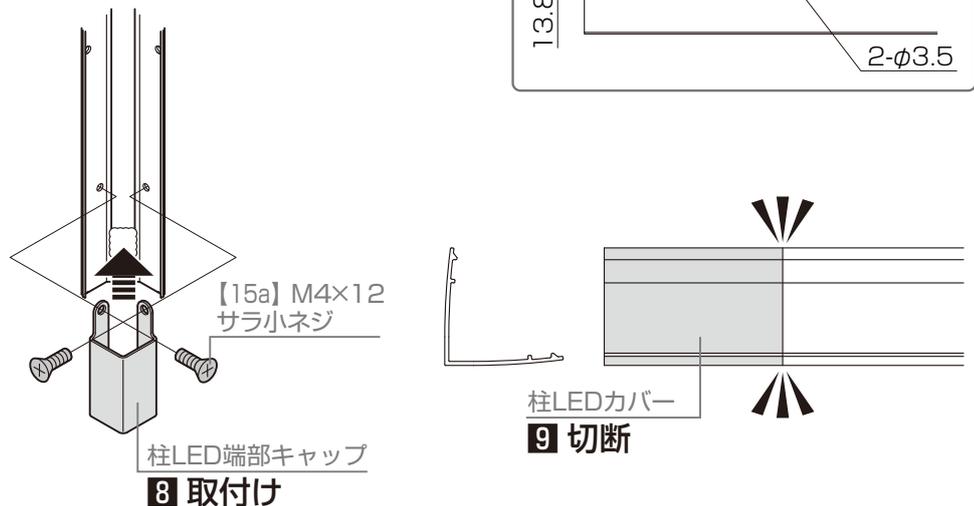
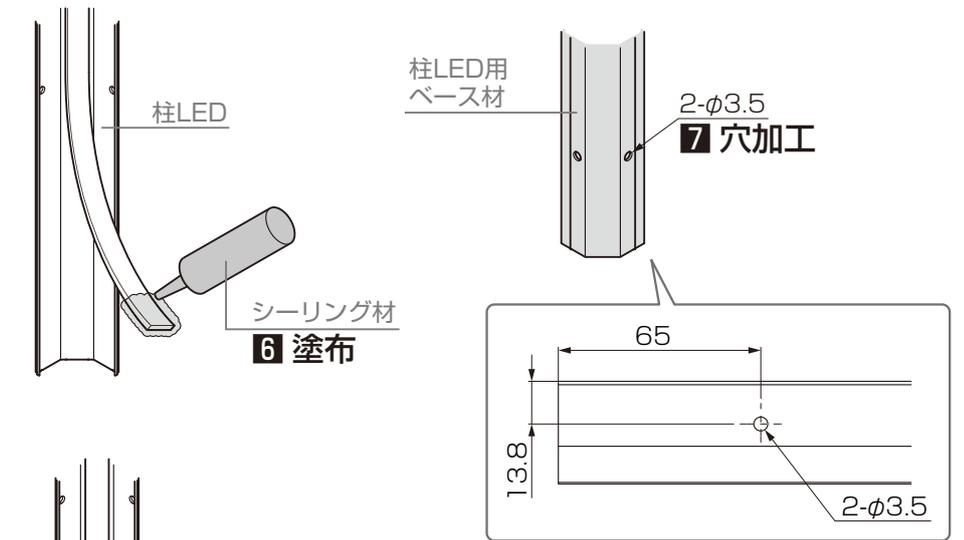
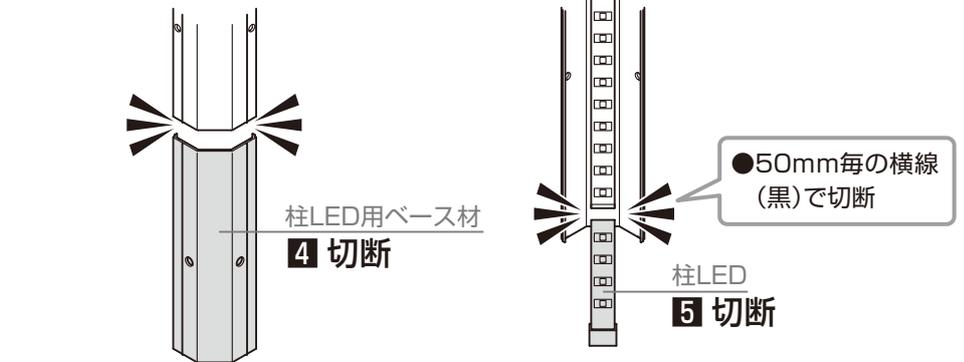
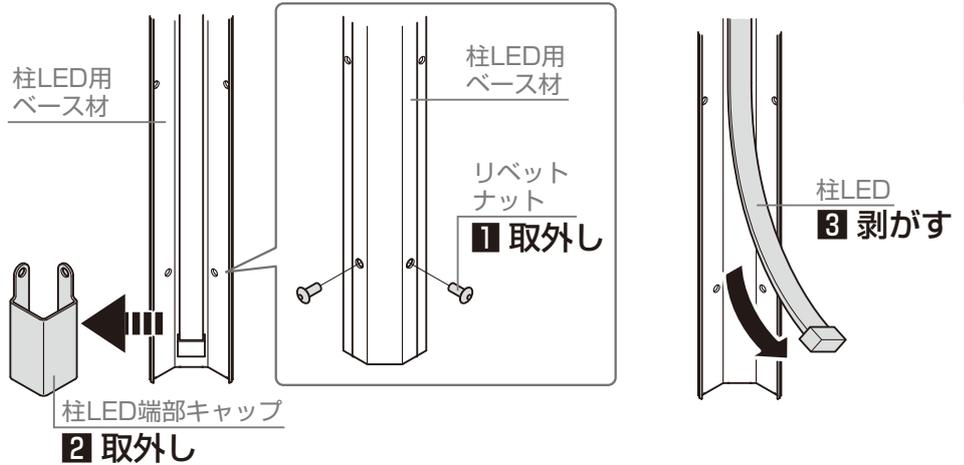
7: 柱LED用ベース材にφ3.5の穴加工

8: 柱LED端部キャップを柱LED用ベース材に【15a】で取付け

9: 柱LEDカバーを切断

お願い

●**【8-2-1】柱の切り詰め**で切り詰めた柱の切断寸法分、切断してください。



9 オプションの施工

9-1 柱LED、フレームLED、ルーフルーバー LEDの取付け

つづき

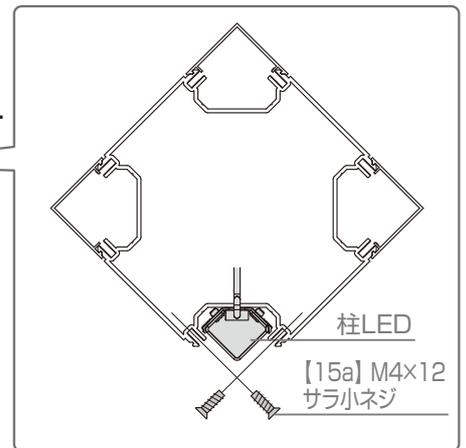
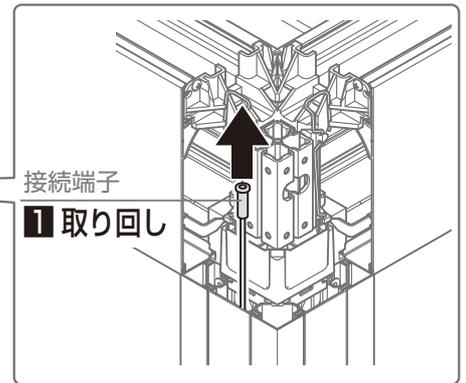
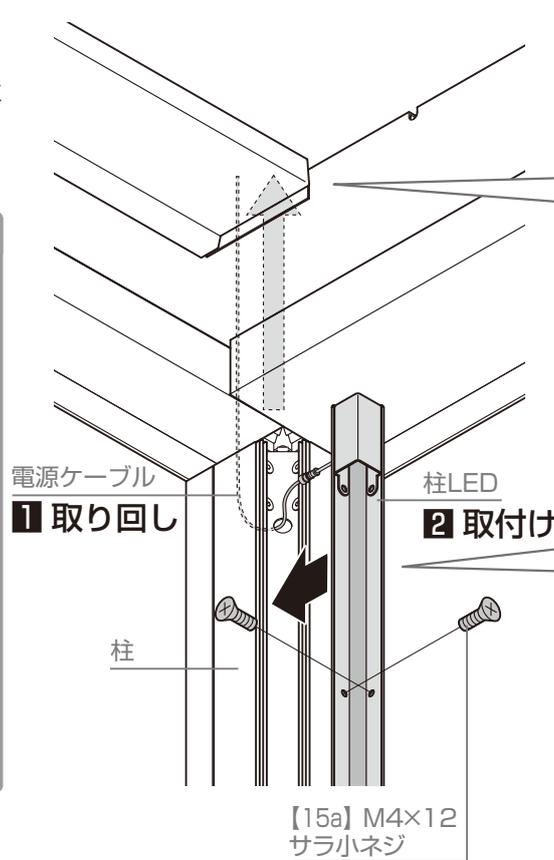
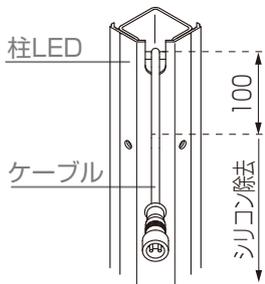
9 オプションの施工

9-1-2 柱LEDの取付け

- 1: 柱LEDの接続端子を、柱の配線穴にし、柱上部へ取り回し
- 2: 柱LEDを柱に【15a】で取付け

お願い

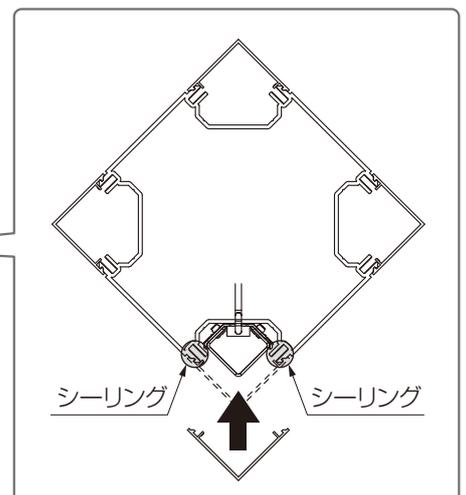
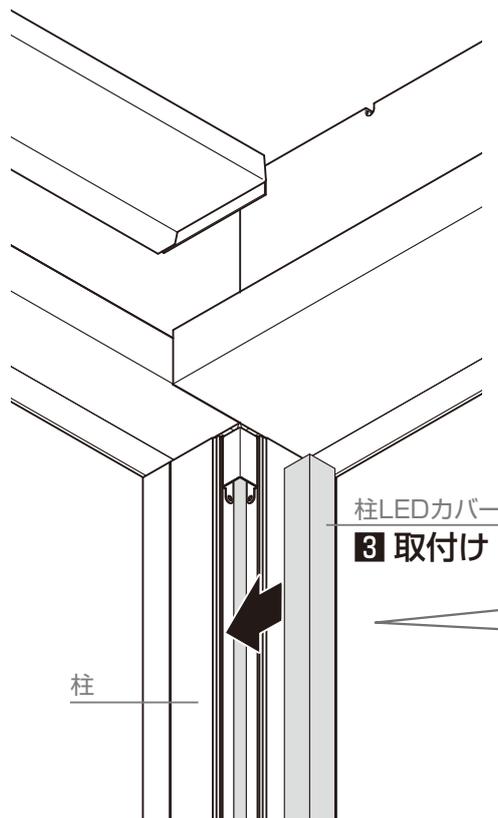
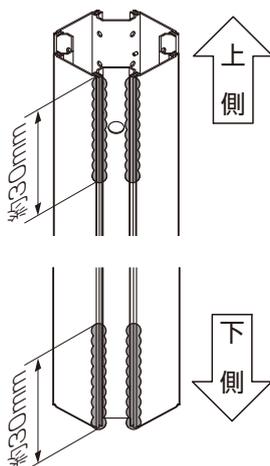
- 柱LEDは、柱の内側にしか取付けられません。
- 柱LEDのケーブルはあらかじめシリコンで固定されています。
- 固定箇所が長すぎる場合は余剰分を除去してください。



- 3: 柱LEDカバーを柱に取付け

お願い

- 柱の上端部、下端部から約30mmにシーリングを塗布してから柱LEDカバーを取付けてください。



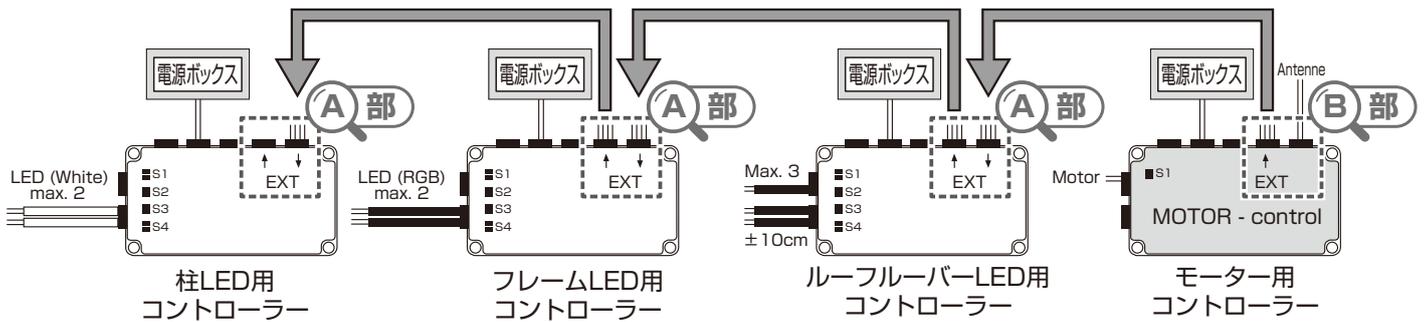
9-1 柱LED、フレームLED、ルーブローバー LEDの取付け

9-1-3 | コントロールボックスの接続 ※コントロールボックスが複数ある場合

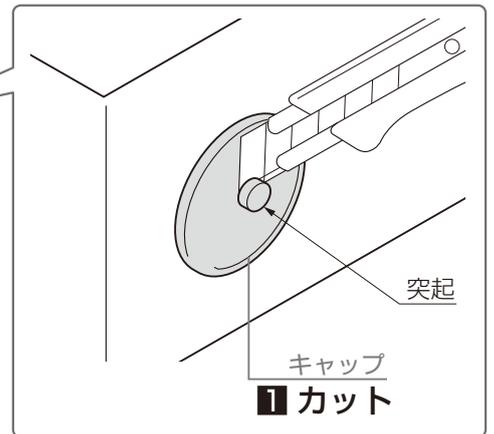
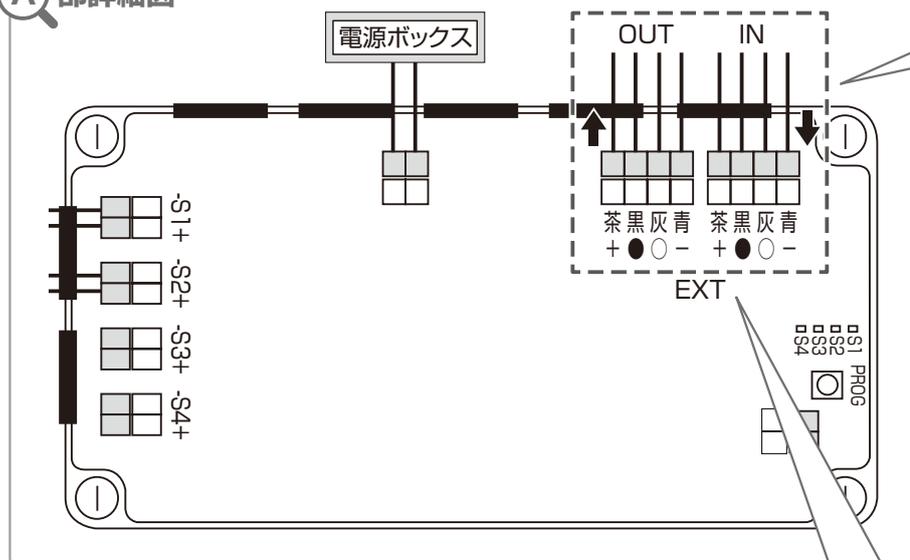
- 1: キャップ部分をカットして穴あけ
- 2: 各コントローラーを連結ケーブルで接続

お願い

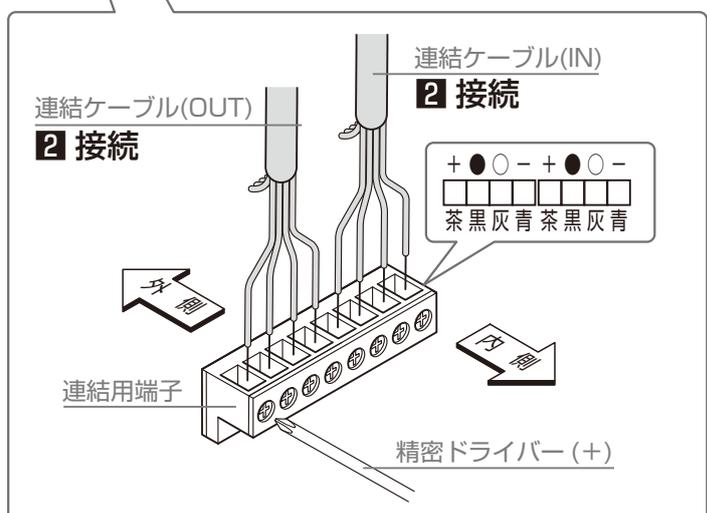
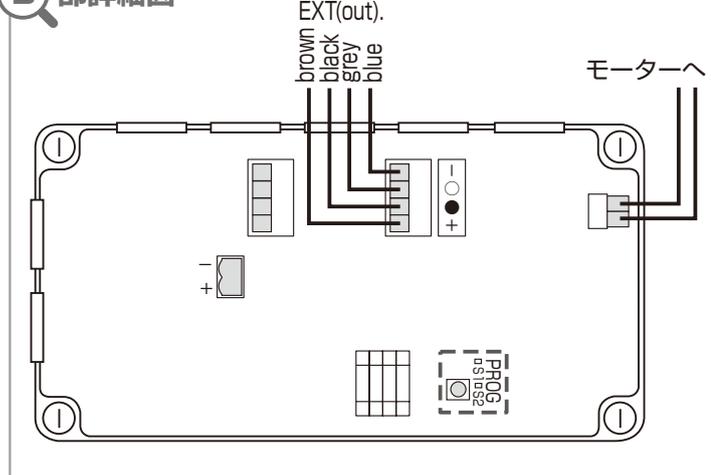
- モーター用コントロールボックスを起点としてください。
- OUT→INで接続してください。



A部詳細図



B部詳細図



9 オプションの施工

9-1 柱LED、フレームLED、ルーフルーバーLEDの取付け

つづき

9-1-4 ルーフルーバーLEDの接続

お願い

- ルーフルーバーLEDの取付けは P.66 | 8-7-6 | ルーフルーバーの取付けを参照してください。

▼ ルーフルーバーLEDをセンター位置に取付ける場合 ▼

- センタールーフルーバーは1列ずらして施工してください。

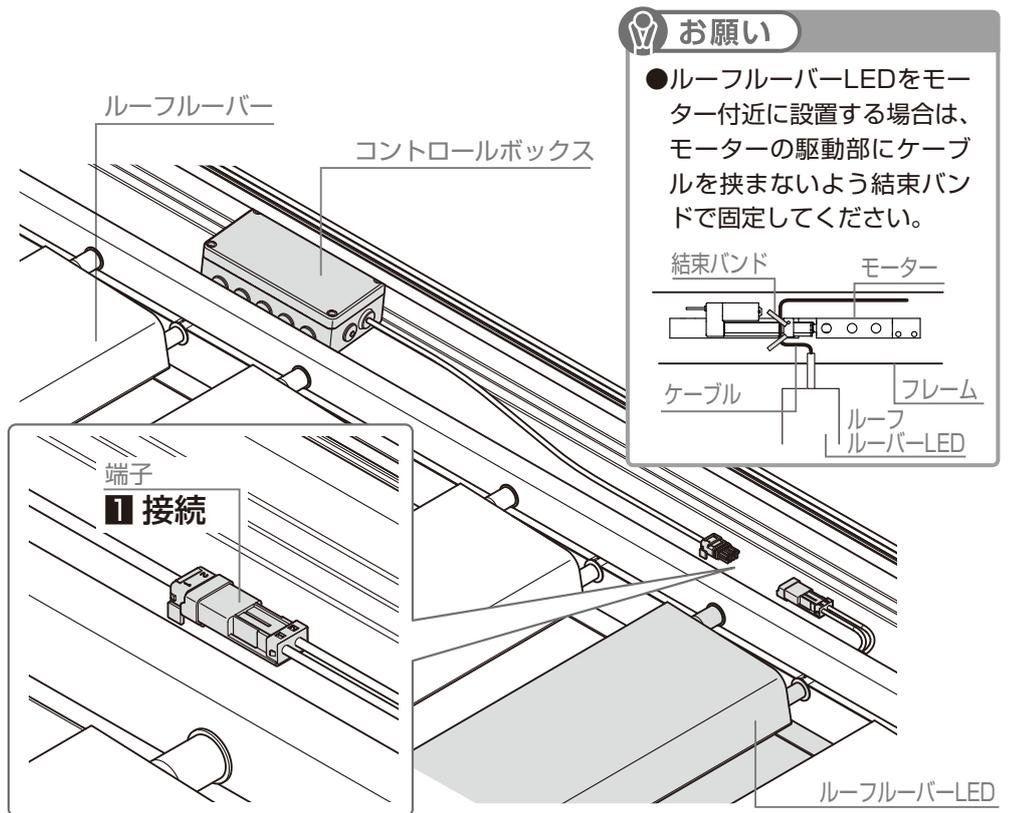
1: ルーフルーバーLEDとコントロールボックスの端子を接続

補足

- コントローラー側のLEDケーブルは工場組み込みです。

お願い

- 各コントローラーはメンテナンスを考慮して1~2つのフレームにまとめて設置してください。
- 初期設定方法は P.73 | 8-8 | ルーフルーバーの初期設定を参照してください。



お願い

- ルーフルーバーLEDをモーター付近に設置する場合は、モーターの駆動部にケーブルを挟まないよう結束バンドで固定してください。

9-1-5 柱LED、フレームLEDの接続

1: LED本体のケーブルと、コントロールボックスのLEDケーブルを接続

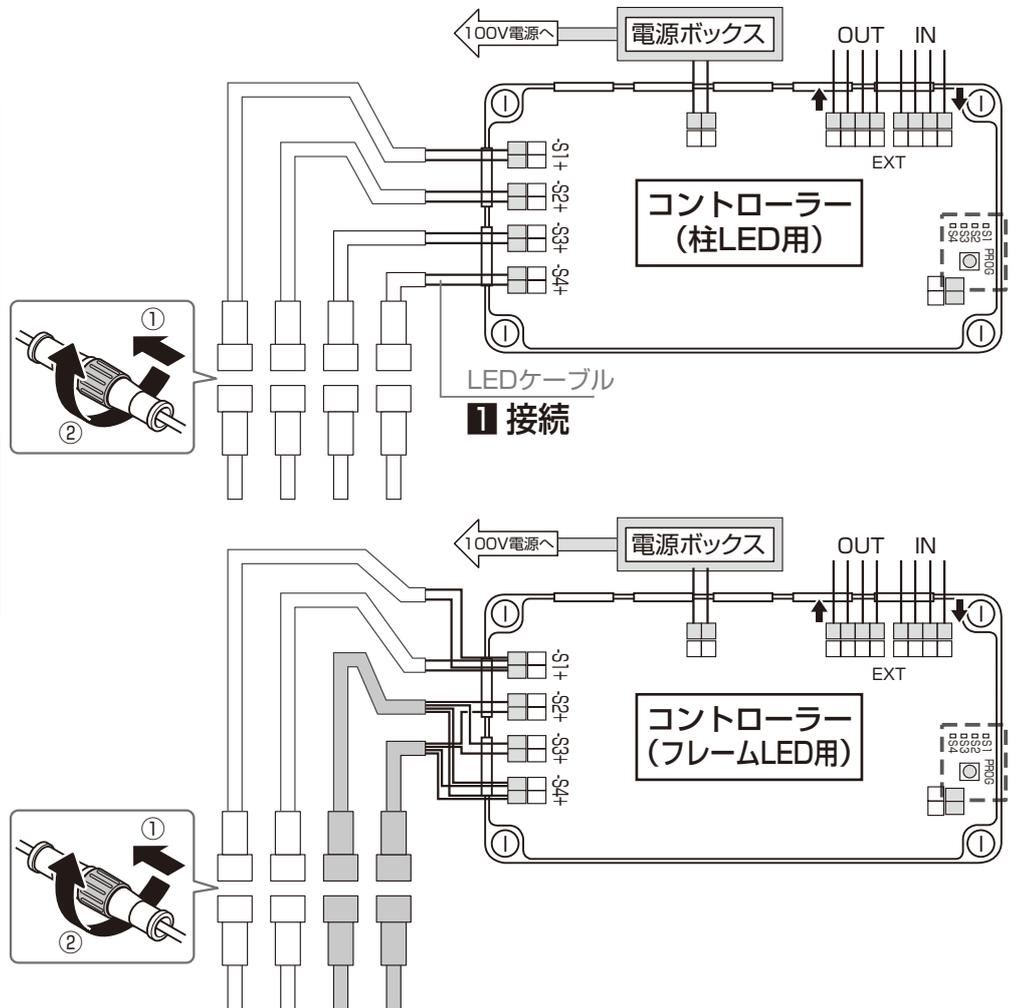
補足

- コントローラー(LED用)1個につきLEDを4カ所まで接続可能です。

例 : 柱LED(電球色)・・・2カ所
 フレームLED(RGB)・・・2カ所
 フレームLED(電球色)・・・2カ所
 コントローラー(LED用)

LEDの種類	
LED(White)	
LED(RGB)	

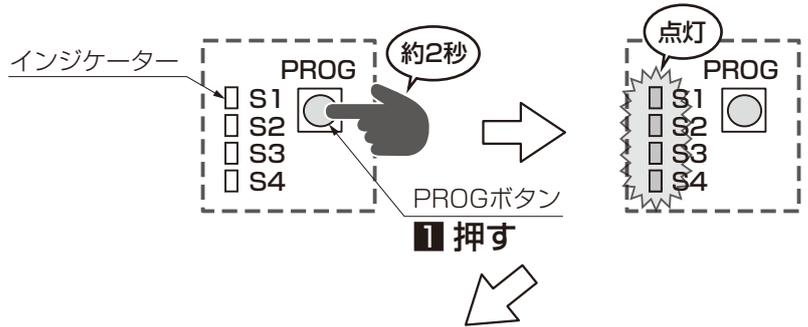
※同色のケーブルを接続する。



9-2 LEDの初期設定

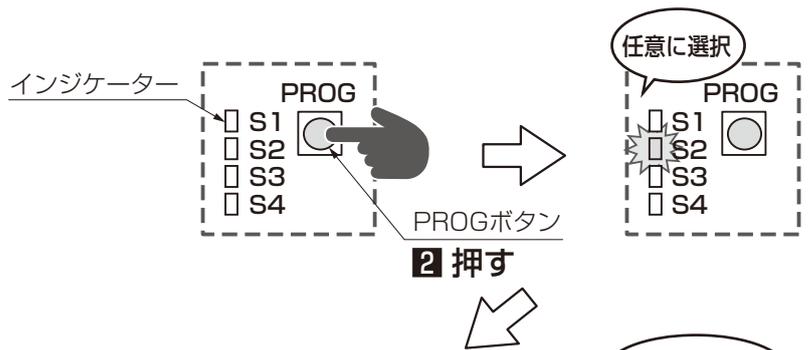
9-2-1 柱LED、ルーフルーバーLEDの設定

1: コントロールボックスのインジケータが同時に点灯するまでPROGボタンを押す(約2秒)



補足
●確認のためLEDが3回点滅したあと、S1のインジケータが点滅します。

2: PROGボタンを押して任意のインジケータを選択

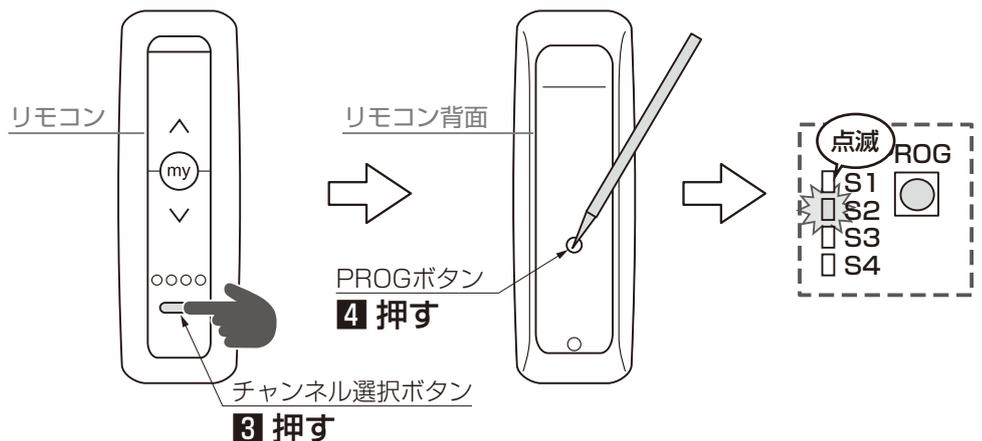


補足
●確認のためLEDが3回点滅したあと、S2のインジケータが点滅します。

お願い
●PROGボタンで設定したいLEDが選択できます。
●任意のLEDを選択し、設定してください。
●LEDが複数ある場合は1つずつ設定が必要です。

3: リモコンで任意のチャンネルを選択

4: リモコン背面のPROGボタンを押す



補足
●確認のためコントロールボックスのインジケータが3回点滅します。

9-2 LEDの初期設定

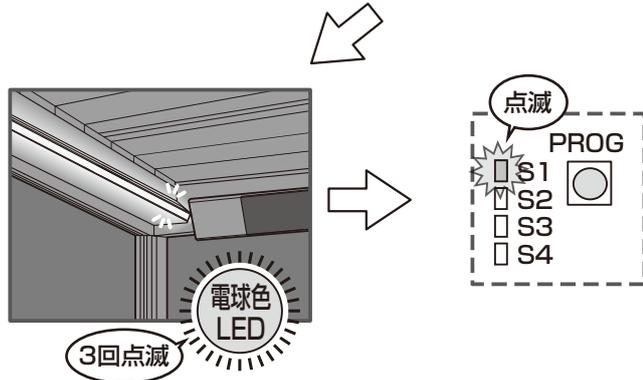
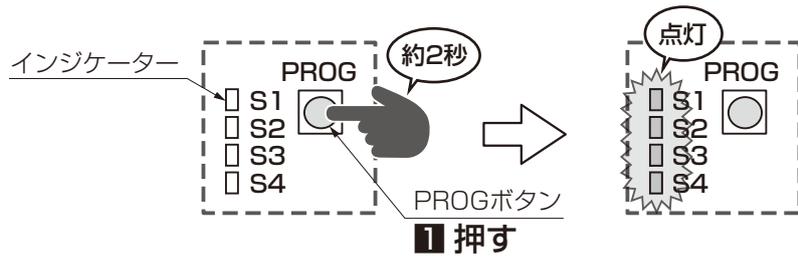
9-2-2 フレームLEDの設定

9 オプションの施工

1: コントロールボックスのインジケータが同時に点灯するまでPROGボタンを押す(約2秒)

補足

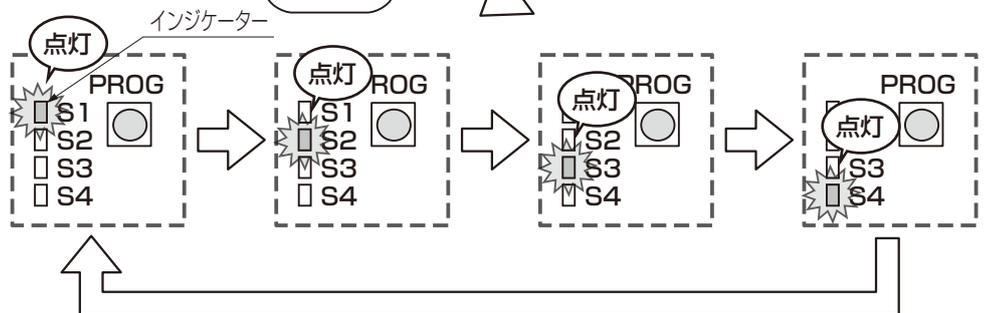
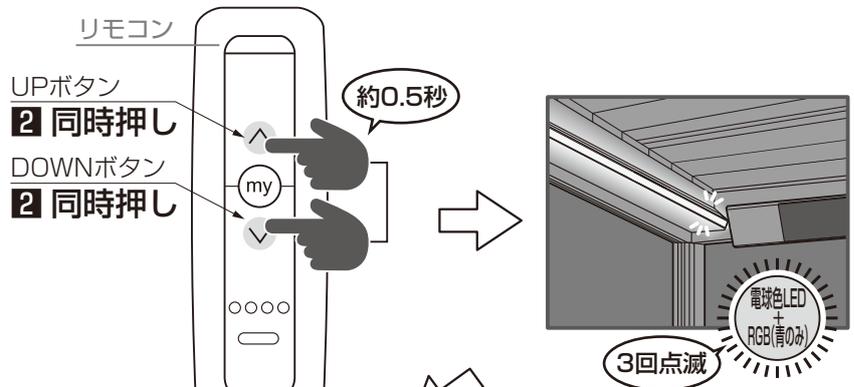
●確認のためLEDが3回点滅したあと、S1のインジケータが点滅します。



2: リモコンのUPボタンとDOWNボタンを同時に押す(約0.5秒)

補足

●確認のためLEDが3回点滅したあと、S1~S4のインジケータが順番に点灯をくり返します。



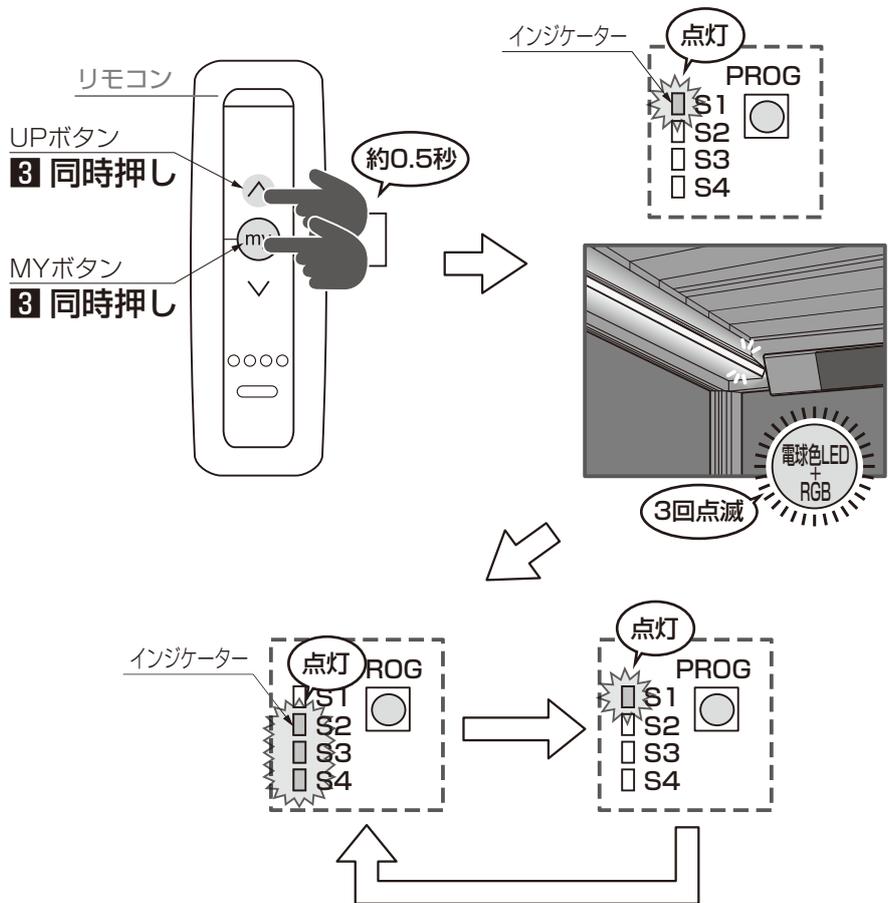
9-2 LEDの初期設定

9-2-2 フレームLEDの設定

3: リモコンのUPボタンとMYボタンを同時に押す(約0.5秒)

補足

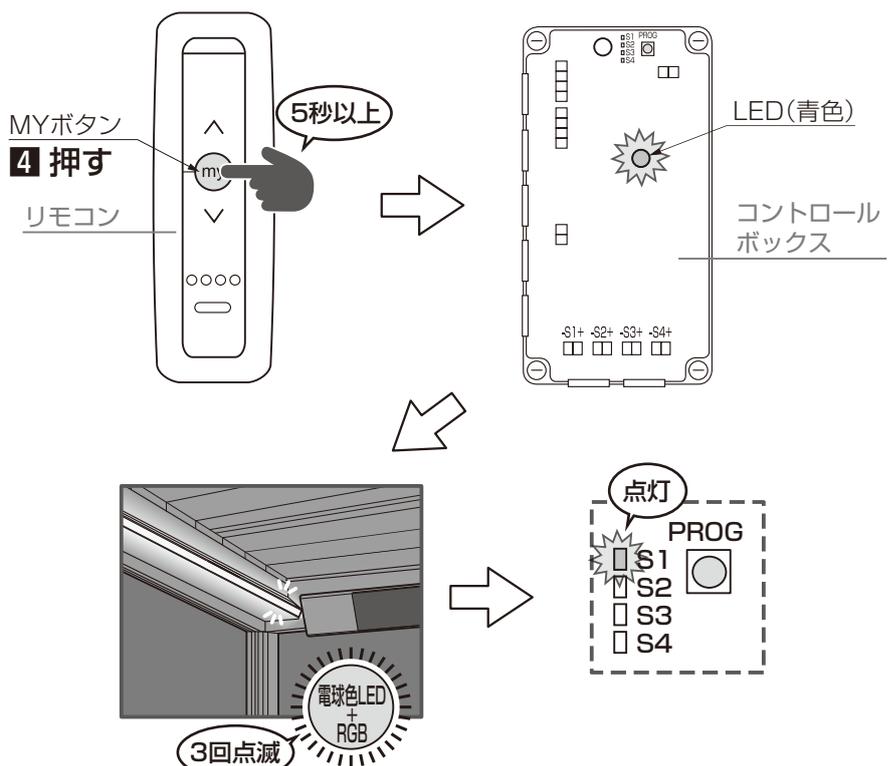
●確認のためS1のインジケータが点灯し、同時にLEDが3回点滅します。
 続いて「S2、S3、S4のインジケータが同時に点灯」→「S1が点灯」が繰り返されます。



4: コントロールボックスのLED(青色)が点灯するまで、リモコンのMYボタンを押し続ける(5秒以上)

補足

●確認のためLEDが3回点滅したあと、コントロールボックスのS1が点灯します。



9-2 LEDの初期設定

つづき

9-2-2 フレームLEDの設定

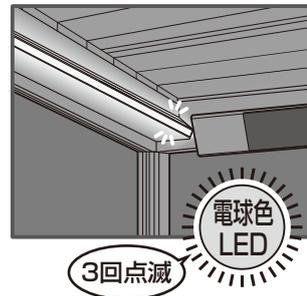
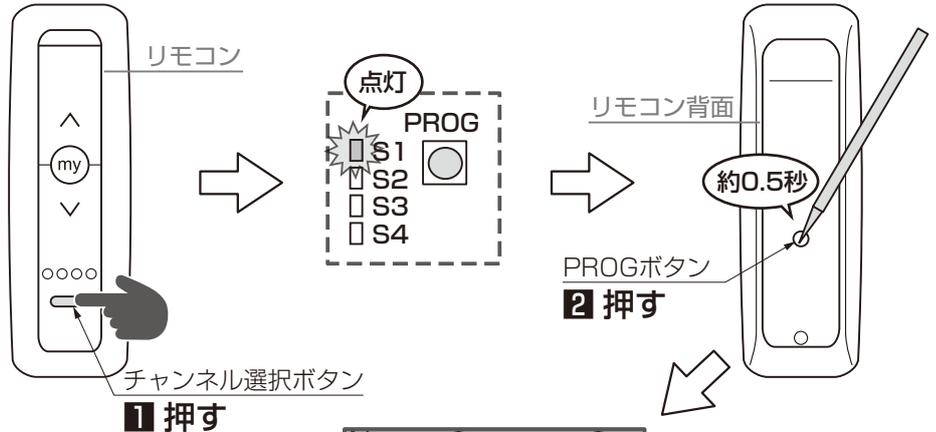
つづき

▼ 電球色LEDの登録 ▼

- 1: リモコンで任意のチャンネルを選択
- 2: リモコン背面のPROGボタンを押す (約0.5秒)

補足

- 確認のためLED（電球色）が3回点滅します。



▼ RGB LEDの登録 ▼

- 1: LEDコントロールボックスのPROGボタンを押す (約2秒)

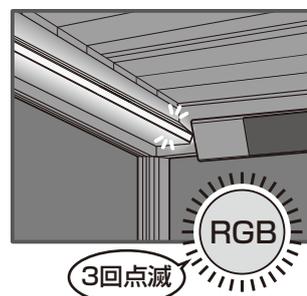
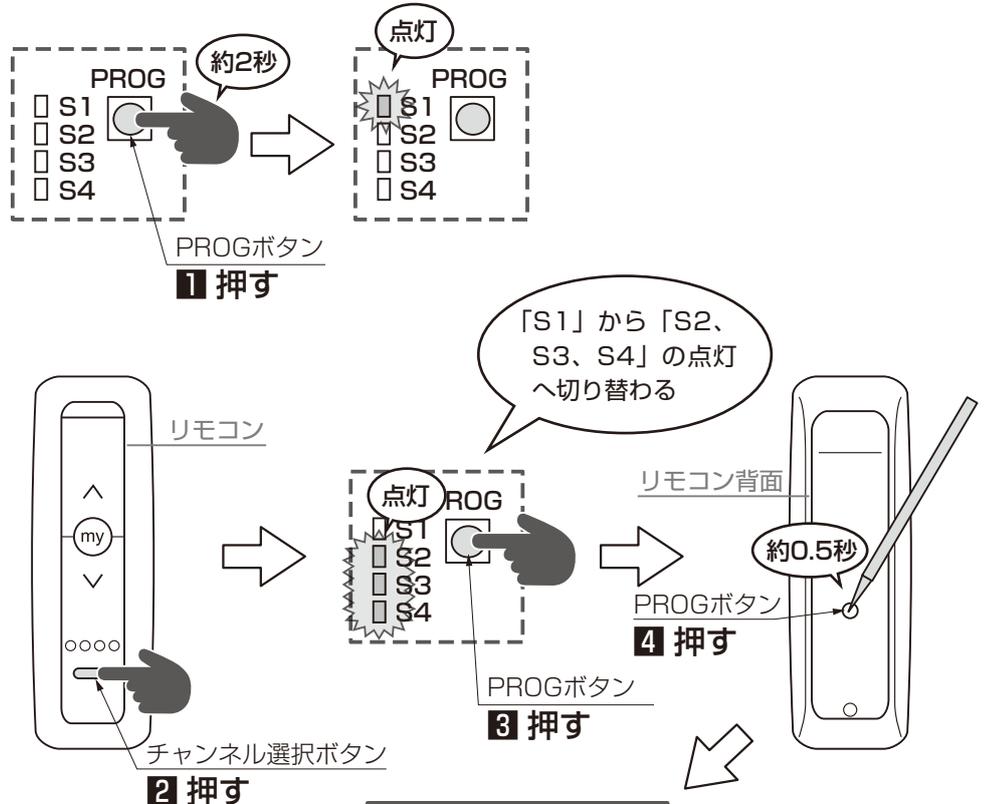
補足

- 確認のためコントロールボックスのS2、S3、S4が同時に点滅したあと、LED本体のLED（赤/緑/青）が3回点滅します。

- 2: リモコンで任意のチャンネルを選択
- 3: LEDコントロールボックスのPROGボタンを押す (約0.5秒)
- 4: リモコン背面のPROGボタンを押す (約0.5秒)

補足

- 確認のためLED（赤/緑/青）が3回点滅します。



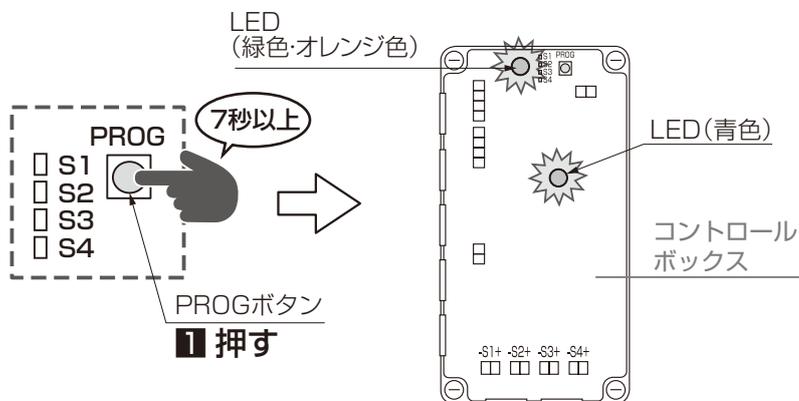
9-2 LEDの初期設定

9-2-3 | コントロールボックスの初期化

●ルーフルーパー、LEDが正常に作動しない場合は、以下の初期化を実行し、設定しなおしてください。

▼ モーター用コントロールボックス ▼

1: コントロールボックスの緑、オレンジ、青のLEDが点灯するまでPROGボタンを押し続ける(7秒以上)

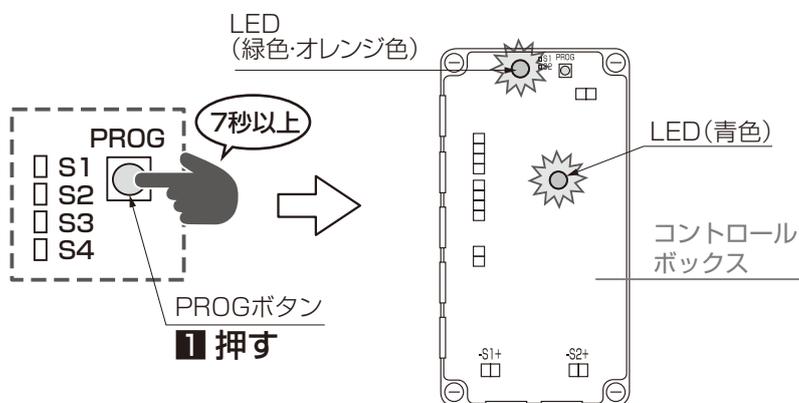


お願い

●ルーフルーパーの設定方法は P.73 | 8-8-2 | ルーフルーパーの設定を参照してください。

▼ LED用コントロールボックス ▼

1: コントロールボックスの緑、オレンジ、青のLEDが点灯するまでPROGボタンを押し続ける(7秒以上)

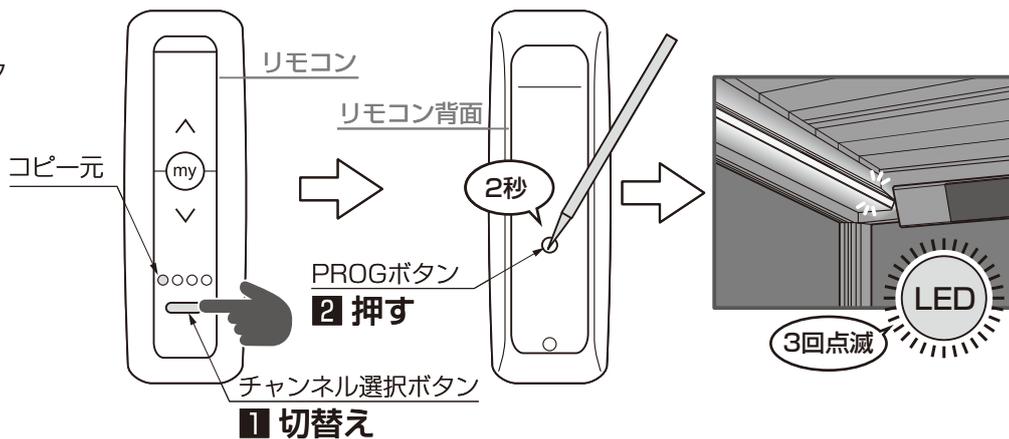


お願い

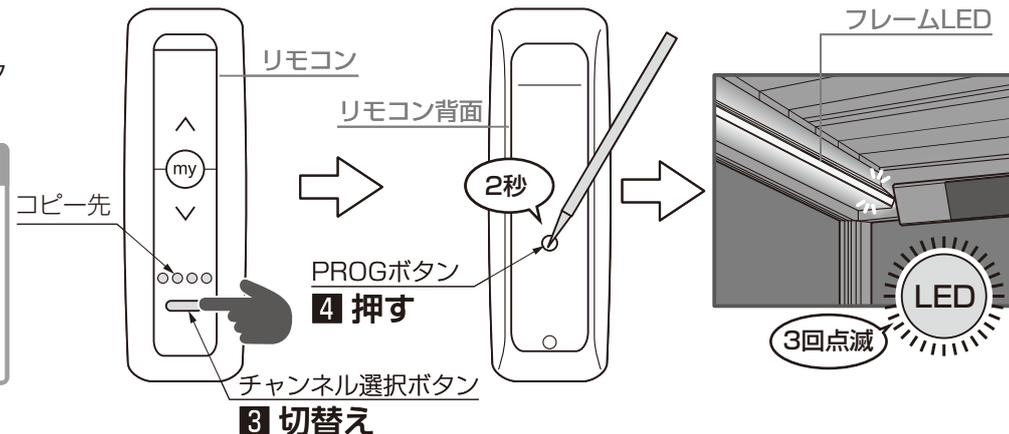
●LEDの設定方法は P.80 | 9-2-1 | 柱LED、ルーフルーパーLEDの設定 P.81 | 9-2-2 | フレームLEDの設定を参照してください。

9-2-4 | 一斉操作の設定

1: コピーしたいチャンネルに切替え
2: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



3: コピー先のチャンネルに切替え
4: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



お願い

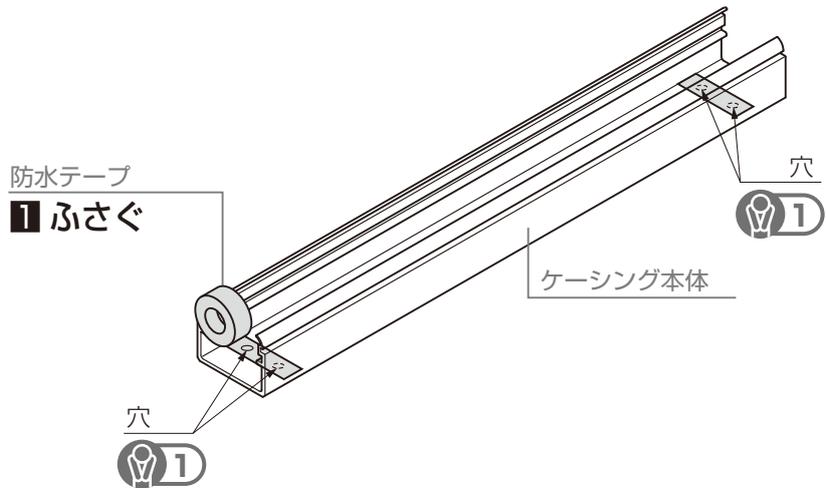
●複数のLEDを登録する場合は1~4を繰り返してください。
●一斉操作設定後、解除する場合は解除したいチャンネルを選択後、1~4を行ってください。



9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-1 ケーシングの準備

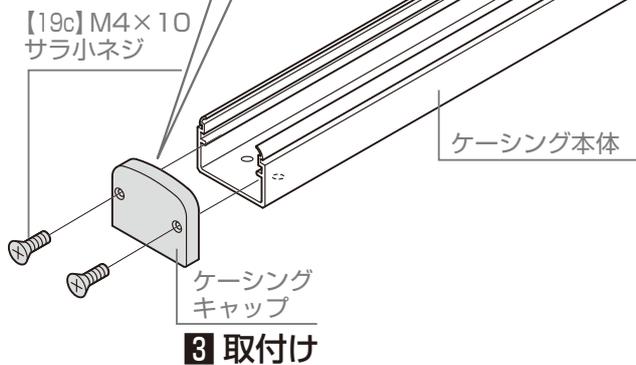
1: ケーシング底面のすべての穴を防水テープでふさぐ



2: 任意の位置にφ12の穴加工

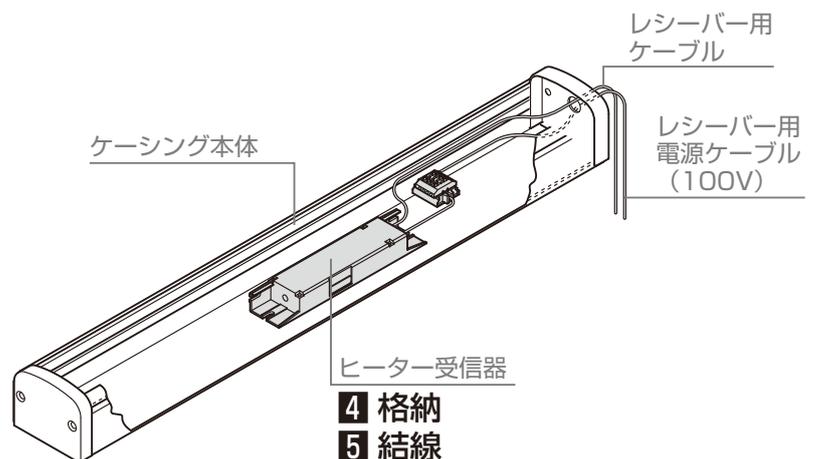


3: ケーシングキャップをケーシング本体に【19c】で取付け



4: ケーシング内にヒーター受信器を格納

5: ヒーター受信器とレシーバー用ケーブル、電源ケーブル(100V)をケーシング内部で結線

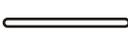


お願い

- ケーブルの結線の方法については P.96 | 9-5-1 | ケーブルの接続を参照してください。
- 結線はケーシング内部で行なってください。

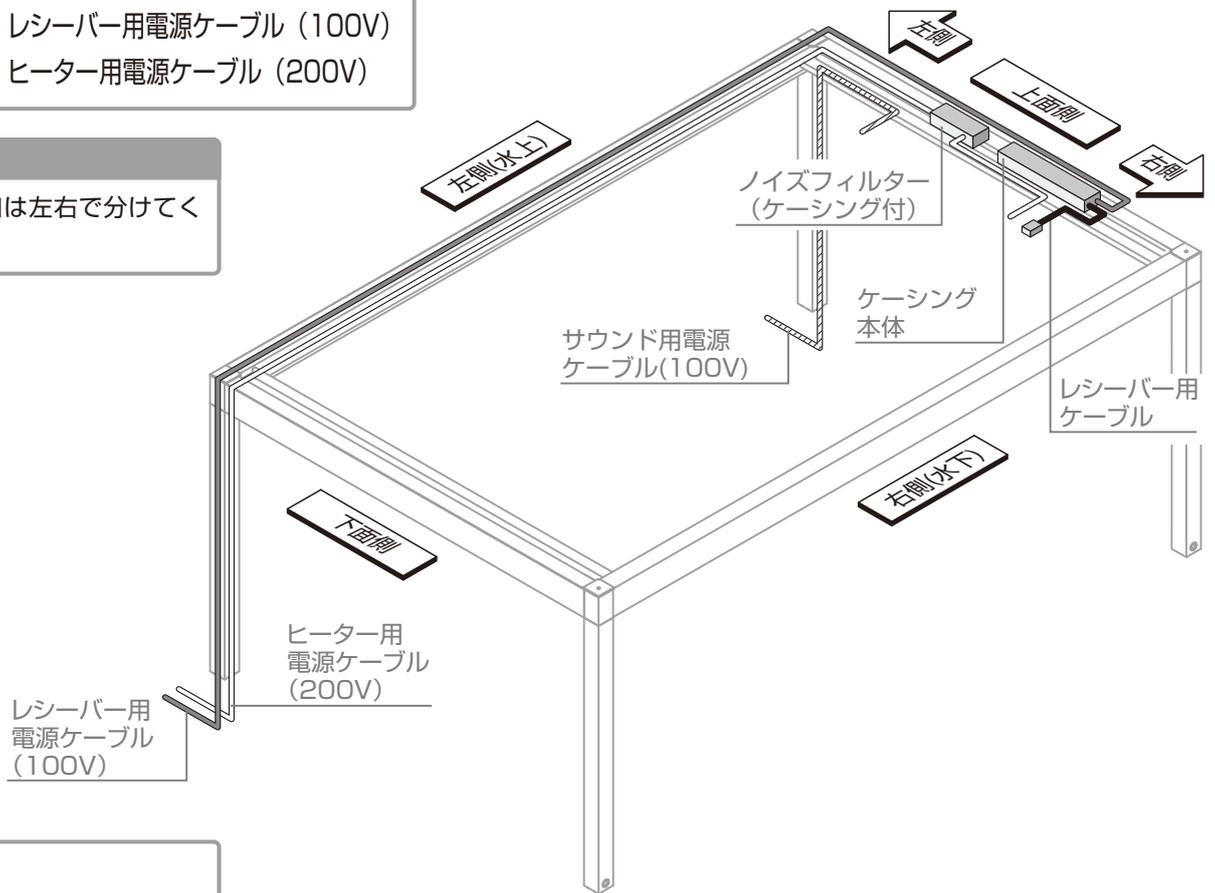
9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-2 本体とケーブルの取り回し位置の確認

- 左側**
-  サウンド用電源ケーブル (100V)
- 右側**
-  レシーバー用ケーブル
 -  レシーバー用電源ケーブル (100V)
 -  ヒーター用電源ケーブル (200V)

お願い

- ケーブルの出口は左右で分けてください。



補足

- ケーシングはヒーター1基につき2つ設置します。

お願い

- サウンド&ヒーターとロールスクリーンを併用する場合は、それぞれのレシーバーとアンプを1つのケーシング内に収めてください。

9-3 サウンド&ヒーターの取付け

🔦 お願い

●オプション:ロールスクリーンを設置する場合は、必ずサウンド&ヒーターの設置を先に行なってください。

9-3-3 吊り金具の取付け

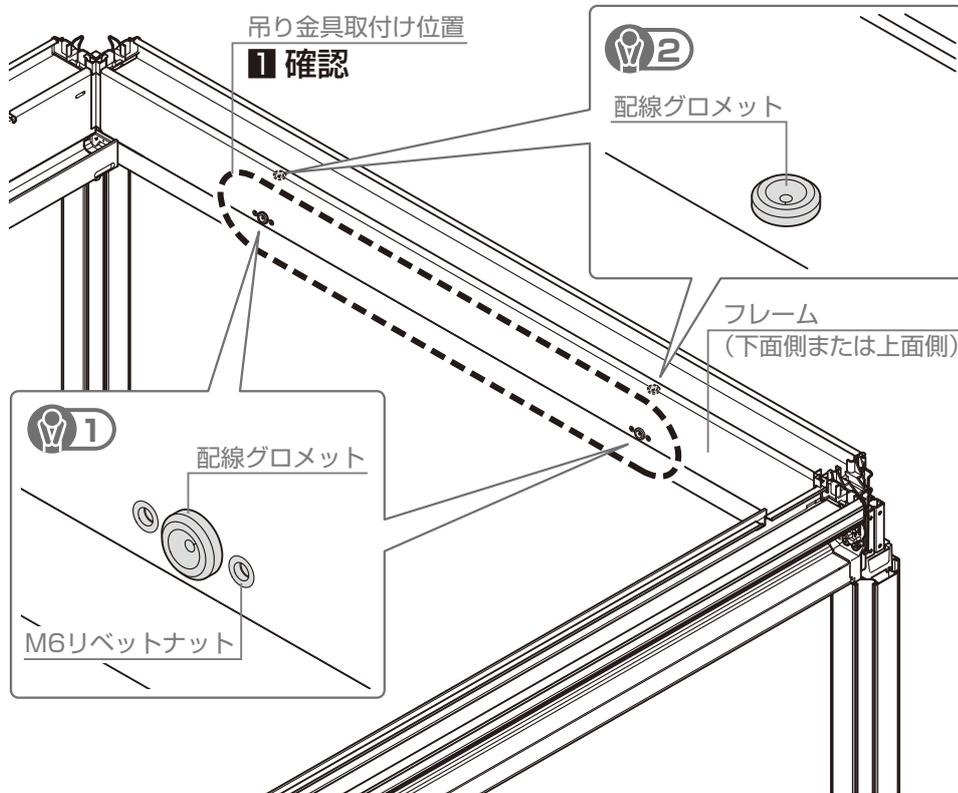
1: フレーム(下面側または上面側)の吊り金具取付け位置を確認

🔦 お願い 1

●吊り金具取付け位置に、配線グロメットとM6リベットナットが取付けられていることを確認してください。

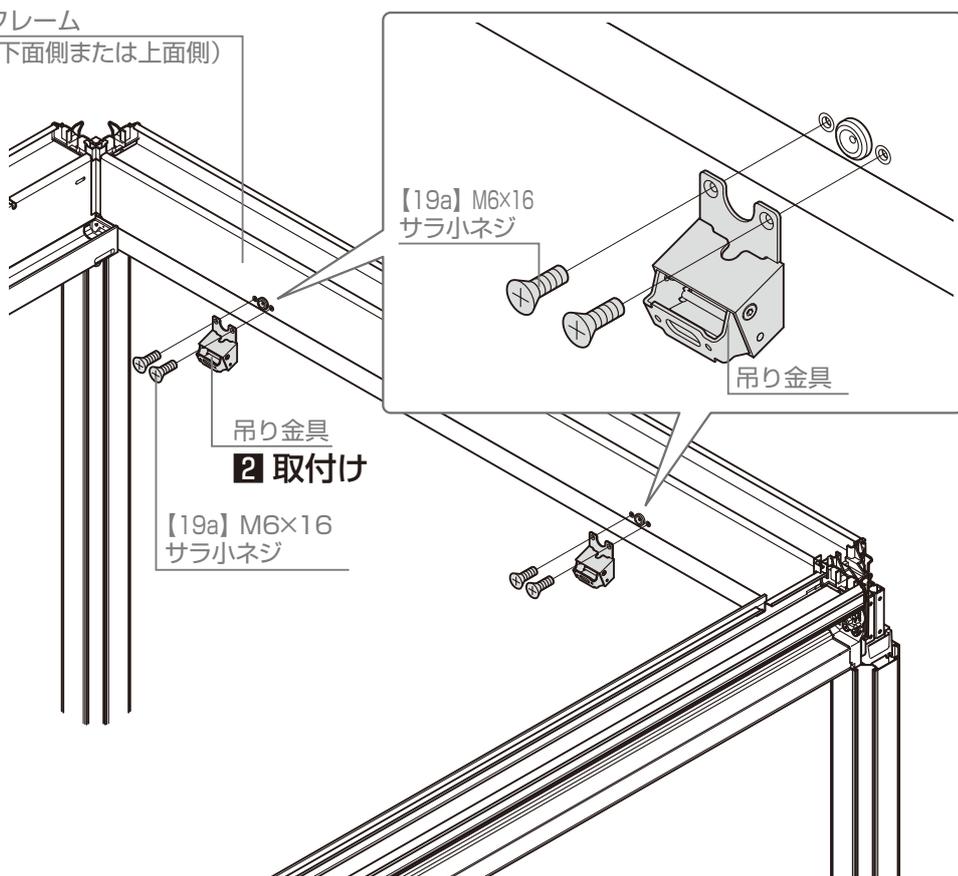
🔦 お願い 2

●フレーム(下面側または上面側)の上部に、配線グロメットが取付けられていることを確認してください。



フレーム (下面側または上面側)

2: 吊り金具をフレーム(下面側または上面側)に【19a】で取付け



9-3 サウンド&ヒーターの取付け

つづき

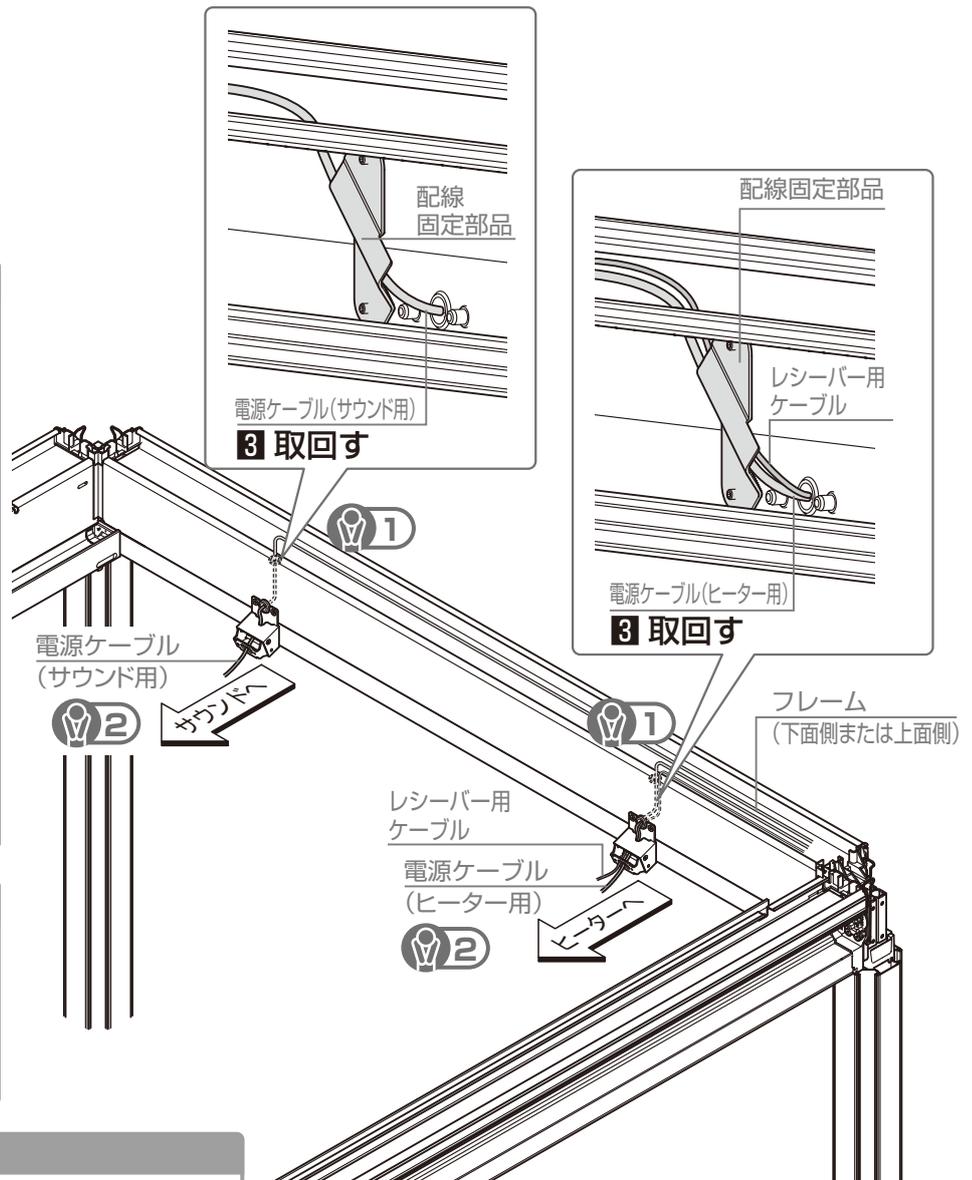
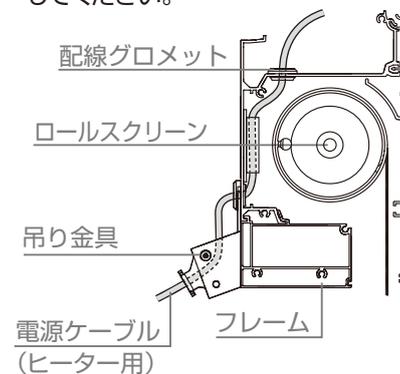
9-3-3 吊り金具の取付け

つづき

3: 電源ケーブルをフレーム(下面側または上面側)の上部から取回す

お願い 1

- サウンド用(100V)ケーブルは左側、ヒーター用(200V)、レシーバー用ケーブルは右側の吊り金具へ取り回してください。



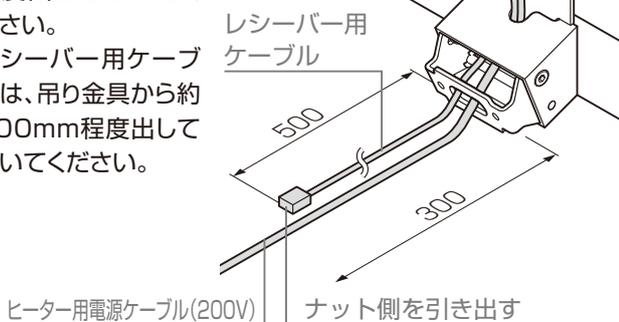
お願い

▼ ロールスクリーンと併用する場合 ▼

- ケーブルがロールスクリーンに干渉するおそれがあるため、配線固定部品はしっかりと固定してください。

お願い 2

- 電源ケーブルは、吊り金具から約300mm程度出しておいてください。
- レシーバー用ケーブルは、吊り金具から約500mm程度出しておいてください。



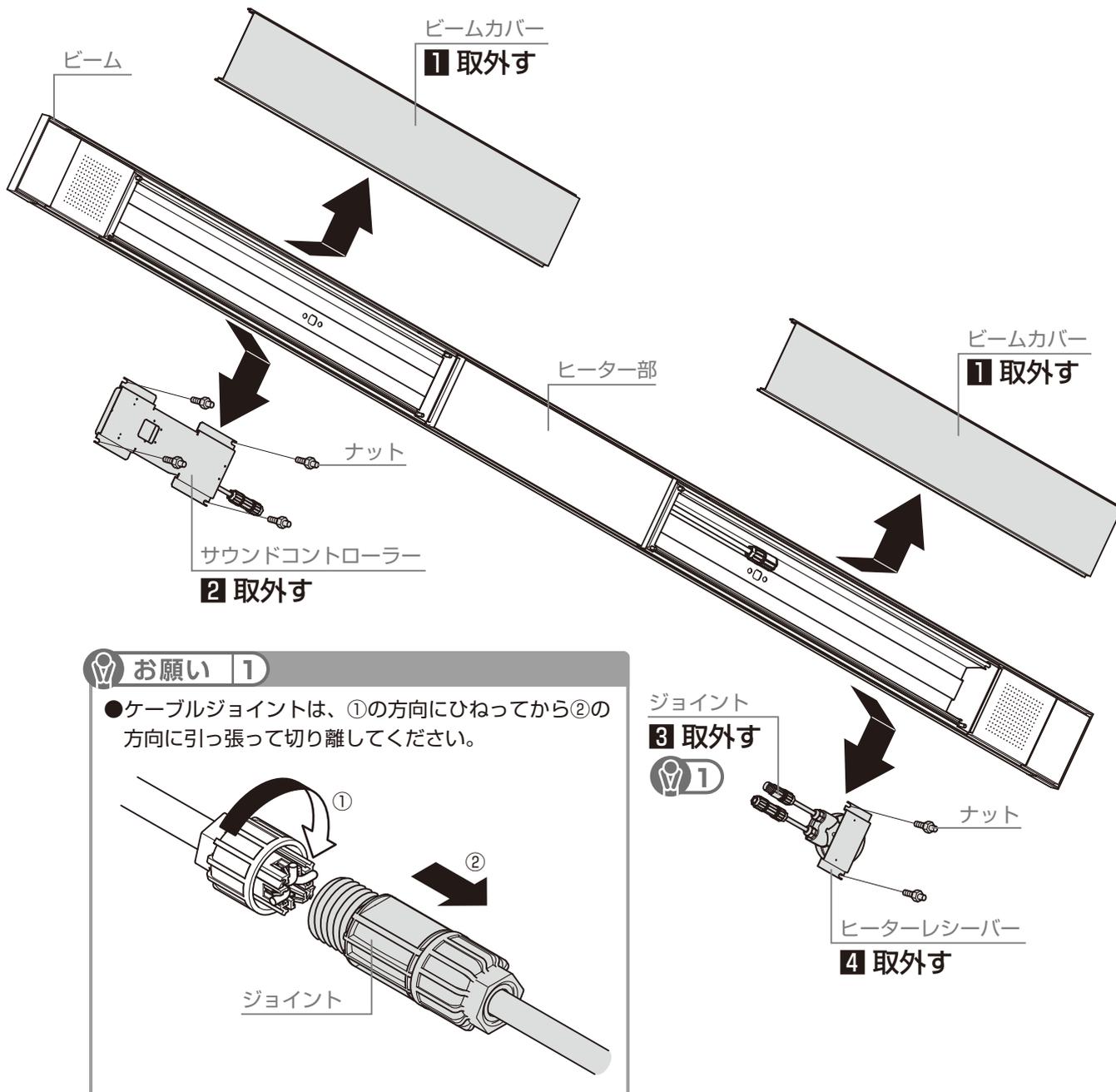
9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-4 ビームの取付け

- 1: ビームカバーをビームから取外す
- 2: サウンドコントローラーを取外す
- 3: ヒーターレシーバーとヒーターのケーブルジョイント部を取外す
- 4: ヒーターレシーバーを取外す

お願い

●取外したネジは取付けの際に使用しますので、保管してください。



9-3 サウンド&ヒーターの取付け

つづき

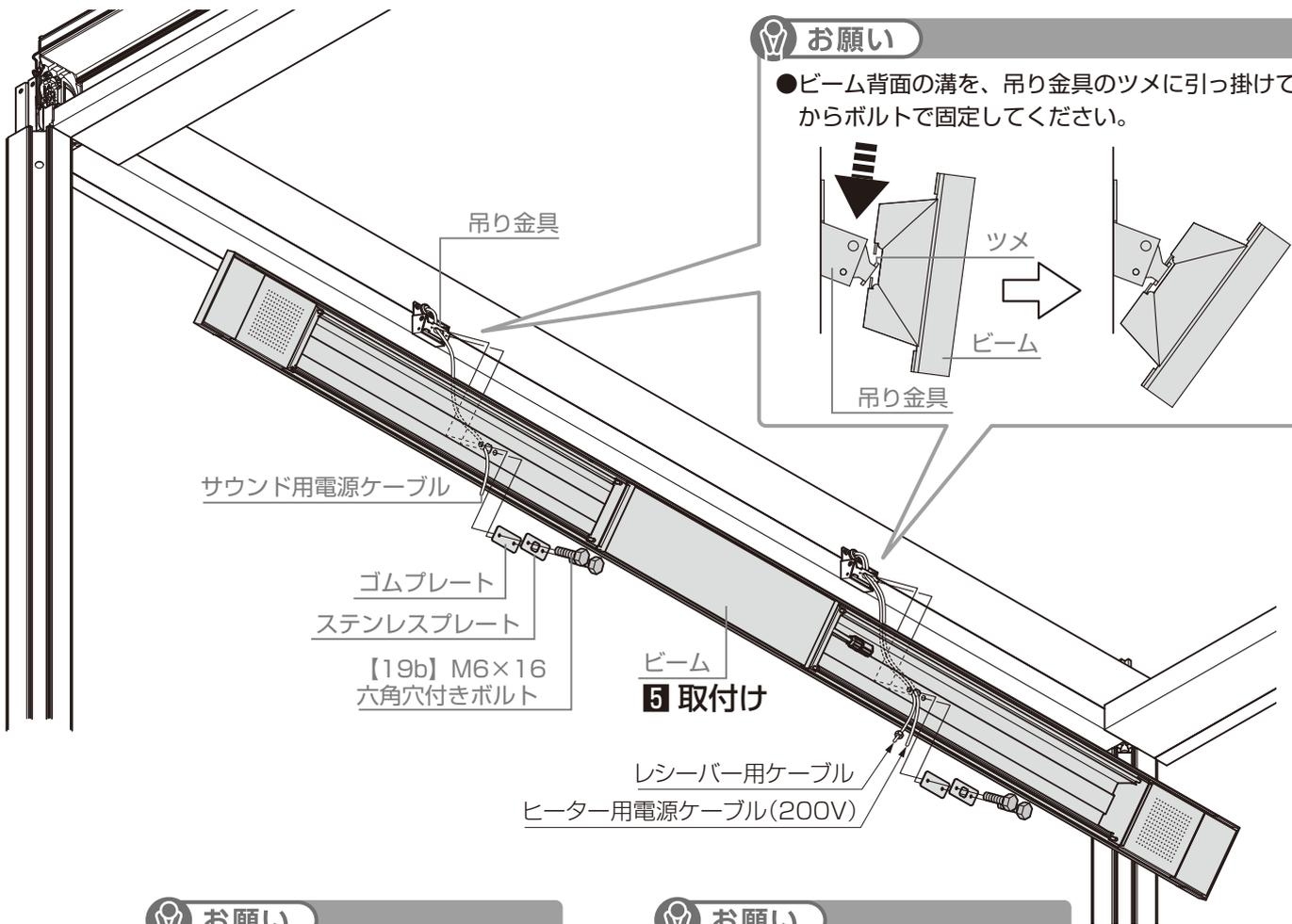
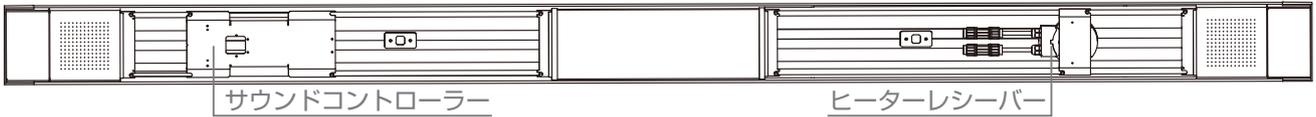
9-3-4 ビームの取付け

つづき

5: ビームを吊り金具に吊り金具正面から取外した【19b】ボルトで取付け

お願い

- ヒーターレシーバーは、ビームを正面から見て右側になるように取付けてください。

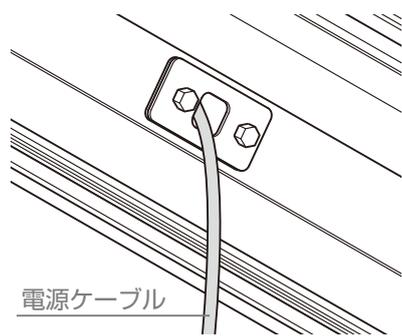


お願い

- ビーム背面の溝を、吊り金具のツメに引っ掛けてからボルトで固定してください。

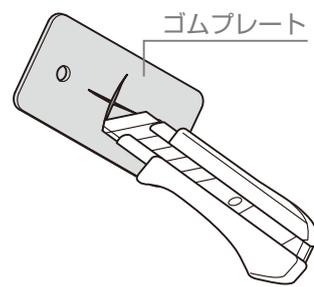
お願い

- 電源ケーブルは、ビームの開口部を通して正面側に出ている状態しにしてください。



お願い

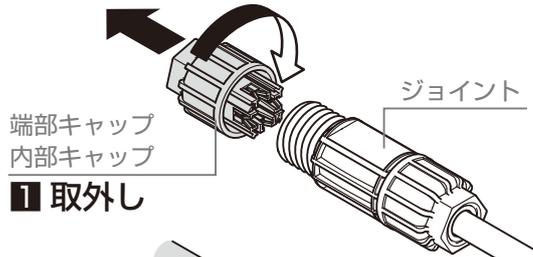
- 吊り金具の固定位置に電源ケーブルがある場合は、ゴムプレートに切り込みを入れて電源ケーブルを通してください。



9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-5 ヒーターの接続

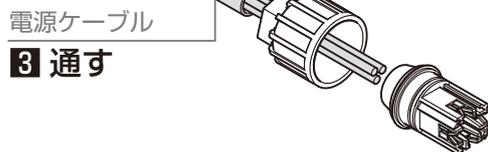
1: ヒーターレシーバーのジョイント部品から、端部キャップと内部キャップを取外し



2: 電源ケーブルの端部をカットし、被膜処理



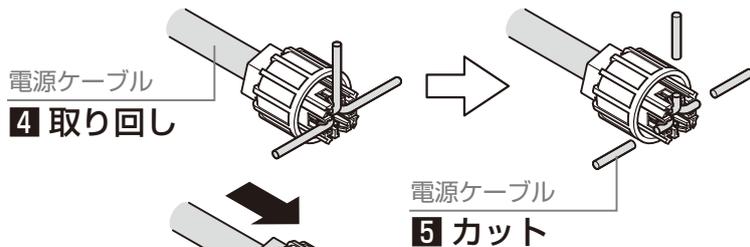
3: 電源ケーブルの先端を、端部キャップと内部キャップに通す



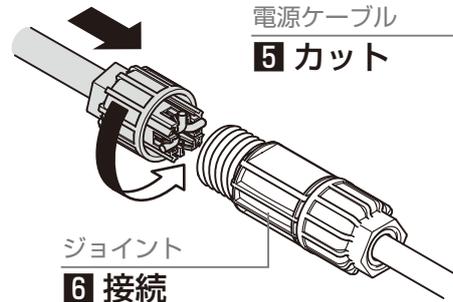
4: 電源ケーブルの各色の先端を、内部キャップに表示されている番号へ取り回し

- 配線【青】→1
- 配線【茶】→2
- 配線【黄】→アース

5: 内部キャップからはみ出ている余分な電源ケーブルをカット



6: 5で完成したケーブルと、ヒーターレシーバーのジョイント部品を、矢印を合わせて接続



お願い

- ジョイント部品は、回らなくなるところまできつく締めてください。

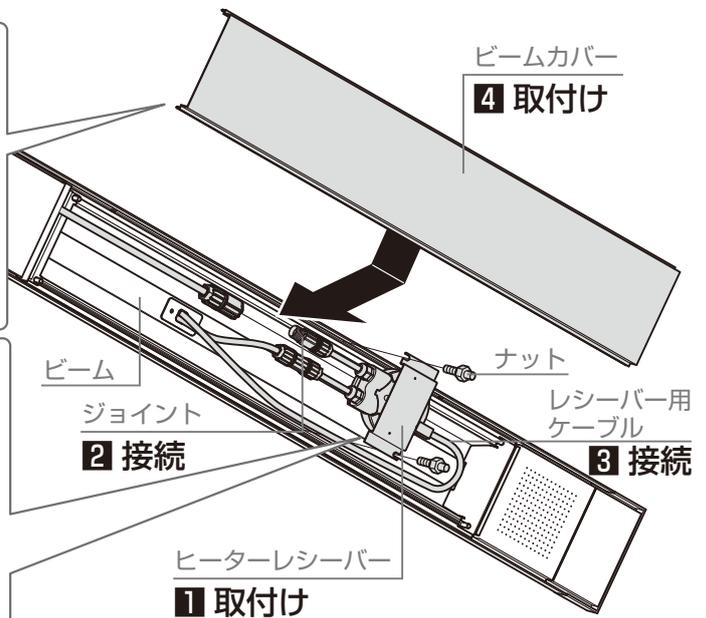
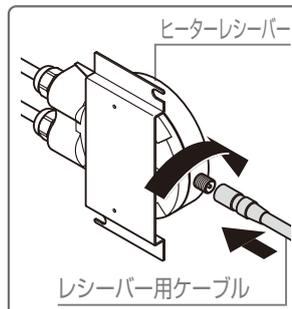
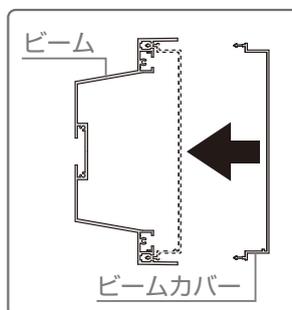
9-3-6 ヒーターの仕上げ

1: ヒーターレシーバーを元の位置に戻し、ナットでビームに取付け

2: ヒーターレシーバーとヒーターのケーブルジョイント部を接続

3: レシーバー用ケーブルをヒーターレシーバーに接続

4: ビームカバーをビームに取付け



お願い

- 最初にヒーターレシーバーを取り外した際のナットを使用して取付けてください。
- ヒーターレシーバーを取付ける際は、表裏の向きを確認してください。

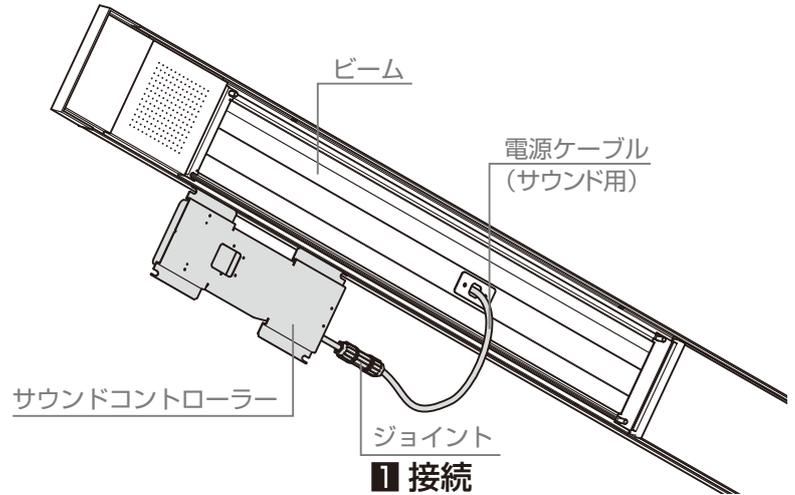
9-3 サウンド&ヒーターの取付け

9-3-7 サウンドコントローラーと電源ケーブルの接続

1: ビーム左側の電源ケーブルと、サウンドコントローラーのジョイント部品を接続

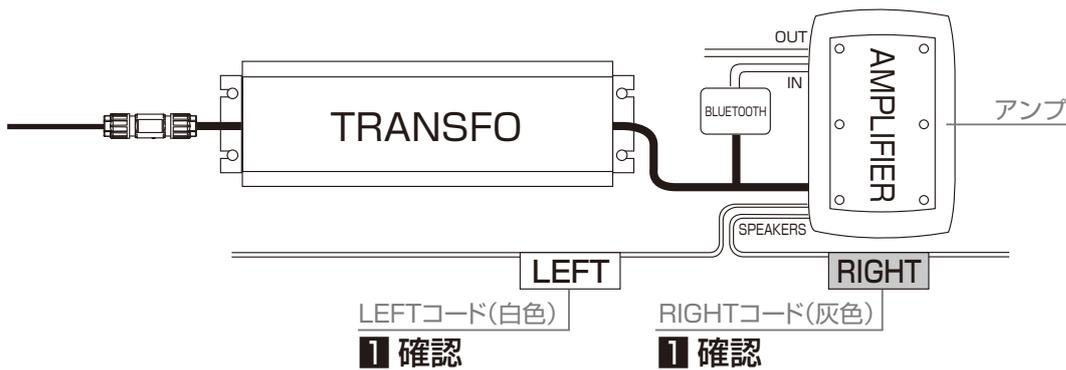
お願い

- 電源ケーブルとジョイント部品の接続方法はP.91 | 9-3-5 | ヒーターの接続を参照してください。

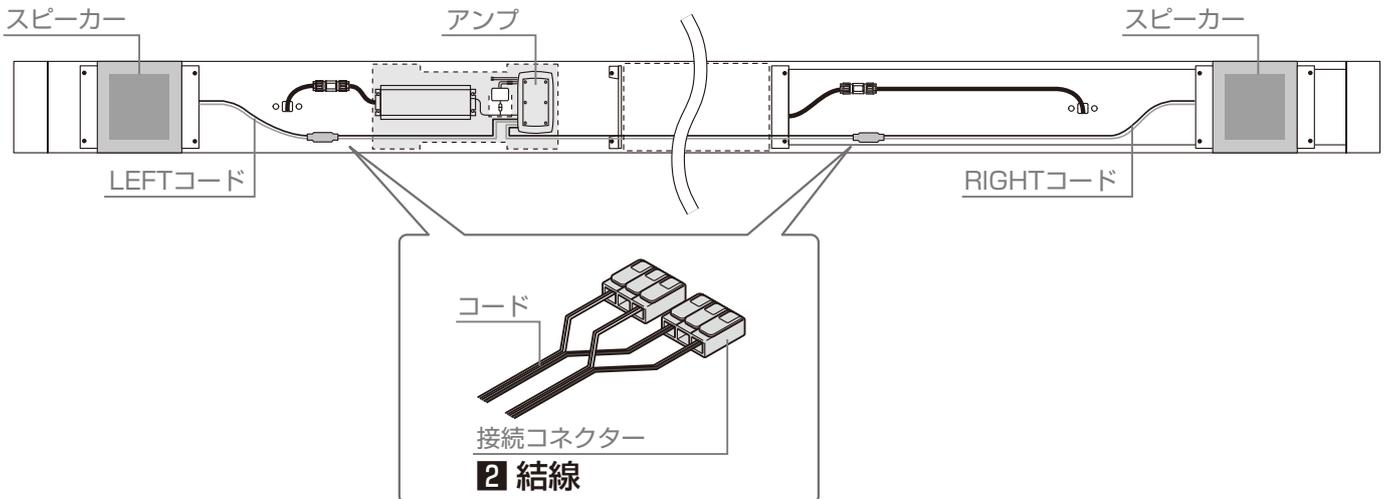


9-3-8 サウンドコントローラーとスピーカーの接続

1: サウンドコントローラーのアンプから、LEFT(白色)、RIGHT(灰色)のラベルが貼られた2本のコードが伸びていることを確認



2: 左右のスピーカーから出ているコード(LLEFT/RRIGHT)と、アンプのコード(LLEFT/RRIGHT)を接続コネクタで結線



お願い

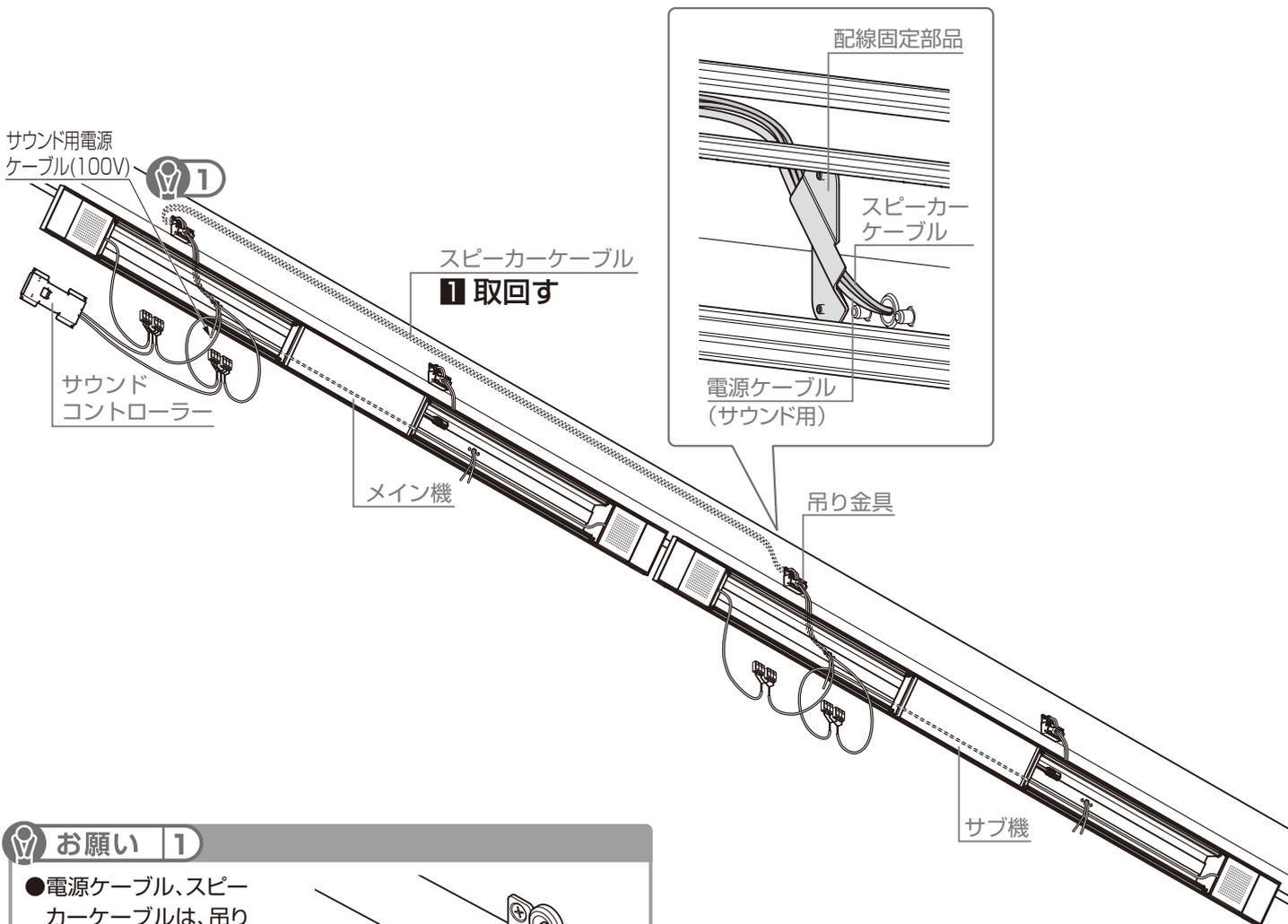
- スピーカーのコードには左右の表記がありません。ビームの正面左側にサウンドコントローラーが設置される状態を基本として、左右の判別を行なってください。
- アンプとスピーカーから出ているコードは、無地と黒線入りの2種類があります。必ず同色のコード同士で結線してください。

9 オプションの施工

9-4 サウンド&ヒーターの取付け（2台以上の連結）

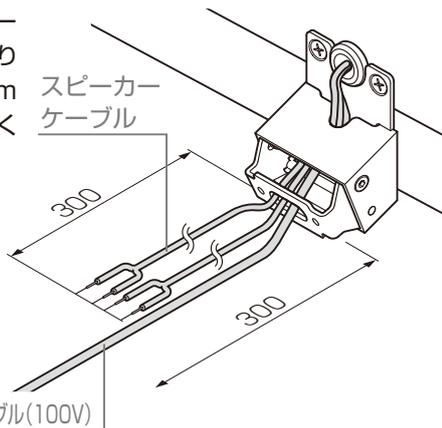
9-4-1 ケーブルの取り回し

1: スピーカーケーブルを吊り金具から取回す



1 お願い

- 電源ケーブル、スピーカーケーブルは、吊り金具から約300mm程度出しておいてください。



1 お願い

- スピーカーケーブルの結線はサウンドユニット内で行ってください。

9-4 サウンド&ヒーターの取付け (2台以上の連結)

つづき

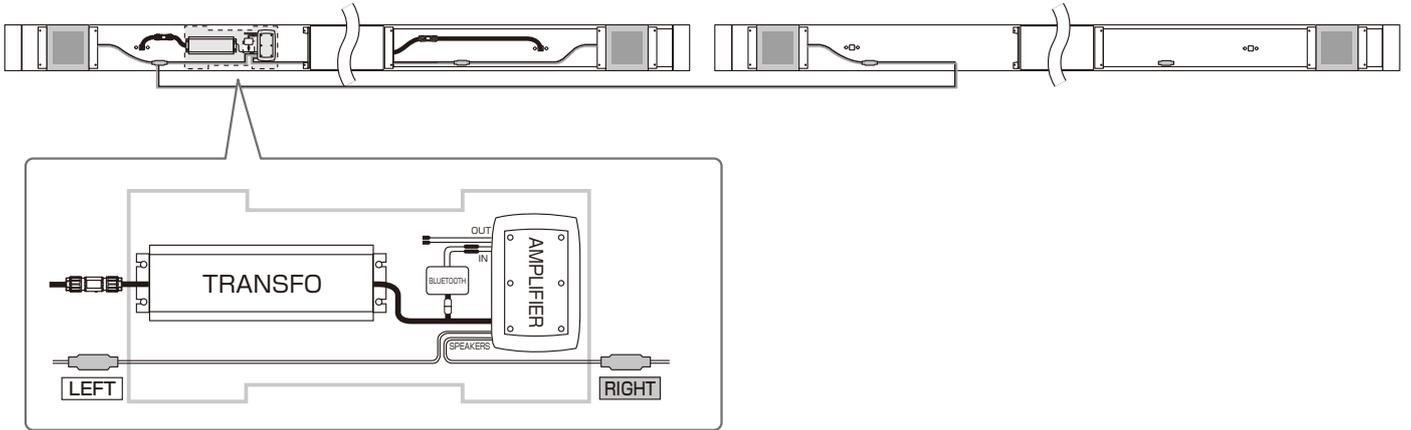
9-4-2 | メイン機とサブ機の接続

補 足

●任意の1つのサウンドユニットを「メイン機」とし、残りのユニットを「サブ機」として設定を行ないます。

【メイン機】

【サブ機】



9-4 サウンド&ヒーターの取付け (2台以上の連結)

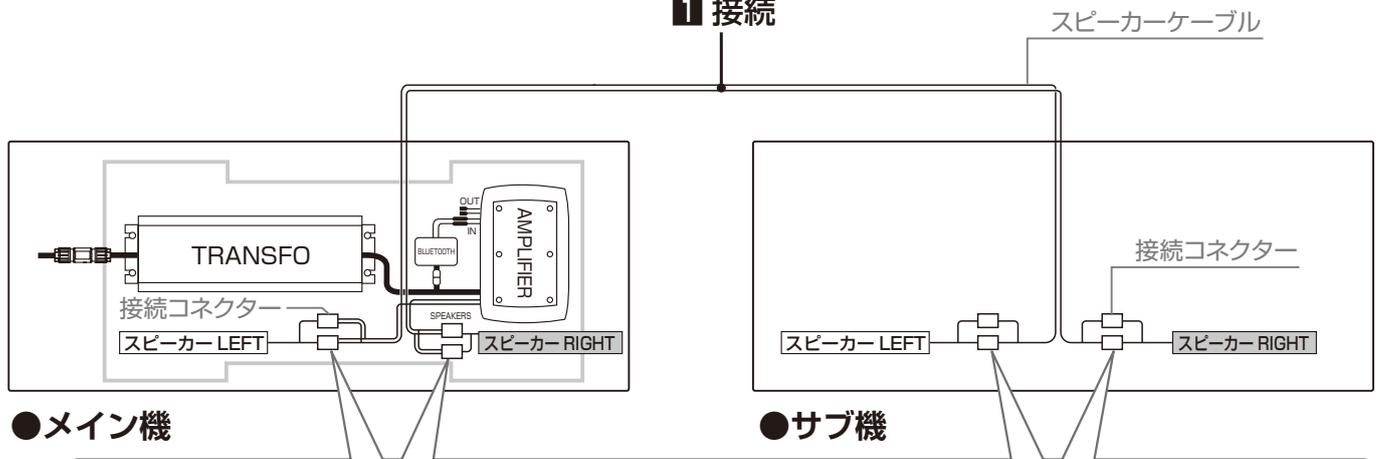
つづき

9-4-2 メイン機とサブ機の接続

つづき

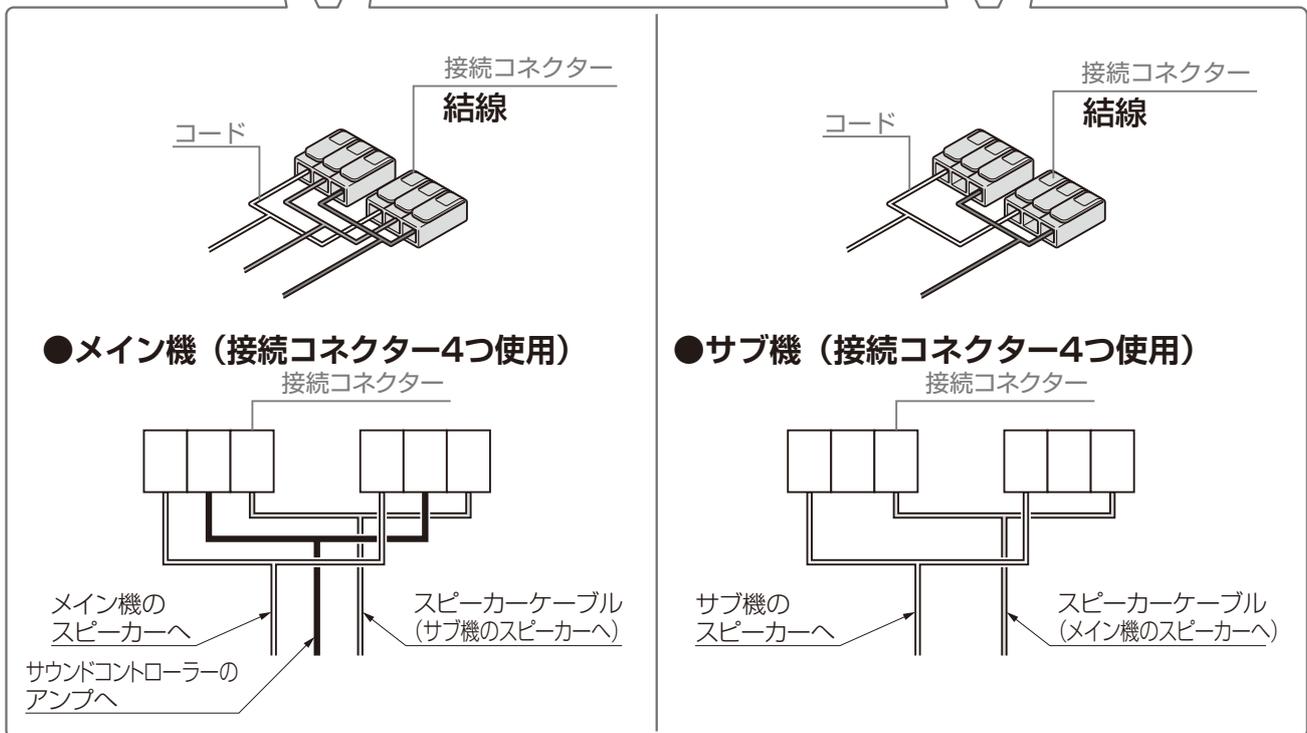
2: メイン/サブ機のスピーカーケーブルを接続

1 接続



●メイン機

●サブ機



🔦 お願い

- スピーカーのコードには左右の表記がありません。ビームの正面左側にサウンドコントローラーが設置される状態を基本として、左右の判別を行なってください。
- アンプとスピーカーから出ているコードは、無地と黒線入りの2種類があります。必ず同色のコード同士で結線してください。

9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ

9-5-1 ケーブルの接続

1: レシーバー用ケーブルを端子台(A)に接続

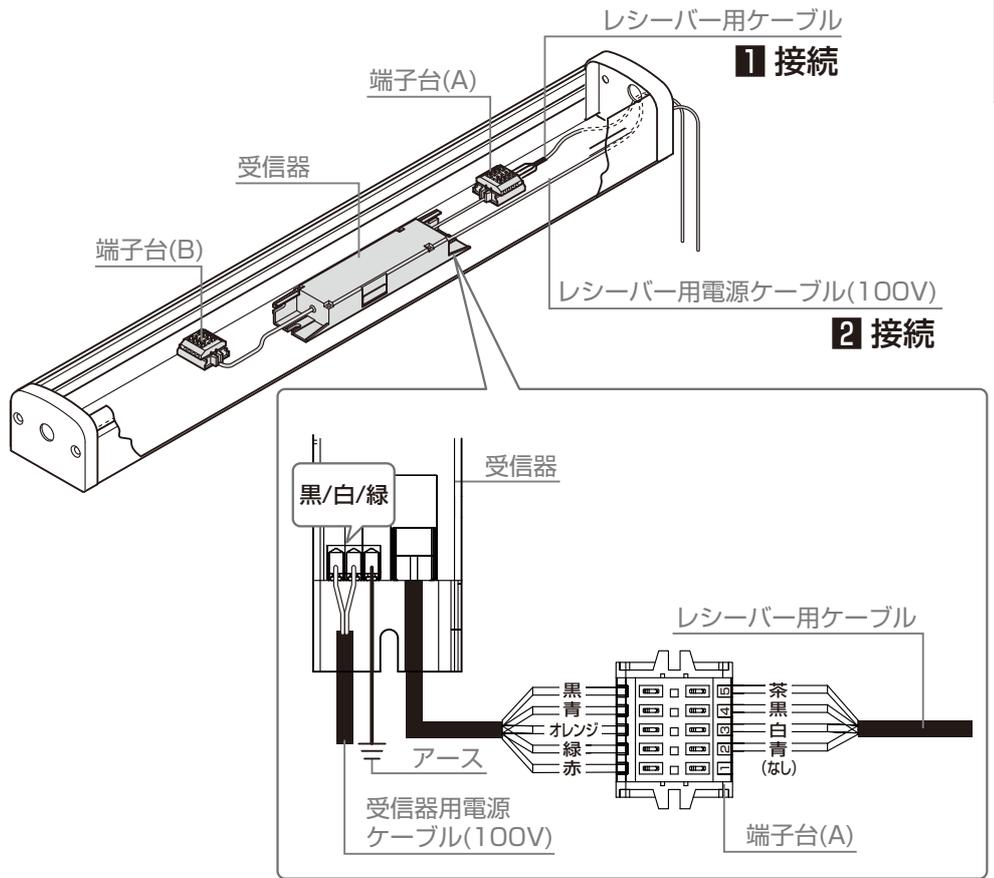
お願い

●端子は茶/黒/白/青の色で分かれています。

2: レシーバー用電源ケーブルの端子を受信器に接続

お願い

●黒/白/緑の差込み口のうち、黒と白の端子に接続してください。



9-5-2 上蓋の取付け

1: ケーシングキャップを取外す

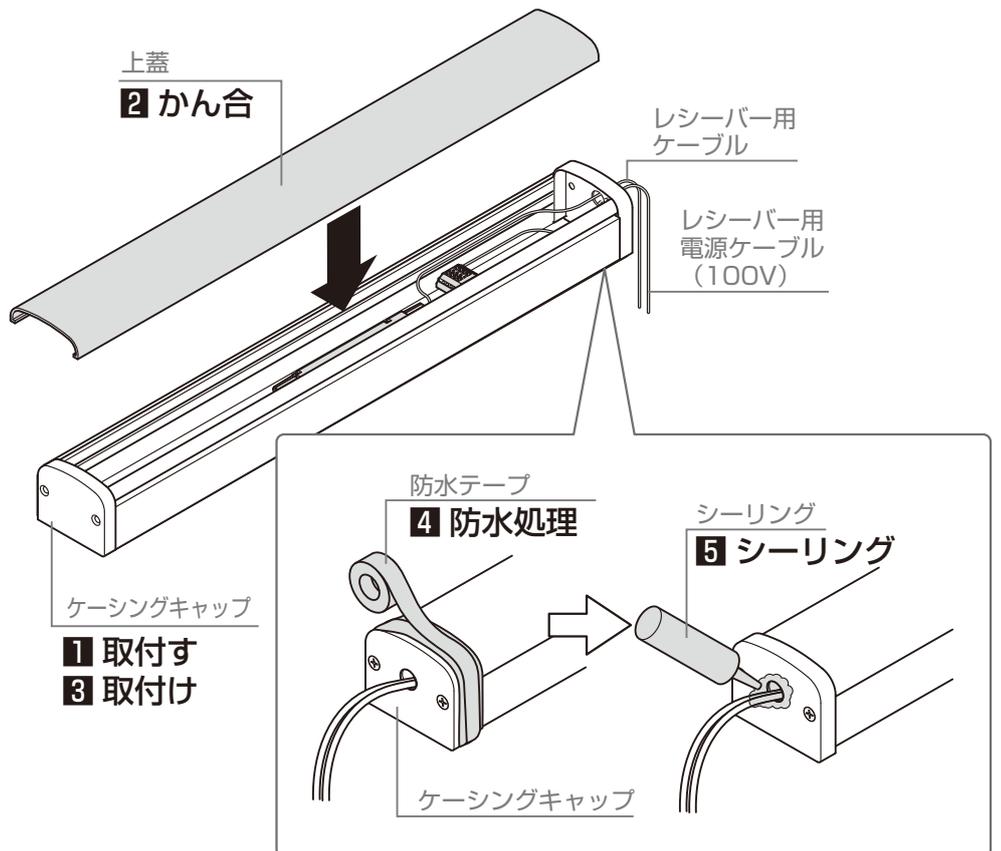
上蓋
2 かん合

2: 上蓋をケーシング本体にかん合

3: ケーシングキャップをケーシング本体に取付け

4: ケーシング本体とケーシングキャップの接合部を防水テープで防水処理

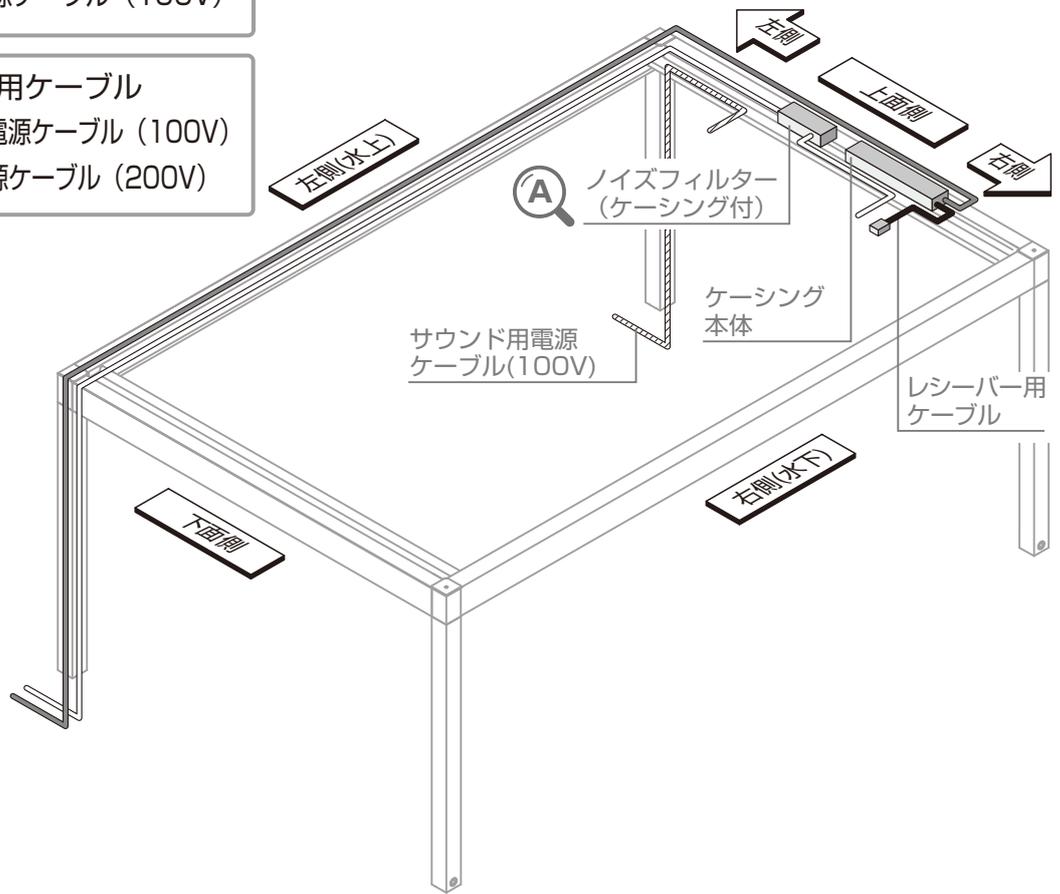
5: ケーシングキャップのケーブルを通す穴にシーリング



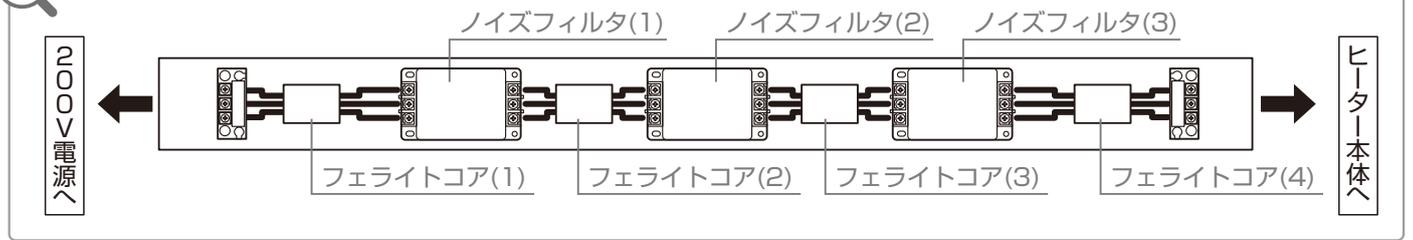
9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ

9-5-3 ノイズフィルタの接続

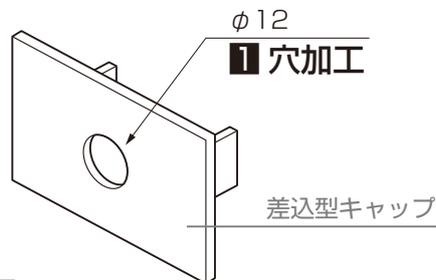
- 左側
 - サウンド用電源ケーブル (100V)
- 右側
 - レシーバー用ケーブル
 - レシーバー用電源ケーブル (100V)
 - ヒーター用電源ケーブル (200V)



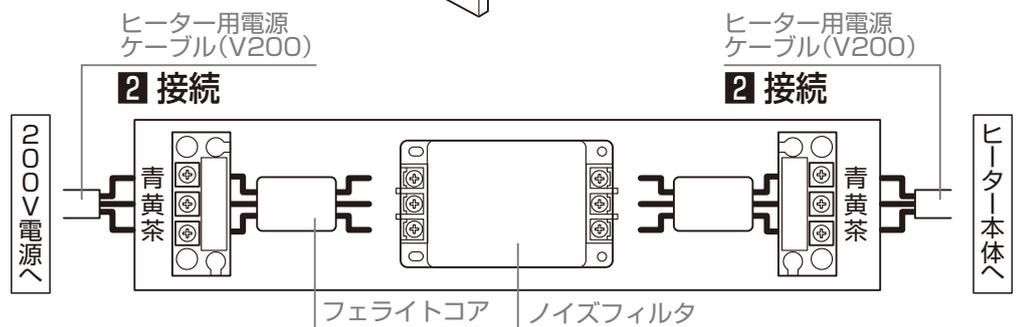
A 部詳細図



1: 差込型キャップの任意の位置にφ12の穴加工



2: 電源ケーブルを任意の位置で切断し、間にノイズフィルタを接続



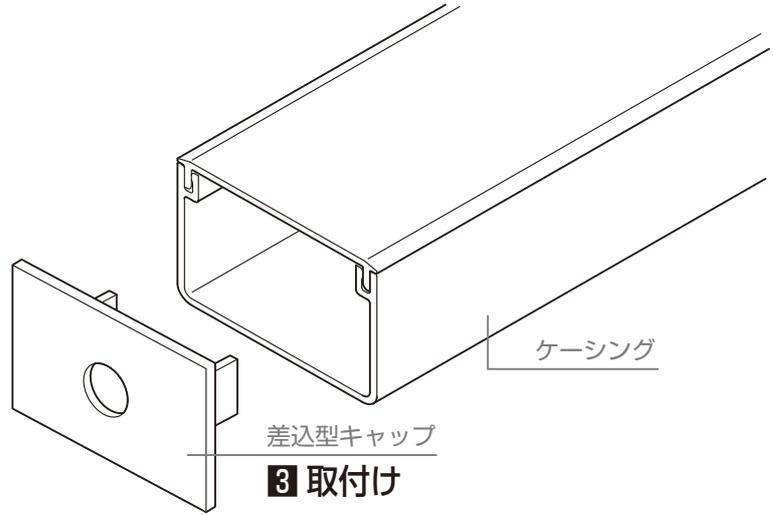
9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ

つづき

9-5-3 ノイズフィルタの接続

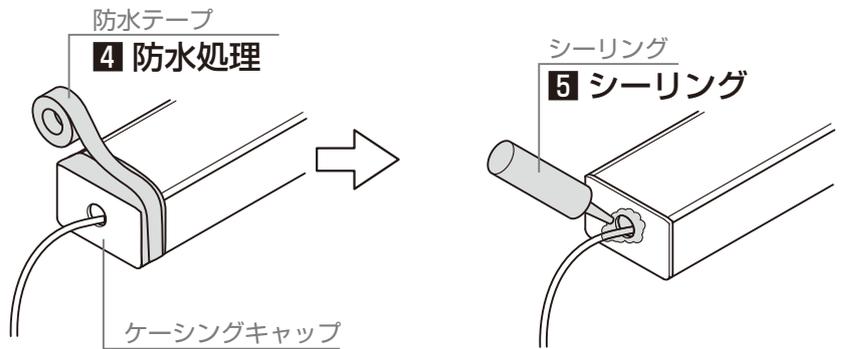
つづき

3: 差込型キャップをケーシング本体に
取付け



4: 接合部を防水テープで防水処理

5: ケーブルを通す穴にシーリング



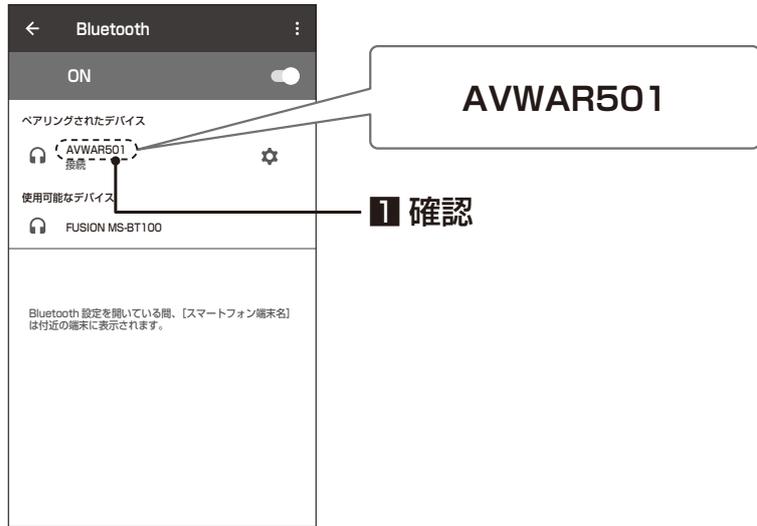
9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ

9-5-4 サウンドコントローラーとスピーカーの接続

1: サウンド&ヒーターの電源を入れ、接続機器のBluetooth設定画面に「AVWAR501」が表示されているか確認

お願い

- ビームカバーを取付ける前に必ず接続確認を行なってください。
- 使用する接続機器によって表示画面は異なります。



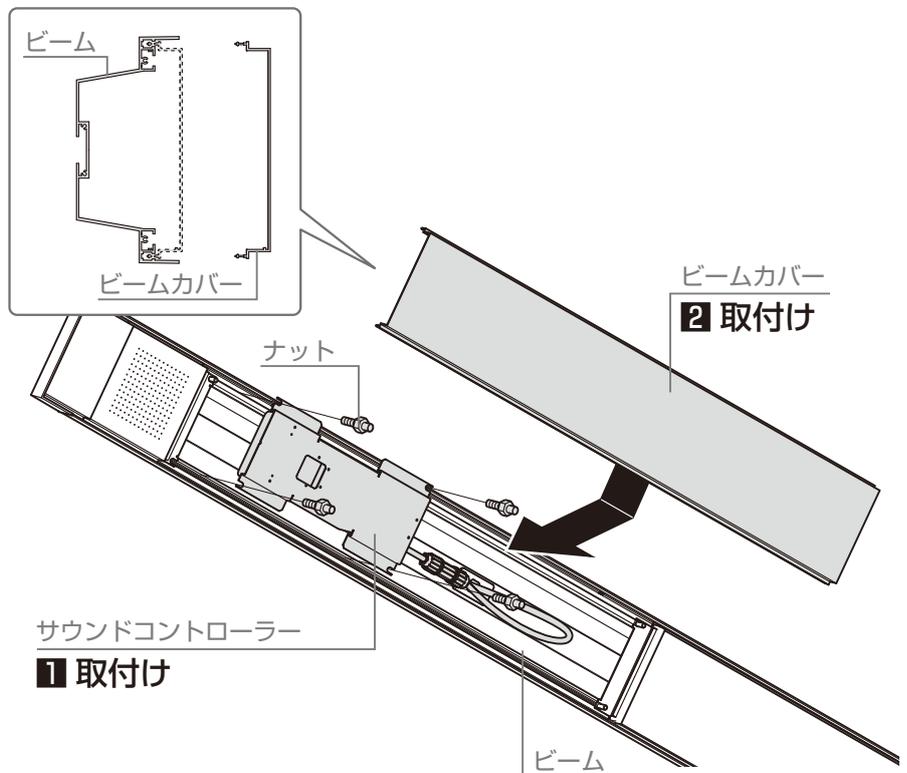
9-5-5 ビームカバーの取付け

1: サウンドコントローラーをビームに戻し、ナットでビームに取付け

補足

- 最初にサウンドコントローラーを取外した際のナットを使用して取付けてください。

2: ビームカバーをビームに取付け



9-5 サウンド&ヒーターの仕上げ

9-5-6 角度調整

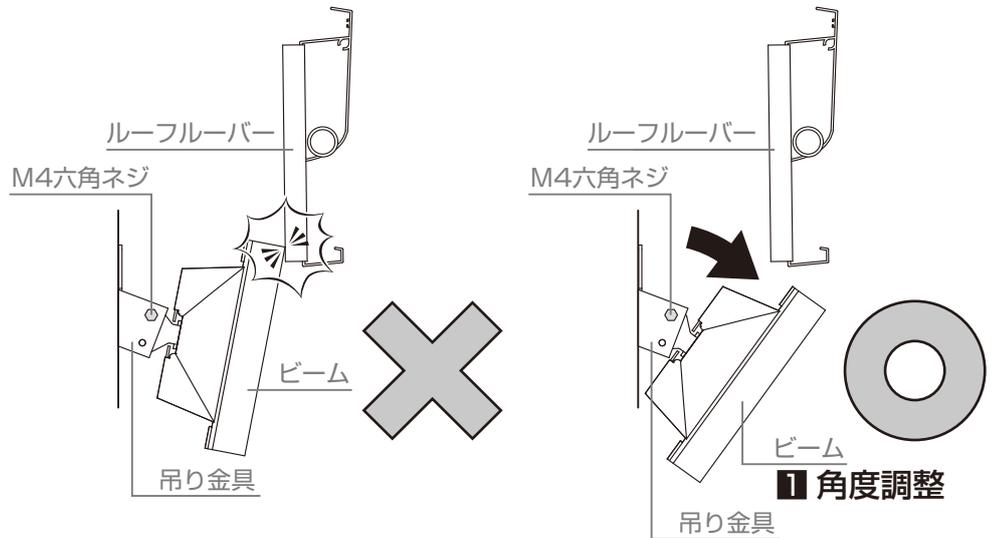
1: ビームをルーフルーバーに当たらないように角度調整

補足

●吊り金具のM4六角ネジを「ゆるめる」⇔「しめる」でビームの角度を調整できます。

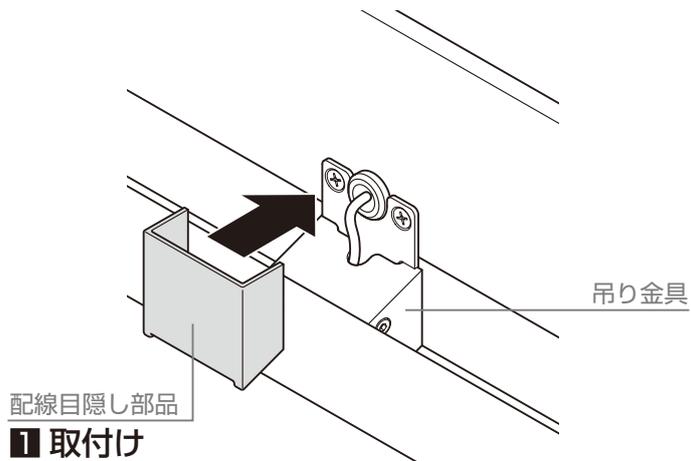
お願い

●ご使用する前に必ずビームの角度調整を行なってください。
ビームの角度調整を行わないとルーフルーバーがビームに接触する場合があります。

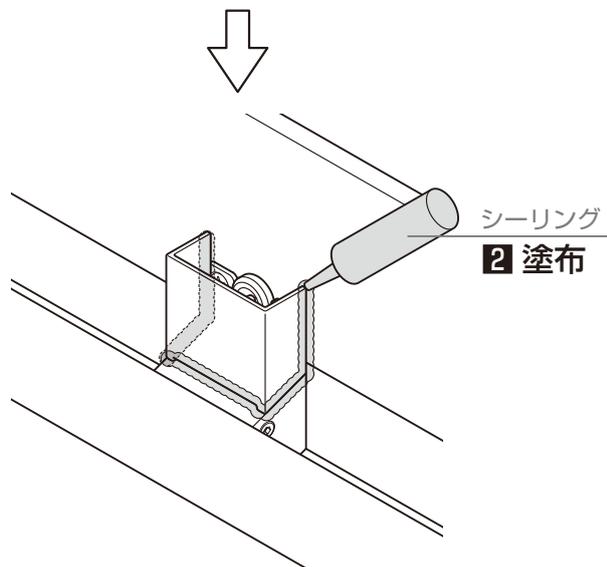


9-5-7 配線目隠し部品

1: 配線目隠し部品を吊り金具の取付け



2: 配線目隠し部品にシーリングを塗布





9-6 ロールスクリーンの取付け

お願い

●サウンド&ヒーターを設置する場合は、必ずサウンド&ヒーターを先に設置してください。

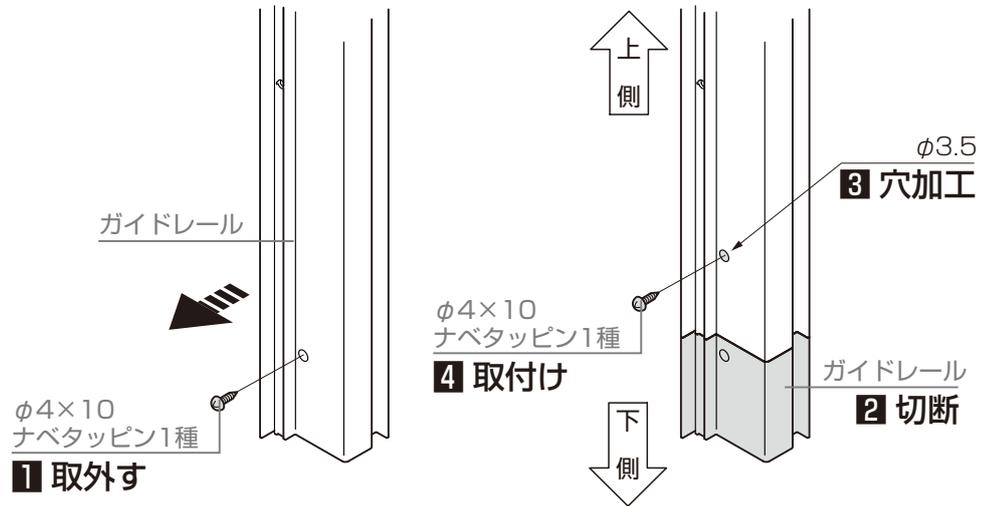
9-6-1 | ガイドレールの切詰め ※ガイドレールを切詰める場合の作業

1: φ4×10ナベタッピン1種をガイドレールから取外す

2: ガイドレールを下部から切詰める

お願い

●ガイドレールは必ず下部を切詰めてください。

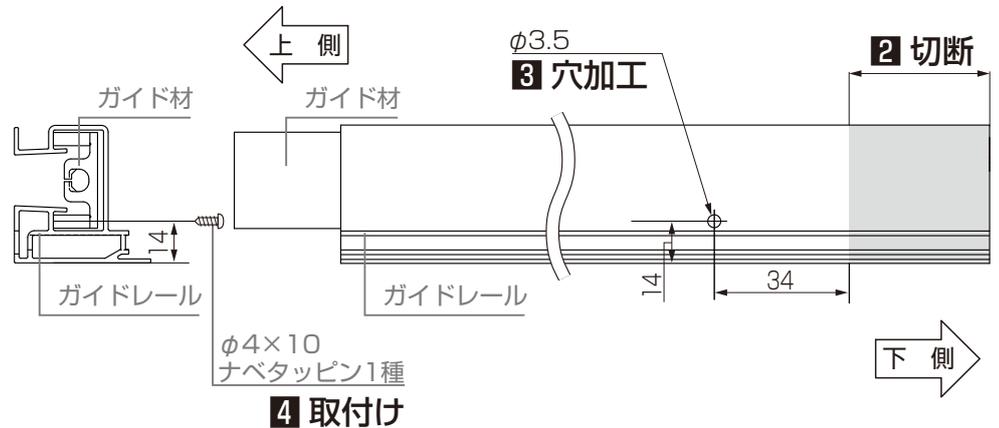


3: 寸法位置にφ3.5の穴加工

4: φ3.5にφ4×10ナベタッピン1種で締結

お願い

●ネジは手順**1**で取外したもので再度取付けてください。



9-6 ロールスクリーンの取付け

お願い

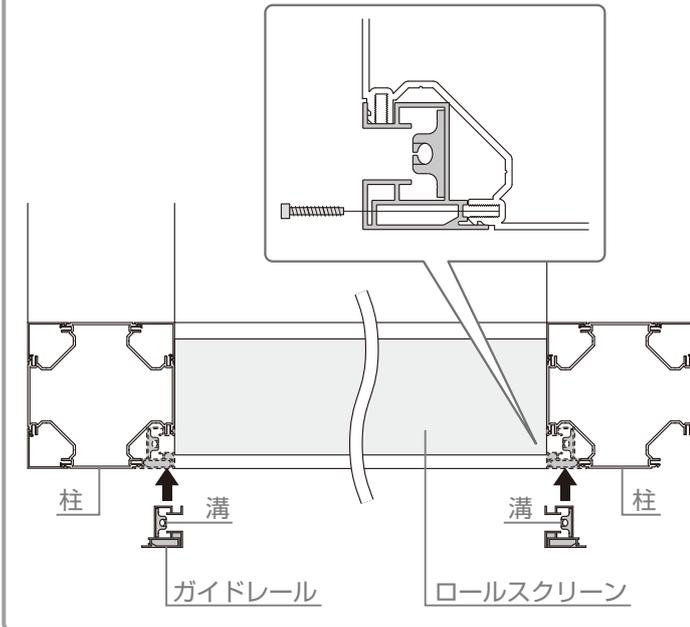
- ロールスクリーンを使用する場合は、必ず施工前に柱加工と光電センサーの取付けを行なってください。
- サウンド&ヒーターを使用する場合は、必ずサウンド&ヒーターを先に設置してください。

9-6-2 | ガイドレールの取付け

1: ロールスクリーン設置位置の対象柱にガイドレールを【13b】で取付け

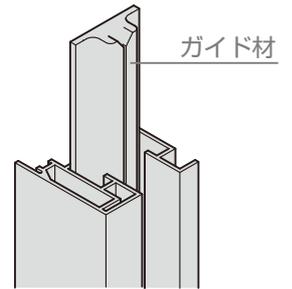
お願い

- ガイドレールの溝が向かい合うように取付けてください。



補足

- ガイド材が突き出ている方が上部になります。



【13b】 M4×40
六角穴付きボルト

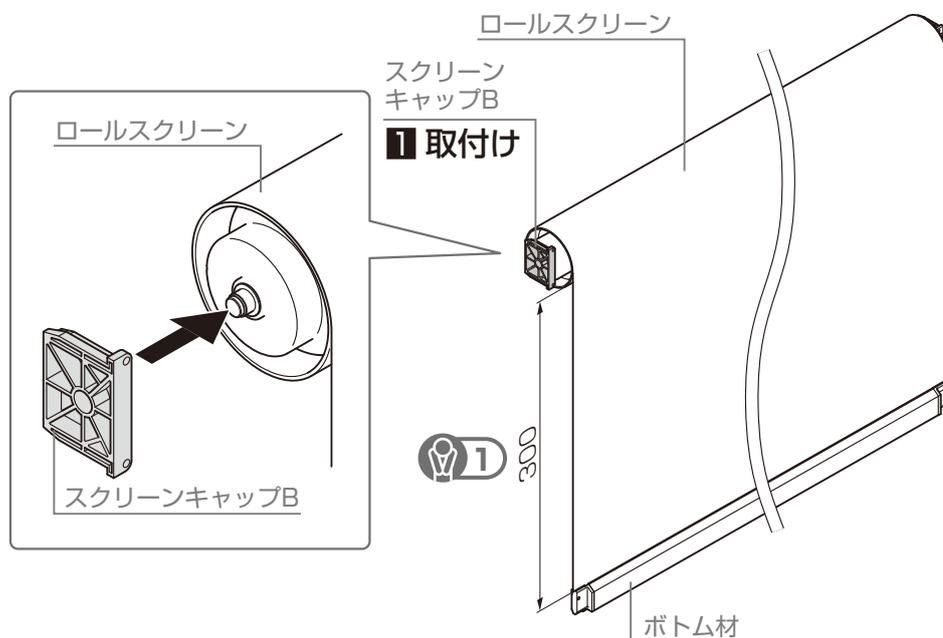
ガイドレール
1 取付け

9-6-3 | ロールスクリーンの準備

1: スクリーンキャップBをロールスクリーン左側に取付け

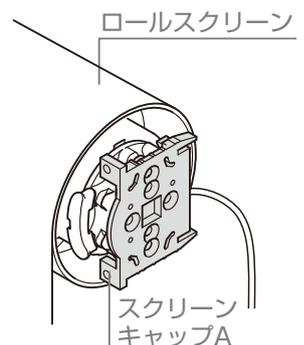
お願い 1

- ロールスクリーンを取付ける際は、ボトム材まで約300mmロールスクリーンを引き出しておいてください。



補足

- ロールスクリーン右側にはあらかじめスクリーンキャップAが付いています。
- スクリーンキャップAが付いているか、ロールスクリーン設置前に確認してください。



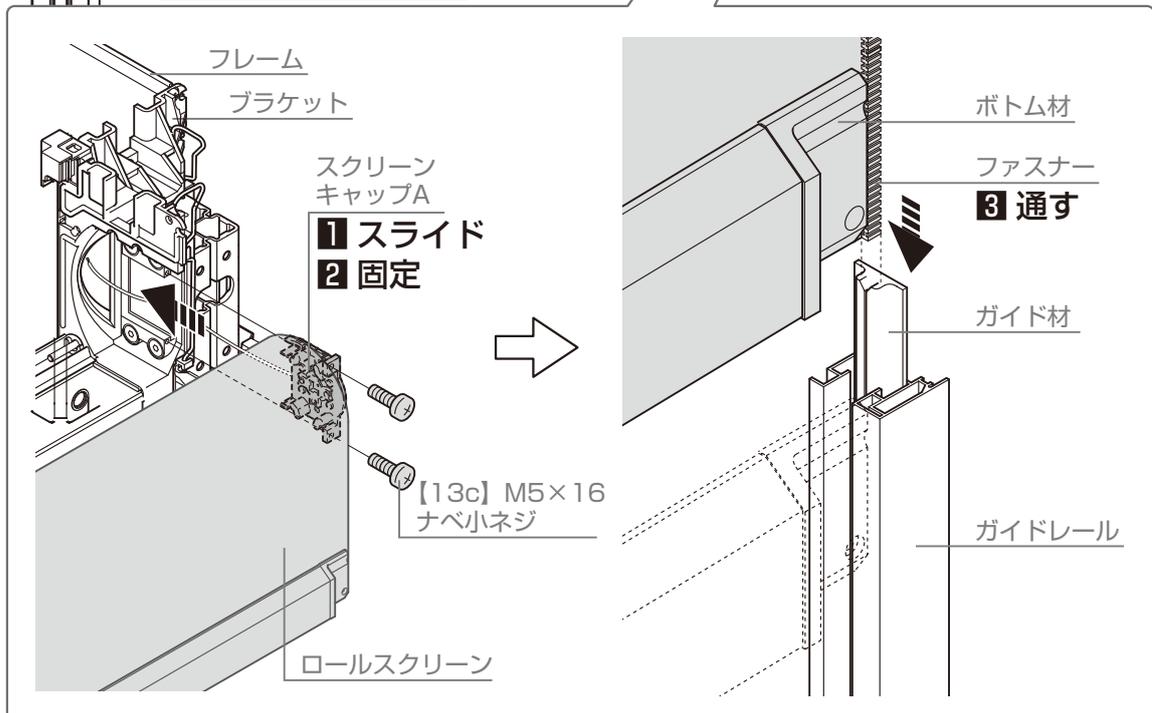
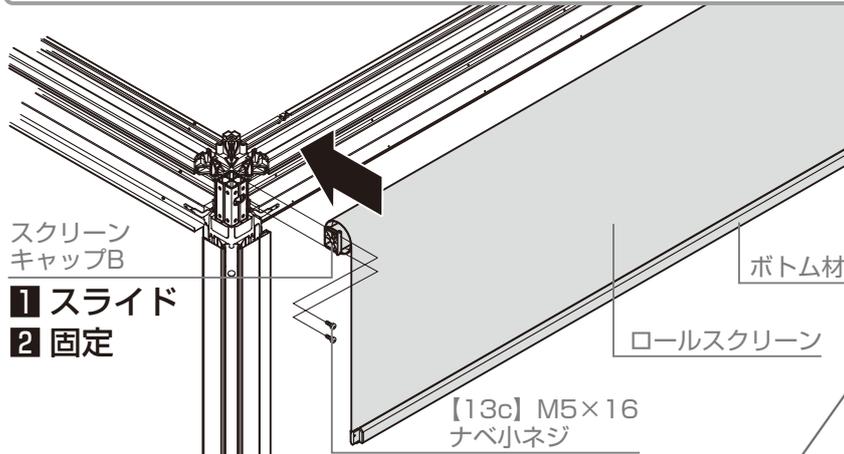
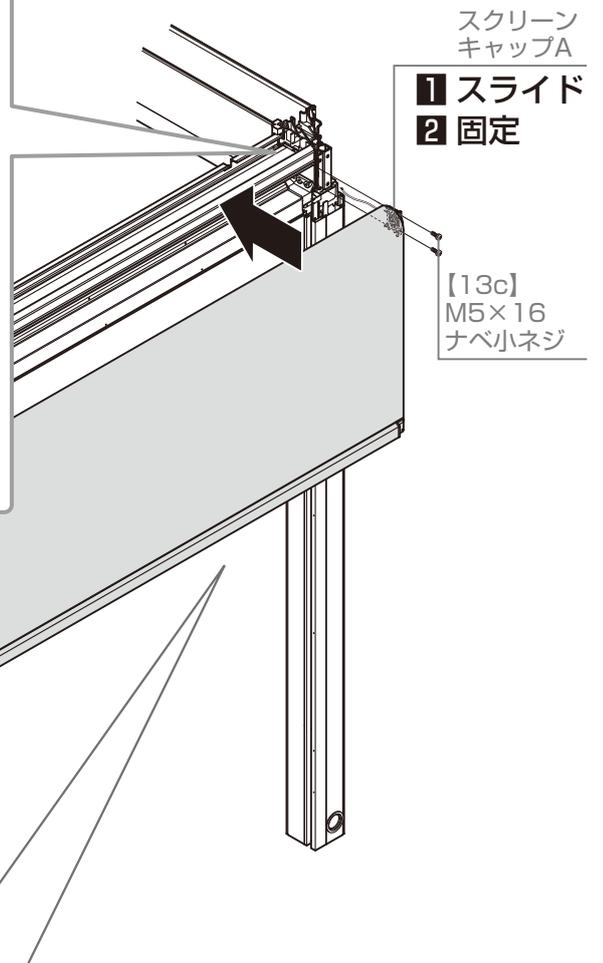
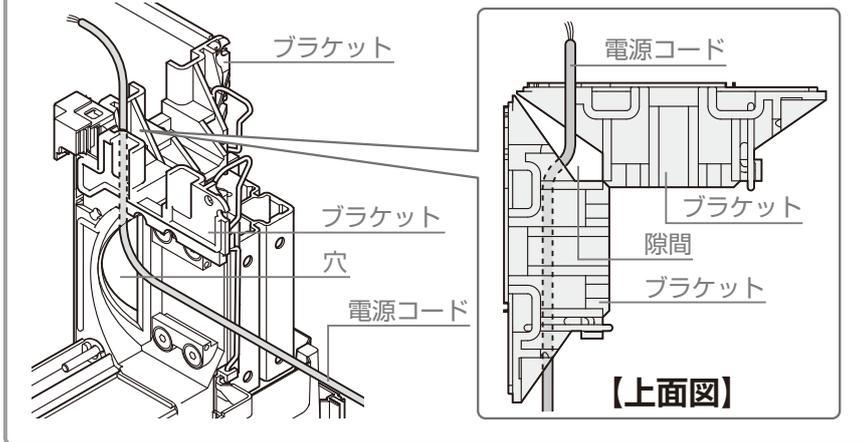
9-6 ロールスクリーンの取付け

9-6-4 | ロールスクリーンの設置

- 1: スクリーンキャップAとスクリーンキャップBを、フレームの台座に合わせて奥までスライド
- 2: スクリーンキャップAとスクリーンキャップBを【13c】で固定
- 3: ボトム材のファスナーをガイド材に通す

補足

●電源コードは、ブラケットの半円状の穴を通し、ブラケット同士の隙間から上部に取り回してください。

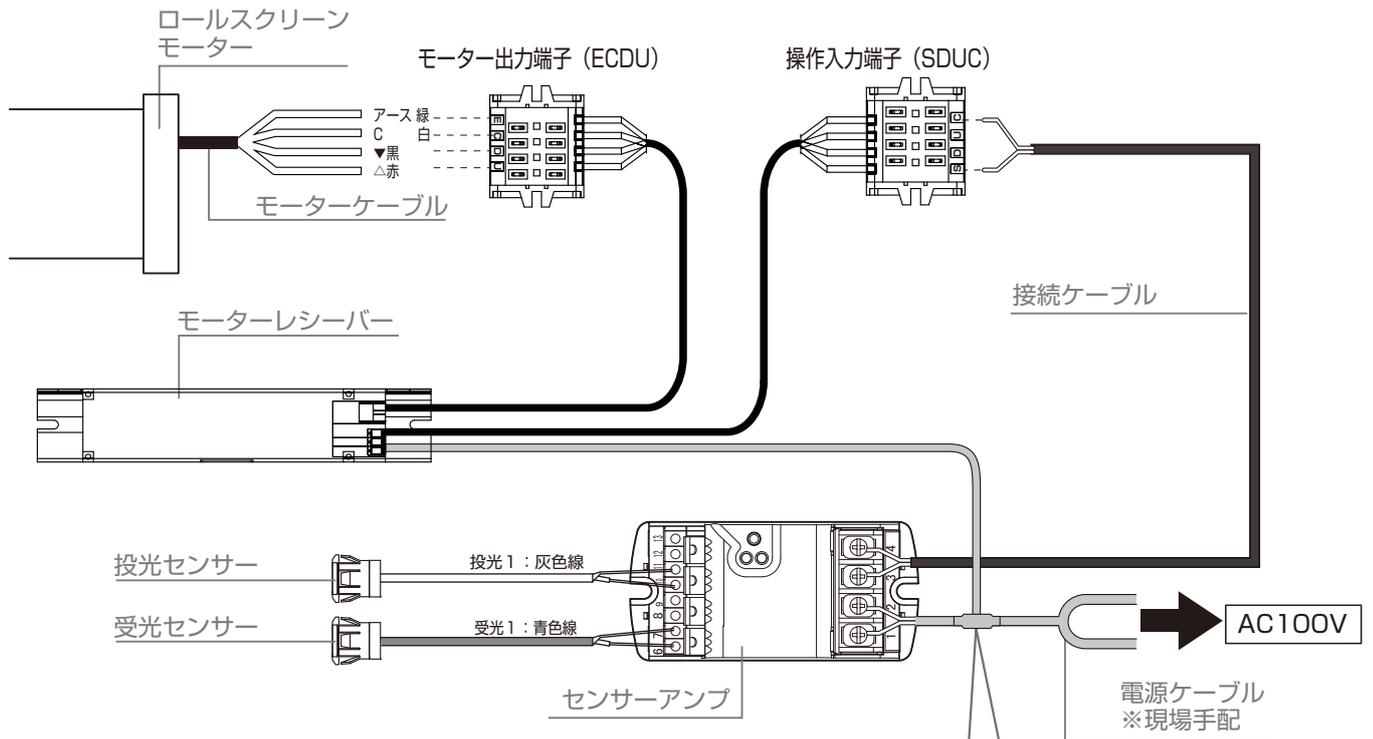


9-6 ロールスクリーンの取付け

9-6-5 配線図の確認

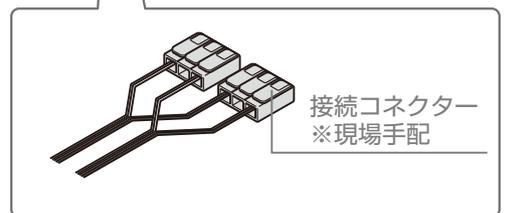
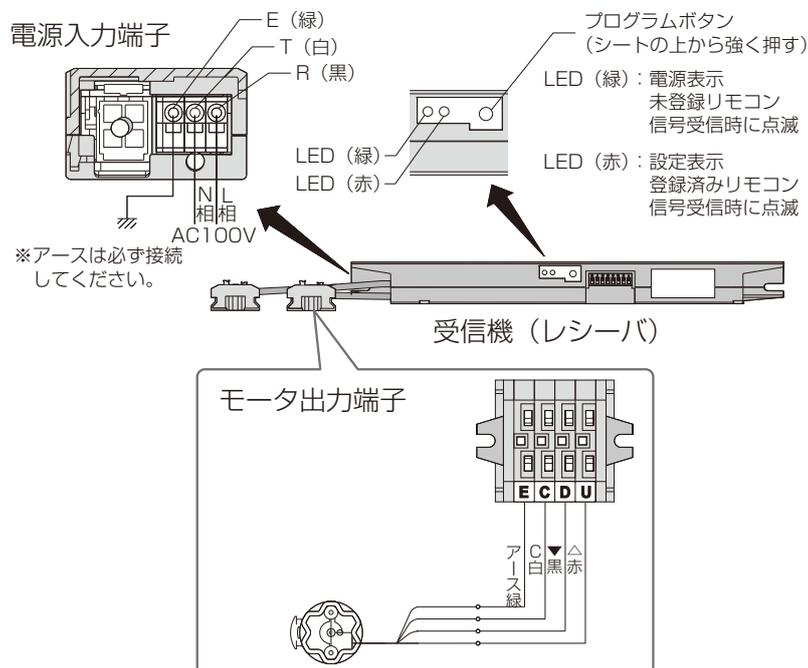
お願い

- 配線を行なう前に全体の配線図を確認しておいてください。
- 投光、受光センサーのケーブルは、本体施工前に取回しておいてください。
- モーターレシーバーと光電センサーアンプは、ケーシングの中に収納してください。



補足

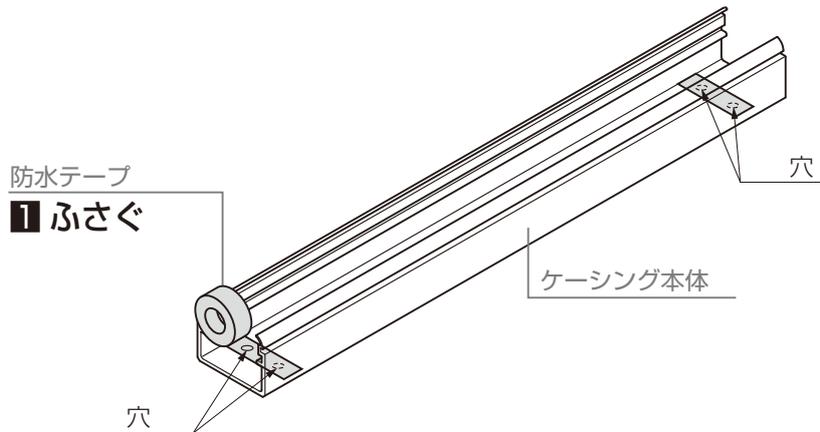
●モーターレシーバーの名称と働きは以下のようになります。



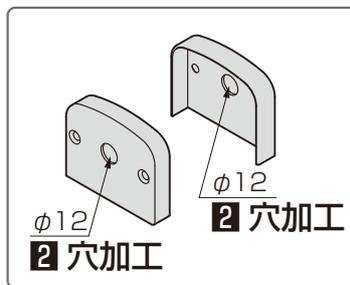
9-6 ロールスクリーンの取付け

9-6-6 ケーシングの準備

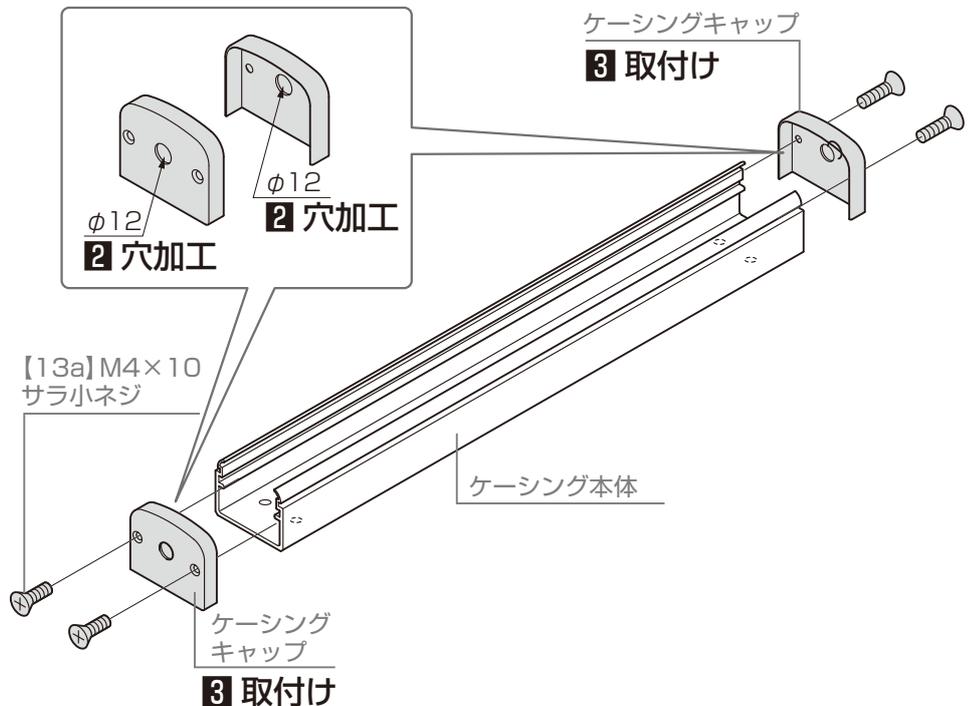
1: ケーシング底面のすべての穴を防水テープでふさぐ



2: 任意の位置にφ12の穴加工



3: ケーシングキャップをケーシング本体に【13a】で取付け

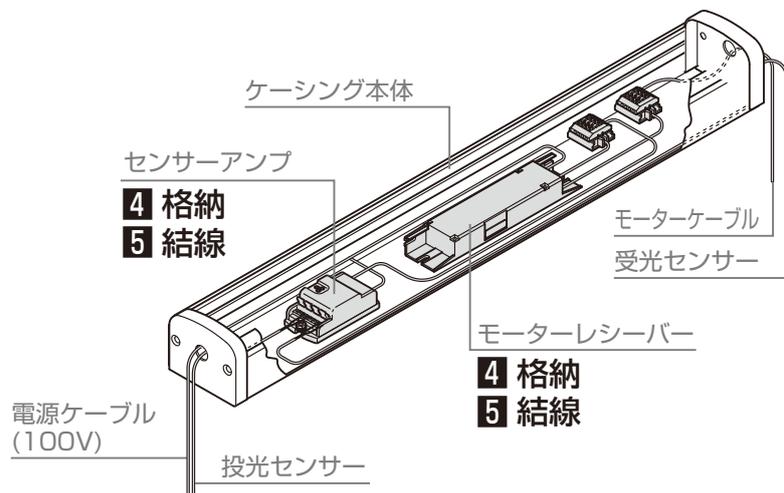


4: ケーシング内にセンサーアンプ、モーターレシーバーを格納

5: センサーアンプ、モーターレシーバーをケーシング内部で結線

お願い

- 結線の方法についてはP.107以降を参照してください。
- 結線はケーシング内部で行なってください。

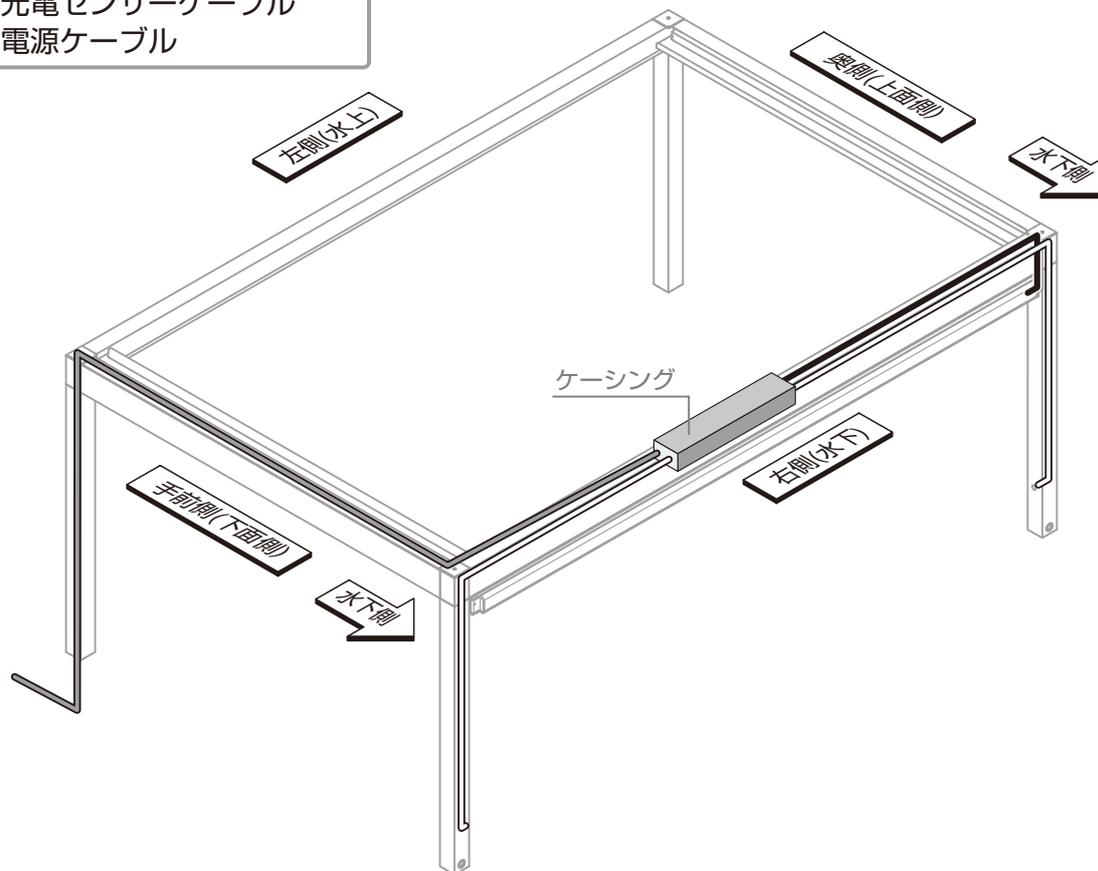


9-6 ロールスクリーンの取付け

つづき

9-6-7 本体とケーブルの取り回し位置の確認

- ロールスクリーンケーブル
- 光電センサーケーブル
- 電源ケーブル



補足

- ケーシングはロールスクリーン1面につき1つ設置します。

お願い

- ロールスクリーンとサウンド&ヒーターを併用する場合は、それぞれのレシーバーとアンプを1つのケーシング内に収めてください。

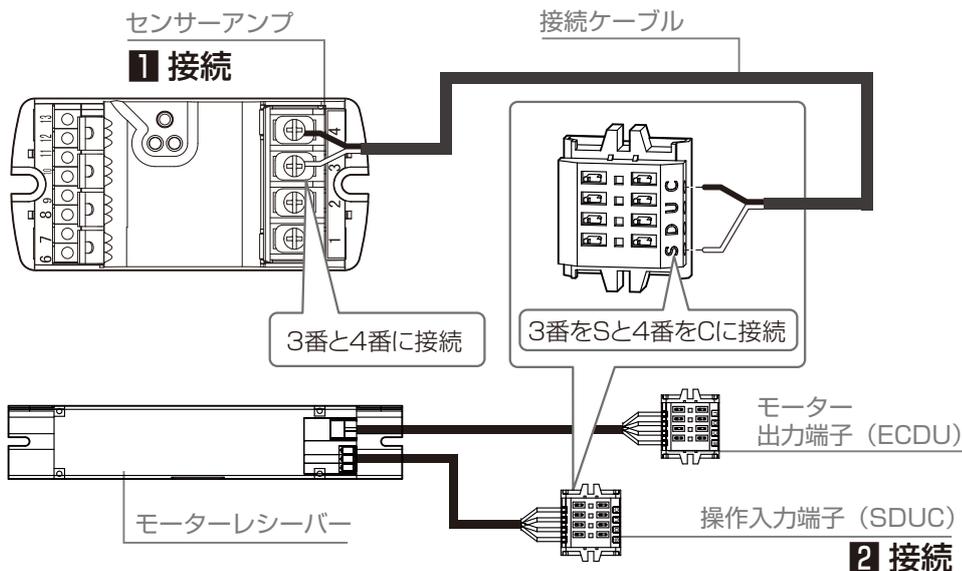
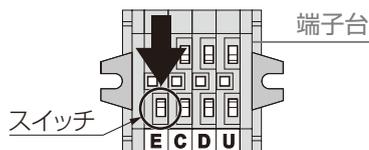
9-6 ロールスクリーンの取付け

9-6-8 センサーアンプとモーターレシーバーの接続

- 1: 接続ケーブルをセンサーアンプの3番と4番に接続
- 2: 接続ケーブルを操作入力端子 (SDUC側)のSとCに接続

補足

- ケーブルを接続する際は、端子台のスイッチを押しながらケーブル先端を接続します。

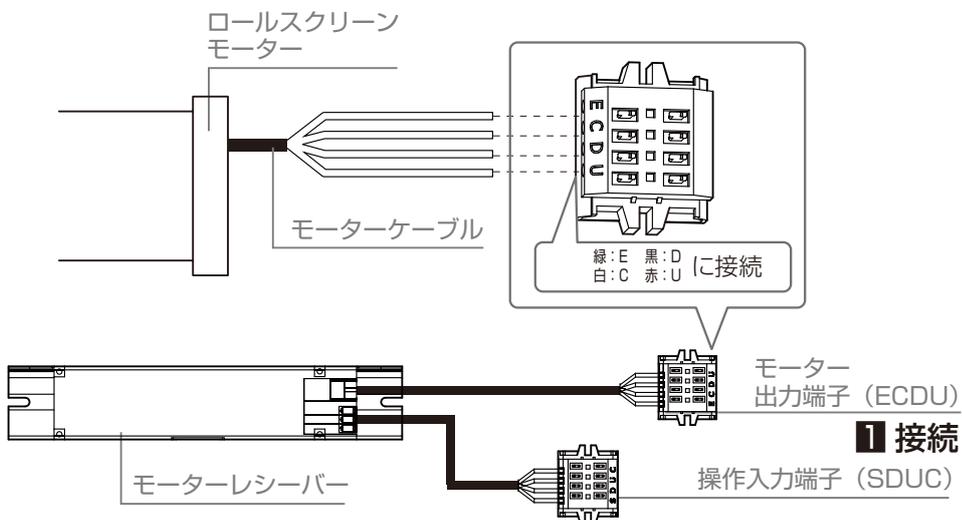


9-6-9 ロールスクリーンモーターとモーターレシーバーの接続

- 1: ロールスクリーンケーブルの先端部を、モーター出力端子 (ECDU側)の各端子に接続

お願い

- ロールスクリーンケーブルは、緑/白/赤/黒の4色に分かれています。対応する端子へ接続してください



9-6 ロールスクリーンの取付け

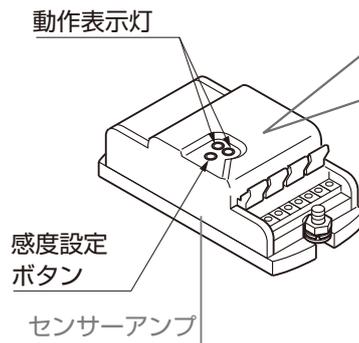
9-6-10 センサーアンプの感度設定

お願い

- 配線をすべて終え、光電センサーのセンサーヘッドが正しく向き合っていることを確認して電源を入れてください。
- 検出エリアに障害物がないことを確認してから設定を行なってください。

1: 電源を入れてから、感度設定ボタンを1秒以上押す

2: 動作表示灯が点灯した後、消灯することを確認



補足

- 消灯後、適正な感度に自動設定されます。

●正常時と異常時のランプ状態

	正常時		異常時	
	障害物がない	障害物がある	配線不良・断線	感度不良
動作表示灯	点灯 (緑色のみ)	消灯 (緑色のみ) 消灯 (赤色のみ) 消灯 (緑色・赤色両方) (※1)	緑色・赤色交互点滅	緑色点滅

※1: 遮られた側の動作表示灯 (緑色または赤色) が消灯します。両方が遮られていれば緑色・赤色とも消灯します。

お願い

- 動作表示灯の緑色と赤色が交互点滅する場合や緑色が点滅する場合は、感度設定がうまくできていません。下記内容を確認してください。確認後、再度「設定ボタン」を1秒以上押してください。
- ・投光部、受光部のセンサーヘッドが傾いていないか
- ・センサーのレンズ面が汚れていないか
- ・配線の間違いや外れはないか
- ・断線・ショートはないか

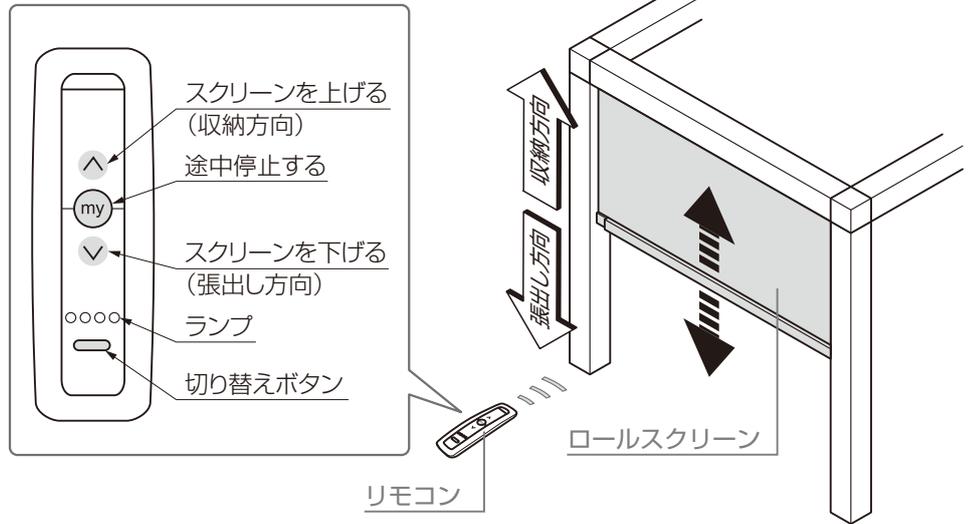
9 オプションの施工

9-7 ロールスクリーンの調整

9-7-1 操作リモコンの確認

お願い

- ロールスクリーンを張出す場合、周囲に障害物(木の枝・電線・アンテナなど)がないか確認してください。
- 下限(張出し)・上限(収納)位置が設定された範囲内であれば途中停止状態でも使用できます。
- 現場や使用状況に合わせて、下限(張出し)・上限(収納)位置の本設定をしてください。
- 張出し・収納動作を頻繁に繰り返すと自動的に電源が切れます。その際は20～30分ほど休ませると操作が可能になります。

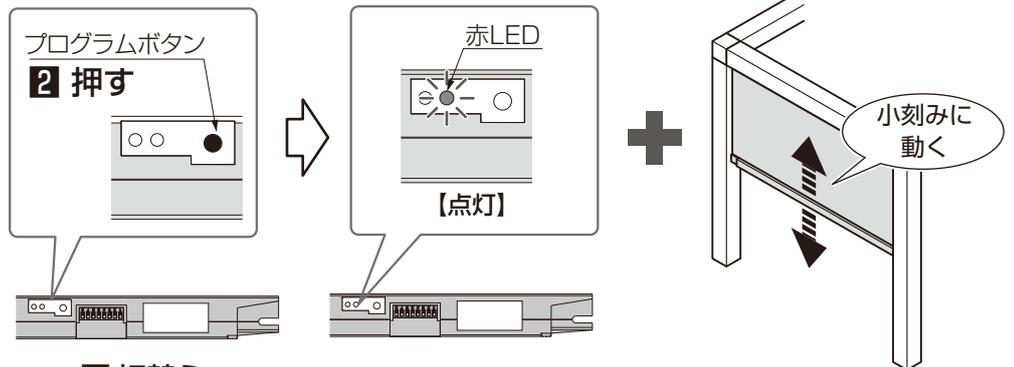


9-7-2 操作リモコンの登録

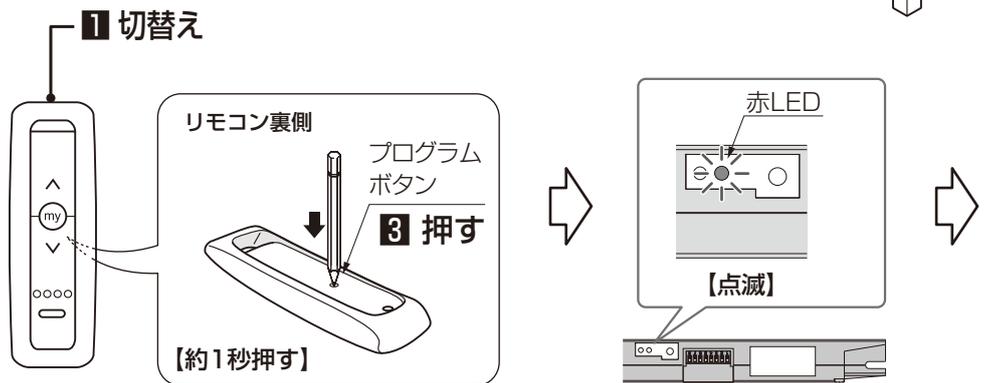
- 1: 登録したいチャンネルに切替え
- 2: 登録したいスクリーンのレシーバーのプログラムボタンを約2秒間押す

補足

- 赤LED点灯後2分以内に次の作業を行わないと、LEDは消灯し元の状態に戻ります。

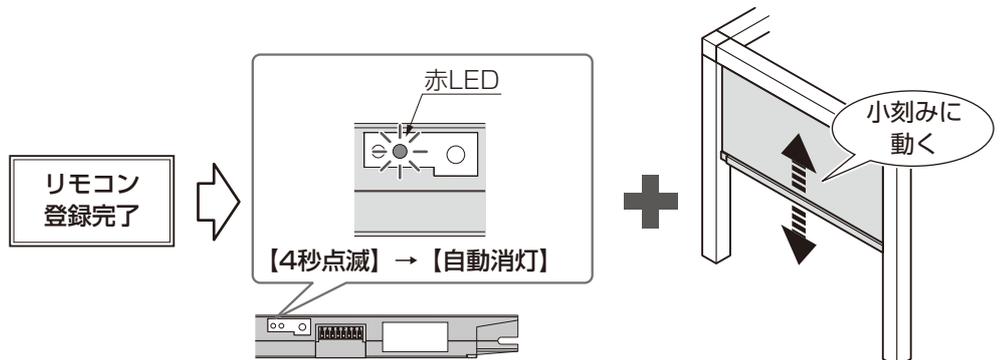


- 3: 登録するチャンネルの状態でもリモコンのプログラムボタンを約1秒間押す



お願い

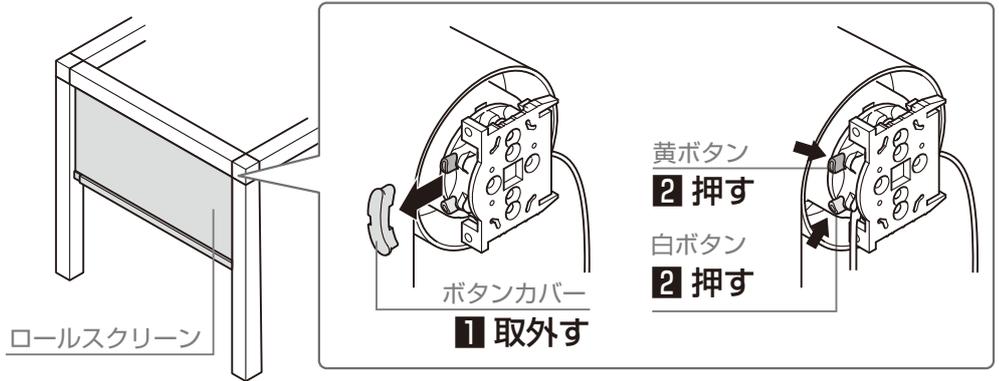
- 登録が完了したら、赤LEDとロールスクリーンが動くことを確認してください。
- 上記はロールスクリーン1面ぶんの手順になります。複数使用する場合は、各ロールスクリーンごとに同様の設定を行なってください。



9-7 ロールスクリーンの調整

9-7-3 開閉リミット（限界）の調整

- 1: ロールスクリーンのボタンからボタンカバーを取外す
- 2: 黄ボタンと白ボタンを押す

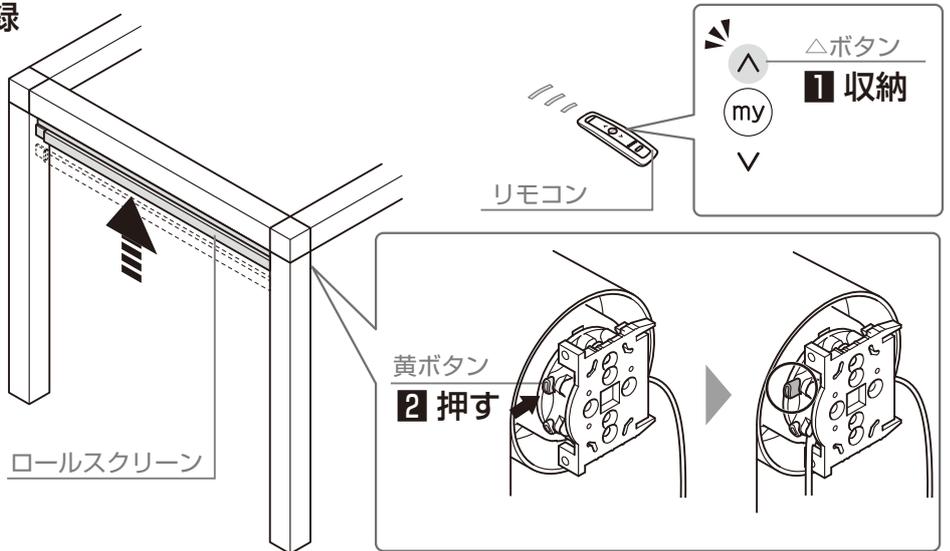


補足

- 両方のボタンを押し込むと、ロールスクリーンの上限・下限位置が設定できる状態になります。

(1) 上限（収納）位置の設定と登録

- 1: リモコンの△ボタンを押してロールスクリーンを収納
- 2: ロールスクリーン本体の黄ボタンを押す

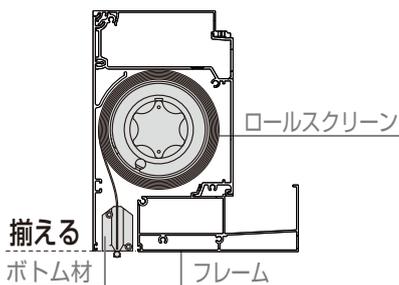


補足

- 黄ボタンを押した位置でロールスクリーンの上限位置が決定します。

お願い

- ロールスクリーンのボトム材下面とフレーム下面が揃う位置で設定をしてください。



9 オプションの施工

9-7 ロールスクリーンの調整

つづき

9-7-3 開閉リミット（限界）の調整

つづき

(2) 下限（張出し）位置の設定と登録

1: リモコンの▽ボタンを押してロールスクリーンを張出し

2: ロールスクリーン本体の白ボタンを押す

補足

●白ボタンを押した位置でロールスクリーンの下限位置が決定します。

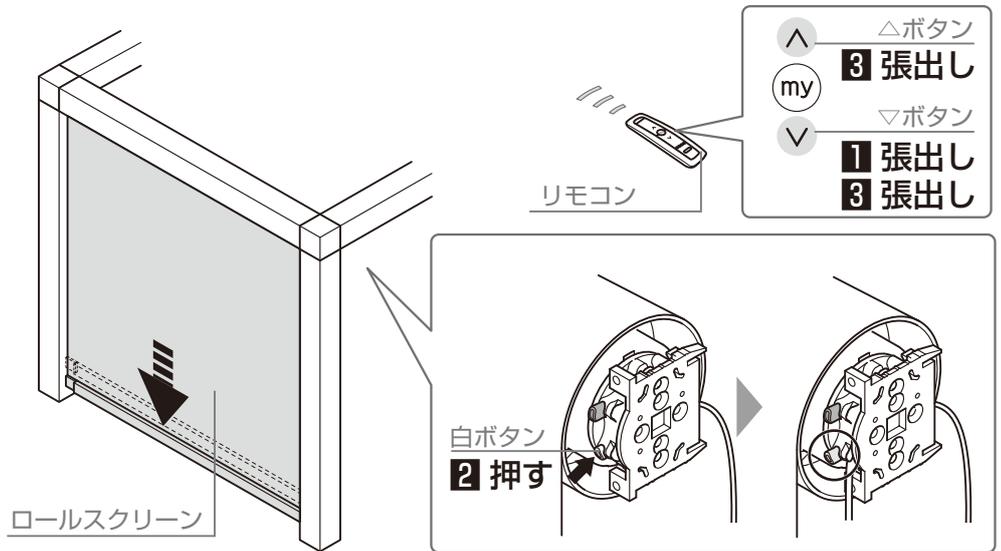
3: リモコンの△ボタンか▽ボタンを繰り返し押して、希望する下限位置にロールスクリーンを張出し(収納)

補足

●このとき、ロールスクリーンは5秒間しか動かせません。続けて動かす場合は、再度ボタン操作をしてください。

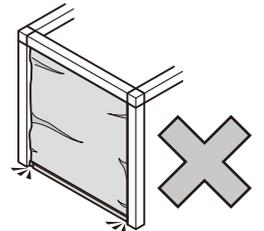
お願い

- 設定した位置でロールスクリーンが停止することを確認してください。
- 正しく設定されていない場合、(1)～(2)の手順をやり直してください。



お願い

●ロールスクリーンを張出しすぎると、ロールスクリーンがたわむ原因となります。



9-8 ロールスクリーンの仕上げ

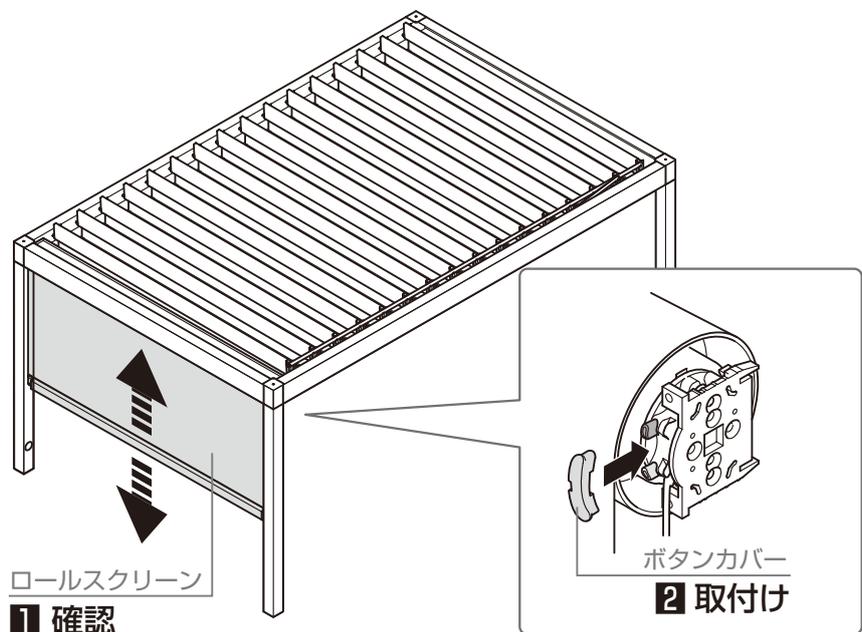
9-8-1 調整後の仕上げ

1: ロールスクリーンの動きを確認

お願い

- 設定した位置でロールスクリーンが停止することを確認してください。
- 正しく設定されていない場合、(1)～(2)の手順をやり直してください。

2: ボタンカバーをボタンに取付け



9-8 ロールスクリーンの仕上げ

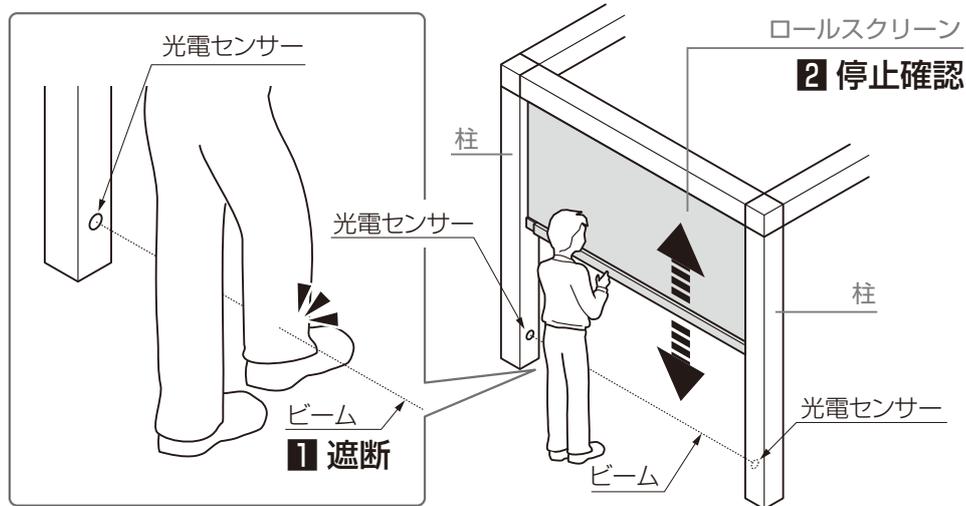
9-8-2 光電センサーの稼働確認

1: ロールスクリーンの上下作動中に、光電センサーのビームを遮断

お願い

● 光電センサーの直線上に足を差し入れるなどして、光電センサーのビームを遮断してください。

2: ビーム遮断と同時に、ロールスクリーンの動作が停止することを確認



お願い

● ロールスクリーンが停止しなかった場合は、下記の箇所の接続、取付けが正しく行われているか確認してください。
 ・ 光電センサーケーブルの取回し、取付け → P.40~43
 ・ センサーアンプ、モーターレシーバーの接続 → P.104~107

9-8-3 ケーシングの仕上げ

1: ケーシングキャップを取外す

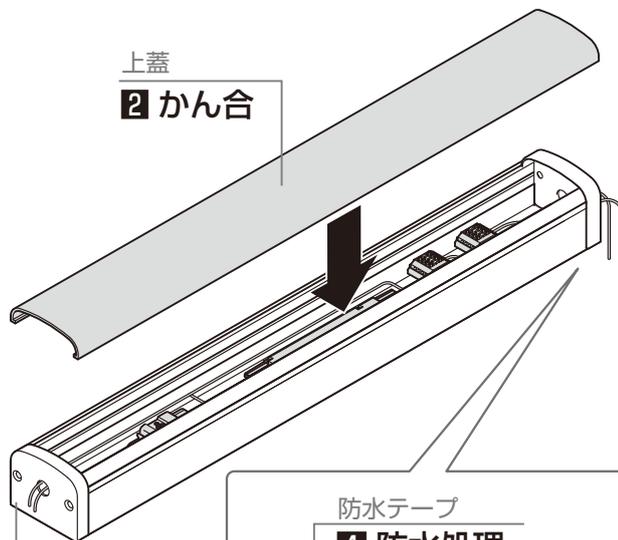
上蓋
2 かん合

2: 上蓋をケーシング本体にかん合

3: ケーシングキャップをケーシング本体に取付け

4: ケーシング本体とケーシングキャップの接合部を防水テープで防水処理

5: ケーシングキャップのケーブルを通す穴にシーリング



お願い

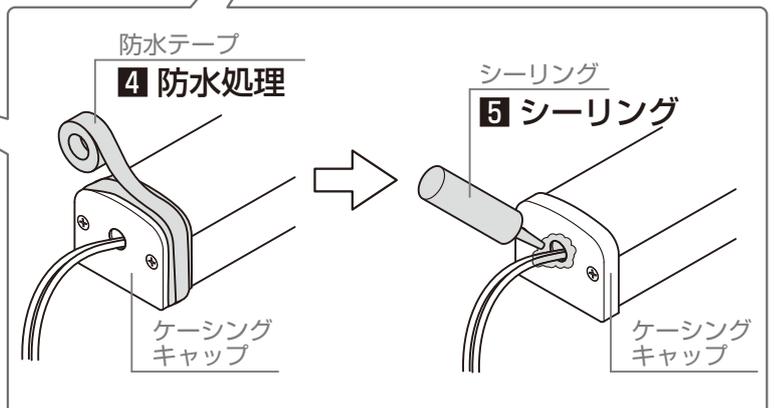
● ケーシングの上蓋の取付けは、レシーバーの接続や光電センサーの動作確認が完了してから行ってください。

ケーシングキャップ

1 取付す
3 取付け

防水テープ
4 防水処理

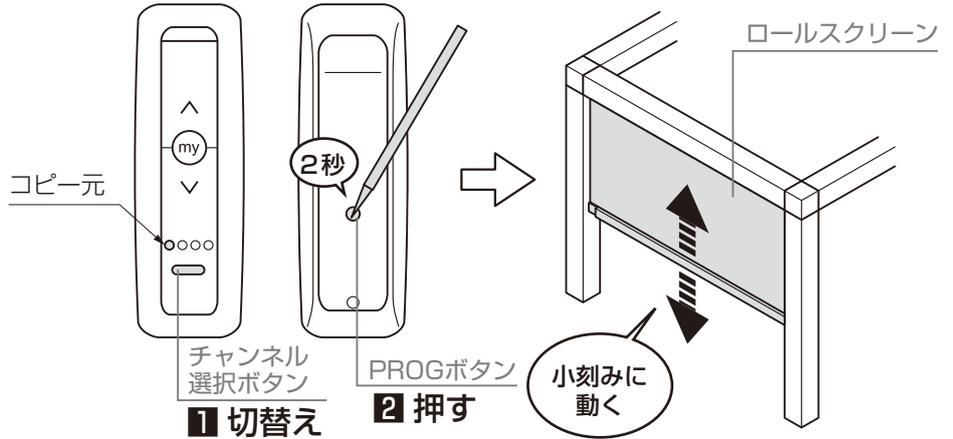
シーリング
5 シーリング



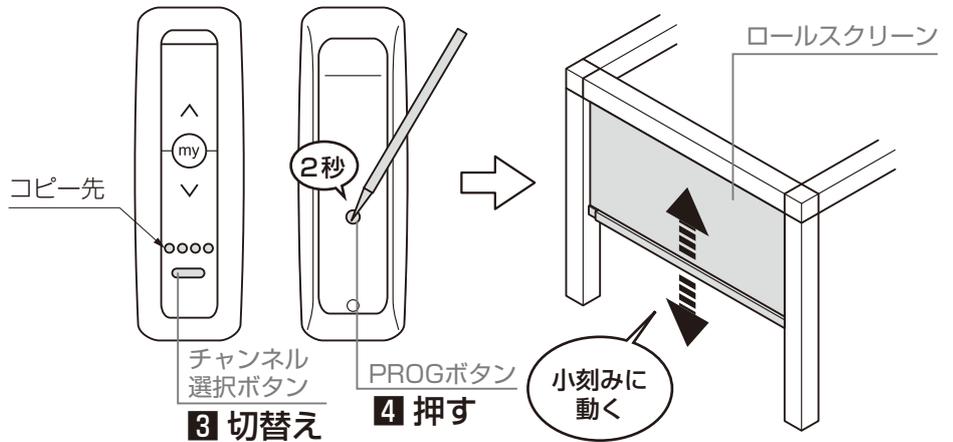
9-8 ロールスクリーンの仕上げ

9-8-4 一斉操作の設定

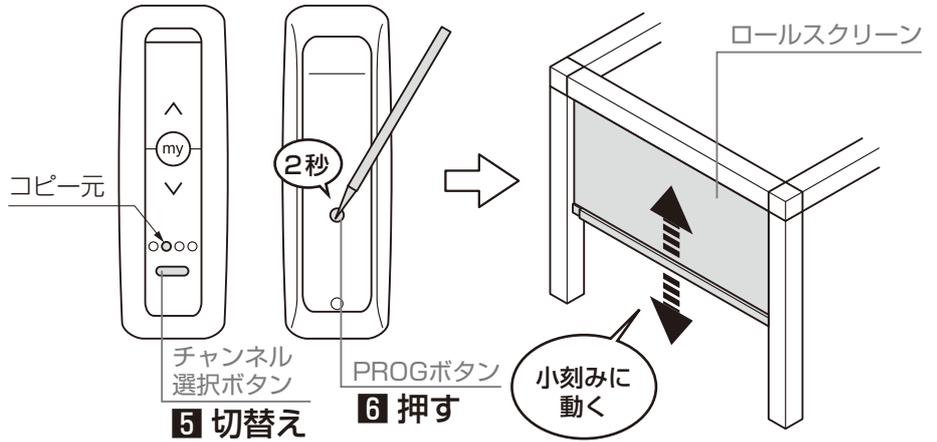
- ❶: コピーしたいチャンネルに切替え
- ❷: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



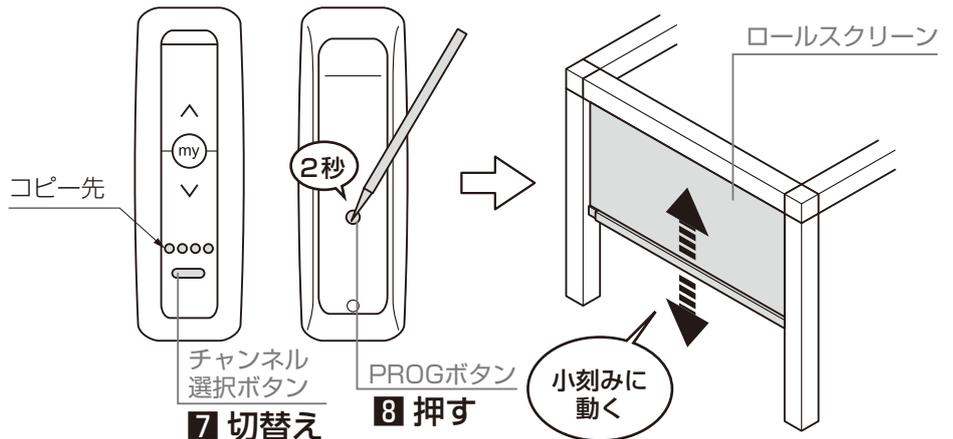
- ❸: コピー先のチャンネルに切替え
- ❹: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



- ❺: コピーしたいチャンネルに切替え
- ❻: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



- ❼: コピー先のチャンネルに切替え
- ❽: リモコンの背面にある「PROGボタン」を押す(2秒)



お願い

- 3面以降も登録する場合は❺～❽を繰り返してください。
- 一斉操作設定後、解除する場合は解除したいチャンネルを選択後、❺～❽を行なってください。

9 オプションの施工

9-9 ガラスパネル取付けの事前準備 ※片開きの場合のみ

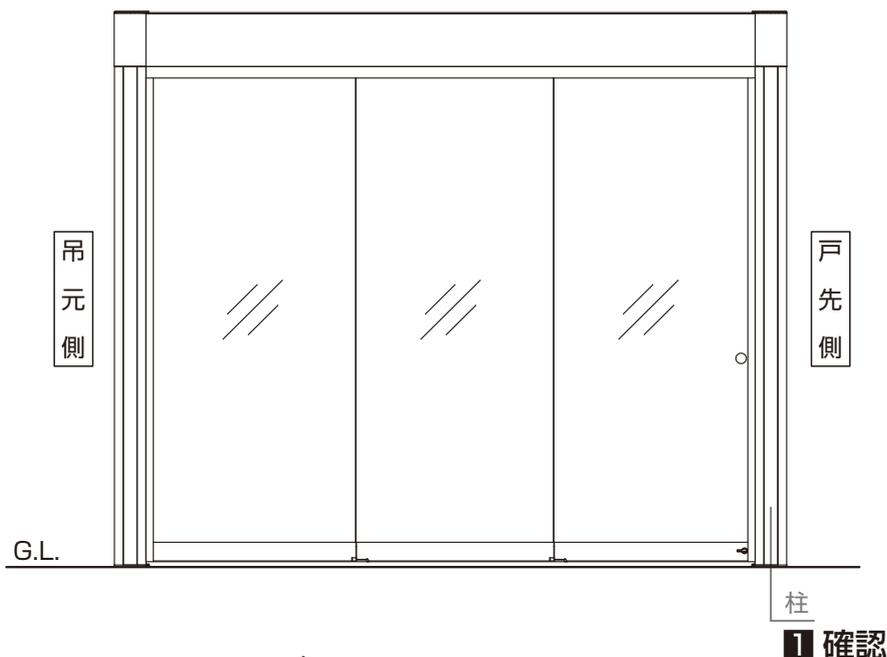
🔦 お願い

- ガラスパネルは本体がカバー類まで仕上げられた後で取付けられます。片開き仕様の場合、事前に以下の項目を実施してください。

1: 縦枠取付部材を取付ける柱を確認

🔦 お願い

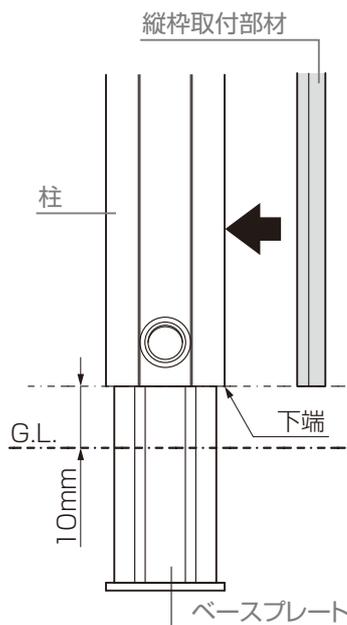
- ガラスパネルを設置する面の戸先側にあたる柱に取付けてください。



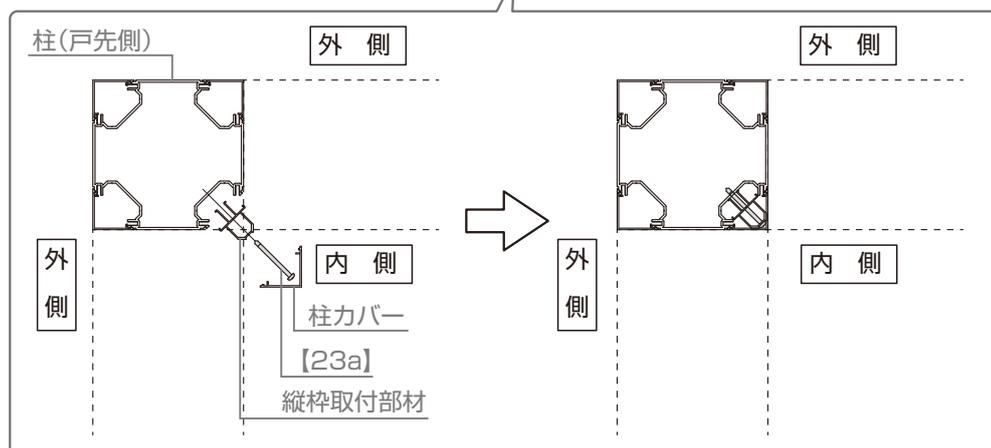
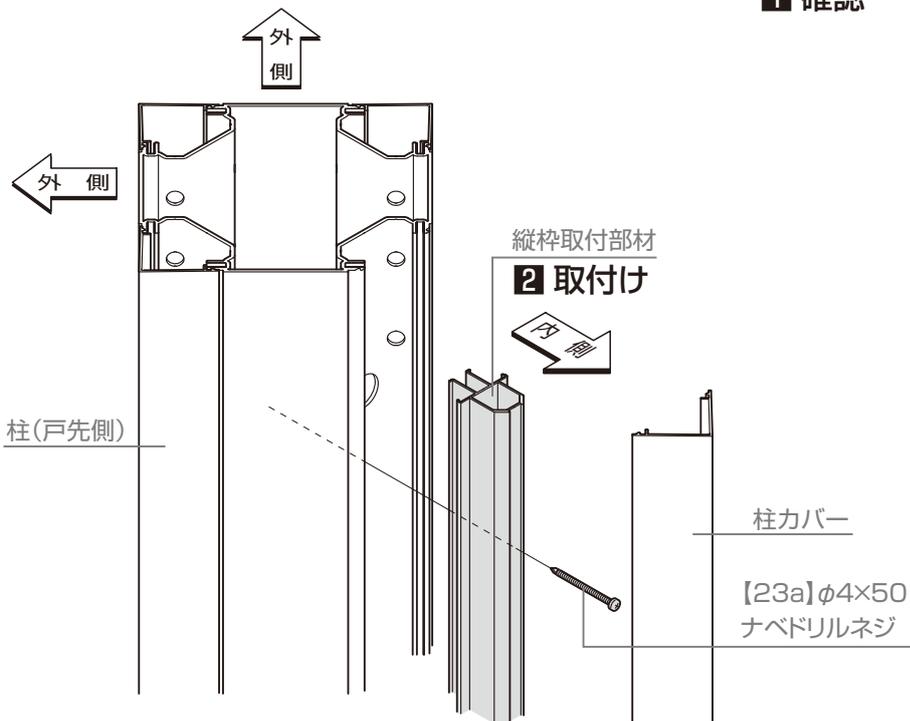
2: 縦枠取付部材を柱の内側柱カバー取付面に【23a】で取付け

🔦 お願い

- 縦枠取付部材は柱の下端に合せて取付けてください。



- 【23a】がベース用スリーブに干渉する場合は、下穴(φ3.5)を貫通させてから固定してください。





10-1 フレームサイドカバーの取付け

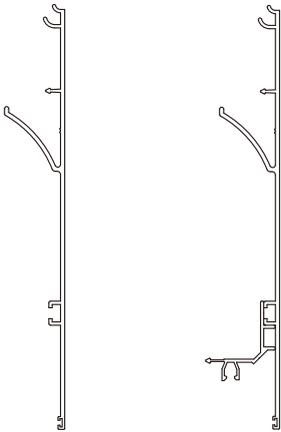
①: フレームサイドカバーを外枠にはめ込む

お願い

- カチッと音がするまでフレームサイドカバーを押し込んでください。
- フレームサイドカバーは、(進行側、収納側)、(左側、右側)すべてのフレームに取付けてください。
- フレームサイドカバーは2種類あります。取付け前に種類を確認してください。

▼ロールスクリーン用▼

▼通常用▼



- 通常用フレームサイドカバーをロールスクリーン側へ取付けると、ロールスクリーンが傷つくので注意してください。

②: フレームサイドカバーを手で叩いてかん合

お願い

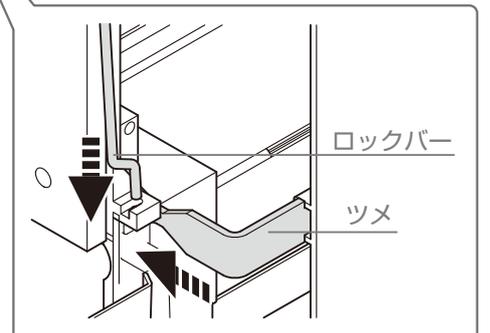
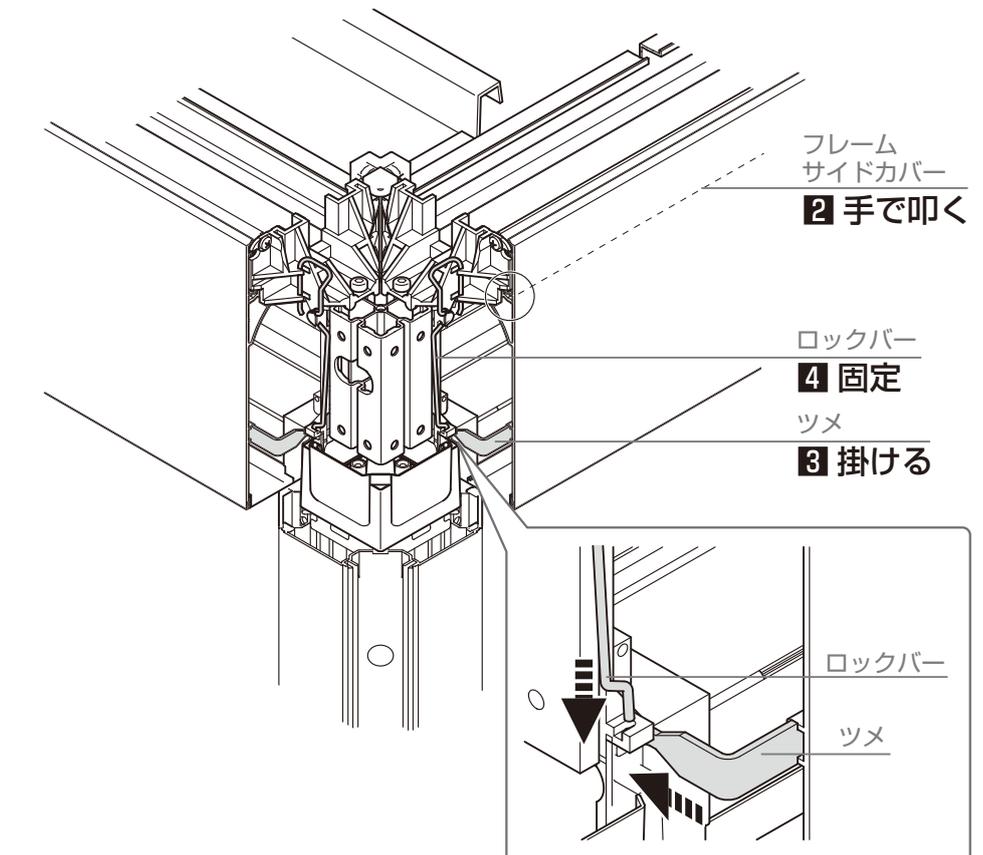
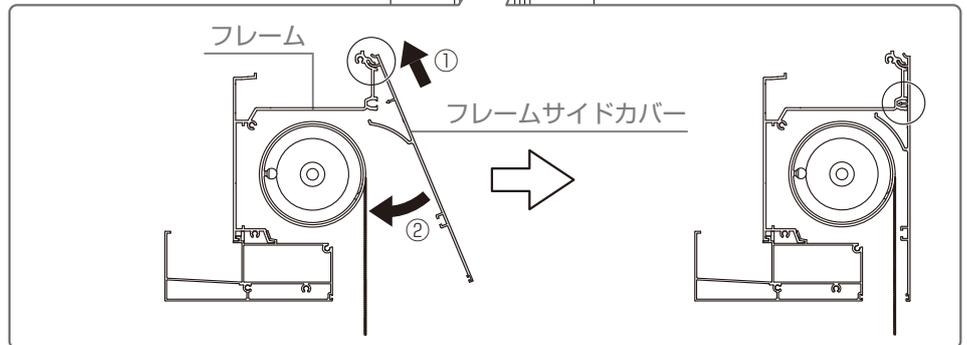
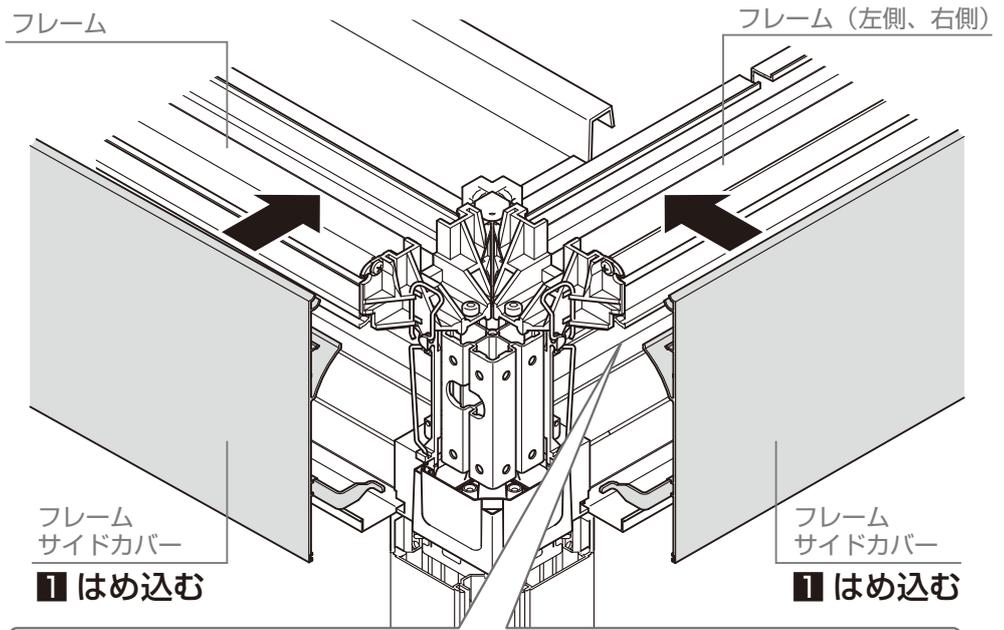
- フレームサイドカバーのかん合部分を手で叩いて、奥までしっかり取付けてください。

③: フレームサイドカバーのツメを引っ掛ける

④: ロックバーを下げて固定

お願い

- フレームサイドカバーの脱落を防止するため、確実にロックしてください。



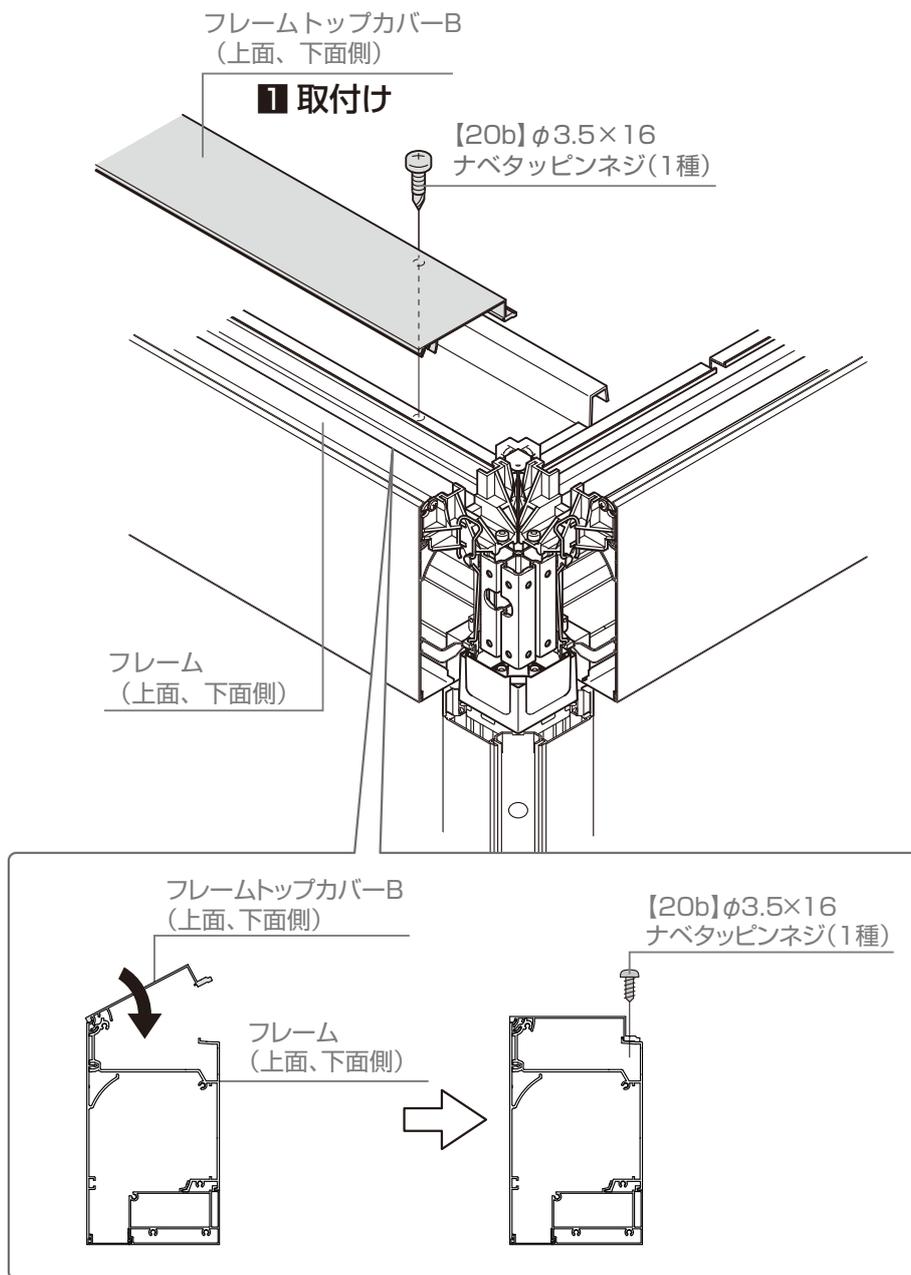
10-2 トップカバーの取付け

10-2-1 フレームトップカバーB（上面、下面側）

お願い

- 各種配線が正しく接続されているか確認してからトップカバーを取付けてください。

- 1**: フレームトップカバー B(上面、下面側)を、フレーム(上面、下面側)に【20b】で取付け



10-2 トップカバーの取付け

10-2-2 フレームトップカバー-B (水上側、水下側)

1: フレームトップカバー B(水上側、水下側)を、フレーム(水上側、水下側)に【20b】で取付け

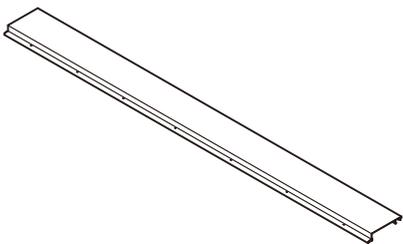
📌 お願い

- トップカバー(上面側、下面側)と干渉する場合は、トップカバー(左側、右側)の干渉する部分を、ヤスリなどで削って調整してください。

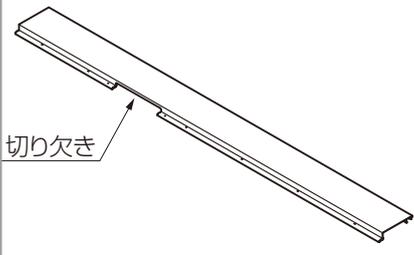
🔧 補足

- フレームトップカバー-Bは、水上側と水下側で形状が異なります。

▼ 水下側 ▼



▼ 水上側 ▼



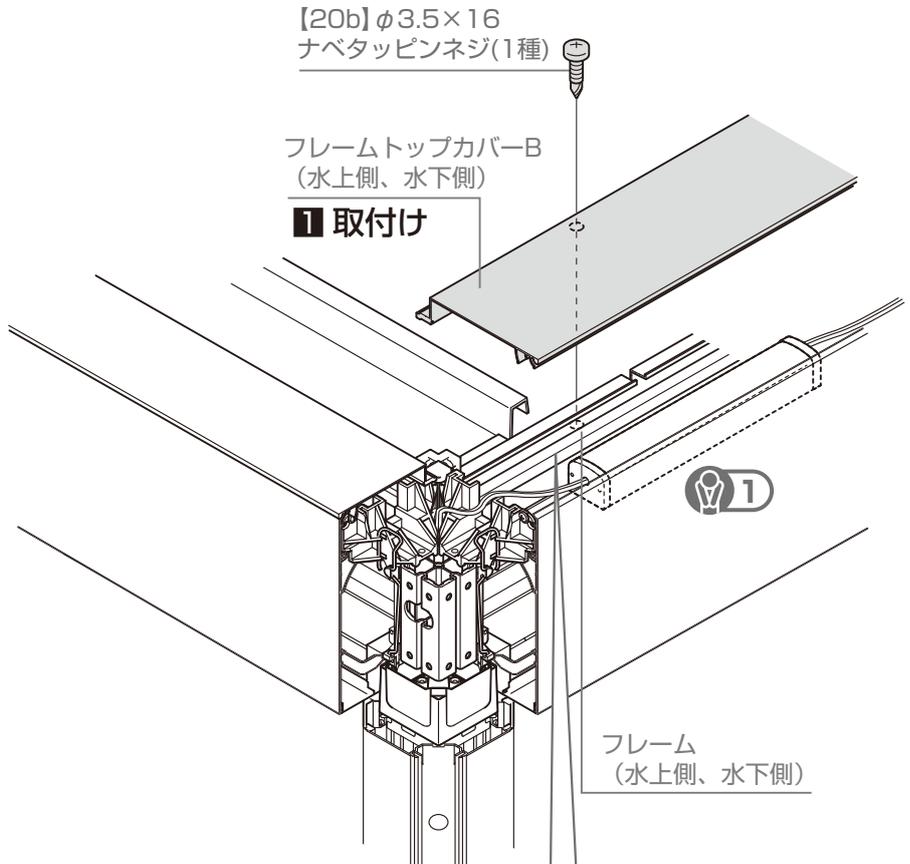
📌 お願い 1

- トップカバー-Bを取付ける際に、各種配線を挟まないようにしてください。

【20b】φ3.5×16
ナベタッピンネジ(1種)

フレームトップカバー-B
(水上側、水下側)

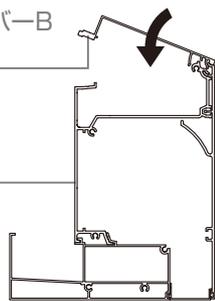
1 取付け



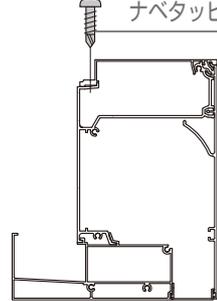
▼ 水下側の場合 ▼

フレームトップカバー-B
(水下側)

フレーム
(水下側)



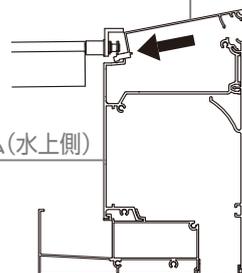
【20b】φ3.5×16
ナベタッピンネジ(1種)



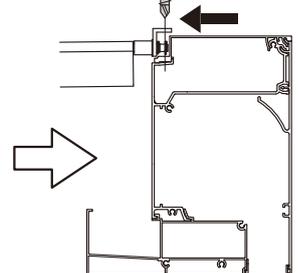
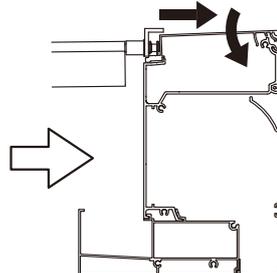
▼ 水上側の場合 ▼

フレームトップカバー-B
(水上側)

フレーム(水上側)



【20b】φ3.5×16
ナベタッピンネジ(1種)



10-2 トップカバーの取付け

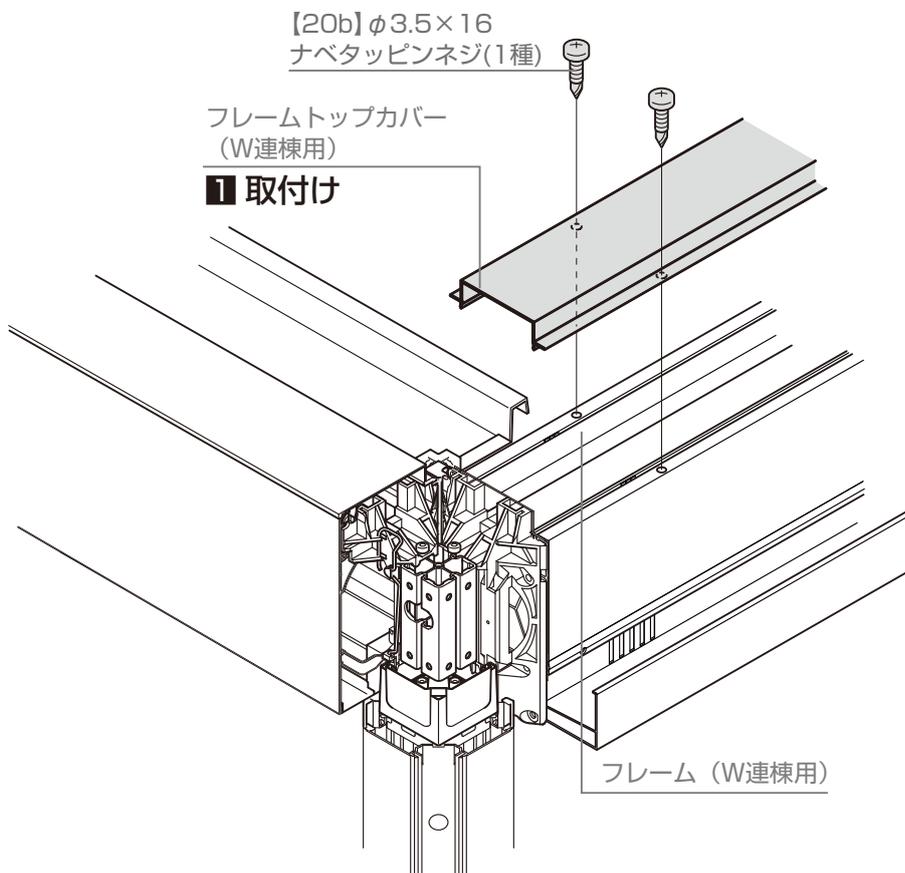
つづき

10-2-3 フレームトップカバー（W連棟、Lの字連棟、田の字連棟の場合）

🔦 お願い

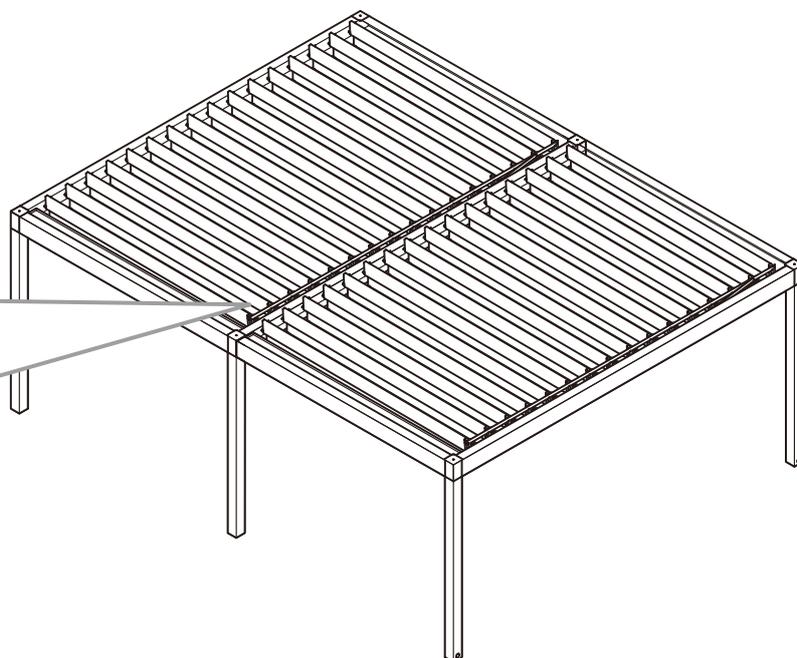
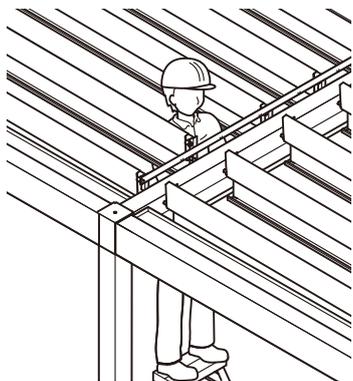
- 7-4 連棟用フレームの加工 でフレームトップカバーの加工をしてから取付けを行なってください。

- 1: フレームトップカバー(W連棟用)をフレーム(W連棟用)に【20b】で取付け



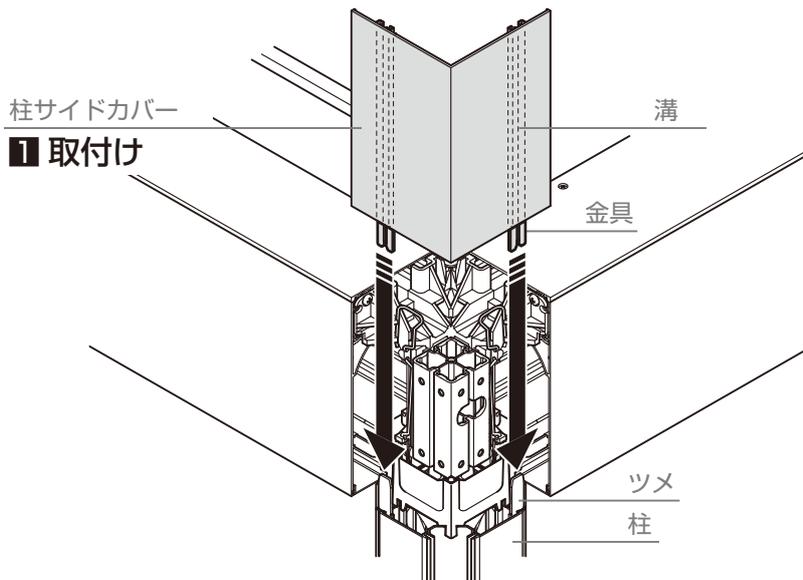
🔦 お願い

- フレームトップカバー(W連棟用)を取付ける際は、ルーフルーバーを垂直に立て作業を行なってください。



10-3 柱サイドカバーと柱キャップの取付け

1: 柱サイドカバーの金具を、柱のツメに上側からスライドして取付け

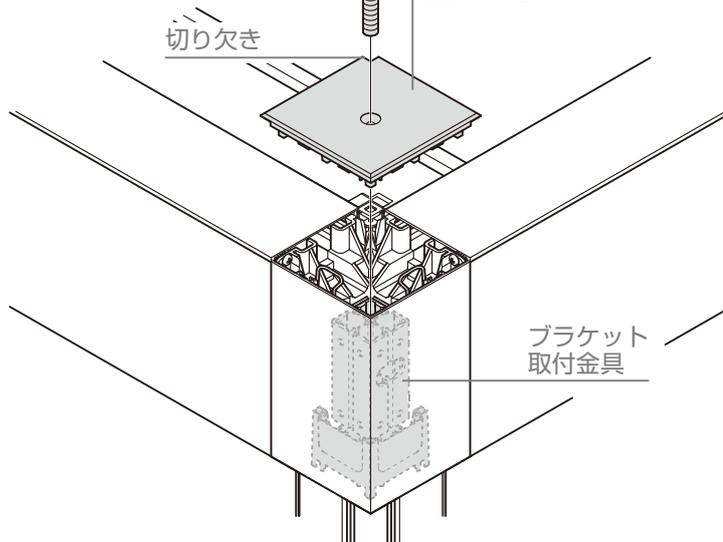


2: 柱キャップをブラケット取付金具に【20a】で取付け

お願い

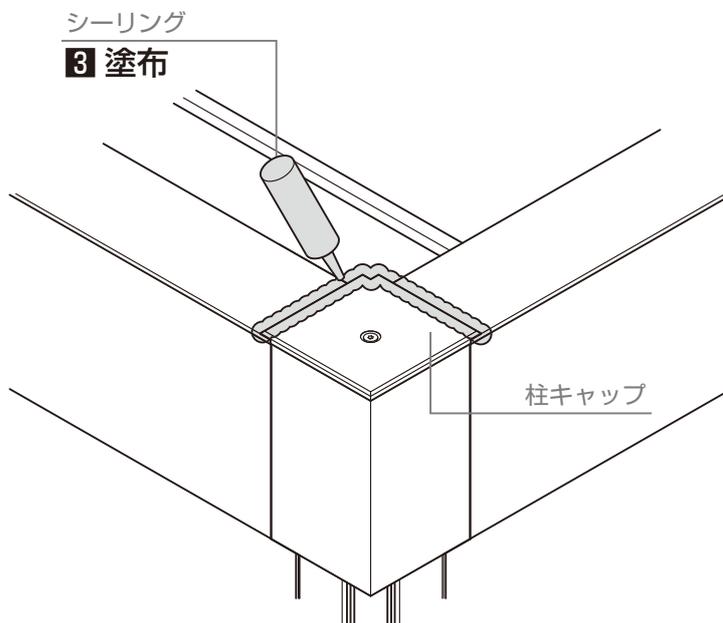
- 柱キャップの切り欠きが本体の内側を向くように取付けてください。
- 柱キャップ底面の歯を、柱サイドカバーの水路に差し込むようにして取付けてください。

【20a】M6×80
六角穴付きサラネジ 柱キャップ



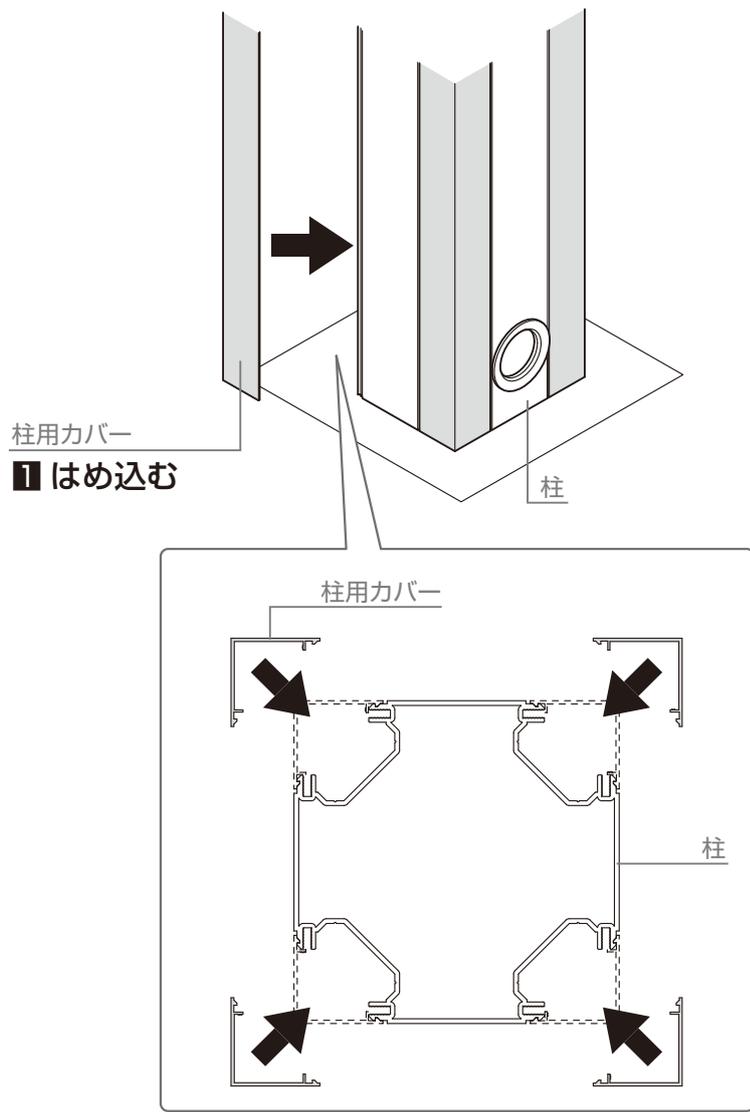
3: 柱キャップにシーリングを塗布

シーリング
3 塗布



10-4 柱カバーの取付け

1: 柱用カバーを各柱の四隅にはめ込む

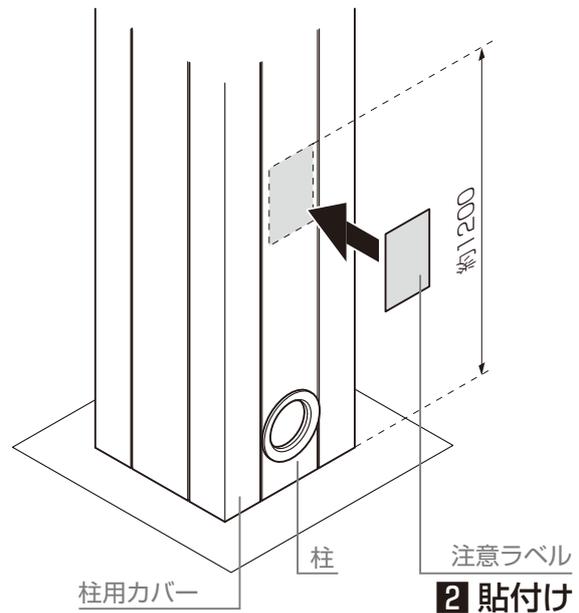


柱用カバー
1 はめ込む

2: 注意ラベルを柱に貼付け

お願い
● 柱用カバーとの境界には貼付けないでください。

補足
● 注意ラベルは製品本体用に1枚、ロールスクリーン(オプション)用に1枚あります。



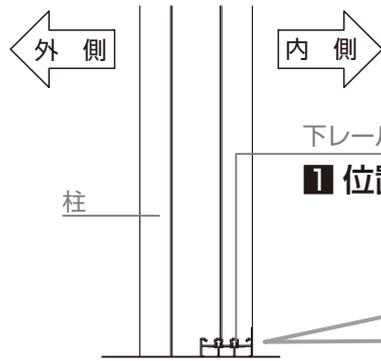
注意ラベル
2 貼付け



11-1 下レールの取付け

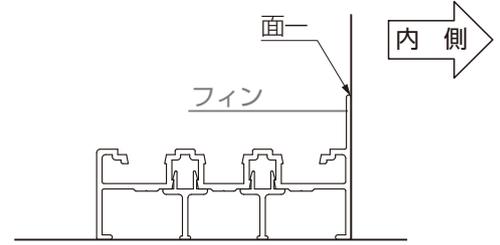
11-1-1 下レール取付け位置の確認

1: 下レールの取付け位置を確認



お願い

- 下レールベースのフィンが柱の内側側面に面一になるように取付けてください。



11-1-2 下レールベースの加工

1: 下レールベースに下部ストッパー取付金具用のφ3.5の下穴加工

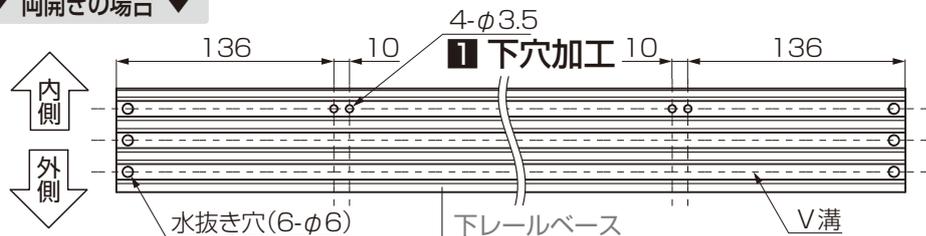
お願い

- 下部ストッパーの取付位置は両開き、片開きで異なります。P.125 11-1-9 下部ストッパーの取付け位置の確認で取付位置を確認してから加工してください。

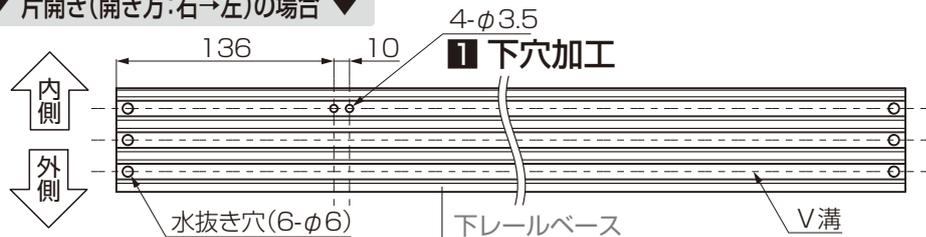
▼ 片開き(開き方:左→右)の場合 ▼

- 加工位置は左右反転します。

▼ 両開きの場合 ▼



▼ 片開き(開き方:右→左)の場合 ▼

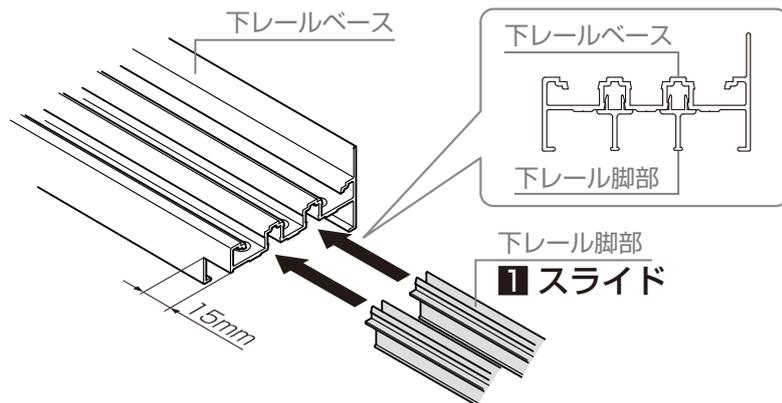
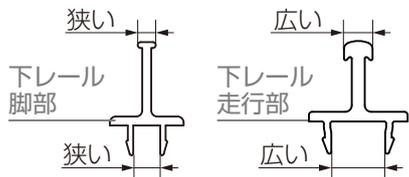


11-1-3 下レールの組立て

1: 下レール脚部を下レールベースにスライドして取付け

お願い

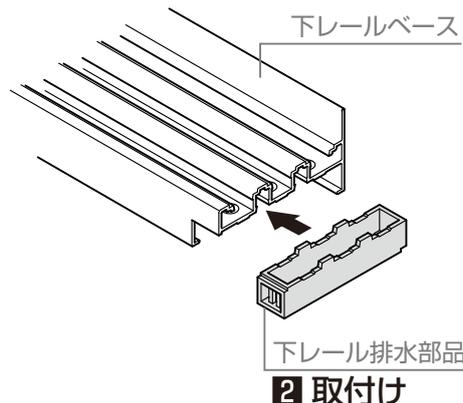
- 下レール脚部と下レール走行部の形状が似ているため、十分に確認してから下レールベースに取付けてください。



補足

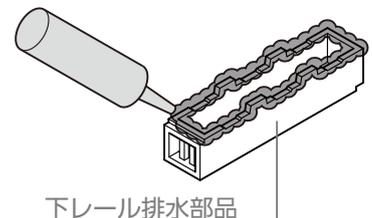
- 下レール脚部は両開きの場合1列に2本、片開きの場合1列に1本を取付けてください。
- 下レールベースの両端から15mmずつあけた位置に下レール脚部の端部を合わせてください。

2: 下レールベース両端の切り欠き位置に合わせて下レール排水部品を取付け



お願い

- 下レール排水部品の上面にシーリングをしてから取付けてください。



11-1 下レールの取付け

●ガラスパネルに施工後に床の仕上げ(土間・タイル等)を行わない場合は以下を実施してください。

11-1-4 下レールベース固定用の穴加工 ※土間・タイル仕上げを行わない場合

1: 下レールベースを取付位置に仮置き

2: 下レールベース固定用の穴($\phi 5$)位置を基準に、土間に $\phi 6$ 深さ40mmの穴あけ

補足

●下レールベースの両端にあけられた $\phi 6$ の穴加工(計6個)は、水抜き用になります。固定用の穴加工とは異なるので注意してください。

水抜き穴(6- $\phi 6$)
下レールベース
フィン
固定用穴($\phi 5$)

柱
下レールベース
下レールベース
φ6 深さ40mm
[23b]フィッシャープラグ(S6)

下レールベース
1 仮置き
[23b]フィッシャープラグ(S6)
3 差込む
φ6 深さ40mm
2 穴あけ

外削

3: 下レールベースを取り外し、土間にあけた穴に[23b]を差込む

11-1-5 下レールの取付け ※土間・タイル仕上げを行わない場合

1: 組み立てた下レールを取付位置に置き、[23c]で埋設したフィッシャープラグに取付け

2: 下レール端部と柱の突き合わせ部分にシーリングを塗布

柱
シーリング
2 塗布
下レール

柱
下レール
下レール
[23c] $\phi 4 \times 50$ ナベタッピン2種 (G=5)
1 取付け
ゴムワッシャー
フィッシャープラグ穴

11 ガラスパネルの施工

11-1 下レールの取付け

つづき

●ガラスパネルに施工後に床の仕上げ(土間・タイル等)を行なう場合は以下を実施してください。

お願い

●柱との位置関係はP.14 |1-8-3| ガラスパネルを設置後、土間・タイル仕上げを行う場合 を参照してください。

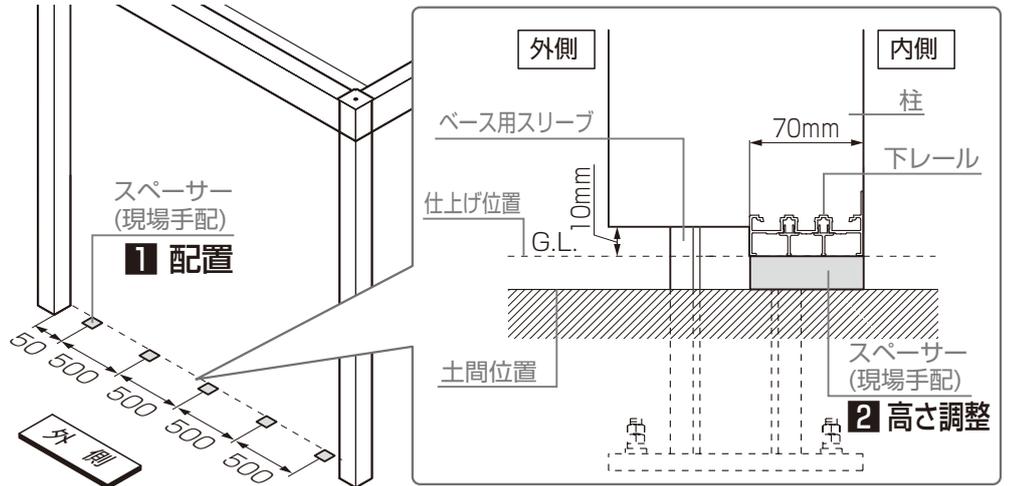
11-1-6 | スペースの配置

1: 下レールの取付け位置に約500mm 間隔でスペーサーを配置

2: 1で配置したスペーサーがG.L.と 同様に高さを調整

お願い

- スペーサーはG.L.～土間の距離を 検証して、必要数を現場手配して ください。
- スペーサーは下レールの幅 (70mm以内) におさめて配置し てください。

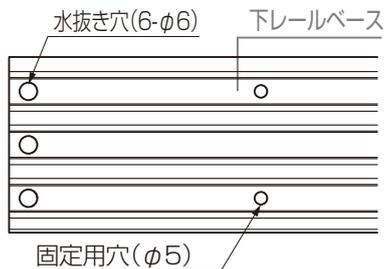


11-1-7 | 下レールの取付け

1: 組み立てた下レールを取付位置(ス ペーサーの上)に置き、下レールベ ース固定用の穴(φ5)位置を基準に して、土間にφ3.4の穴あけ

補足

●下レールベースの両端に あけられたφ6の穴加工(計6個)は、水抜き 用になります。固定用の穴加工とは 異なるので注意してください。

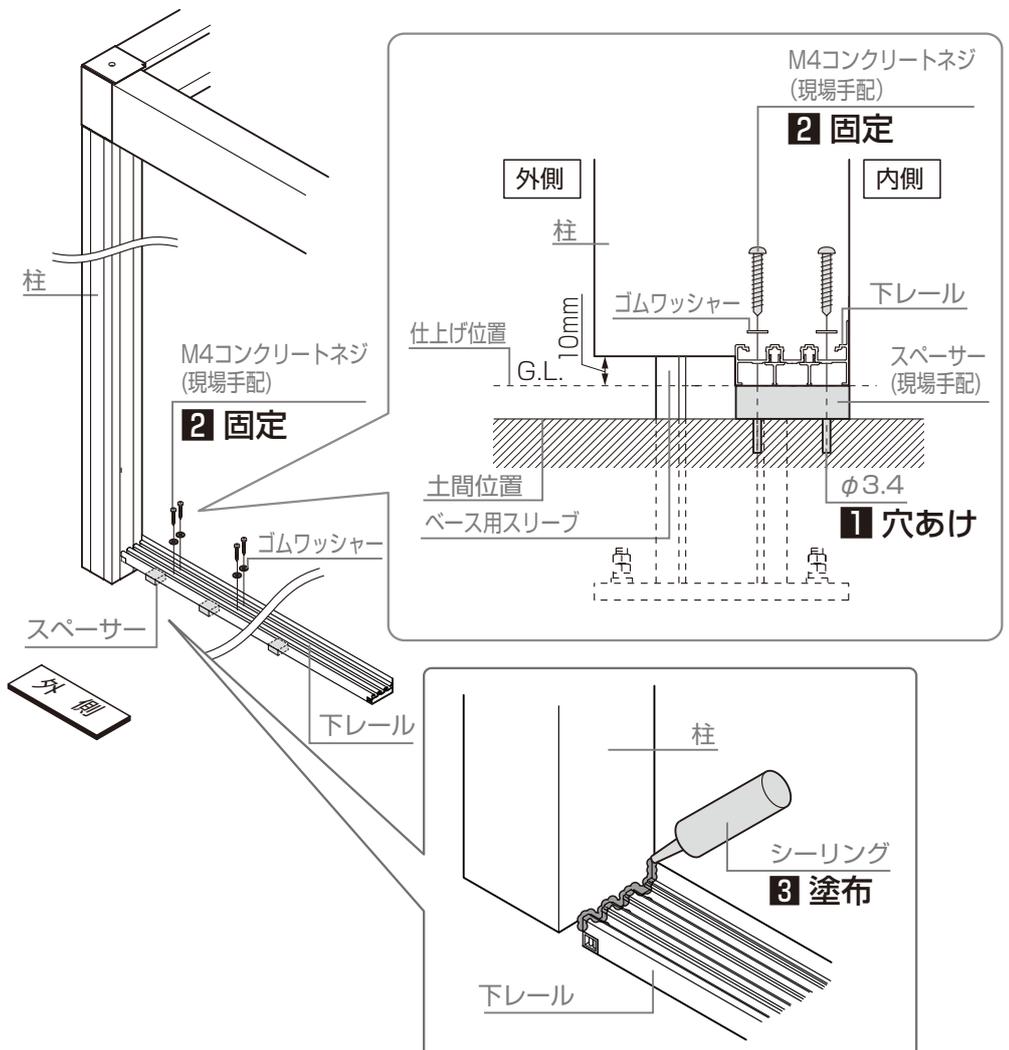


2: 下レールベース固定用の穴(φ5)位 置を基準にして、下レールをM4の コンクリートネジで固定

お願い

- M4のコンクリートネジは現場手 配してください。
- M4のコンクリートネジの長さは スペーサーの高さを考慮して検証 してください。

3: 下レール端部と柱の突き合わせ部に シーリングを塗布



11-1-8 施工寸法の計測と下レールの水平確認

🔦 お願い

- 図4-1、2に従って、フレームと下レール間の寸法を約1m間隔で測定し、表4-1の測定値の範囲内であることを確認してください。プラス側に外れている場合は、下レールの下にスペーサーを入れるなどして調整してください。
- ※ ガラスパネルを複数面設置する場合も、全て同様に寸法計測と調整を行なってください。

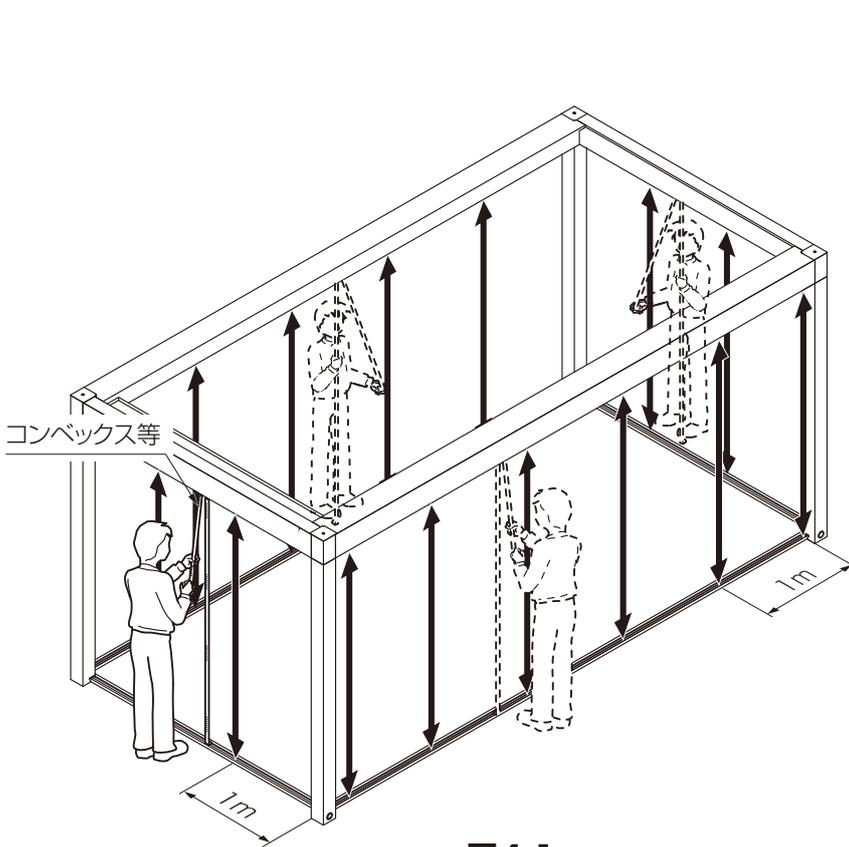


図4-1

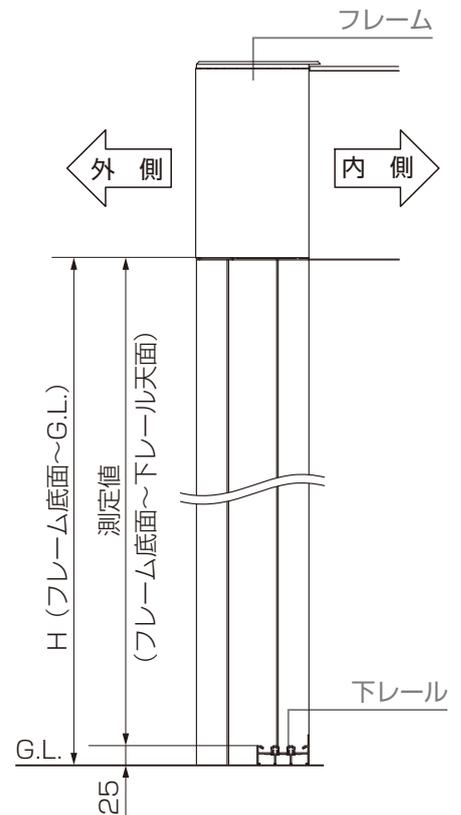


図4-2

●表4-1

	測定値	基準値
H任意	H-26 _{mm} ~ H-24 _{mm}	H-25 _{mm}
H2400	2374~2376	2375
H2300	2274~2276	2275
H2200	2174~2176	2175
H2100	2074~2076	2075
H2000	1974~1976	1975

🔦 お願い

- 下レールは水糸などを使用して水平になるように調整してください。
- 床の状態に合わせて、下レールの下にスペーサーを入れるなどの調整をしてください。

11-1 下レールの取付け

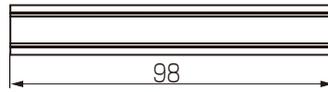
11-1-9 下部ストッパーの取付け位置の確認

お願い

- 下レールカバー、下部ストッパーの位置に注意してください(両開き、片開きともに内側のレールに取付けます)。
- 片開きの場合、開く方向によって取付け位置が異なります。
 - ・開き方 右→左：左寄せ
 - ・開き方 左→右：右寄せ ※外側から見た場合

補足

- 下レールカバー（先導扉用）は全サイズ共通の長さになります。

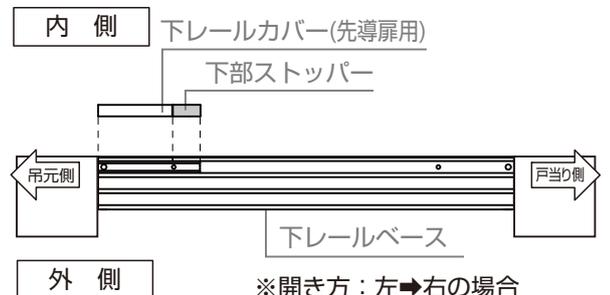


11 ガラスパネルの施工

▼両開きの場合▼



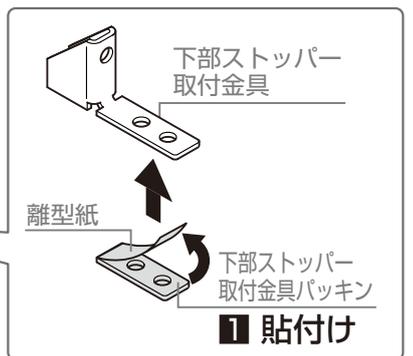
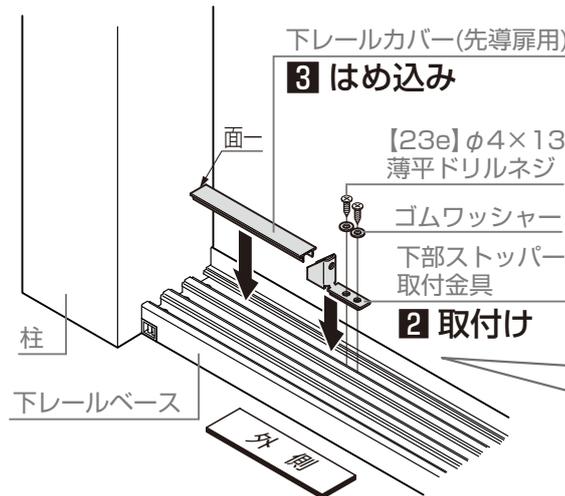
▼片開き（開き方：右→左）の場合▼



※開き方：左→右の場合
取付け位置は左右反転します。

11-1-10 下部ストッパーの取付け

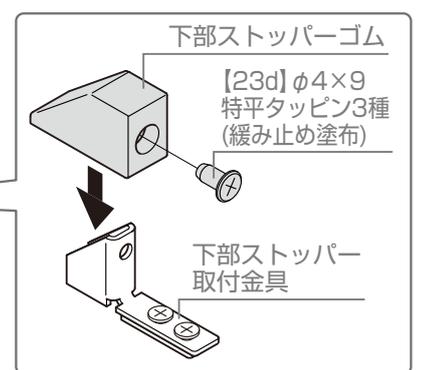
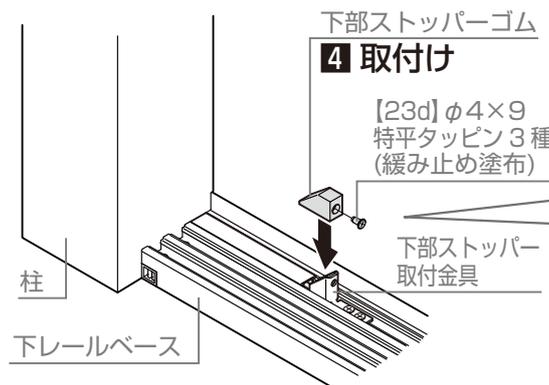
- 1: 下部ストッパー取付金具パッキンの両面テープの離型紙をはがし、下部ストッパー取付金具に貼付け
- 2: 下レールベースの【11-1-2】下レールベースの加工で加工した位置に下部ストッパー取付金具をゴムワッシャーと【23e】で取付け
- 3: 下レールカバー(先導扉用)を下レールベースにはめ込み



- 4: 下部ストッパーゴムを下部ストッパー取付金具に【23d】で取付け

お願い

- 下部ストッパーゴムをネジで固定する際、ネジの締めすぎに注意してください。ネジを締めすぎると下部ストッパーゴムが変形するおそれがあります。



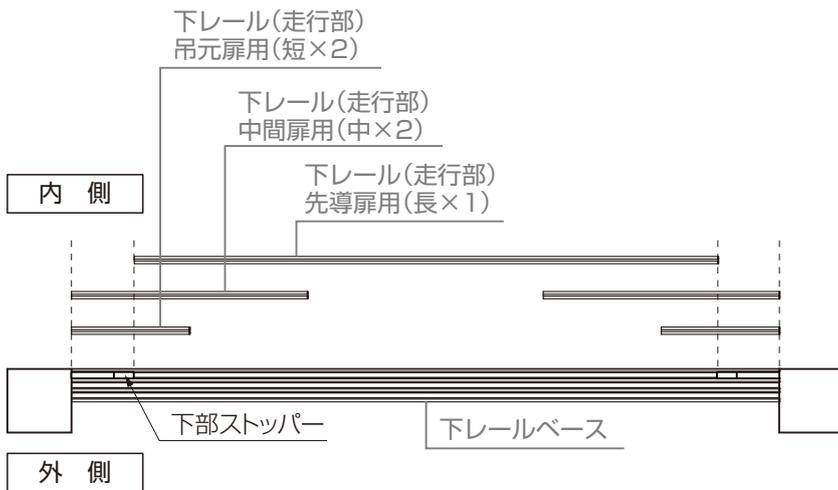
11-1 下レールの取付け

11-1-11 下レール(走行部)の取付け位置の確認

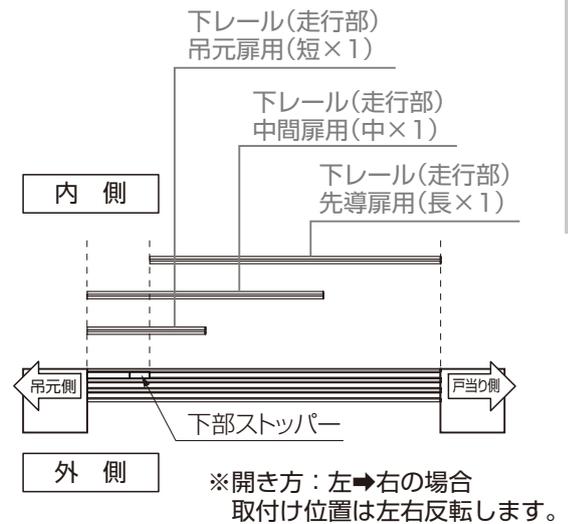
お願い

- 下レール(走行部)の設置位置に注意してください。
- 片開きの場合、開く方向によって走行部の位置が異なります。
 - ・開き方 右→左：走行部は左寄せ
 - ・開き方 左→右：走行部は右寄せ ※外側から見た場合

▼両開きの場合▼



▼片開き (開き方：右→左) の場合▼

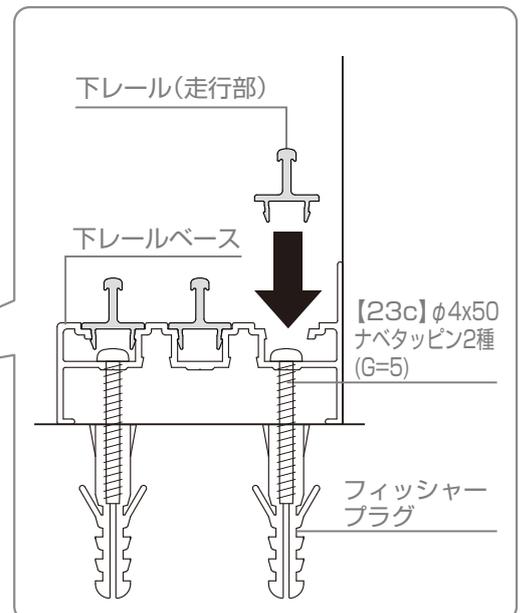
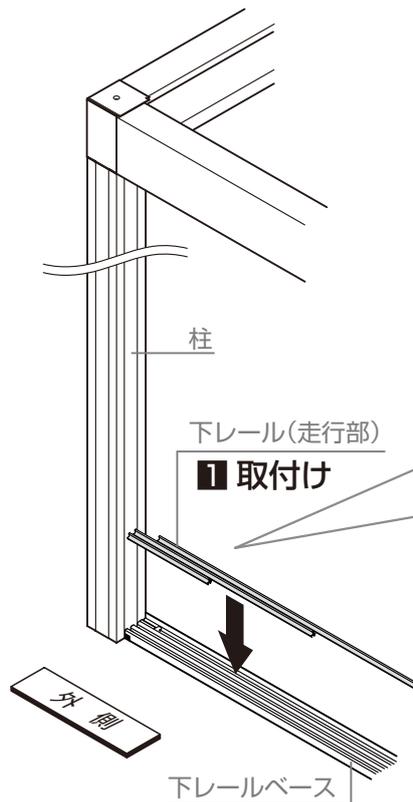
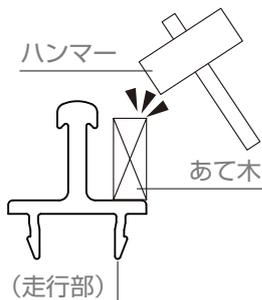


11-1-12 下レール(走行部)の取付け

1: 下レール(走行部)を下レールベースに取付け

お願い

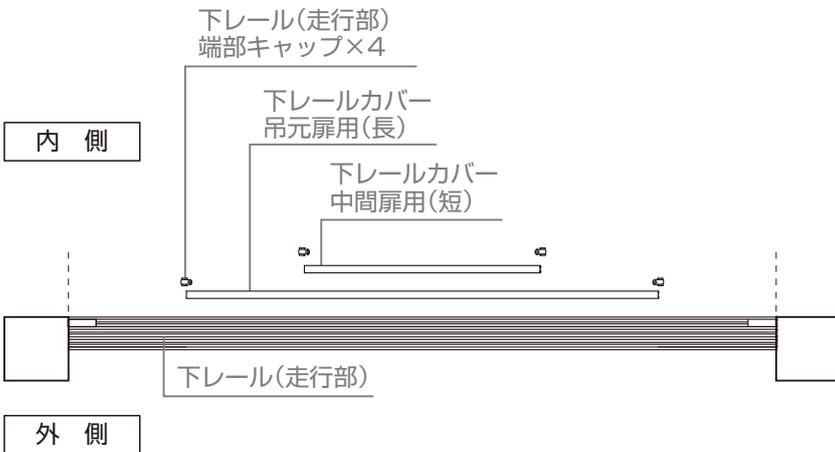
- 先導扉用は端部を下部ストッパーに突き当たった位置に合わせてはめ込んでください。
- 中間扉用、吊元扉用は端部を柱に突き当たった位置に合わせてはめ込んでください。
- 下レール(走行部)をはめ込む際は、走行部の頭を避けて必ず当て木をしてハンマーなどでたたいて取付けてください。



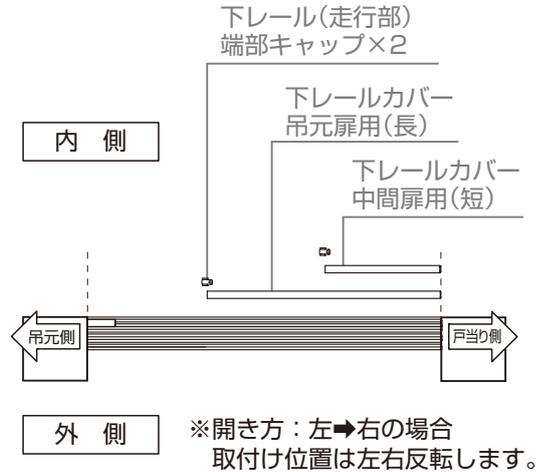
11-1 下レールの取付け

11-1-13 下レールカバー取付け位置の確認

▼両開きの場合▼



▼片開きの場合▼



11 ガラスパネルの施工

11-1-14 下レールカバー取付け

1: 下レール端部部品パッキンの両面テープの離型紙をはがして、下レール端部部品に貼付け

2: 下レール端部部品を下レールベースに【23e】で取付け

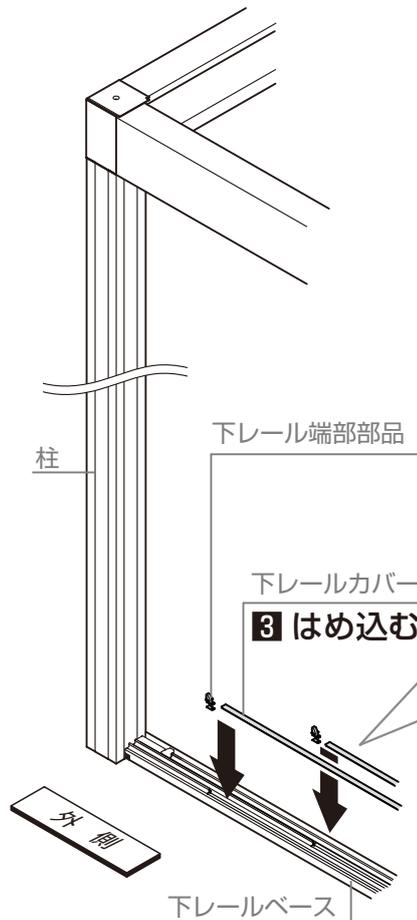
お願い

- 下レール端部部品の平面部を走行部の小口面に突き当てた位置に取付けてください。

3: 下レールカバーを下レールベースにはめ込む

お願い

- 下レールカバーをはめ込む際は必ずあて木をし、ハンマーなどでたたいて取付けてください。





11-2 上レールの取付け

11-2-1 上部ストッパー取付け用の穴加工

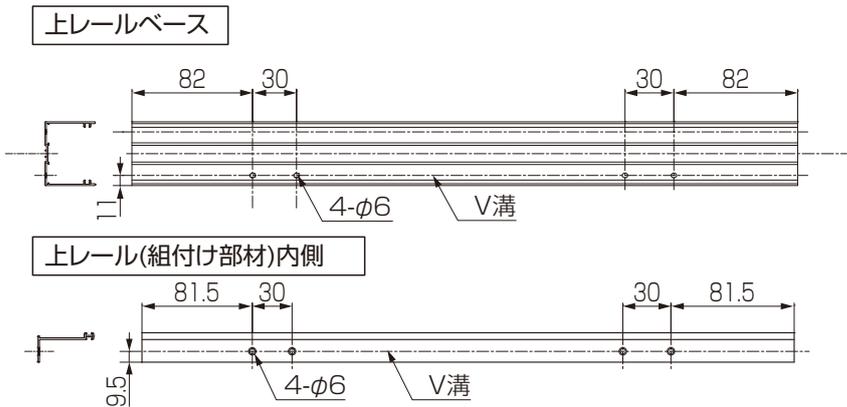
お願い

- 上レールベース、上レール（組付部材）にそれぞれ穴加工を行なってください。
- 両開き、片開きともに組付け時に内側に穴加工がくるように位置を決めてください。
- 片開きの場合は開く方向によって加工位置の左右が異なるため注意してください。

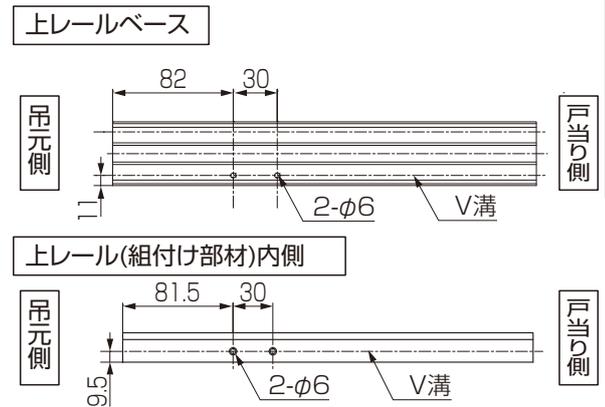
補足

- 加工穴は |11-2-5| 上部ストッパー（先導扉用）の取付け で使用します。

▼両開きの場合▼



▼片開き(開き方:右→左)の場合▼



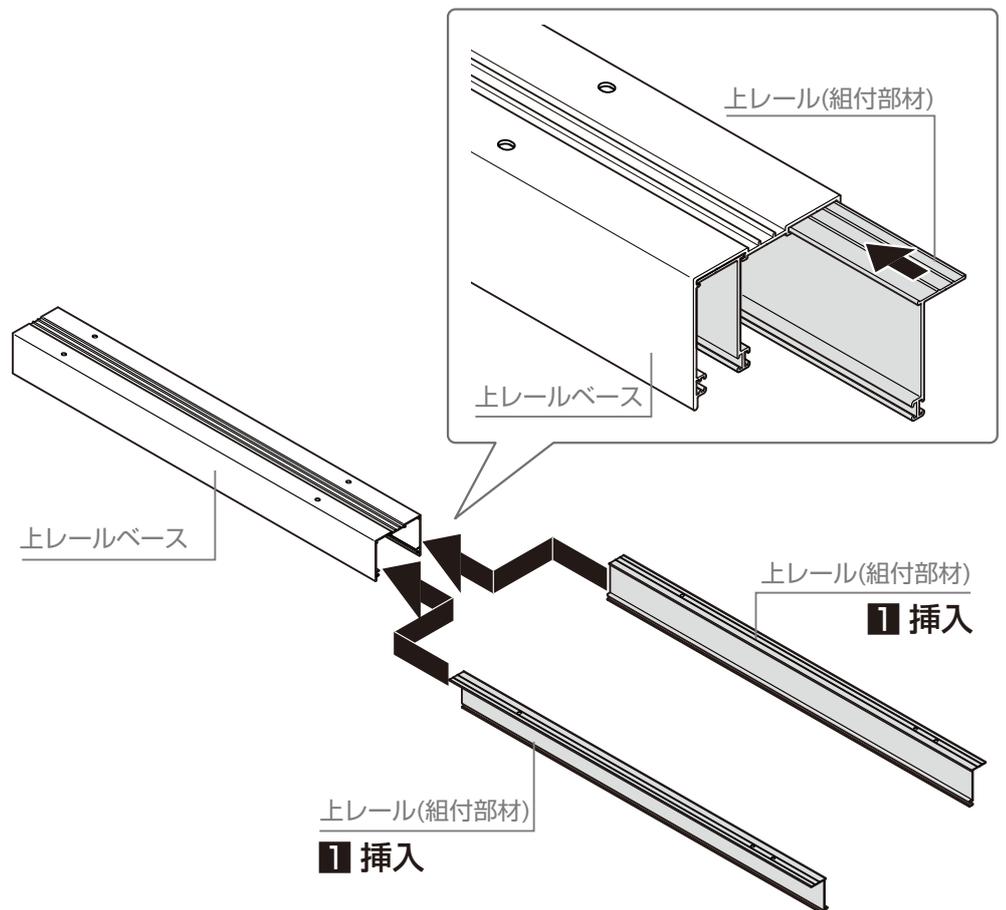
※開き方：左→右の場合
加工位置は左右反転します。

11-2-2 上レールの組立て

- 1: 上レール(組付部材)を上レールベースに挿入

お願い

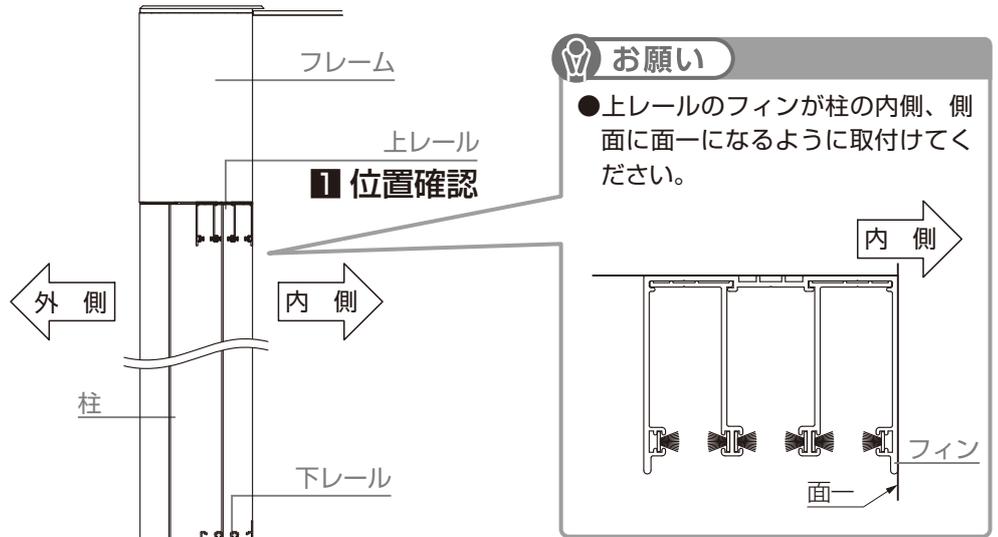
- 上レールベースと上レール（組付部材）の穴加工の位置を合わせて組立ててください。



11-2 上レールの取付け

11-2-3 上レール取付け位置の確認

1: 上レールの取付け位置を確認



11-2-4 上レールの取付け

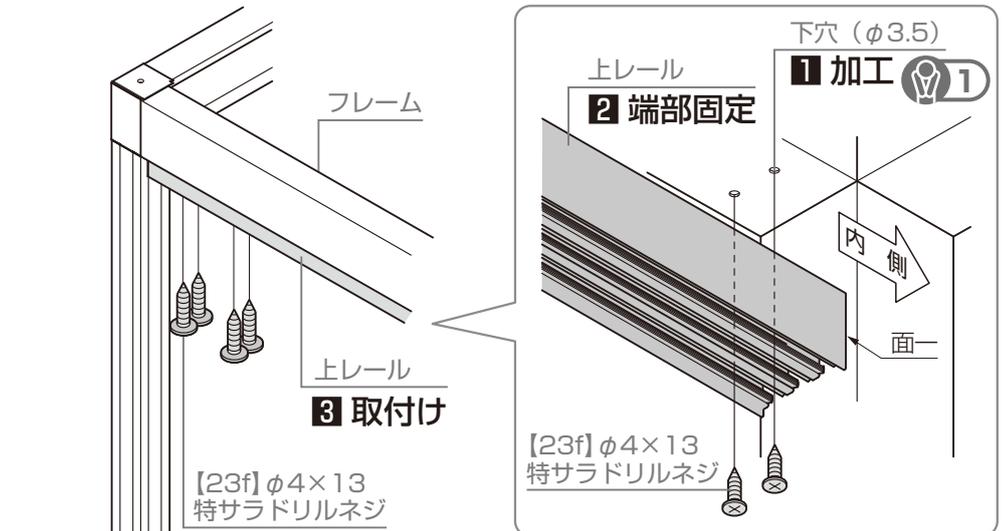
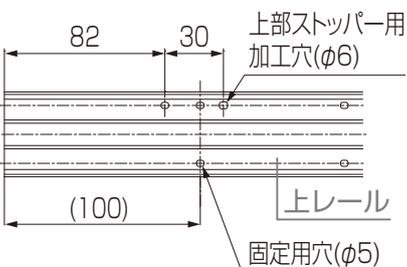
1: 上レールを取付け位置に合わせ、両端4カ所の固定用穴を基準に取付面(フレーム)にφ3.5の下穴加工

2: 下穴をあけた場所と上レールを【23f】で固定

3: 上レールの全ての固定用穴を【23f】で取付け

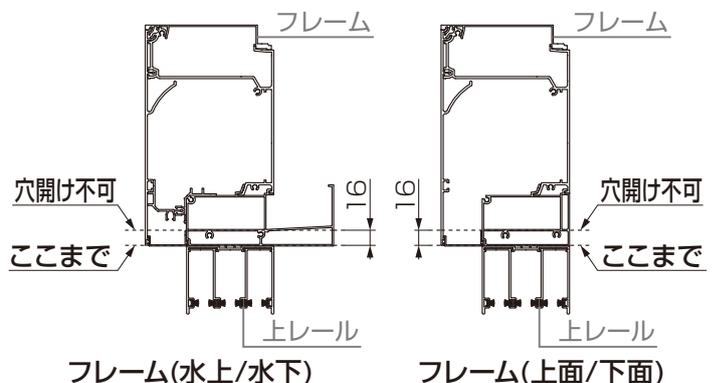
お願い

- 上レールは3部材で構成されています。取付けの際は固定用穴の位置をそろえてズレのないように取付けてください。
- 【11-2-1】上部ストッパー取付け用の穴加工で加工した上部ストッパー用の穴は、固定用の穴加工とは異なるので注意してください。

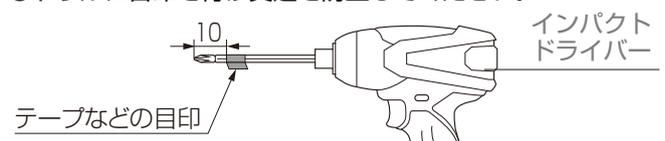


お願い 1

- 下穴を深くまで開けると雨漏れの原因となります。表面の1枚のみに下穴加工をしてください。



- ドリルに目印を付け貫通を防止してください。



11-2 上レールの取付け

11-2-5 上部ストッパー（先導扉用）の取付け

1: 取付け穴の位置を確認

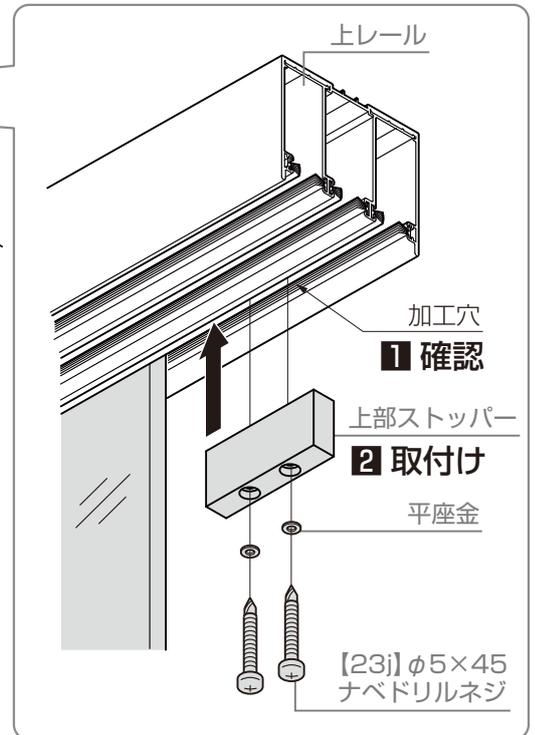
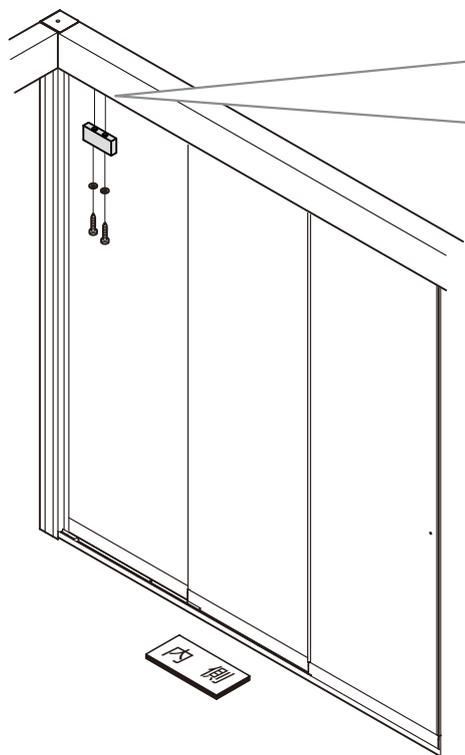
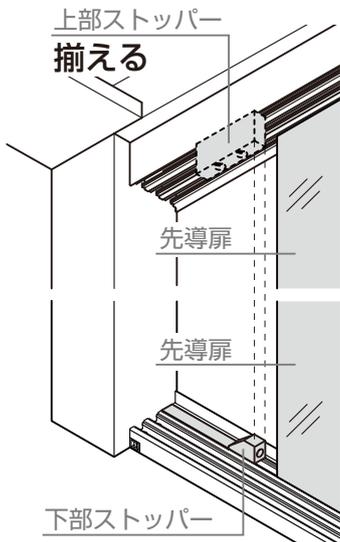
お願い

- 11-2-1 上部ストッパー取付け用の穴加工で上レールに加工した穴の位置を確認してください。

2: 上部ストッパーを上レールの先導扉レールに平座金と【23j】で取付け

お願い

- 上部ストッパー（先導扉用）の取付け位置は、扉を全開にしたときに先導扉吊元側が下部ストッパーと同時に当たる位置になります。
- 正しい取付け位置かどうか確認してください。





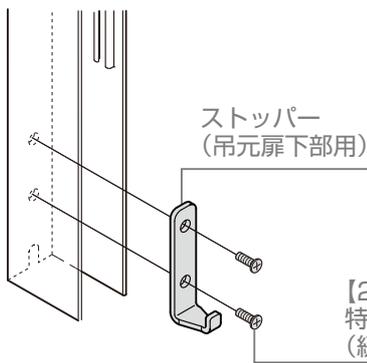
11-3 縦枠の取付け

11-3-1 縦枠取付け位置の確認

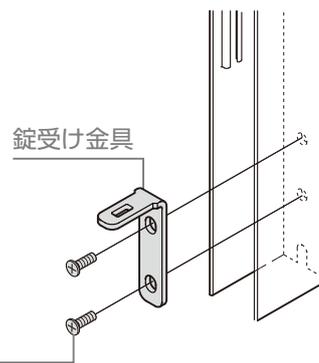
お願い

- 縦枠を切断する時は、上部から切詰めてください。
- 取付け前に縦枠へ部品の組み付けを行なってください。
- 開き方の仕様によって縦枠の取付け位置が異なるので注意してください。吊元用は外側の走行部に、戸先用は内側の走行部に取付位置を合わせてください。
※両開きの場合、吊元用のみ（2本）になります。
- 片開きの場合、吊元側、戸先側でストッパーの形状が異なります。確認したのち取付けてください。

【縦枠(吊元側)】

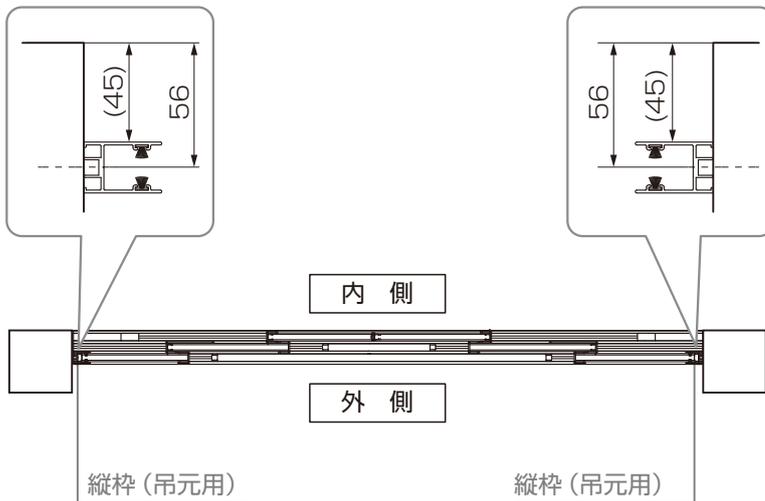


【縦枠(戸先側)】※片開きのみ

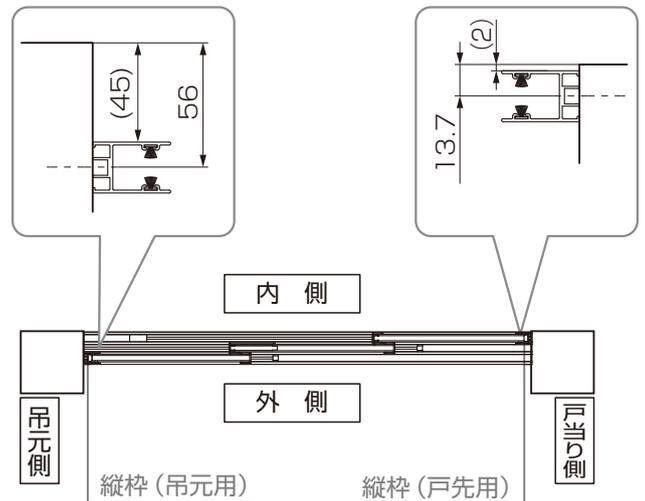


【23d】φ4×9
特平タッピン3種
(緩み止め塗布)

▼両開きの場合▼



▼片開き (開き方：右→左) の場合▼



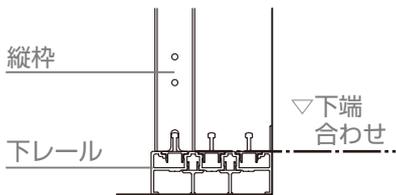
※開き方：左→右の場合
取付け位置は左右反転します。

11-3-2 縦枠の取付け

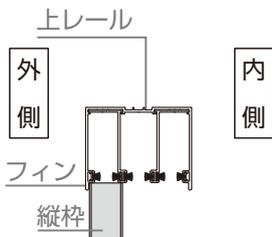
1: 縦枠を柱に【23g】で取付け

お願い

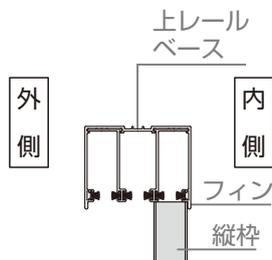
● 縦枠は下レールへ下端合わせで取付けてください。



● 縦枠の上端は上レールのフィンに突き当てた位置に固定してください。



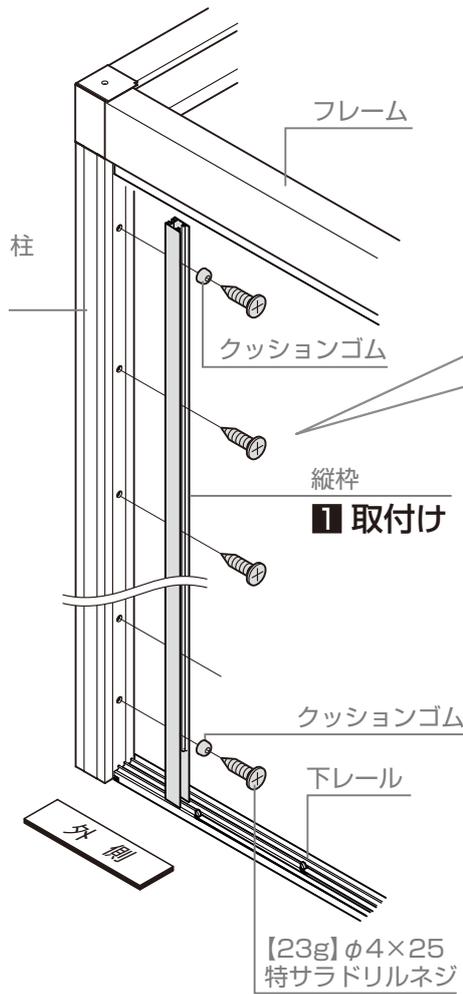
〈吊元側〉



〈戸先側〉※片開きのみ

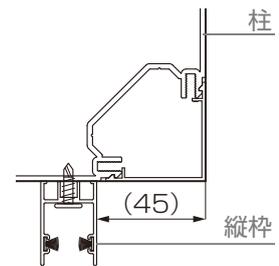
● ネジ位置の最上部と最下部は必ずクッションゴムを入れて共締めしてください。

● 縦枠取付け後に、縦枠が垂直に取付けられていることを確認してください。

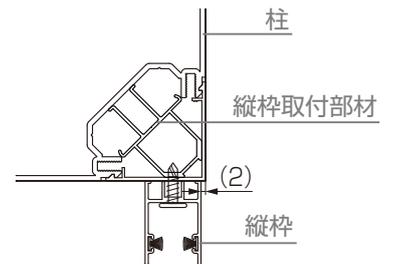


【断面図】

〈吊元側〉



〈戸先側〉※片開きのみ



戸先側への取付けは、本体の柱カバナーへ固定してください。



11-4 戸先錠の取付け

11-4-1 錠の分解

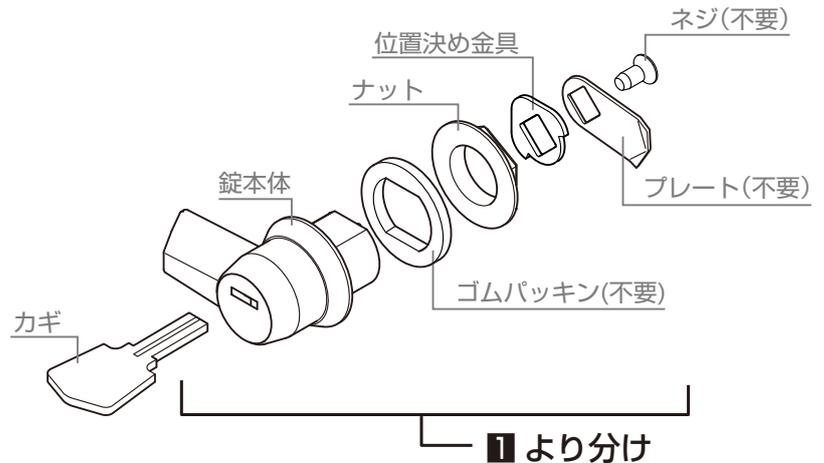
❶: 錠を分解して部品をより分け

補足

- 錠本体とナット、位置決め金具以外の部品は使用しません。
- 最初にカギを開け、本体のつまみが動くようにしてください。

お願い

- カギ(×2)は最終的にお客様へ引き渡します。大切に保管してください。

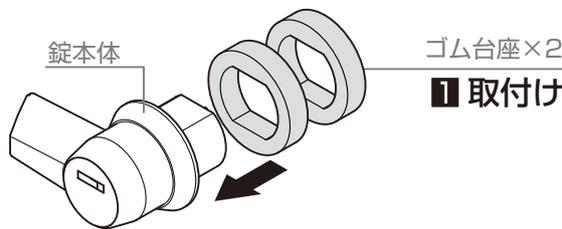


11-4-2 戸先錠の組立て

❶: 錠本体にゴム台座2枚を重ねて取付け

補足

- 以降では外側から見た開き方によって組立てが異なります。



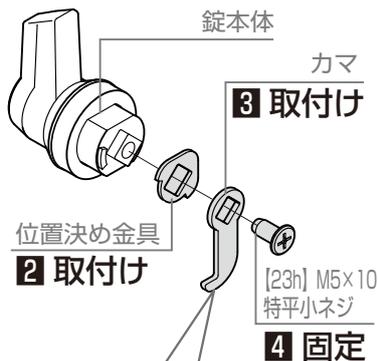
▼ 右→左に開く場合 ▼



❷: 錠本体に位置決め金具を取付け

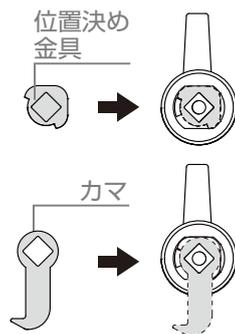
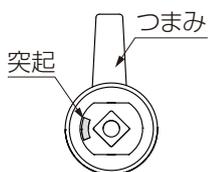
❸: 錠本体にカマを取付け

❹: 錠本体に【23h】で固定

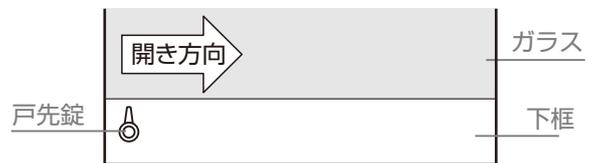


補足

- 突起が下図の位置に来るように調整します。



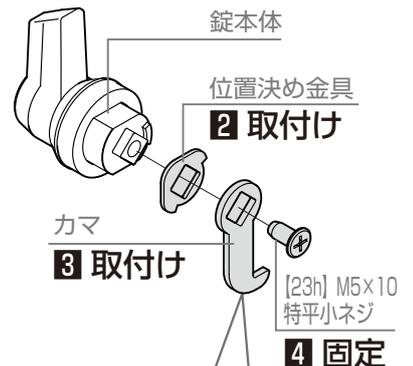
▼ 左→右に開く場合 ▼



❷: 錠本体に位置決め金具を取付け

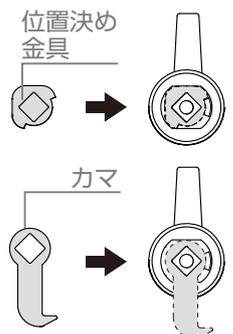
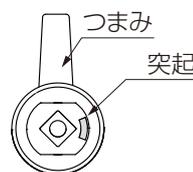
❸: 錠本体にカマを取付け

❹: 錠本体に【23h】で固定



補足

- 突起が下図の位置に来るように調整します。



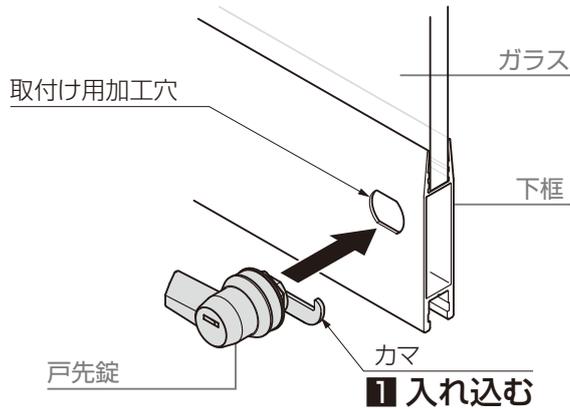
お願い

- 開き方で、位置決め金具とカマの向きが異なるので注意してください。

11-4 戸先錠の取付け

11-4-3 錠の取付け

1: 先導扉(錠掛け用)の下框に戸先錠取付け用の加工があることを確認し、加工部に戸先錠のカマ部を入れ込む



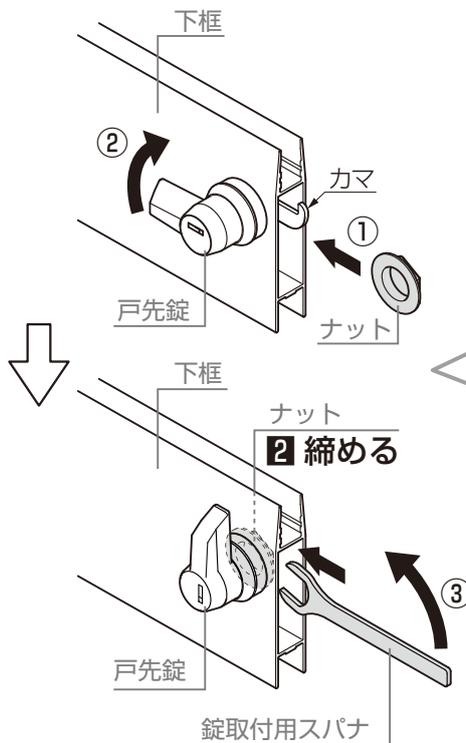
2: ナットを小口側から入れ、戸先錠を固定

お願い

- ナットは、錠取付用スパナを使用し、下框内部で固定してください。

補足

- カマをかけた(水平方向に寝かせた)状態でナットをカマに通し、カマを下向きにしてナットを締めると固定しやすくなります。



お願い

- カマが下框の中央になるよう取付けてください。

ナット

戸先錠

カマ

6.1

6.1

下框

3: 下框端部キャップと下框端部キャップ取付金具を【23i】で組付け

4: 3で組み立てた下框端部キャップと下框端部部品を下框に【23d】で取付け

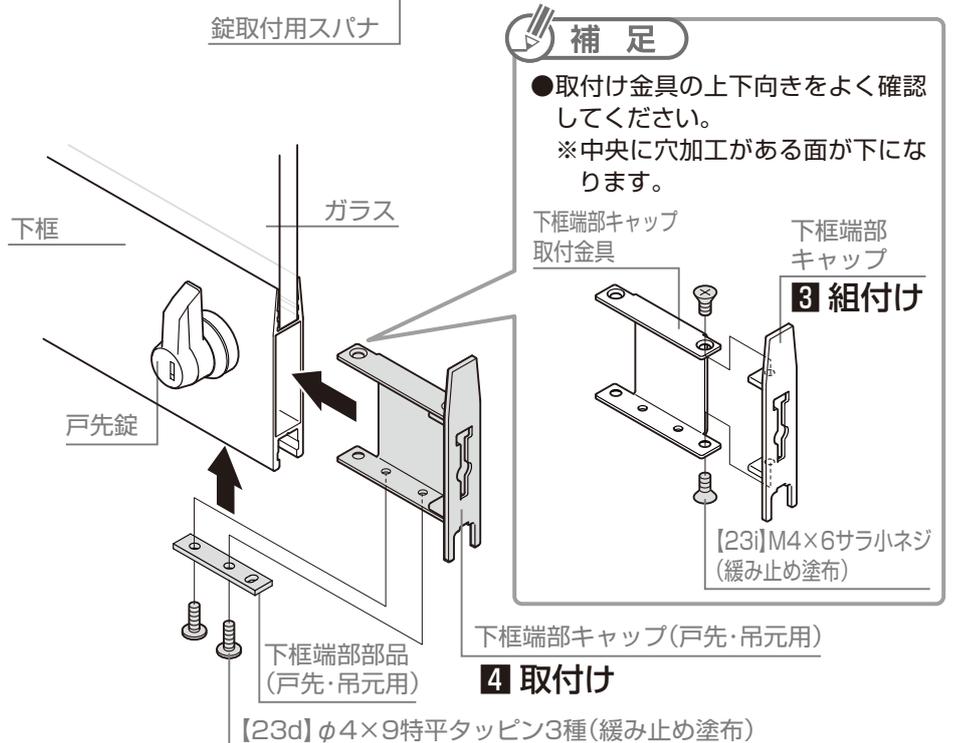
お願い

- 下框端部部品の向きに注意してください。

下框端部部品 (戸先・吊元用)

長穴

端部側



補足

- 取付け金具の上下向きをよく確認してください。
※中央に穴加工がある面が下になります。

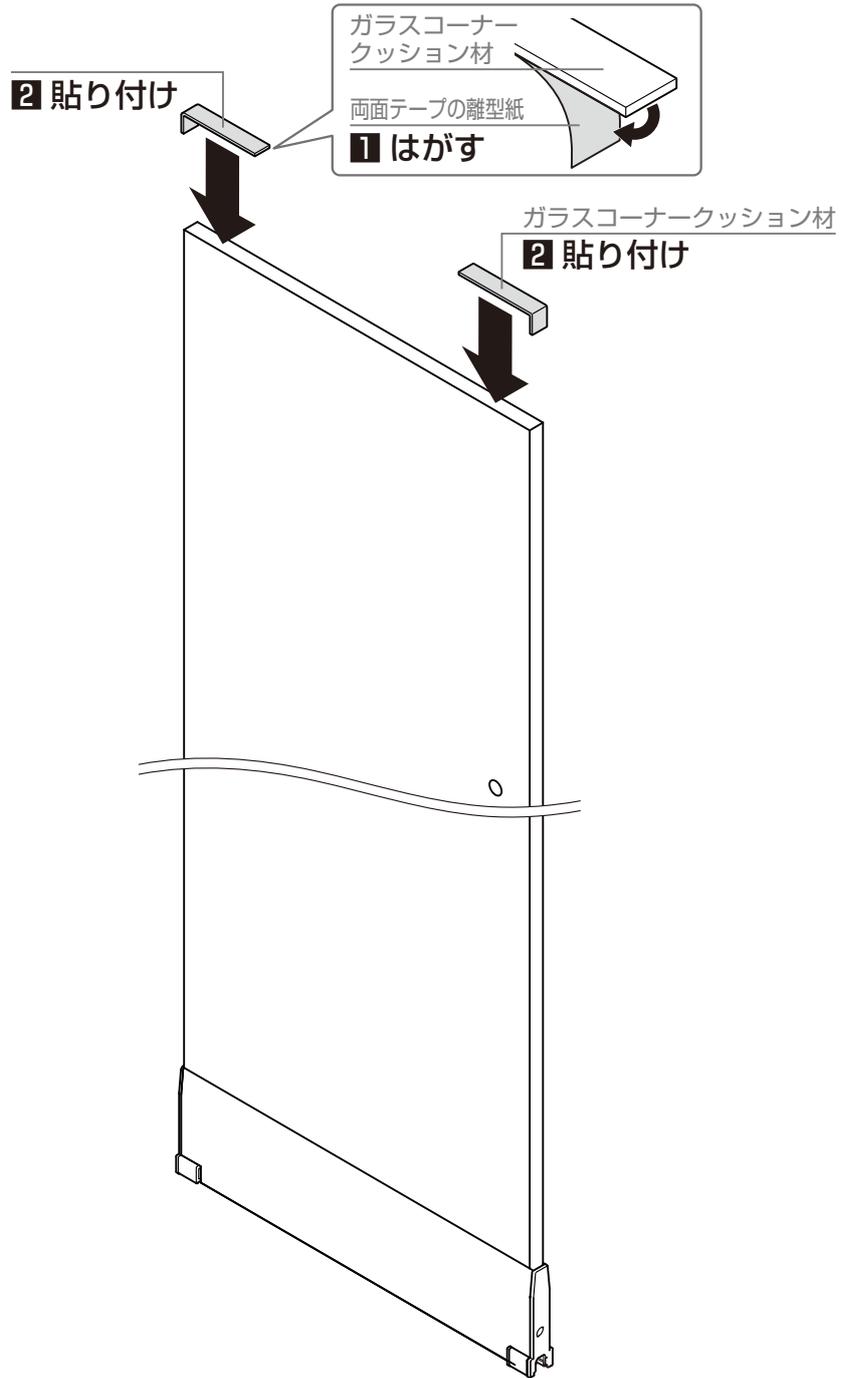
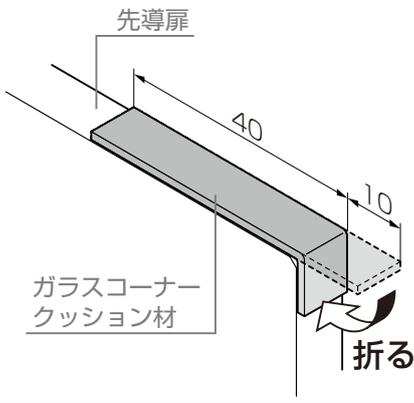


11-5 ガラスコーナークッション材の取付け

- 1: ガラスコーナークッション材の両面テープの離型紙をはがす
- 2: 先導扉のガラス小口にガラスコーナークッション材を貼り付け

お願い

- ガラスコーナークッション材は先導扉の戸先側・吊元側の両方に取付けてください。
- ガラスコーナークッション材の端部から10mmを折ってガラスの側面小口に貼り付けてください。



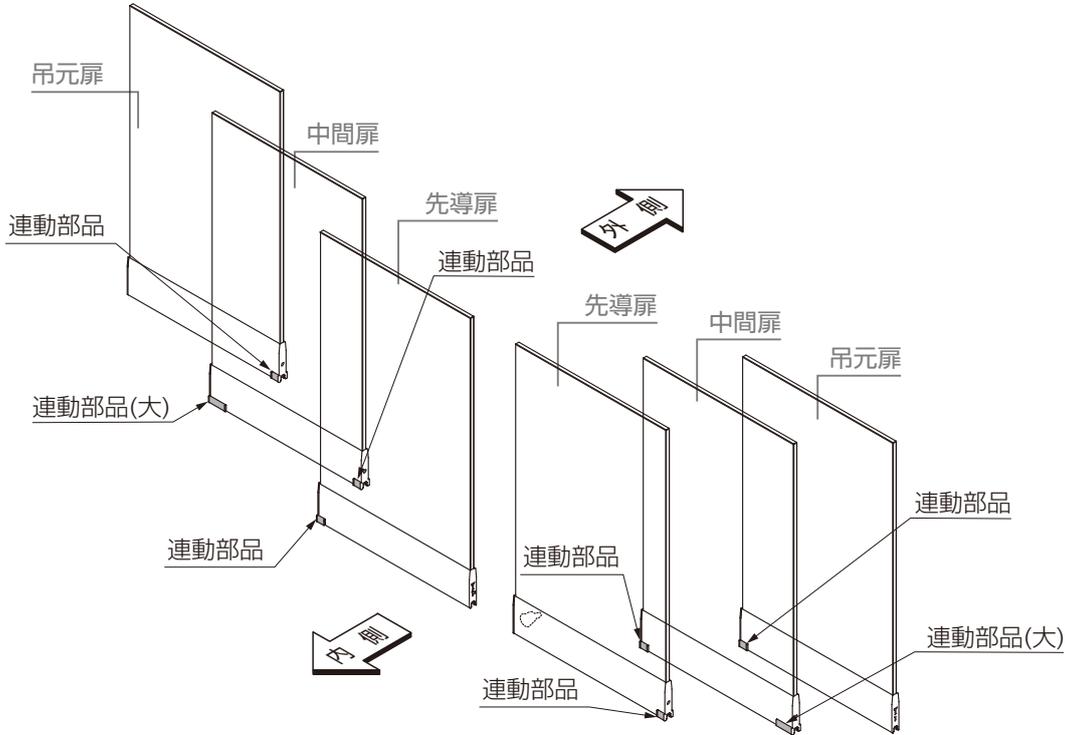


11-6 ガラスパネルの取付け

11-6-1 ガラスパネル取付け位置の確認

お願い

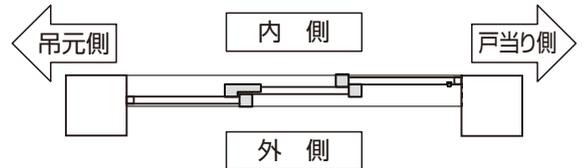
●ガラスパネルは下框の形状およびガラスの加工が異なります。取付け位置、方向を確認してください。



▼両開きの場合▼



▼片開きの場合(開き方：右→左)▼

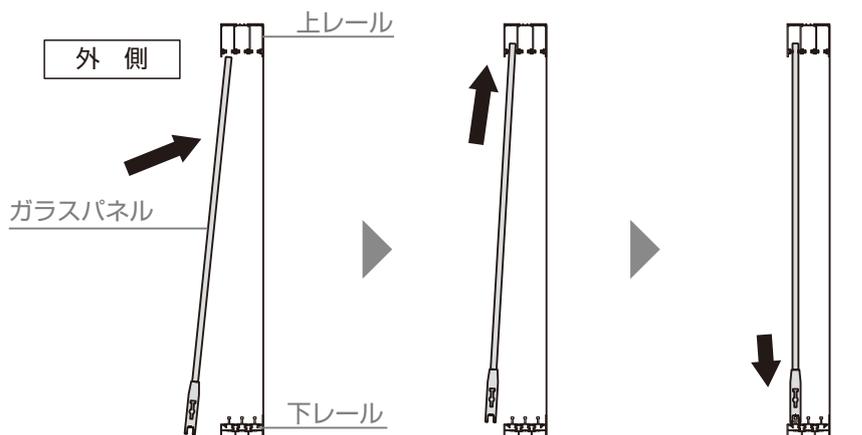


※開き方：左→右の場合
取付け位置は左右反転します。

11-6-2 ガラスパネルのはめ込み方法の確認

お願い

- ガラスパネルはけんどんで取付けてください。
- ガラスパネルは外側から吊元扉→中間扉→先導扉の順に取付けてください。



11-6 ガラスパネルの取付け

11-6-3 吊元扉の取付け

1: 吊元扉を外側からけんどんで吊込む

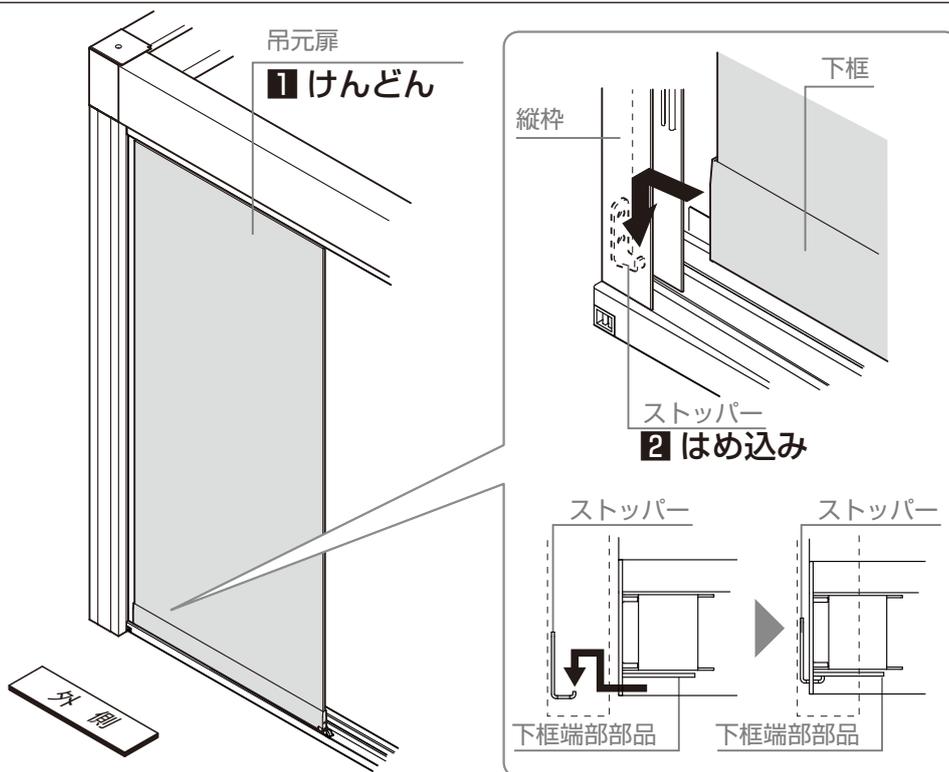
お願い

- ガラスパネルを吊込む際は、必ず2人以上でリフター（吸盤）を使用してください。

2: 吊元扉の下框（吊元側）を縦枠のストッパーにはめ込む

お願い

- リフター（吸盤）で扉を持ち上げて縦枠方向に押しつけてください。
- 扉をおろしたあと、動かないか確認してください。



11 ガラスパネルの施工

11-6-4 中間扉・先導扉の取付け

1: 中間扉を外側からけんどんで吊込む

お願い

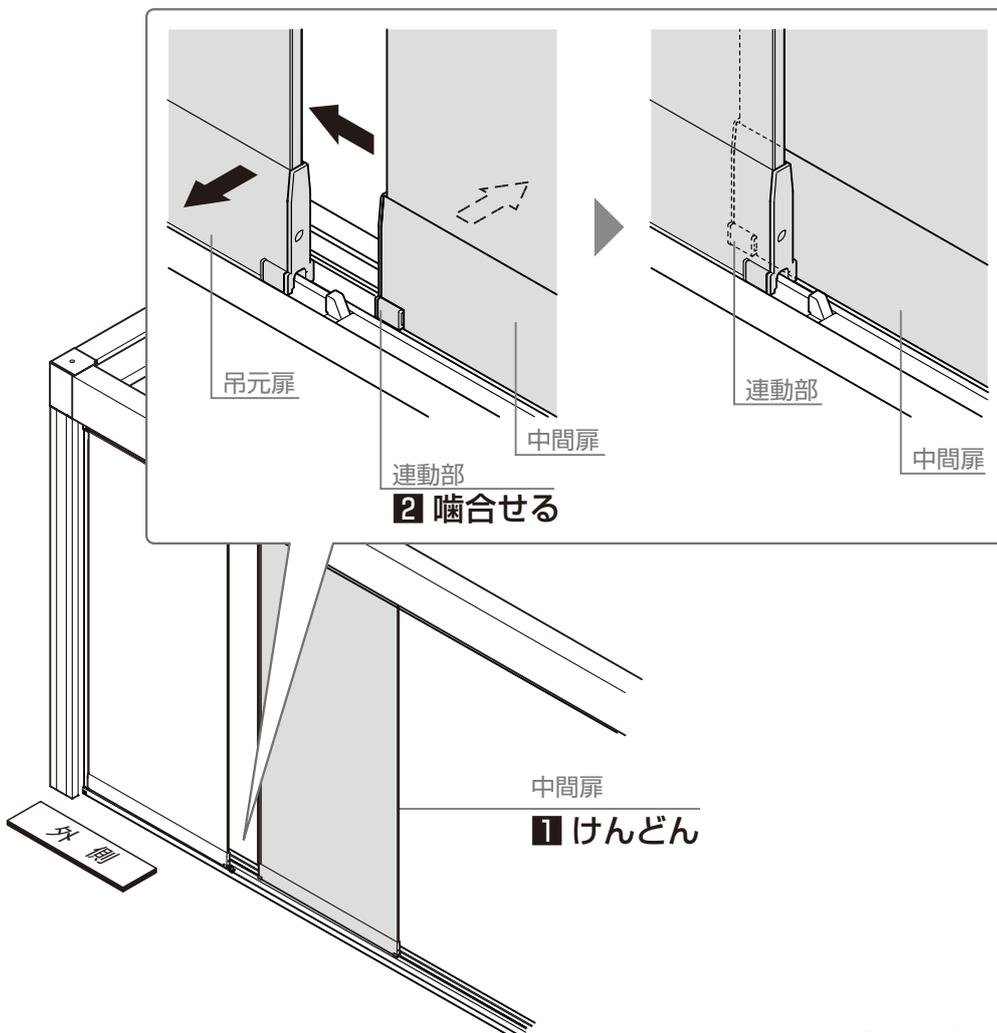
- ガラスパネルをはめ込む際は、2人以上で必ずリフター（吸盤）を使用してください。
- 必ず扉が取付いていない位置で吊込みを行なってください。

2: 吊元扉を外側に、中間扉は内側に寄せながら連動部を噛合わせる

お願い

- 先導扉を入れる前に中間扉を連動させ吊元側に寄せてください。（吊元扉と重なる）

3: 1 ~ 2の手順で先導扉を取付け





11-7 ガラスパネルの仕上げ

11-7-1 戸車の調整

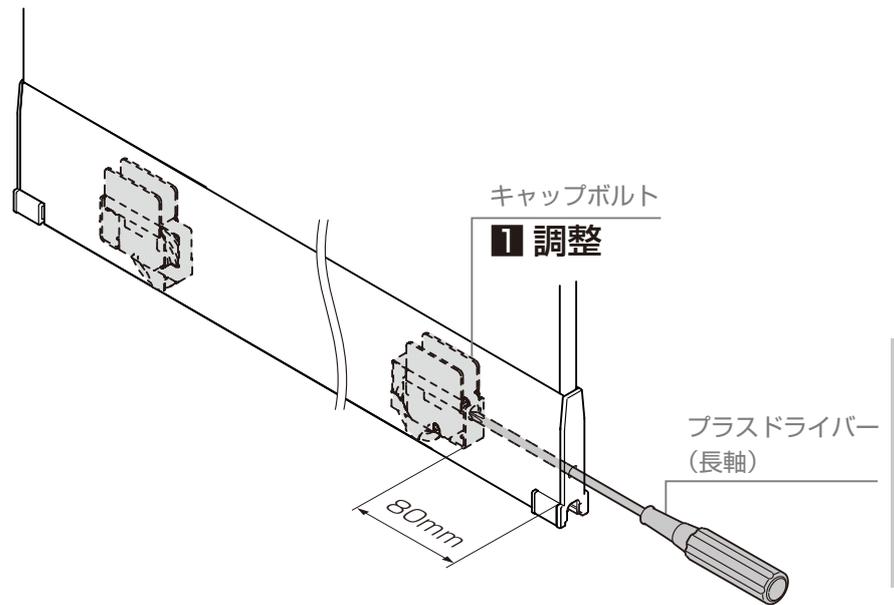
- ①: プラスドライバーで戸車のキャップボルトを回してガラスパネルの傾きを調整
- ※時計回り: 上げ
 - 反時計回り: 下げ

📌 お願い

- 軸長100mm以上で軸径φ7未満のプラスドライバーを使用してください。

🔧 補足

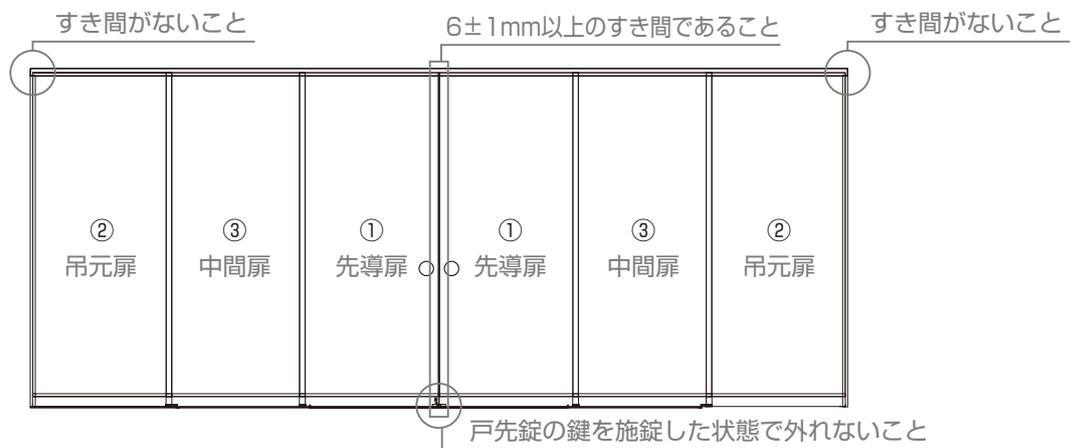
- 初期時の戸車は最低位置に設定されています。



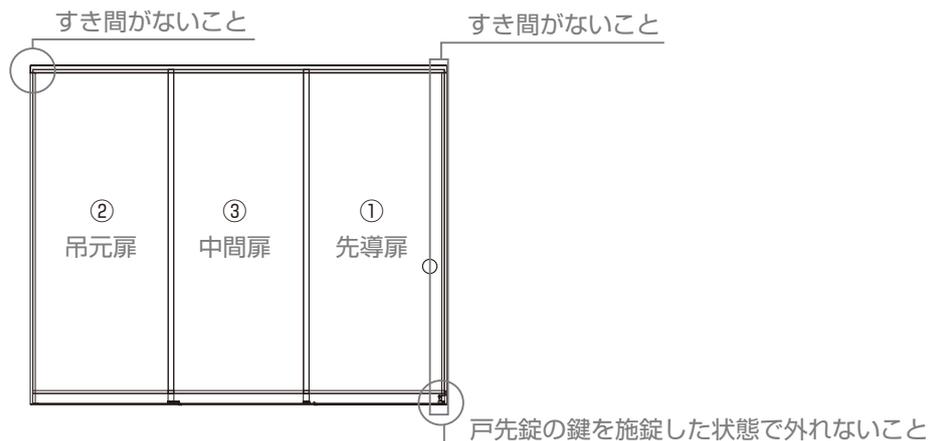
📌 お願い

- 先導扉→吊元扉→中間扉の順ですき間、ガラスの重なりを調整してください。
- キャップボルトを回して召し合わせのすき間が 6 ± 1 mmになるようにしてください。
- 吊元扉と縦枠にすき間がないようにしてください。

▼ 両開き仕様の場合 ▼

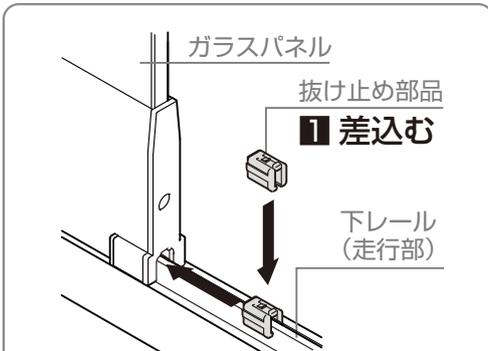


▼ 片開き仕様の場合 ▼



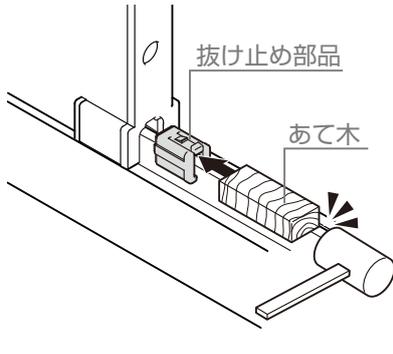
11-7-2 抜け止め部品の取付け

1: 抜け止め部品をガラスパネルに差込む



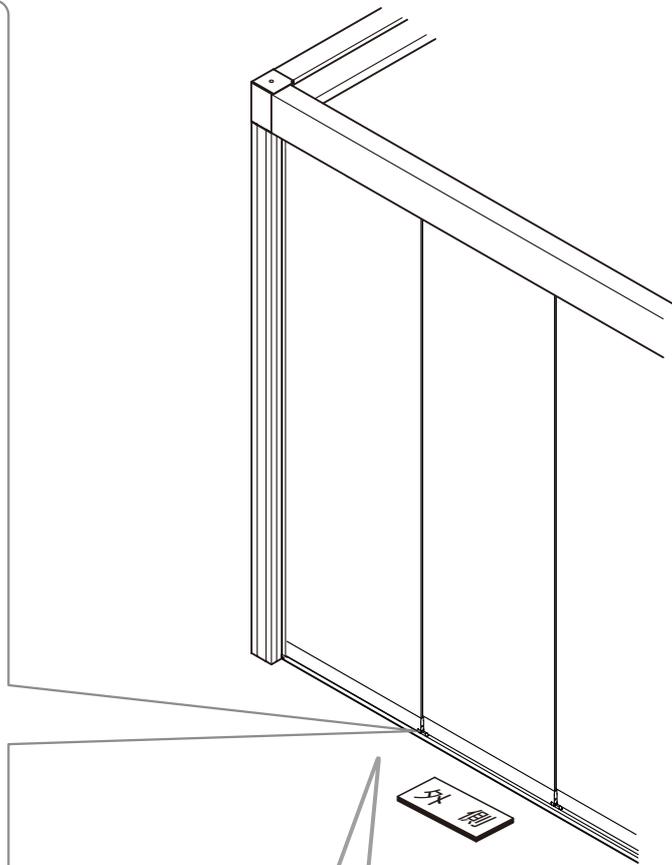
補足

- 抜け止め部品が入りにくい場合は、あて木をしてハンマーでたたいて取付けてください。



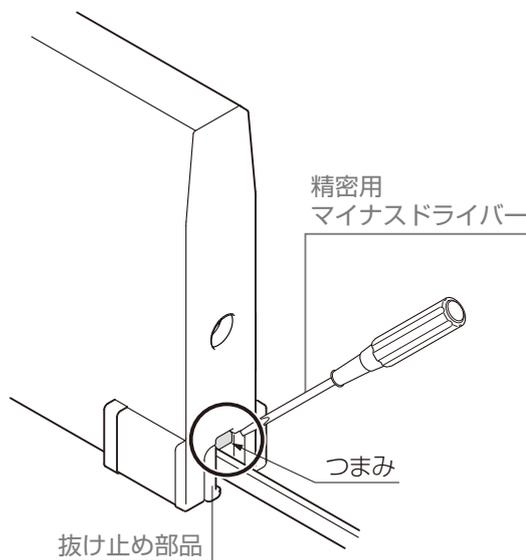
お願い

- 鋭利なもので押し込まないでください。破損のおそれがあります。
- 吊元扉は戸先側1カ所のみ取付けてください(他の扉は2カ所)。



補足

- 抜け止め部品を取外す場合は、幅5mm以下のマイナスドライバーでつまみ上部に差込んで引出してください。



11-7 ガラスパネルの仕上げ

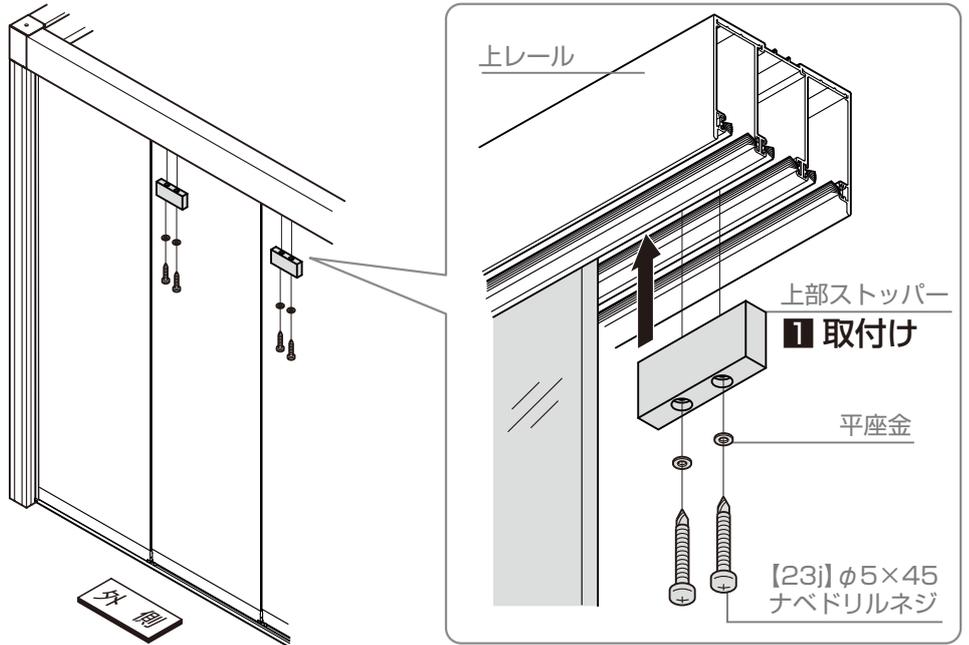
つづき

11-7-3 上部ストッパー（吊元扉・中間扉用）の取付け

1: 上部ストッパーを上レールの中
扉、吊元扉レールに平座金と【23j】で
取付け

お願い

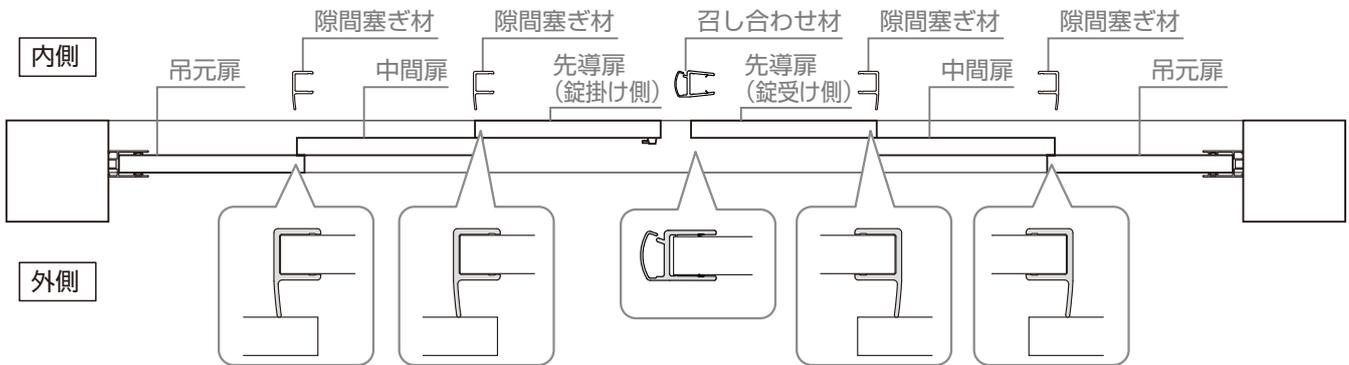
- 扉を閉めきった状態でガラスの戸
先側が当たる位置に取付け位置を
決めてください。
吊元扉と中間扉の戸先側に取付け
てください。



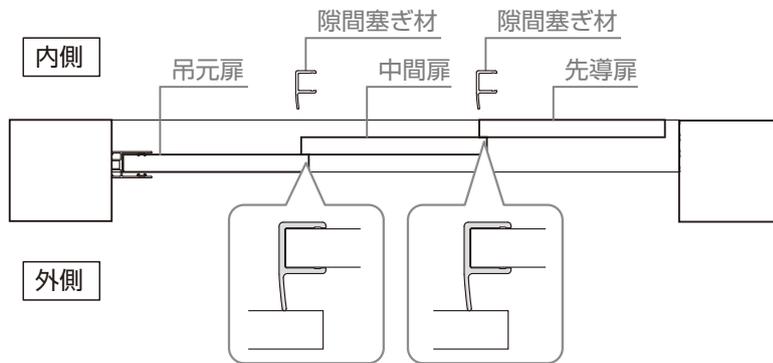
11-7 ガラスパネルの仕上げ

11-7-4 隙間塞ぎ材、召し合わせ材の取付け位置の確認

▼両開きの場合▼



▼片開きの場合▼



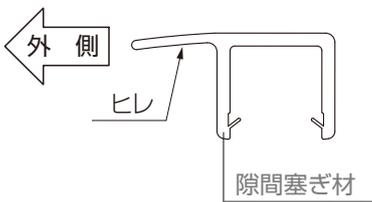
※現場判断品、隙間塞ぎ材の取付けは任意です。
ユーザー様のご希望に応じて現場で判断してください。

11-7-5 隙間塞ぎ材の取付け

1: 隙間塞ぎ材を先導扉と中間扉の吊元側にはめ込む

お願い

- 隙間塞ぎ材のヒレ部分が外側に向くように取付けてください。

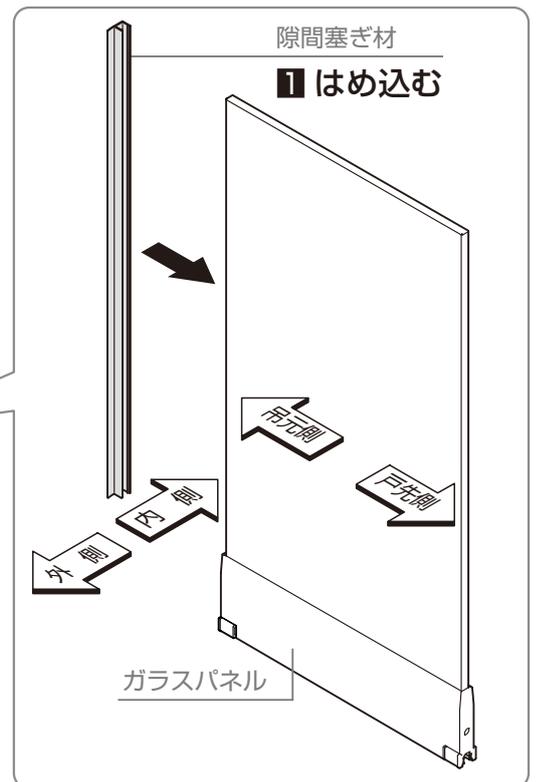
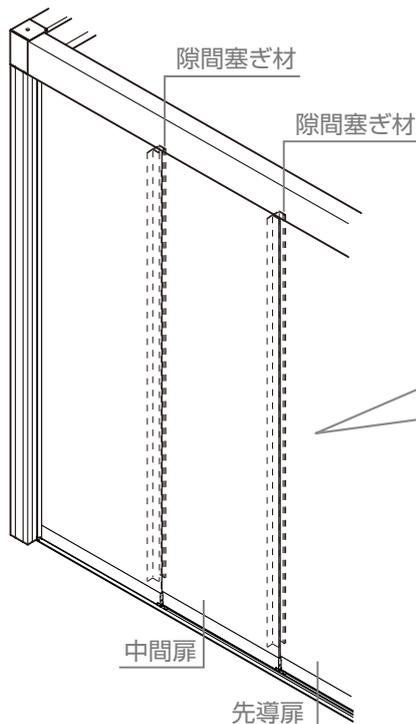


▼ 隙間塞ぎ材を切りつめる場合 ▼

- 必ず切断機を使用してください。カッター等で切断すると部材が割れるおそれがあります。

補足

- はめ込みが固い場合は、ガラスを霧吹き等で濡らすとはめ込みやすくなります。



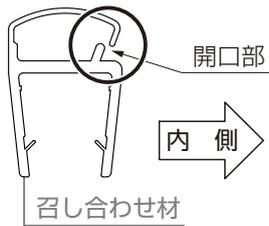
11-7 ガラスパネルの仕上げ

11-7-6 召し合わせ材の取付け（両開きの場合）

❶: 召し合わせ材を先導扉（錠受け側）に取付け

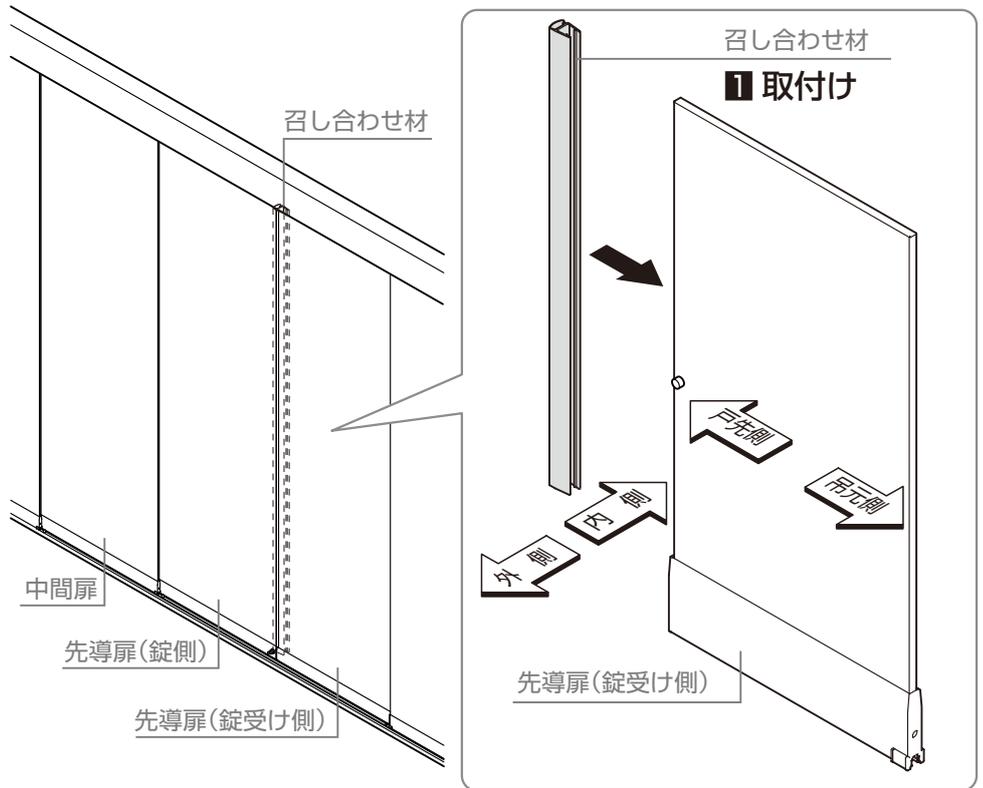
💡 お願い

- 召し合わせ材の開口部が内側に向くように取付けてください。



▼ 召し合わせ材を切りつめる場合 ▼

- 必ず切断機を使用してください。カッター等で切断すると部材が割れるおそれがあります。



梱包明細表

11-7-7 引手の取付け

❶: 片側の引手に【23k】とスペーサーを取付け

🔧 補足

- 【23k】の取付けには六角レンチ（呼び径4mm）を使用します。

❷: 引手用パッキンの両面テープの離型紙をはがす

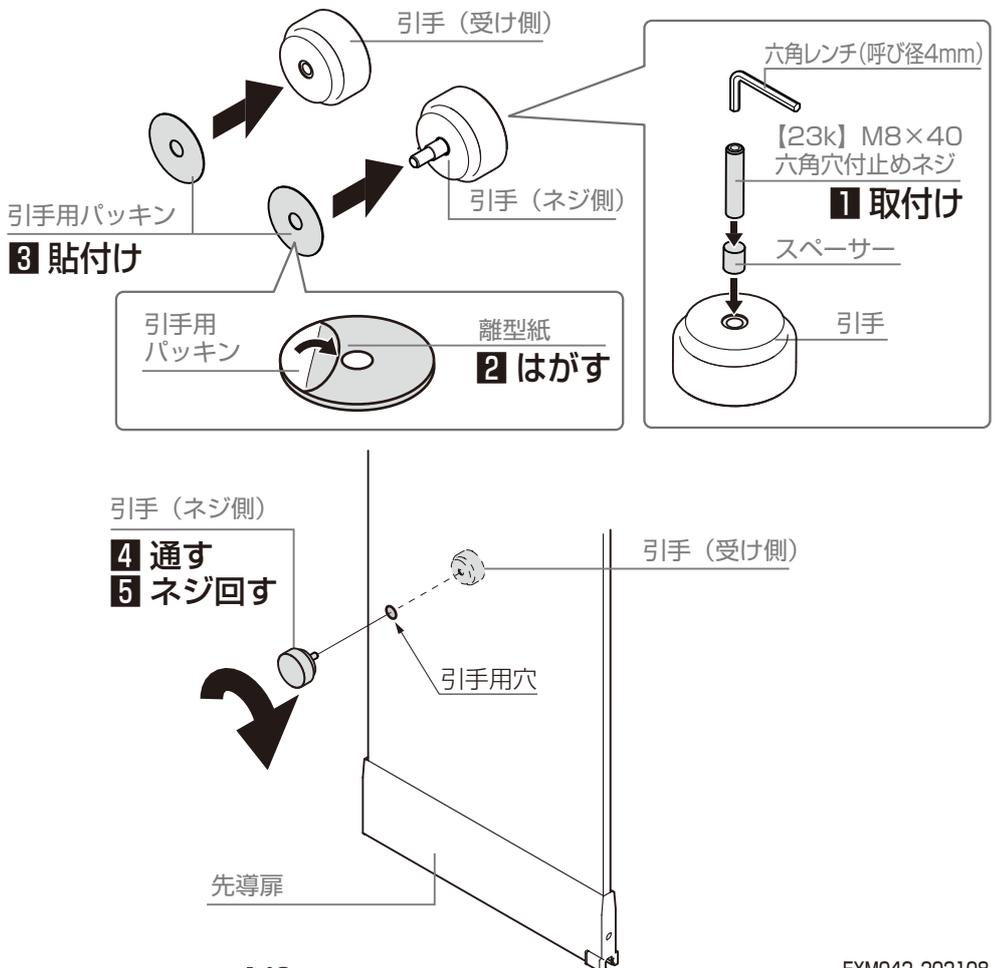
❸: それぞれの引手に引手用パッキンを貼付け

❹: 引手（ネジ側）を引手用穴に通す

❺: 引手同士を組付け、ネジ回して取付け

💡 お願い

- 引手が外れないようにしっかりと取付けてください。



梱包明細表

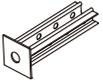
注意

●本製品の部材、部品はGARDEN ANNEX専用です。他の商品には使用できません。

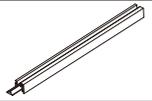
補足

●部品点数は一部省略して表記しています。詳細は製品納品時に同封される明細表をご確認ください。

【1】 柱セット

名 称	略 図	員 数					
		ベースプレート仕様		インナーベース仕様		埋込み仕様	
		水下側	水上側	水下側	水上側	水下側	水上側
柱		1	1	-	-	-	-
ベースプレートセット		1	1	-	-	-	-
インナーベース付き柱セット		-	-	1	1	1	1

【2】 柱カバーセット

名 称	略 図	員 数
柱カバー		※
ガイドレール (L、R)		※

※オプションによって員数が異なります。

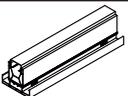
【3】 フレームセット 右側・左側 (水下側・水上側)

名 称	略 図	員 数							
		基本用		ロールスクリーン仕様		LED仕様		ロールスクリーン・LED併用仕様	
		水下側	水上側	水下側	水上側	水下側	水上側	水下側	水上側
フレームセット (水上側・水下側)		1	1	1	1	1	1	1	1

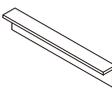
【4】 フレームセット 下面側・上面側

名 称	略 図	員 数															
		基本用				ロールスクリーン仕様				サウンド&ヒーター仕様				ロールスクリーン・サウンド&ヒーター併用仕様			
		右勾配用		左勾配用		右勾配用		左勾配用		右勾配用		左勾配用		右勾配用		左勾配用	
		下面側	上面側	下面側	上面側	下面側	上面側	下面側	上面側	下面側	上面側	下面側	上面側	下面側	上面側		
フレームセット (下面側・上面側)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

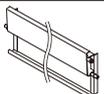
【5】 フレームセットW連棟用

名 称	略 図	員 数
フレームセット (W連棟用)		1

【6】 連動バーセット

名 称	略 図	員 数
連動バー		1

【7】 ルーフルーバーセット

名 称	略 図	員 数			
		基本仕様	モーター仕様	センター仕様	LED仕様
ルーフルーバー		1または2	1	1	1または2

梱包明細表

【8】見切り材セット			
名 称	略 図	員 数	
		下面側	上面側
見切り材		1	1

【9】雨受け部用金網セット		
名 称	略 図	員 数
金網ネット		※

※サイズによって員数が異なります。

【10】雨樋カバーセット		
名 称	略 図	員 数
雨樋カバー		1

【11】雨樋カバー部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
緩衝材		※
ガイド		1
保護テープ		※
【11a】M6×10トラスタッピンネジ		※

※サイズによって員数が異なります。

【12】ロールスクリーンセット		
名 称	略 図	員 数
ロールスクリーン本体		1

【13】ロールスクリーン部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
ケーシング本体		1
ケーシングカバー		1
ケーシングキャップ		2
【13a】M4×10サラ小ネジ		4

【13】ロールスクリーン部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
アンブ		1
投光器		1
受光器		1
センサーガード		2
レシーバー		1
接続ケーブル		1
スクリーンキャップB		1
リモコン		1
【13b】M4×40六角穴付きボルト		※
【13c】M5×16ナベ小ネジ		4

【14】柱LEDセット		
名 称	略 図	員 数
柱LED		1
柱LEDカバー		1

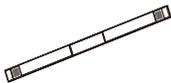
【15】リモコンセット		
名 称	略 図	員 数
リモコン		1
【15a】M4×12サラ小ネジ		※

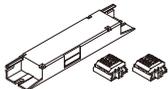
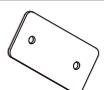
【16】ルーフルーバーLED部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
リモコン		1

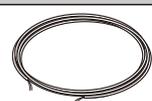
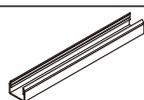
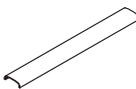
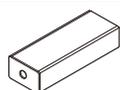
【17】コントローラーセット		
名 称	略 図	員 数
コントローラー (LED用)		※

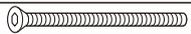
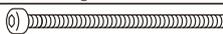
※オプションによって員数が異なります。

梱包明細表

【18】 サウンド&ヒーターセット		
名 称	略 図	員 数
サウンド&ヒーター		1

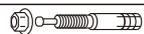
【19】 サウンド&ヒーター部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
レシーバー		1
レシーバー用ケーブル		1
吊り金具		2
200V用電源ケーブル		1
100V用電源ケーブル		1
ステンレスプレート		2
ゴムプレート		2

【19】 サウンド&ヒーター部品箱セット		
名 称	略 図	員 数
スピーカーケーブル		2
リモコン		1
ケーシング本体		1
ケーシングカバー		1
ケーシングキャップ		2
ノイズフィルターセット		1
【19a】 M6×16サラ小ネジ		4
【19b】 M6×16六角穴付きボルト		4
【19c】 M4×10サラ小ネジ		4

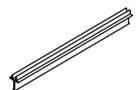
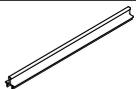
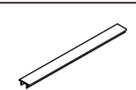
【20】 部品箱セット			
	名 称	略 図	員 数
基本セット	柱サイドカバー		4
	柱キャップ		4
	ブラケット取付金具		4
	雨樋ジョイント材		2
	シーリングアングル		4
	シャフトスペーサーA		※
	シャフトクリップ		※
	【20a】 M6×80六角穴付きサラネジ		4
	【20b】 φ3.5×16ナベタッピンネジ (1種)		※
	【20c】 M8×25六角穴付きサラボルト		※
	【20d】 M6×180六角穴付きネジ		8
【20e】 φ4×12六角穴付きネジ		4	

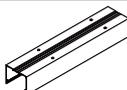
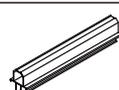
※サイズによって員数が異なります。

梱包明細表

【20】 部品箱セット			
	名 称	略 図	員 数
基本セット	排水キャップ		2
	排水誘導キャップ		2
	連動バー用アタッチメント		1
	プチルテープ		1
	リモコン		2
	【20f】 M10×70オールアンカー		20
	注意ラベル (本体用)	—	1
	注意ラベル (ロールスクリーン用)	—	1
	取付説明書	—	1
取扱説明書	—	1	
連棟セット	柱中間カバー		2
	柱キャップ(連棟用)		2
	【23f】 M6×180六角穴付きネジ		6
	【23i】 M8×90六角穴付きサラボルト		8
センタールーフルーバーセット	ワイヤー固定金具		1
	ワイヤー巻取り機		1
	【20g】 M5×8六角穴付きネジ		2

※サイズによって員数が異なります。

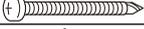
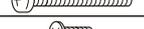
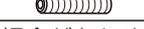
【21】 ガラスパネル 枠材セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
下レールベース		1	1
下レール脚部		4	2
下レール走行部 (先導扉用)		1	1
下レール走行部 (中間扉用)		2	1
下レール走行部 (吊元扉用)		2	1
下レールカバー (先導扉用)		2	1

【21】 ガラスパネル 枠材セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
下レールカバー (中間扉用)		1	1
下レールカバー (吊元扉用)		1	1
上レールベース		1	1
上レール (組付部材)		2	2
縦枠		2	2
縦枠取付部材		—	1

梱包明細表

【22】 ガラスパネルセット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
先導扉（錠掛け用）		1	1
先導扉（錠受け用）		1	—
中間扉		2	1
吊元扉		2	1

【23】 ガラスパネル 部品箱セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
下レール排水部品		2	2
下部ストッパーゴム		2	1
下部ストッパー取付金具		2	1
下部ストッパー取付金具パッキン		2	1
下レール端部部品		4	2
下レール端部部品パッキン		4	2
ストッパー（吊元扉下部用）		2	1
錠受け金具		—	1
クッションゴム		4	4
戸先錠		1	1
ゴム台座		2	2
カマ		1	1
錠取付用スパナ		1	1

【23】 ガラスパネル 部品箱セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
下框端部キャップ		1	1
下框端部キャップ取付金具		1	1
下框端部部品（戸先・吊元用）		1	1
ガラスコーナークッション材		4	2
抜け止め部品		10	5
上部ストッパー		6	3
引手		4	2
スペーサー		2	1
引手用パッキン		4	2
ゴムワッシャー		34	18
平座金		12	6
【23a】φ4×50ナベドリルネジ		—	6
【23b】フィッシャープラグ(S6)		26	14
【23c】φ4×50ナベタッピン2種(G=5)		26	14
【23d】φ4×9特平タッピン3種(緩み止め塗布)		6	5
【23e】φ4×13薄平ドリルネジ		8	4
【23f】φ4×13特サラドリルネジ		30	16
【23g】φ4×25特サラドリルネジ		12	12
【23h】M5×10特平小ネジ		1	1
【23i】M4×6サラ小ネジ(緩み止め塗布)		2	2
【23j】φ5×45ナベドリルネジ		12	6
【23k】M8×40六角穴付止めネジ		2	1

※サイズによりネジ、座金が余る場合があります。

【24】 召し合わせ材セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
召し合わせ材		1	—

※召し合せ材セットは両開き仕様のみになります。

【25】 隙間塞ぎ材セット			
名 称	略 図	員 数	
		両開き	片開き
隙間塞ぎ材		4	2

メモページ

A series of horizontal dotted lines for writing notes.

